令和２年度
「滋賀県の地域に応じた交通環境学習の普及・浸透に向けた基盤構築」事業

報　告　書

令和３年３月

滋賀県土木交通部交通戦略課

目 次

１．　業務概要 1-1

１-１ 目的 1-1

１-２ 業務項目 1-1

１-３ 業務フロー 1-1

１-４ 業務内容 1-2

２．　交通環境学習の実施手法の検討、教材の検討、教材の作成 2-2

２-１ 過年度の検討・取組 2-2

２-２ Ｒ２年度の検討・取組 2-9

３．　交通環境学習実施校における授業の実施 3-1

３-１ 授業実施 3-1

３-２ 今後の進め方 3-41

４．　近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会の実施 4-1

４-１ 実施方針 4-1

４-２ 令和２年度 近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会 4-2

４-３ 令和２年度交通環境学習における市町担当者会議 4-92

第１章　業務概要

－ 目 次 －

１．　業務概要 １-1

１-１ 目的 １-1

１-２ 業務項目 １-1

１-３ 業務内容 １-2

１．業務概要

１-１ 目的

滋賀県は琵琶湖を中心に周囲を山地に囲まれ、琵琶湖沿いの平地部に新幹線・鉄道・高速道路等が通る。JR東海道沿線を中心に人口増加が続くエリアも多く交通と共に発展している。

しかし、県内には多様なエリア特性があり公共交通が便利なエリアとそうでないエリアの差が大きい。公共交通の維持は大きな課題であり、現在県で策定されている網形成計画においても、市民・事業者・行政みんなで支えていくことが不可欠である。また、特に地方部ではバス運転手の不足等も、本県の喫緊の課題となっている。

このような中で、草津市、東近江市等では、県・市町が県バス協会・バス事業者と連携し、遠足や社会見学の事前学習としてバス車両を用いてバスを知る学習を既に実施し、学校から好評を得ているが、県下で取り組みを増やし内容の活性化も図っていくには、効果・実施のしやすさの両面で有効なプログラムや、方法・体制等についての検討が不十分である。

一方、滋賀県では琵琶湖環状線を利用した、小学生に鉄道を親しむ機会を与えるとともに琵琶湖を中心とした滋賀県の地理、歴史、自然、環境等についての学習を深め、さらには社会性を身に着けさせることを目的とした「琵琶湖環状線小学生体験学習プログラム支援事業」を展開している。また、子どもたちが身近な題材から地域や社会の姿と自分の行動を考える交通学習は、交通との関わりが深い滋賀では特に有用で教育行政面からも期待され得るものと考えられる。これらを踏まえ、学校が多様なエリアの交通素材を活かした授業を展開する仕組みづくりを行うとともに、幅広い学習機会で実践可能なプログラムの構築を行うことを目的とする。

１-２ 業務項目

本業務項目を以下に示す。

表 １-1 業務項目

業務項目
１．交通環境学習における取組内容の検討、協議
２．授業等での試行
３．周知・サポート施策の方針整理、実施
４．周知ツール等の作成
５．近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会の開催

1-3 業務内容

（1）交通環境学習における取組内容の検討、協議

昨年度モデル校にて実施した授業について改善点の洗い出しと改善方法についての検討を行うとともに、モデル校以外の学校への波及方法についての検討、協議を行う。既存素材を活用した取り組み／新たな視点での取り組みそれぞれについては引き続きモデル校の教師等と意見交換を行い、カリキュラムの中での交通の有用性を高めることとし、素材の提供方法や授業のサポート方法等を検討した。

（2）授業等の試行

モデル校等に対し素材の提供や出前授業等を実施し、既存の授業材料のブラッシュアップおよび幅広い単元に適用した新しい授業材料を作成した。

（3）周知・サポート施策の方針整理、実施

交通環境学習の取組みを継続的に実施する体制を作るため、小学校教師宛アンケート、事業者への説明会、市町担当者会議を実施し、関係者等と意見交換を行い、課題を整理するとともに実施体制を見直した。

（4）周知ツール等の作成

滋賀県全体で既存素材を活用した取組みを今後も展開していくために、効果的な周知ツールおよび翌年度以降においても各自治体や学校で活用できる授業材料を作成した。

（5）近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会の開催

上記の検討について、近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会を開催し、今年度の結果と４年間の総まとめを報告し、関係者や有識者等と意見交換を実施した。

第２章　交通環境学習の実施手法の検討、教材の検討、教材の作成

－ 目 次 －

２．　交通環境学習の実施手法の検討補助、教材の検討補助、教材の作成 ２-２

２-１ 過年度の検討・取組 ２-２
２-１-１ 過年度の検討目標・方針 ２-２
２-１-２ H29 年度の検討・取組 ２-３
２-１-３ H30 年度の検討・取組 ２-５
２-１-４ R1 年度の検討・取組 ２-７

２-２ Ｒ２年度の検討・取組 ２-９
２-２-１ Ｒ２年度の検討方針 ２-９
２-２-２ 授業を実施できるサポート体制の確立 ２-１０
２-２-３ 取り組みが広がっていく状況づくり ２-125

2．交通環境学習の実施手法の検討、教材の検討、教材の作成

2-1 過年度の検討・取組

2-1-1 過年度の検討目標・方針

滋賀県における交通環境学習（MM 教育）のさらなる展開を図っていくため、H29 年度に研究会を立ち上げ、これまで交通環境学習の実施手法や教材の検討・試行を行ってきた。

H29 年度では、研究会の立ち上げにあわせ、滋賀県における MM 教育のこれまでの状況や教育の動向、課題等を整理し、MM 教育のコンセプトや事業の位置付け・進め方の検討を行った。

H30 年度では、MM 教育のコンセプトを踏まえ、各学年の学習プログラムおよび使用するツールについて作成・試行を行い、縦断型授業の実施可能性について検討した。また、R2 年度以降の仕組みづくりに向けて、周知・サポート体制づくりの進め方について検討を行った。

R1 年度では、H30 年度の取組状況を踏まえ、交通素材を活用した学習プログラムをより効果的で使いやすいものにするために、学習プログラムのブラッシュアップを行うとともに、新たな連携・活用の可能性について検討した。また、あわせて、取組を県内の学校に広げていくための周知ツールの検討・作成を行った。

次項以降に、過年度の検討・取組結果について示す。

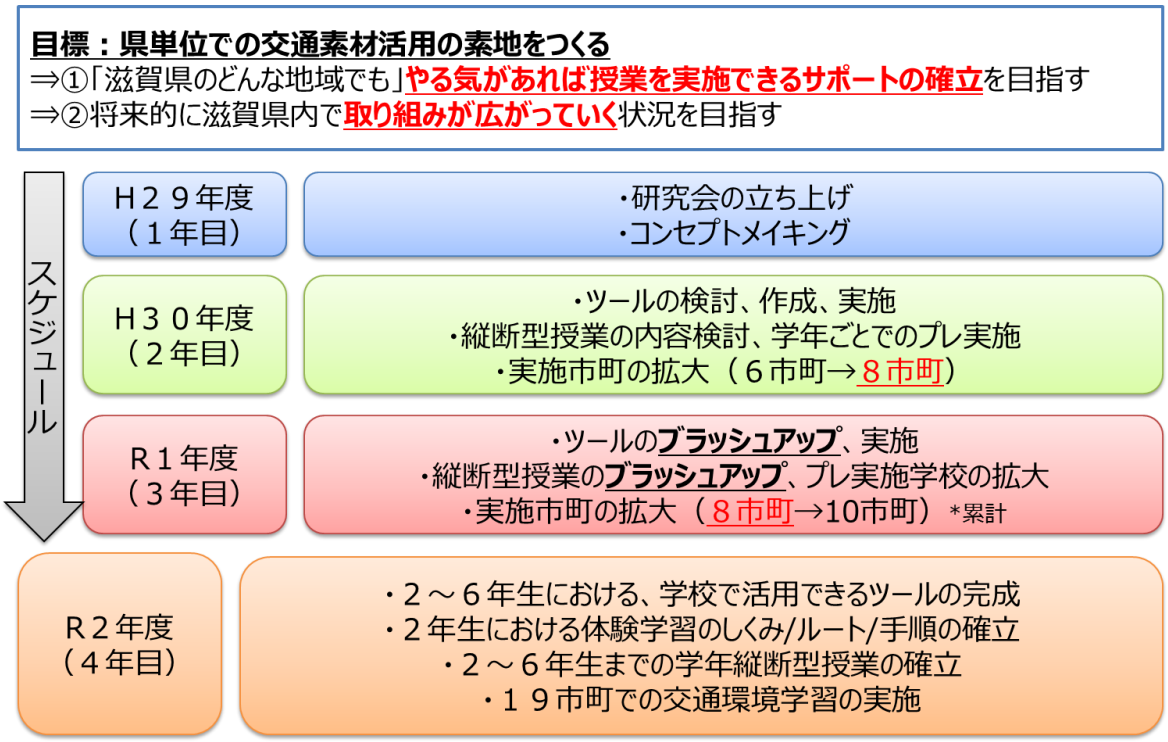


図 2-1 検討目標・方針

2-1-2 H29 年度の検討・取組

（1）取り組みコンセプトの検討

滋賀県における MM 教育のこれまでの状況や教育の動向、教育素材としての交通の可能性を踏まえ、MM 教育を進めていく上での課題の整理を行った。

また、これらの課題や研究会委員の意見等を踏まえ、滋賀県の歴史や地勢、生活との関わりが深い交通の特性を活かすことにより、地域の様子や人の暮らしを知り、文化・交流を大切にしながら、社会の一員として行動できる人づくりに寄与することが可能であると考え、交通素材を活かした学習の基本的な考え方について以下のような整理を行った。

■MM 教育を進めていく上での課題

＜配慮が必要な事項＞

○教育として意味が十分にあるものにする
- ・教師、学校が “子どもの学習の深まり” に効果的、必要と感じ、積極的に実施できる取り組みにする
- ・取組を支援する交通サイド関係者にとっても、教育として手ごたえがあり、一緒に考えていける取組にする

○広い地域で定着、発展していくものとする
- ・教育の動向や、教師・学校にとってのうまみに配慮する
- ・各地で一定の量を実施、展開できる仕組み、体制を確保する

＜MM 教育を進めていく上での課題＞

○交通素材が、学校教育の質的向上や（長期的には）地域コミュニティ活性化等に資するように展開
- ・・・交通素材を、地域や社会の問題を理解し、自ら考え積極的に行動できる力を醸成するための教材として活用する。

○学校・教師による検討、実施を支援
- ・・・学校・教師が交通素材を活用し、単元等をより効果的に実施するための支援を実施
- ・・・コアとなる素材やプログラム提供、その他情報発信、相談対応のための仕組みを確保
  ※外部による出前授業のみの取り組みとはしない

○交通事業者等を中心とした地域連携により推進
- ・・・極力、交通事業者と連携し実物素材を提供（教育としての意義、学校にとってのうまみの確保）

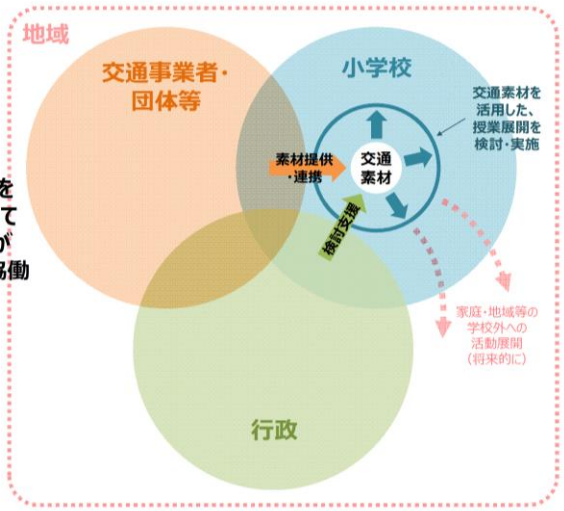
■滋賀県における MM 教育の考え方・コンセプト

【滋賀の交通の特性】
- ・**自然や地勢、歴史と関わり**が深い（街道や時代による交通の変化等）
- ・**県土を繋げる**交通（環状線・琵琶湖等）
- ・**多様な交通施策のバリエーション**（幹線鉄道から地域鉄道、デマンド交通）

【学習の視点】
・滋賀の交通を通じ、**地域の様子や人の暮らし・思い**を知るとともに、**文化・交流**を大切にし、社会の一員としてできることを**見つけ、行動**できる人づくり・教育へ寄与

①**身近な交通から**地域への視野を広げる
②**交通の成り立ちや工夫**から、社会のしくみや暮らし、課題を理解
③**交通・まちの変遷から**、歴史・文化や地域への愛着を醸成

これらを踏まえて各者が連携・協働



○滋賀県におけるMM教育のコンセプト
近江の心を育む交通環境学習

（２）事業としての位置付け・進め方の検討

前項の滋賀県における MM 教育の考え方・コンセプトを踏まえ、本事業における取組の位置付け・進め方について以下のような整理を行った。H30 年度以降は、使える交通素材を発掘していくとともに、教材・ツールづくりや、周知・サポート体制づくりについて検討・取組を行うこととした。

■本事業の位置付け

＜目的＞

・交通素材、その社会的特性を活かして、滋賀の目指す人間像の実現に寄与する

＜検討・実施内容＞

・教育のために交通素材活用を促していく基礎を作るため・・・

○滋賀におけるコンセプト（特徴）を整理する

○使える交通素材を発掘する

○その活用の仕方を検討、教材・ツールを作る

（学校とともに実践・評価しながら、地域特性も踏まえつつ整理）

○MM 教育の活用を推進・支援する仕組みをつくる

・将来的な地域での展開も促すため・・・

○取り組みが定着した地域での交通まちづくり教育に向けた展開のあり方について地域とともに検討する

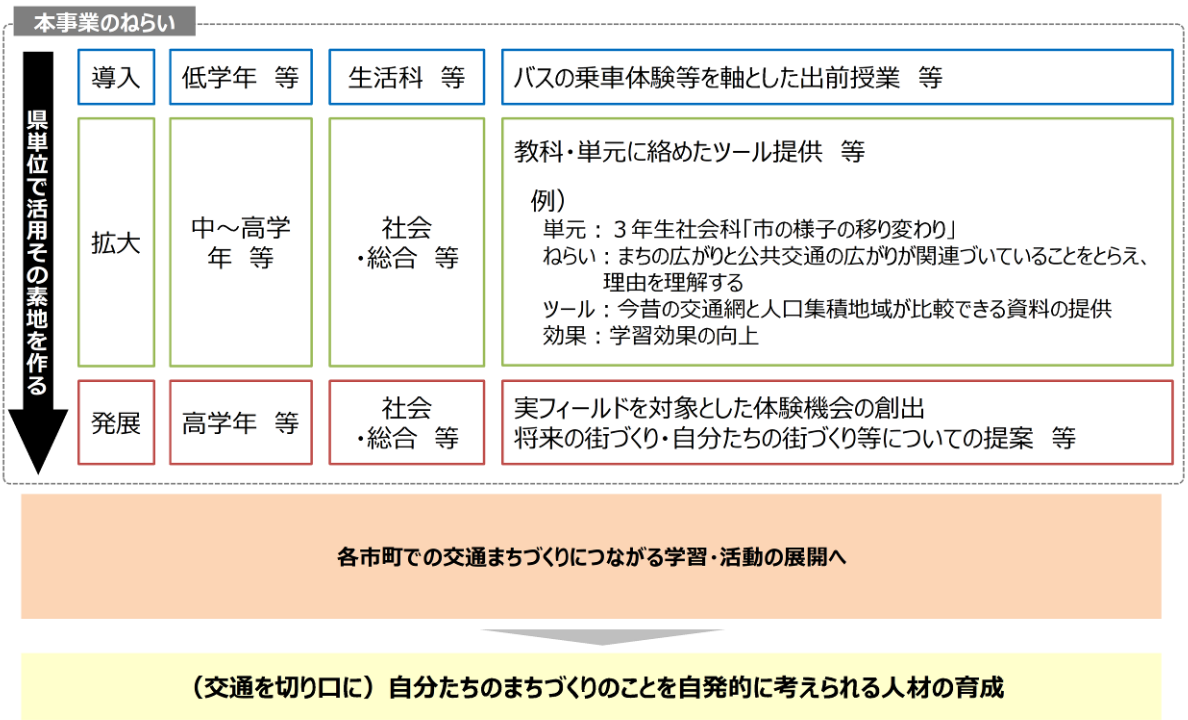


図　2-2　本事業のねらいと検討目標・方針

2-1-3 H30 年度の検討・取組

（1）交通学習プログラムの検討・試行

H30 年度の交通環境学習プログラムは、「既存資源の有効活用」及び「新たな視点での取組」の視点から、5 校のモデル校を対象に以下のような教科・単元で検討・実施を行った。検討・試行の結果、「既存資源の有効活用」では、バスの乗車体験を活用し生活科単元の理解を深める学習パターンについて一定の整理が行えた。また、「新たな視点での取組」についても、福祉学習やフローティングスクールでの交通素材の活用可能性、交通関連データの素材としての有効性等を確認できた。

以上の試行結果を踏まえ、R 1 年度では、教材・ツールのブラッシュアップや、連携パターンの強化・精度向上を図っていくこととした。

← 既存資源の有効活用 →　← 新たな視点での取り組み →

		2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
草津	志津南小	【生活科】 わたしの町はっけん		【社会科】 わたしたちの県	【総合】 琵琶湖	
甲賀	大野小					【総合】 街道
	土山小	【生活科】 わたしの町はっけん	【総合】 福祉（視覚障がい者）	【総合】 福祉（車いす利用者）		
東近江	布引小	【生活科】 わたしの町はっけん				
彦根	城東小	【生活科】 みんなで行こうよつかおうよ				

図　2-3　H30 年度の実施対象校における検討教科・単元

		2年	3年	4年	5年	6年
草津	志津南小	【生活科】 ・振返学習用のWSを作成、実施 ⇒WS等の精度向上等	―	【社会科】 ・ゲームを使った方法を検討、具体化 ⇒試行、ブラッシュアップ	【総合】琵琶湖 ・湖上交通を用いたプログラムを具体化 ⇒ブラッシュアップ ⇒効果的地域への展開	―
甲賀	大野小	―	―	―	―	【総合】街道 ・交通からの活用可能性確認 ⇒データ提示方法、資料の再検討
	土山小	【生活科】 ・乗車体験により生活科を深めるモデル形成 ⇒他地域への展開	【総合】福祉 ・車両を用いて福祉の理解を深めるバリエーション構築 ⇒効果的、効率的な実施方法検討		―	―
東近江	布引小	【生活科】 ・宿題を担任が作成、実施 ⇒密な議論・例示等必要	―	―	―	―
彦根	城東小	【生活科】 ・実践機会による効果定着 ⇒継続・ブラッシュアップ	―	―	―	―
H31の課題		【生活科】 ○活用**パターン整理**へ ⇒**モデル校での取り組み**を他校へ展開 ⇒ブラッシュアップ・効率化の検討（**WS形式**の精度向上、**乗り方教室なしパターン**の検討等） ⇒**その他の観点**での活用検討（防災・福祉）	【社会科】 ○２年生活科の**取り組みの発展**として実施 【福祉・バリアフリー】 ○**パターン整理**へ ⇒引き続きブラッシュアップしながら実施し、**効果向上・効率化**を図る ⇒**バス協会の取り組み**との連携	【社会科】 ○**試行、ブラッシュアップ**	【総合】琵琶湖 ○**H30の視点も踏まえ**、より学習に役立つ方法を検討 ⇒H30の視点での**ブラッシュアップ**・効果的地域への展開 ⇒**琵琶湖博物館**での校外学習との連携	【総合】街道 ○**H30の視点を軸**に、再検討 ⇒効果的な**資料やデータ提供方法**について、密に議論、検討

図　2-4　検討・試行結果と R 1 年度の課題

（２）周知・サポート体制づくりの検討

R2 年度以降、「滋賀県のどんな地域でも」やる気があれば授業が実施できるサポートの確立と、将来的に滋賀県内で取り組みが広がっていく状況を目指すため、県単位での交通素材活用の素地をつくる必要がある。

これを踏まえ、Ｒ１年度以降における周知・サポート体制づくりの検討の進め方について整理を行った。

■周知・サポート体制づくりの検討に向けた視点

・「滋賀県のどんな地域でも」やる気があれば授業を実施できるサポートの確立を目指すために・・・

○知る機会をつくる

⇒全体的な取り組み周知

⇒教師間の情報伝達・波及

○実施しようと思った時にやれるようにする

⇒交通素材の提供体制の確保

⇒成功例の収集、事例の発信

・将来的に滋賀県内で取り組みが広がっていく状況を目指すために・・・

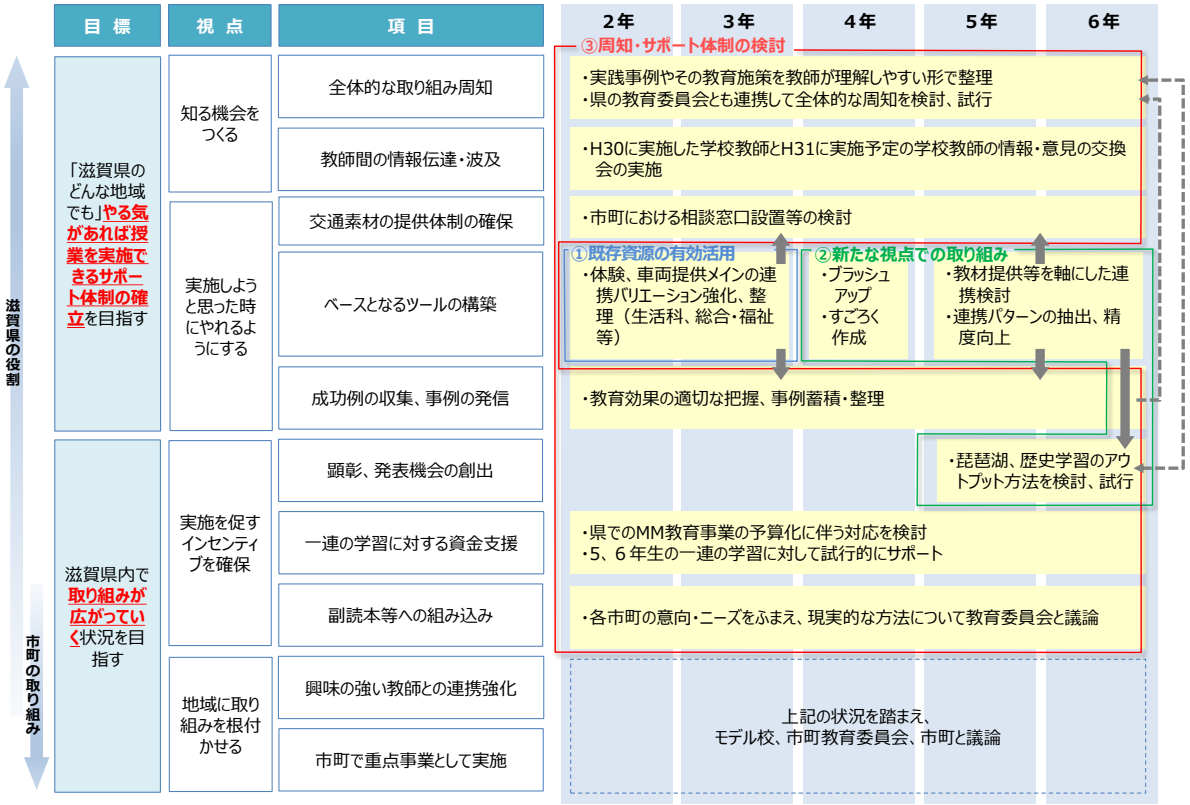
○実施を促すインセンティブを確保

⇒顕彰、発表機会の創出

⇒一連の学習に対する資金支援

⇒副読本等への組み込み

■検討内容のイメージ



2-1-4 R1 年度の検討・取組

（1）交通学習プログラムの検討・試行

R1 年度の交通環境学習プログラムはモデル校の土山小学校を対象に、以下の教科・単元で検討・実施を行った。

検討・試行の結果、H30 年度で実施した実車バスを活用した生活科学習や福祉学習については、ワークシートや体験の回し方等の改善・ブラッシュアップにより、一定の精度向上・定着化が図れた。また、社会科物流学習やまちの将来を考える地域学習において、交通を切り口に学習理解を深める教材・ツールの作成・試行を行い、連携・活用のバリエーション強化が図れた。

以上の試行結果を踏まえ、R２年度では、教材・ツールのブラッシュアップにあわせ、R２年度以降の周知・展開を進めていくため、これまで実施してきた学習プログラムについて、学習パターンやツールの整理を行っていくこととした。

表 2-1 R1 年度の実施対象校における検討教科・単元

	H30 年度の交通学習プログラムの ブラッシュアップ・定着化	新たな交通学習プログラムの検討
土山小 ２年	・生活科・乗り方教室、乗車体験 ⇒取り組みの定着化 ⇒乗客インタビュー時における実施体制の検討	―
土山小 ３年	・総合的な学習・福祉学習 ⇒取り組みの定着化 ⇒観察体験の回し方を改善	―
土山小 ４年	・総合的な学習・福祉学習 ⇒取り組みの定着化 ⇒観察体験の回し方を改善 ・社会科・鉄道すごろく ⇒ツールのブラッシュアップ	―
土山小 ５年	―	・社会科・物流 ⇒プログラムの検討・試行
土山小 ６年	―	・総合的な学習・空き家、コミタク ⇒プログラムの検討・試行

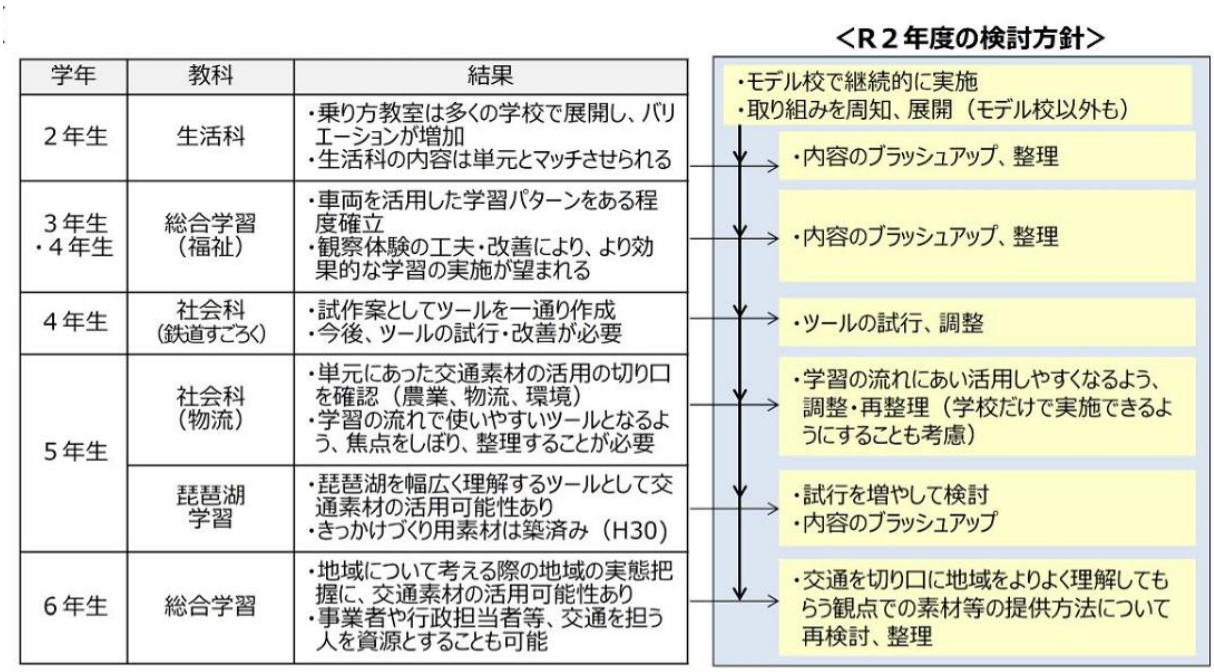


図 2-5 検討・試行結果とＲ２年度の方針

（２）周知・サポート体制づくりの検討

１）検討の考え方

本事業では「滋賀県のどんな地域でも」やる気があれば授業を実施できるようにサポートの確立を目指すこと目標としており、そのためには学校が取り組みを知る機会をつくることが必要となる。

そこで、県内の各小学校に向けて取り組みを周知するため、Ｒ１年度までに検討した学習ツール等を整理し、取り組みを周知するためのパンフレットを作成することとした。

２）周知パンフレットの検討

（a）考え方

学校の授業は年度初めに計画するため、年度の途中で新たな学習を実施しようと思っても、一連の学習の中行うことは難しく、授業の進度調整等の時間に投げ込み形式で実施する形となってしまう。

そのため、一連の学習の中で交通環境学習を実施してもらうためには、１年間の授業スケジュールを計画する年度初めのタイミングで周知を行うとともに、多様な学年・教科で学習に活用できること、また単元やニーズに合わせた素材の提供が可能なことを理解してもらうことが必要であると考えた。

（b）内容・構成の検討

前項の考え方を踏まえ、学習指導要領に関連づけられる内容となっていることや交通素材を取り込むことのメリット（ポイント）を掲載した上で、今年度までに作成した教材等のツールを紹介し、単元の理解を深めるのに効果的であることを理解してもらえる内容を掲載した。

申込は内容・調整等の行政負担の軽減を図るために FAX で回答できる形とし、また、学習ツールの改善等の参考となるよう、学習を実施した際の交通素材の活用方法や意見などを聞ける形とした。

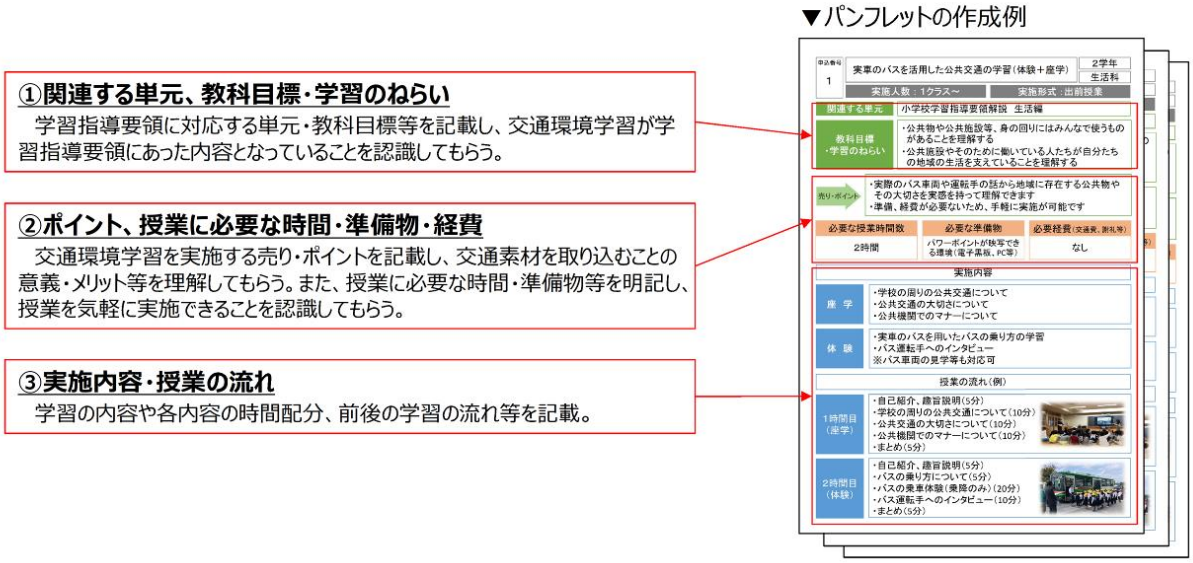


図　2-6　作成したパンフレットのイメージ

2-2 R２年度の検討・取組

2-2-1 R２年度の検討方針

R2 年度では、R1 年度の内容を踏まえ、学校教師との情報・意見交換会の検討や、交通事業者へのインセンティブ・既存ワーキング等の連動・連携の可能性等について検討する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の状況・影響を考慮し、下記の方針・内容で検討・実施することとした。

まず、授業を実施できるサポート体制確立として、昨年度作成した周知パンフレットの試行配布・検証を行うとともに、交通素材を活用した学習プログラムをより効果的で使いやすいものにするため、素材の整理・高度化を行うこととした。

また、取り組みが広がっていく状況づくりとして、学校教師や事業者、市町等の各者の考え方の確認・共有を行い、今後の体制等の整理を行うこととした。

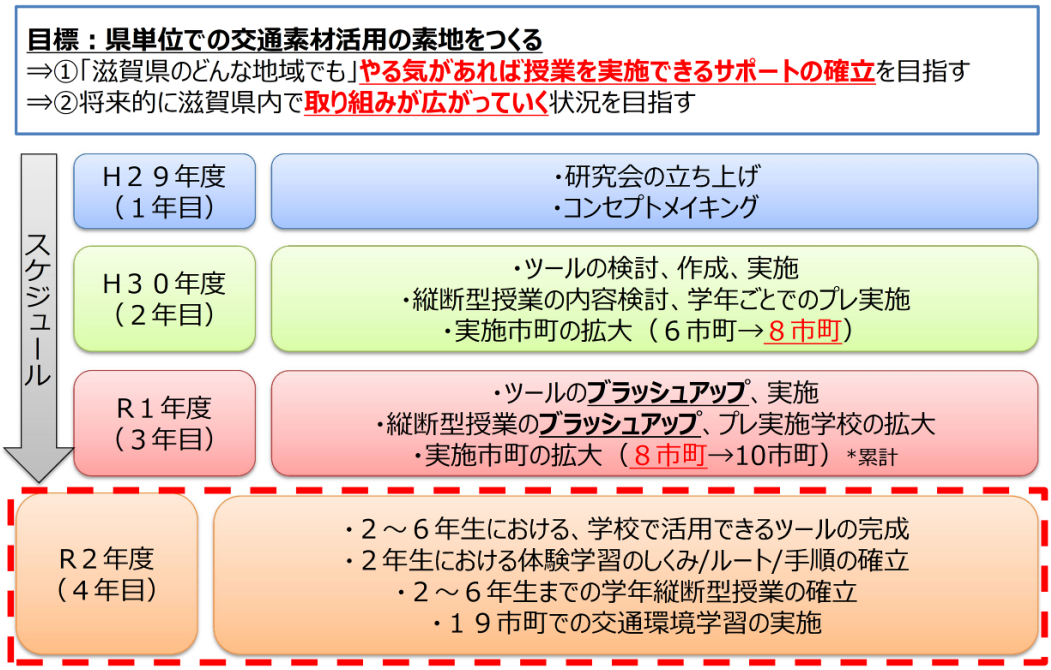


図 2-7 昨年度までの検討目標・方針

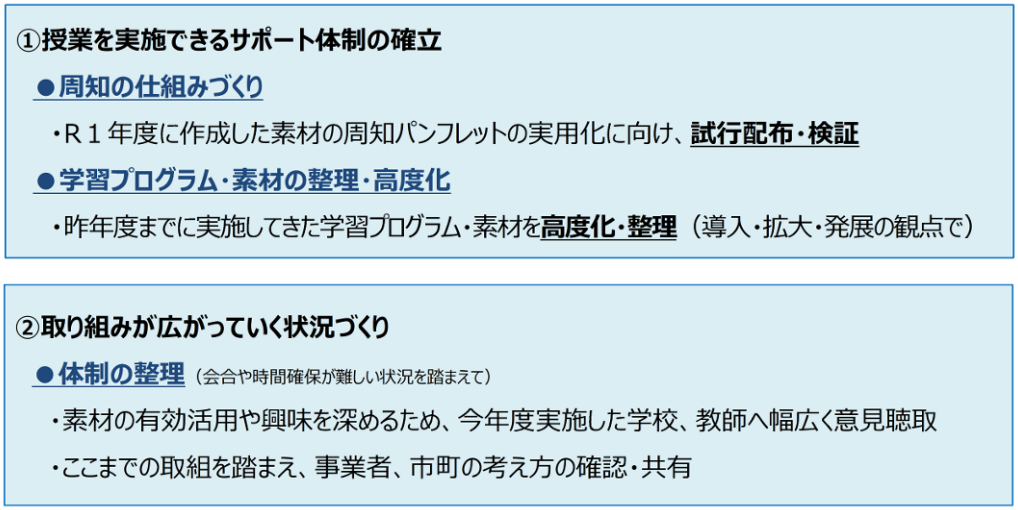


図 2-8 コロナの状況を踏まえた R2 年度の検討内容

２-２-２ 授業を実施できるサポート体制の確立

（１）周知の仕組みづくり

１）周知パンフレットの試行配布・活用

（a）目的・考え方

これまで交通環境学習の普及を行ってきたが、各小学校に対し提供可能な交通素材を提示するだけでは、学習にどのように活用できるか、単元理解を深めるのにどれくらい効果的なのか等、授業の実施イメージがしにくい状況であった。また、小学校の授業は年度初めに学習計画を行うため、年度途中で新たに授業を実施しようとしても、一連の学習の中で行うことは難しく、授業の進度等を調整する時間に投げ込み形式で実施することが多くなっていた。

これらを踏まえ、Ｒ１年度では、全校への同時配布が可能な周知ツールとして、多様な学年・教科で学習に活用できることや、単元やニーズに合わせた素材の提供が可能なことがわかりやすいよう、関連する単元や学習のねらい、授業の流れ等を整理した周知パンフレットの作成を行った。そこで、Ｒ２年度においては、作成したパンフレットの周知ツールとしての有効性を確認するため、年度初めの学習計画を行うタイミングで県内全校に対して配布を行い、その効果について把握することとした。

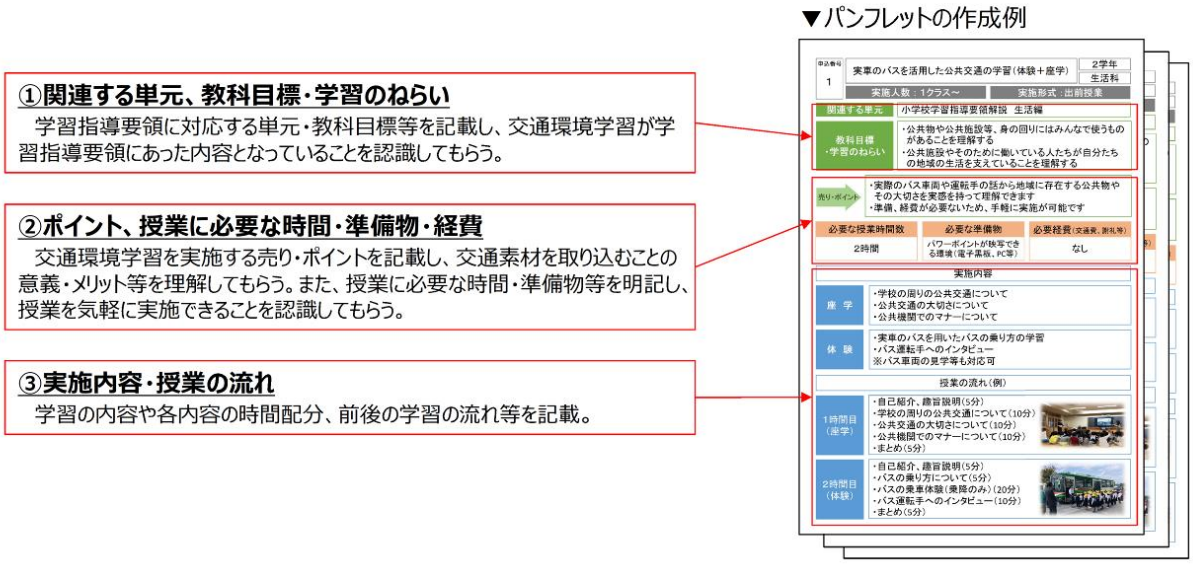


図　2-9　作成したパンフレットのイメージ（再掲）

（b）試行配布を行った周知パンフレット

実際に試行配布を行ったパンフレットを以下に示す。



図　2-10　周知パンフレット（1/29）

交通環境学習について

次世代を担う子供たちに、公共交通に親しみを持ってもらうことを通して、地域問題や環境問題に関心を持つきっかけを提供します。

また、今後中学生、高校生と成長していく中で、バスや電車を活用する機会が多くなることを踏まえ、その使い方を勉強してもらい、役立ててもらいたいと考えています。

学校教育においては、地域社会の仕組みを学ぶための、身近で親しみやすい実物教材になると考えています。

実施までの流れ

本パンフレットで実施したい授業を選択

↓

「申し込みシート」に必要事項を記入しFAX送信（メールも可）

↓

滋賀県の交通環境学習担当者より連絡（日時、内容の確認）

↓

授業実施

↓

実施後アンケートの送付

備　考

・実施内容について御不明点がございましたら、県担当までご連絡ください。
・必要に応じて、打ち合わせも可能です。（小学校へお伺いします）

連絡先

滋賀県土木交通部交通戦略課　（交通環境学習　担当とお伝えください）
（TEL:077-528-3680　FAX:077-528-4837　　MAIL:hc00@pref.shiga.lg.jp)

図　2-11　周知パンフレット（2/29）

申込シートの記載方法について

ステップ1	学校名、学年等の必要事項をご記載ください。
ステップ2	本冊子の「座学メニュー」から、お好きな組み合わせをご選択ください。 ＊「出前授業」か「資料提供」をお選びください。
ステップ3	本冊子の「体験メニュー」から、お好きな組み合わせをご選択ください。
ステップ4	授業実施希望期間をご記載ください。 ＊幅広く設定いただけると幸いです。
ステップ5	授業実施希望日があれば御記載ください。 ＊ご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。
ステップ6	打ち合わせの希望有無をご記載ください。 ＊希望有無にかかわらず、担当がお電話での詳細確認は行います。
ステップ7	その他ご不明点、ご不安点があればご記載ください。

お願い事項

・より良い交通素材の提供方法を検討していくとともに、活用事例の収集を行いたいと考えています。
・そのため、本支援を活用いただいた教科・単元における学習の流れや支援内容の位置付け方、使っていただいたご感想・ご要望等について、実施後に所定様式にてご提供いただけますと幸いです。
・また、ヒアリング等をお願いさせていただく場合もございますが、ご協力いただけますと幸甚です。

図　2-12　周知パンフレット（3/29）



図　2-13　周知パンフレット（4/29）

座学	身の回りの公共交通について	1

必要時間	10分～15分	必要経費（交通費、謝礼等）	なし	素材	パワーポイント

実施内容

・普段乗っている「のりもの」から、滋賀県内の公共交通を紹介します。
・「誰でも使える大切な乗り物」として公共交通を学びます。
・小学校の周りの公共交通について、地図で紹介しながら学びます。
※資料提供または出前授業が可能です。

提供素材例

















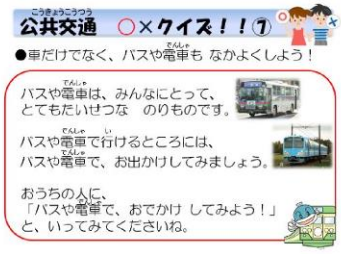


図 2-14 周知パンフレット（5/29）

座学	公共交通のマナーについて	2

必要時間	5分～15分	必要経費（交通費、謝礼等）	なし	素材	パワーポイント

実施内容

・公共交通でのマナーについて、パワーポイントを活用して学びます。
・説明するだけではなく、子どもたちに考えてもらいながら学習を進めます。
・問題数によって、必要時間の調整が可能です。
※資料提供または出前授業が可能です。

提供素材例



図 2-15 周知パンフレット（6/29）

座学	バスの乗り方	3

必要時間	10分～15分	必要経費（交通費、謝礼等）	なし	素材	パワーポイント

実施内容

・バスの乗り方について、パワーポイントを活用して学びます。
・本学習と実車バスの体験授業を組み合わせると、効果的です。
・安全な乗車方法についても、写真を見ながら学べます。
※資料提供または出前授業が可能です。

提供素材例



図 2-16 周知パンフレット（7/29）

座学	電車（JR線）の乗り方～切符の買い方～	4

必要時間	10分～15分	必要経費（交通費、謝礼等）	なし	素材	パワーポイント

実施内容

・電車（JR線）の乗り方について、パワーポイントを活用して学びます。
・切符の買い方（体験）と組み合わせて学習すると効果的です。
・安全な乗車方法についても、写真を見ながら学べます。
・学校の最寄り駅での乗り方を学習できます。
※資料提供または出前授業が可能です。

提供素材例



図　2-17　周知パンフレット（8/29）

体験	バスの乗車体験～乗り方学習～	1

必要時間 ＊20人程度を想定	15～ 20分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・実車のバスを小学校へお持ちし、乗降体験を行います。
・バス事業者よりバスの乗り方について説明します。
・実際の路線バスを活用した学習なので、実践的です。

実施例

・バスの乗り方の説明（バス会社）
・バスの乗車体験
　整理券を取る→座席に座る→料金の計算方法の説明
　→バスの車内マナーの説明→降車ボタンを押す→降車
・まとめ



図　2-18　周知パンフレット（9/29）

体験	バスの乗車体験～バスの車両観察～	2

必要時間 ＊20人程度を想定	10～ 15分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・実車のバスを小学校へお持ちし、バス車両の観察を行います。
・バス事業者よりバスの工夫について説明します。
・普段は見られないところも見学できます。
・子供たちの質問については、運転手さんやバス事業者が対応します。
・観察するためのワークシートを提供します。

実施例

・バスの説明
・バスの観察（車内外）
・運転手（バス会社）への質問タイム











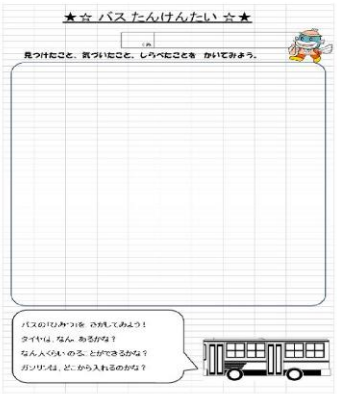


図 2-19 周知パンフレット（10/29）

体験	バスの乗車体験～車いす体験～	3

必要時間 ＊1人あたり	5分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・実車のバスを小学校へお持ちし、車いすの乗降体験を行います。
・車いすでの乗り方について、バス事業者より説明します。
・全員でも、代表者だけでも対応できます。
・子供たちの質問については、運転手さんやバス事業者が対応します。

実施例

・車いすでの乗り方の説明
・車いすでの乗車体験
・運転手（バス会社）への質問タイム








図　2-20　周知パンフレット（11/29）

体験	バスの乗車体験～運転手インタビュー～	4

必要時間 ＊1人あたり	5～ 10分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・バスの運転手さんが、直接子どもたちの疑問に答えます。
・「働くひとたち」の学習もできます。
・事前に質問票をいただければ、細かい質問にも対応可能です。

実施例

・運転手さんへのインタビュー
・職業に対するおはなし
・運転手（バス会社）への質問タイム







図　2-21　周知パンフレット（12/29）

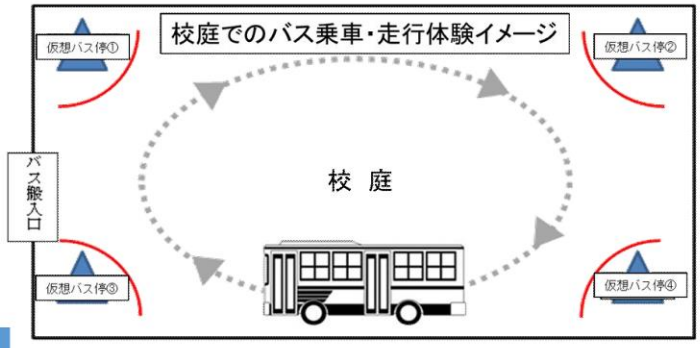
体験	バスの乗車体験～実践編～	5

必要時間 ＊20人あたり	45分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・実車のバスを小学校へお持ちし、バスの乗降体験を行います。
・校庭内にバス停をつくり、模擬のお金チケットを渡し、乗降してもらいます。

実施例



実施手順

① バスの乗り方や乗車マナーについて説明
② 路線バスが校庭内を周回
・3つの班に分かれる
・お金の代わりに4種の金額が書かれた紙を児童に配布
・3班それぞれ別のバス停から乗車し、降車するバス停で正しい運賃を払って降車

補足

・コーンを5つ準備し、バス停の名前を貼る
・児童の安全に配慮し、バス停（コーン）の前に白線を引く
・それぞれのバス停にスタッフを1人配置



図　2-22　周知パンフレット（13/29）

体験	電車の乗り方教室～切符の買い方～	6

必要時間 ＊20人あたり	15～ 20分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	模擬 券売機 （ポスター）

実施内容

・模擬の券売機（ポスター）を作成し、学校へ提供します。
・1人1人切符の買い方を練習します。
・練習時には、職員がポスターの横で買い方の説明をします。

実施例

・模擬券売機の使い方説明
・切符の買い方体験
・質問タイム











図　2-23　周知パンフレット（14/29）

事例 1	実車のバスを活用した公共交通の学習（体験＋座学）	2学年 生活科
	実施人数：1クラス～	実施形式：出前授業

関連する単元	小学校学習指導要領解説　生活編
教科目標 ・学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあることを理解する ・公共施設やそのために働いている人たちが自分たちの地域の生活を支えていることを理解する
ポイント	・実際のバス車両や運転手の話から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます ・準備、経費が必要ないため、手軽に実施が可能です

必要な授業時間数	必要な準備物	組み合わせ			
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	座学	1＋2	体験	1＋4

実施内容

座　学	・学校の周りの公共交通について ・公共機関でのマナーについて
体　験	・実車のバスを用いたバスの乗り方の学習 ・バス運転手へのインタビュー

授業の流れ

1時間目 （座学）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（15分） ・公共機関でのマナーについて（15分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （体験）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・バスの乗り方について（5分） ・バスの乗車体験（乗降のみ）（20分） ・バス運転手へのインタビュー（10分） ・まとめ（5分）	

実施した学校の先生の感想

・バスの乗車体験やバス運転手へのインタビューなど実際に自分の目で見て直接話を聞く体験は、座学で教えるよりも子どもたちの印象に残りやすく、授業にも積極的に取組んでもらえた。

図　2-24　周知パンフレット（15/29）

事例 2	実車のバスを活用した公共交通の学習（体験＋座学） ～校庭でのバス乗車・走行体験 ver. ～	2学年 生活科
	実施人数：1クラス～	実施形式：出前授業

関連する単元	小学校学習指導要領解説　生活編
教科目標 ・学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあることを理解する
ポイント	・実際のバス車両から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます ・特に走行体験により、印象、理解を深められます

必要な授業時間数	必要な準備物	組み合わせ			
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	座学	1＋2	体験	5

実施内容

座　学	・学校の周りの公共交通について ・公共機関でのマナーについて
体　験	・実車のバスを用いたバスの乗り方の学習 ・校庭でのバス乗車・走行体験 ※校庭でバスが走行できるかどうかの確認が必要です

授業の流れ

1時間目 （座学）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（15分） ・公共機関でのマナーについて（15分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （体験）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・バスの乗り方について（10分） ・校庭でのバス乗車・走行体験（25分） ・まとめ（5分）	

実施した学校の先生の感想

・バス停での待ち方から降車の仕方まで実際に走行するバスを用いて乗車体験ができたことで、校外学習に向けてより実践的な学習ができた。

図　2-25　周知パンフレット（16/29）

事例 3	実車のバスを活用した公共交通の学習（体験＋座学） ～マナー学習 ver. ～	2学年 生活科
	実施人数：1クラス～	実施形式：出前授業

関連する単元	小学校学習指導要領解説　生活編
教科目標 ・学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあることを理解する
ポイント	・実際のバス車両から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます ・校外学習前のマナー学習として効果的です

必要な授業時間数	必要な準備物	組み合わせ			
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	座学	1＋2	体験	1

実施内容

座　学	・学校の周りの公共交通について
体　験	・実車のバスを用いたバスの乗り方の学習
マナー	・マナークイズ

授業の流れ

1コマ目 座学 （30分）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（20分） ・まとめ（5分）	
2コマ目 体験 （30分）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・バスの乗り方について（5分） ・バスの乗車体験（乗降のみ）（20分） ・まとめ（5分）	
3コマ目 マナー （30分）	・マナーについての説明（10分） ・マナークイズ（20分）	

実施した学校の先生の感想

・バス停での待ち方等、初めに座学のコマで学んだ乗車マナーが体験学習のコマに活かされており、座学と体験を組合わせることで深い学習ができた。

図　2-26　周知パンフレット（17/29）

事例 4	実車のバスを活用した公共交通の学習（体験＋座学） ～切符の買い方学習 ver. ～	2学年 生活科
	実施人数：1クラス～	実施形式：出前授業

関連する単元	小学校学習指導要領解説　生活編
教科目標 ・学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあることを理解する
ポイント	・実際のバス車両から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます ・校外学習前の切符の買い方学習として効果的です

必要な授業時間数	必要な準備物	組み合わせ			
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	座学	1＋2	体験	1+4

実施内容

座　学	・学校の周りの公共交通について ・切符の買い方について
体　験	・実車のバスを用いたバスの乗り方の学習

授業の流れ

1時間目 （座学）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（15分） ・切符の買い方（15分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （体験）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・バスの乗り方について（5分） ・バスの乗車体験（20分）	

実施した学校の先生の感想

・切符の買い方を事前に学習したことで校外学習当日にスムーズに電車に乗ることができた。
・模擬の券売機を用いた体験により、子どもたちが積極的に取り組んでくれた。

図　2-27　周知パンフレット（18/29）



図　2-28　周知パンフレット（19/29）

体験	実車のバスを活用した障がい者体験・学習	3学年～ 総合的な学習の時間（福祉）	7

実施人数：1クラス～	実施形式：体験サポート

関連する単元	小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編
教科目標 ・学習のねらい	・移動や生活で、障がい者（視覚障がい者や車いす利用者等）が何に困るかを実物・体験を通じて実感する ・自分にできることを考える

ポイント

- 実際のバス車両での体験から、普段の生活や移動で障がい者が困ることを実感を持って理解できます
- 実際のバス車両で、すでに取り組まれている障がい者に対する配慮・工夫等から、社会の仕組みを実感することができます

必要な授業時間数	必要な準備物	必要経費（交通費、謝礼等）
2時間	なし	なし

実施内容

体　験

- 実車のバスを用いた障がい者体験
- バス車両の工夫点を観察（ノンステップ、ニーリング機能等）
- 障がい者が困る点や車両の工夫点への気づき・考察のサポート

授業の流れ（例）

導　入

障がい者が普段の生活の中で何に困るかを知る・予想する

- （例）障がい者へのインタビュー
- （例）バス車両等の生活施設写真を提示し、何に困りそうかを予想する

体験学習（2時間）

導入授業を踏まえ、障がい者が何に困るかを実感する



まとめ

体験学習を通じて、大変だった点や自分にできることを考える

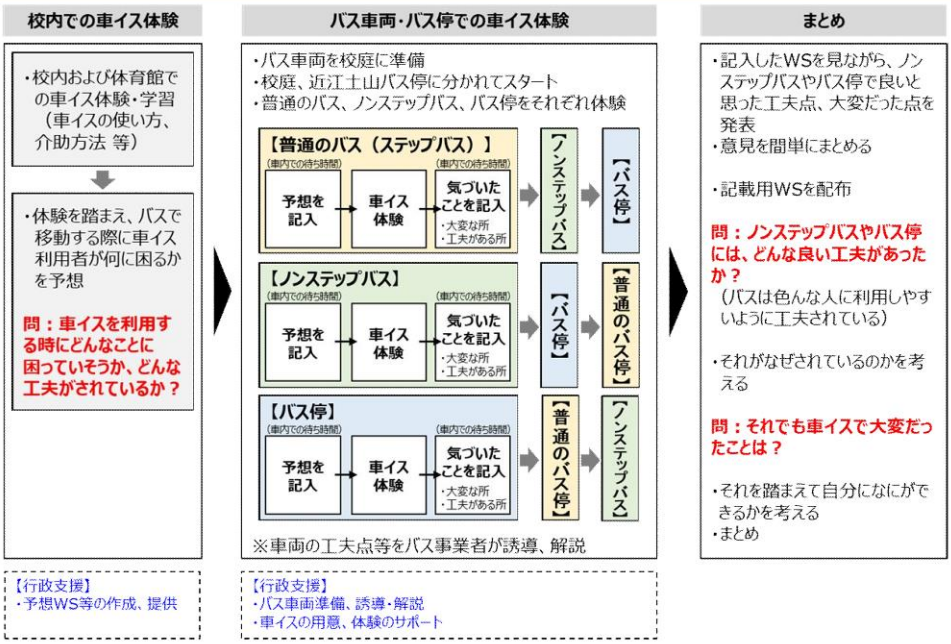
- （例）バスで良いと思った工夫点や体験で大変だった点を発表
- （例）障がい者と遭遇した時に自分は何ができるのかを考える

実施した学校の先生の感想

- 車両の狭い空間を行き来する体験は、譲り合わないと移動も思うようにできないという現実を知る貴重な機会。
- 大人も初めて知るような工夫が車両にはたくさんあり、子どもたちの発見につながる良い経験になった。

図　2-29　周知パンフレット（20/29）

授業の実施イメージ（車いす体験）



※視覚障がい者体験も同様の内容で実施が可能です

ワークシートのイメージ

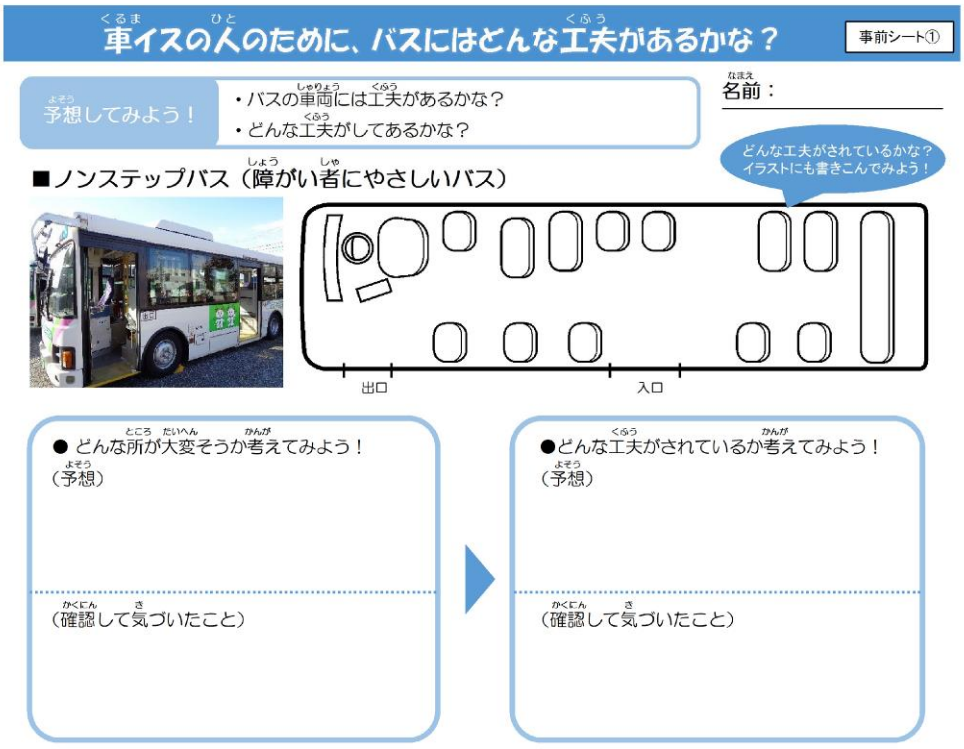


図 2-30 周知パンフレット（21/29）



図　2-31　周知パンフレット（22/29）

座学

琵琶湖と交通の関わりについての学習

5学年
社会科

5

実施人数：1クラス

実施形式：資料提供 or 出前授業

関連する単元	琵琶湖学習（フローティングスクール）
教科目標 ・学習のねらい	・多様な視点から、ふるさと滋賀や琵琶湖のすばらしさに気づく ・郷土を大切にする気持ちを育み、愛着を醸成する

ポイント

・昔の琵琶湖は湖上交通が発達しており、それに伴って周りのまちが発展してきた経緯があります。交通を視点とした琵琶湖学習を行うことにより、琵琶湖とまちの関わりをより幅広く学ぶことができます
・パワーポイントで作成しているため独自にアレンジが可能です

必要な授業時間数	必要な準備物	必要経費（交通費、謝礼等）
1時間（出前授業の場合）	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

実施内容

出前授業の場合

・琵琶湖周辺における地名の共通点
・湖上交通を使った昔の貨物輸送のルート
・湖上交通の役割



資料提供の場合

・湖上交通の歴史に関する資料（奈良時代～昭和）
・湖上交通の役割について考えるワークシート

授業の流れ（例）

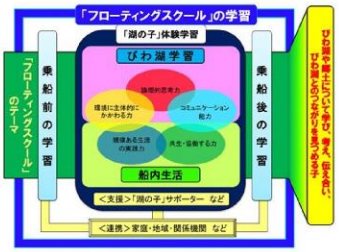
【 琵琶湖学習（フローティングスクール）の流れ】

調べ学習
・ 琵琶湖について学びたいテーマを設定し、琵琶湖と自分たちの生活の関わりについての学習を行う

琵琶湖と交通の関わりについての学習

宿泊体験学習
・ 学習船「うみのこ」での宿泊体験を通し、琵琶湖の現状や環境等について学ぶ

まとめ
・ 宿泊体験での学びを通して、乗船前に設定したテーマについて理解を深める



※滋賀県立琵琶湖フローティングスクールHPより引用

実施した学校の先生の感想

・フローティングスクールの事前学習として非常によかった。宿泊体験学習時に、講師から湖上交通に関する話があり、子供たちは学習内容を思い出しながら興味を持って話を聞けていた。

図 2-32 周知パンフレット（23/29）

授業の実施イメージ

琵琶湖に港があった（ある）ことを知る

・琵琶湖周辺の地名を調べてWSに記入する

・記入した地名についてその共通点を考える

・地名に共通する漢字の意味について調べる

琵琶湖は交通の要衝であった（ある）ことを理解する

・日本海側からの荷物の輸送ルートを予想する

・港は「小浜」や「敦賀」に運ばれた荷物を京都や大阪、大津まで輸送するための中継点であったことを知る

・陸路を短縮するために琵琶湖に交通が集まっていたことを理解する

現在も県民の日常生活に使われる交通が琵琶湖にあり、生活を支えていることを知る

・今も日常的に残っている湖上交通のルートを予想する

・日常的な生活に使われている交通が琵琶湖にあることを理解する

ワークシート1　　ワークシート2

ワークシートのイメージ

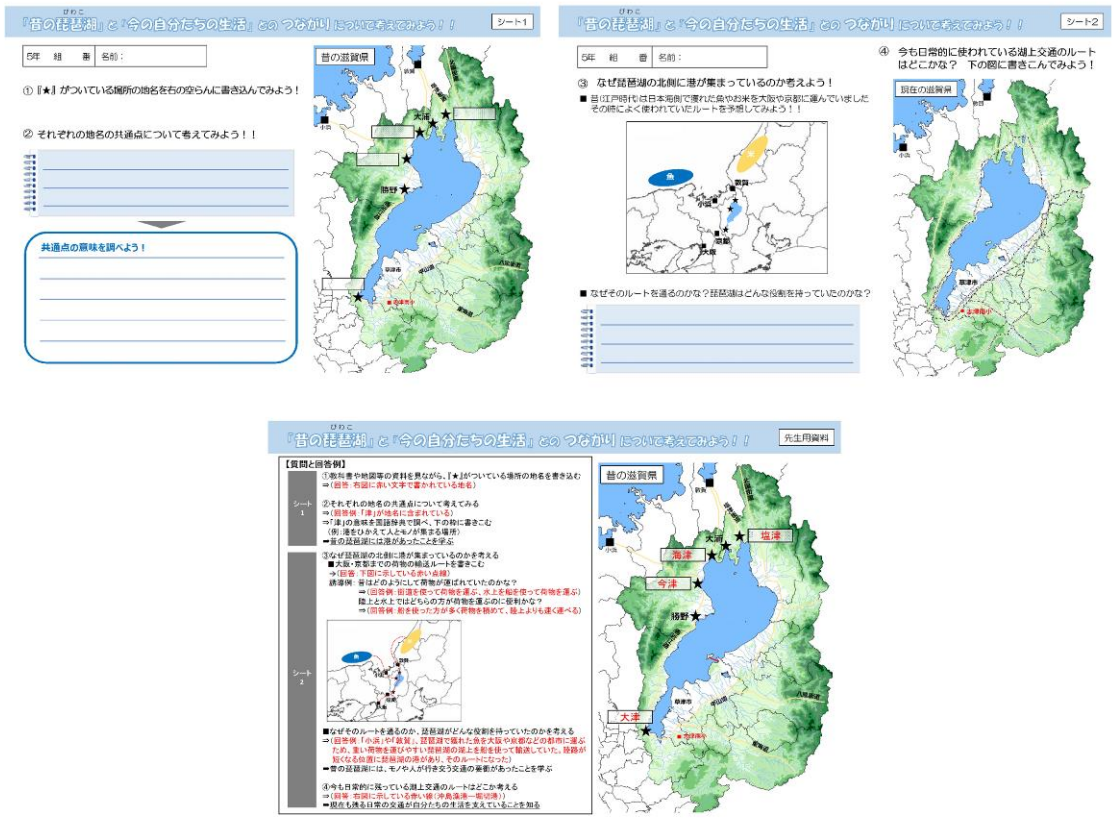


図　2-33　周知パンフレット（24/29）

座学	身近な食材を通じた物流の仕組み・動向の学習	5学年 社会科	6

実施人数：1クラス　　実施形式：資料提供 or 出前授業

関連する単元	小学校学習指導要領解説　社会科編
教科目標 ・学習のねらい	・生産物の種類や分布、生産量の変化に着目して、食料生産が生活に果たす役割を考える ・食料生産に関わる人々は、輸送方法等を工夫したりして、食料生産を支えていることを理解する
ポイント	・実際に食べた野菜の生産地やその傾向を調べる学習を通じて、物流に自分の生活が支えられていることや、物流が抱えている問題を実感することができます。 ・パワーポイントで作成しているため独自にアレンジが可能です ・タブレット等のICTを活用した調べ学習としても実施が可能です

必要な授業時間数	必要な準備物	必要経費（交通費、謝礼等）
2時間（出前授業の場合）	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

実施内容

出前授業の場合	・昨晩食べた野菜の生産地はどこか ・なぜ多くの野菜が遠くの地域で作られているのか ・野菜はどんな輸送手段で運ばれてくるのか ・トラック輸送はどんな問題を抱えているのか
資料提供の場合	・物流に関するデータ（食料自給率、品目別の輸送手段 等） ・野菜の生産地から物流の仕組みについて考えるワークシート ・学習指導案

授業の流れ（例）

導　入	**物流の基本的な内容を学習する** （例）物流とは何か？どのようにして生活をささえているのか？
出前授業	**実際に食べた野菜から、物流の仕組みや動向を学習する**
まとめ	**環境問題を含め、物流の問題についてどうすべきかを考える** （例）物流はどんな問題を抱えているのか？ （例）解決するためにどんな取組がされているのか？自分は何ができそうか？

実施した学校の先生の感想

・物流に関連する統計データ・情報を提供いただけるので、子どもたちの理解を深める効果的な授業ができる。
・また、提供頂いた統計データ・情報は他の授業にも活用することができるため、非常に有難い。

図　2-34　周知パンフレット（25/29）

授業の実施イメージ

【導入】 昨晩食べた野菜の生産地はどこか
・昨晩食べた食事のメニューとそれに使われていた野菜を2つ挙げる
・選んだ野菜が滋賀県産かどうかを調べる
・滋賀県産でない場合、どこの産地で作られているかを調べる

【展開①】 なぜ遠い地域で作られているのか
・選んだ野菜の旬の季節を調べる
・旬の季節によって生産地がどう異なるかを考える
→野菜の生産に適した気候・気温で作ろうとすると滋賀県から離れた地域で作る必要があることを理解する

【展開②】 滋賀県の食料自給率、輸送手段の割合はどうなっているのか
・滋賀県の自給率を予想し、北海道などに比べて低くなっていることを確認する
・野菜はトラックを使って運ばれるのが多いことを確認する

【展開③】 トラック輸送はどんな問題を抱えているのか
・トラック輸送に関する新聞記事を読んで、トラック輸送の問題について読み解く
・問題を解決するために、自分で何ができるかを考える （例）地産地消 等

ワークシートのイメージ

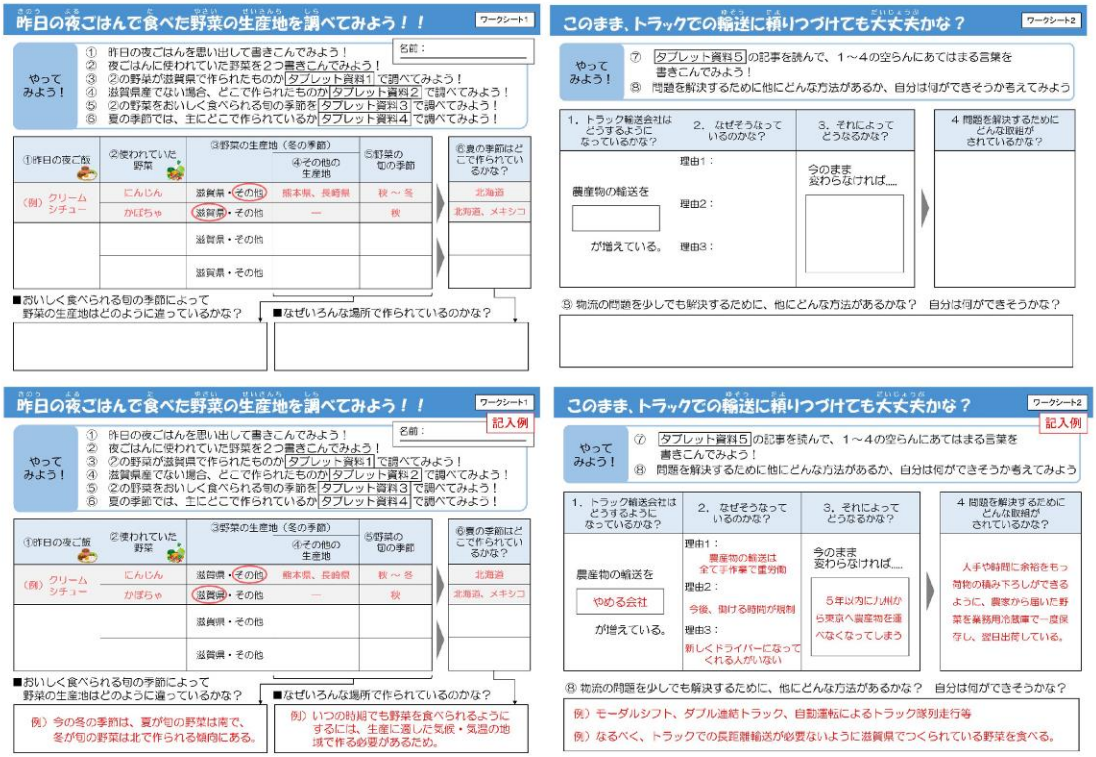


図 2-35 周知パンフレット（26/29）



図　2-36　周知パンフレット（27/29）

座学

暮らしと交通の問題から地域の将来について考える学習

6学年

総合的な学習の時間

7

実施人数：1クラス～

実施形式：資料提供

関連する単元	小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編
教科目標 ・学習のねらい	・地域の現状や課題について、自分とのつながりの中で理解を深める ・人々の暮らしや伝統、文化など地域や学校の特色に応じて、今後の地域や自分のあり方について考えを深める

ポイント

- 今の地域がなぜそうなっているのかを、暮らしに密接した交通の視点から考えることにより、まちの現状・問題のイメージがしやすくなります
- また、日常生活との関わりが強いので、より実効的な地域活性化の取組について自身の考えを深めることができます
- パワーポイントで作成しているため独自にアレンジが可能です

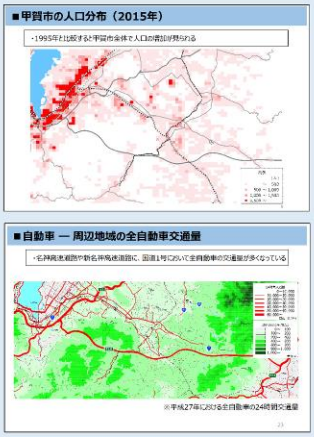
必要な授業時間数	必要な準備物	必要経費（交通費、謝礼等）
―	なし	なし

資料提供の内容

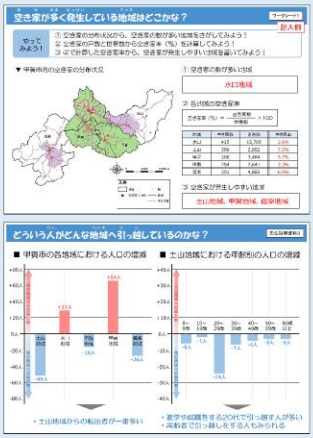
- まちと交通の変化に関するデータ
  （例）人口分布と自動車交通量の関係、空き家の分布と人口増減の関係　等
- 交通事業者や行政担当者等の地域を担う人の紹介

▼提供データの例　（※データ内容については応相談）

人口分布と自動車交通量の関係



空き家の分布と人口増減の関係



▼人の紹介例



交通事業者
➡運行する交通の利用実態、地域の移動を支えるためにしていること・工夫 等



行政担当者
➡税金を使って公共交通を走らせる意味・必要性 等

実施した学校の先生の感想

・教材を作成する時間が限られている学校側にとって、詳細なデータや情報を提供して頂けるのは非常に有難い。
・交通という身近なものから地域を考えることで、子どもたちからも地域を良くする実践的なアイディアが多く出てきた。

図　2-37　周知パンフレット（28/29）

交通環境学習　申し込みシート

学校名				
ご担当者名	役職 （担当学年）		お名前	
ご連絡先（TEL）				
ご連絡先（E-MAIL）				

実施 希望 事項 ＊複数学年可	2年生	座学					
		体験					
	3年生	座学					
		体験					
	4年生	座学					
		体験					
	5年生	座学					
		体験					
	6年生	座学					
		体験					

実施 希望 期間	第一希望	月	～	月		
			希望日（あれば）→		月　日	または　曜日
	第二希望	月	～	月		
			希望日（あれば）→		月　日	または　曜日
	第三希望	月	～	月		
			希望日（あれば）→		月　日	または　曜日

打ち合わせ希望	あり	→	場所 （ex.学校）		なし	

その他 ご要望・ご不明点	

FAX（送付文不要）：077-528-4837

図　2-38　周知パンフレット（29/29）

2）試行配布の結果

（a）試行配布の実施概要

前項の目的・考え方を踏まえ、以下の対象・時期・方法で周知パンフレットの試行配布を行った。

表　2-2　試行配布の概要

対象	県内の全小学校（218 校）
配布時期	４月、８月 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、応募が少なかったため、 ８月に再度配布を実施
配布方法	各学校に１部ずつ配布

（b）試行配布の結果

試行配布の結果、小学校からは計 15 市町 55 校から申込があり、昨年度の申込数 9 市町 26 校と比べると、市町・学校数ともに大幅な増加が見られた。

これまで継続的に実施してきた２年生の乗り方教室については、昨年度は実施していなかった市町からの申込も多く、申込があった小学校の中には、出前講座を行わず素材提供のみで実施する学校もみられた。また、これまでは実車バスの素材を提供し、乗り方教室を実施する小学校が多かったが、事業者等の人材や統計データ等の素材を活用し、単元の理解を深める学習に申込する小学校もみられた。

以上、周知パンフレットの試行配布・活用により、一定の取組の広がりが確認できた。また、多様な学年・教科で学習に活用できることや、単元やニーズに合わせた素材の提供が可能なことがわかりやすいよう整理したことで、素材提供のみで実施する学校がでてきた他、実車のバス以外の素材を活用した学習への波及・展開もみられた。

黒：2年生座学（出前講座）、青：2年生座学（素材提供活用あり）、赤：他学年、**太字**：実車バス提供

市町	R1年度		R2年度	
大津市	3校	**上田上小校**、**瀬田南小学校**、**瀬田北小学校**	7校	**富士見小学校**、**下坂本小学校**、小野小学校、**膳所小学校**、**仰木の里東小学校**、**唐崎小学校**、長等小学校
彦根市	4校	**城東小学校**、**佐和山小学校**、**旭森小学校**、**高宮小学校**	8校	**亀山小学校**、**城西小学校**、**金城小学校**、**佐和山小学校**、**旭森小学校**、**城南小学校**、稲枝北小学校、若葉小学校
近江八幡市	1校	岡山小学校	3校	**桐原東小学校**、**武佐小学校**、沖島小学校
草津市	3校	**老上西小学校**、**笠縫小学校**、**志津南小学校**	8校	**老上西小学校**、**山田小学校**、**草津小学校**、**草津第二小学校**、**南笠東小学校**、**笠縫東小学校**、**笠縫小学校**、**老上小学校**
甲賀市	3校	**土山小学校**、綾野小学校、大野小学校	3校	**土山小学校**、**綾野小学校**、**伴谷小学校**
湖南市	2校	菩提寺小学校、**三雲小学校**	1校	**石部南小学校**
東近江市	7校	**箕作小学校**、**八日市西小学校**、**布引小学校**、**市原小学校**、**五個荘小学校**、**愛東南小学校**、**能登川北小学校**	10校	湖東第一小学校、**五個荘小学校**、**愛東南小学校**、**湖東第二小学校**、**布引小学校**、**市原小学校**、**箕作小学校**、**湖東第三小学校**、**蒲生北小学校**、**能登川東小学校**
竜王町	2校	**竜王小学校**、**竜王西小学校**	1校	**竜王西小学校**
甲良町	1校	**甲良東小学校**	—	—
長浜市	—	—	4校	**神照小学校**、**長浜小学校**、浅井小学校、**長浜南小学校**
守山市	—	—	2校	守山小学校、**速野小学校**
米原市	—	—	1校	柏原小学校
栗東市	—	—	3校	**治田小学校**、治田東小学校、大宝西小学校
日野町	—	—	2校	**西大路小学校**、**桜谷小学校**
豊郷町	—	—	1校	日栄小学校
野洲市	—	—	1校	北野小学校
合計	**9市町　26校　32学年　（青：1校　赤：2校　太字：22校）**		**15市町　55校　72学年　（青：15校　赤：6校　太字：42校）**	

図　2-39　授業申込があった小学校一覧

（２）学習プログラム・素材の整理・高度化

１）学習プログラム・素材の整理

（a）整理の考え方

これまで行ってきた学習プログラムは、授業に活用しやすくどの市町にでも展開しやすい素材として整理することを基本としているが、交通を視点に学習理解を深めることに焦点をあてた学習や、学校周辺に公共交通が運行している等の限られた地域でしか実施ができない学習等が混在している状況である。そこで、来年度以降、取組の周知・展開を進めていくため、これまで実施してきた学習プログラム・素材について内容等を踏まえながら、位置付けについて整理を行うこととした。

まずは、学習に交通素材を取り入れてもらえるようにすることを考えると、素材自体の有用性・魅力を高める必要があり、また、滋賀県のどんな地域でも実施がしやすい内容・方法とすることが重要である。そこで、カリキュラムの中に取り込みやすく、また基本的な交通に関する学習ができる素材については、「導入」という位置付けで整理を行うこととする。

次に、最終的な目標である交通を切り口にまちづくりのことを考えられる人材を育成していくことを考えると、ただ交通について学習するだけでなく、交通を視点に地域の在り方等に関する学習の理解を深めるとともに、県内の小学校へ展開・浸透させていきやすい内容・方法とすることが重要である。そこで、まちづくりに関する学習等の幅広い学習で理解を深めることに寄与し、学習指導要領や県の特色にあわせた活用しやすい形となっている素材については、「拡大」という位置付けで整理を行うこととする。

最後に交通の実フィールドを活かした体験活動等、学校独自のニーズに応じた学習プログラム・素材については、地域独自の学習を支援する事例として、「発展」という位置付けで整理を行うこととする。

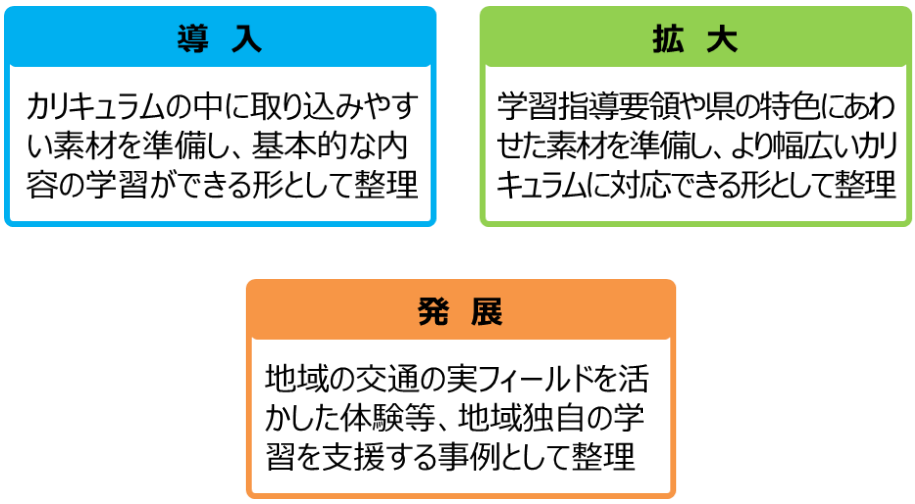


図　2-40　学習プログラム・素材の整理の観点

（b）これまで試行してきた学習プログラムの整理

前項の整理の考え方を踏まえ、これまで実施・試行してきた学習プログラムについて、「導入」、「拡大」、「発展」の観点で以下の通り整理を行った。

	導入｜取り込みやすい素材整理	拡大｜交通から学習を深める素材整理	発展｜体験的活動等の事例づくり
1年生	—	—	—
2年生	**【生活科】乗り方教室** ・身の回りにある公共交通の存在を知ることを通して、公共施設の役割について学ぶ	—	**【生活科】乗り物探検** ・乗り方教室で学習した内容の理解を深めるとともに、公共施設の存在と役割について実感をもって理解する
3・4年生	—	**【総合】障がい者体験** ・より実際の生活に近い、バス車両を用いた障がい者体験を通して、実感・理解を深める	—
4年生	—	**【社会科】鉄道すごろく** ・すごろくを用いた鉄道の疑似体験を通して、交通の広がりや地域の特色を学ぶ	—
5年生	—	**【総合】琵琶湖と交通** ・琵琶湖を運航していた湖上交通の名残から、生活が交通に支えられていることを学ぶ	—
	—	**【社会科】物流と地産地消** ・実際に食べた野菜がどのように運ばれてくるかを知ることを通して、物流の仕組みや動向を学ぶ	—
6年生	—	**【社会科】空き家と地域交通** ・空き家の現状や地域の公共交通の仕組みを知ることを通して、地域の実態を学ぶ	

図　2-41　これまでの学習プログラムの整理

2）学習プログラム・素材の高度化

（a）高度化の考え方

前項で整理した学習プログラム・素材を、より学校で活用しやすい形にしていくためには、教材・ツールの向上や内容・流れのブラッシュアップ等、学習プログラム・素材の高度化を行っていく必要がある。そこで、これまで行ってきた学習プログラムについて、整理の考え方で整理した各観点で、高度化を行っていく際の考え方について整理を行うこととした。

まず、取り込みやすい素材整理として位置づけた「導入」では、昨年度までの結果をベースによりカリキュラムに取り込みやすい形になるよう、内容のブラッシュアップ等の高度化を行うこととした。また、２年生だけでなく、１年生でも取り込めるようなプログラムの構築が可能かを新たに検討することとした。

次に、交通から学習を深める素材整理として位置づけた「拡大」では、昨年度までの結果をベースに、より学習内容の理解が深まるよう、体験の回し方やツールの精度向上等の高度化を行うこととした。また、より単元にマッチした形で活用しやすい素材を検討するため、活用・連携が可能な単元について把握し、新たなプログラムの構築が可能かを検討することとした。

最後に、体験的活動等の事例づくりとして位置づけた「発展」では、昨年度までに実施してきた学習の定着を図る支援を行うとともに、公共交通に対する理解が深まるような新たな学習プログラムの構築が可能かについて検討することとした。

（b）実施・試行内容の整理

a）実施校へのヒアリング

前項の考え方を踏まえた今年度の実施・試行内容を整理するにあたり、昨年度までに行ってきた学習プログラムの改善点・工夫点や、新たに交通と関連づけられる単元等について把握するため、検討対象モデル校に対し、ヒアリングを行うこととした。

以下にヒアリング結果を示す。

■彦根市立　亀山小学校

日時	令和２年 10 月 12 日（月）
対象	６年生の担任教師
ご意見	**【新たな交通学習プログラムの検討について】** ○６年生 ・地域の交通について学び、今後の公共交通がどうなるのかを考えることを通して、まちの将来を考える授業にしたいと考えている。 ・また、交通事業者や行政担当者等の人に焦点をあて、仕事内容や、行政の役割等を学び、自身の将来について考えるキャリア教育や政治の学習としてもつなげていければよいと考えている。 ・具体的には、滋賀県全体の人口についてや、公共交通がどのような方に利用されているか、公共交通の現状やどのような取組みがされているかを話してほしい。 ・働く人についての学習をしており、事業者の思いや考え等も学べると嬉しい。

■甲賀市立　土山小学校

日時	令和２年７月８日（火）
ヒアリング対象	校長先生、教頭先生
ご意見	**【昨年度の取組のブラッシュアップについて】** ○２年生 ・コロナの影響もあるが、マスク着用や手洗い・うがいを徹底する等の対応だけで、基本的には昨年度と同じ学習の流れで実施できればと考えている。 ・寺庄駅から近江土山バス停への移動は、他の利用者が乗れないくらい席が埋まってしまっている状況なので、大きな車両に変えて頂きたい。 ○３年生 ・学習の基本的な流れは昨年度と同様の形でよいが、体験までの待ち時間をどのように有効活用するかが課題である。 **【新たな交通学習プログラムの検討について】** ○１年生 ・今年度は警察と連携し、横断歩道等の学校周辺の歩き方に関する交通安全学習を実施したが、バス通学の子どもも多いため、バス車内・バス停周辺の安全な乗り方・歩き方についての指導・学習が必要と考えている。 ・バス停の様子がわかる写真や映像から危険を見つけるのは１年生には難しいため、イラストを用いる等の工夫が必要であると考える。また、自分に身近なこととして捉えてもらえるように、近江土山バス停を題材とした内容としてほしい。 ○４年生 ・昨年同様、身体障がい者の学習として車イスでバスに乗車する体験をすることも考えられるが、３年生で体験した内容と重複する部分もあるため、昨年と違う内容の学習を実施できればと考えている。 ・ゲーム型の教材として作成されている鉄道すごろくは交通の広がりにあわせて地域の特産物も学べるため、よい教材であると思う。１コマ程度であれば鉄道すごろくを実施する時間を確保することは可能である。 ○５年生 ・昨年度の地産地消を通じた物流の学習は、子どもたちのトラック輸送に対する認識が変わる等、学習としては良い内容であった。しかし、今年度は公共交通の利用促進の観点からも、昨年とは違う学習ができればと考えている。 ・今年度のフローティングスクールはコロナの影響もあり、日帰りで船に乗って学習を行うだけの内容となっている。フローティングスクールを補うという位置付けで琵琶湖学習を行うことは可能であると考える。 ・土山は山間部に位置しており、琵琶湖周辺の様子は子供たちにとってイメージしにくいため、わかりやすい資料の提示は必要である。 ○６年生 ・昨年度の空き家・コミタクの学習は、土山地域を深く知るためには欠かせないと思うので、今後も学習したい内容ではあるが、これまでの流れの中で一連の学習として実施するのは難しい。 ・歴史を学習する単元があるので、歴史文化財をバス使って巡ってもらう学習が可能ではないかと考える。1 年生から 5 年生で培ったバスの乗り方や使い方に関する知識を活用して、計画・体験するという学習の流れは縦断的な学習のまとめとしても良い

b）実施・試行内容

ヒアリング結果を踏まえ、Ｒ２年度では以下の学習プログラムを実施・試行することとした。

	導入｜取り込みやすい素材整理	拡大｜交通から学習を深める素材整理	発展｜体験的活動等の事例づくり
1年生	**【生活科】交通安全学習（新規）** 通学バスでの安全学習のニーズに対し、使いやすいイラスト・アニメ教材を作成	―	―
2年生	**【生活科】乗り方教室** Ｒ1までに実施してきた内容のブラッシュアップ、学習の定着化	―	**【生活科】乗り物探検** 過年度に実施してき乗り物体験の定着を図るための準備・実施を支援
3年生	―	**【総合】障がい者体験** Ｒ1までに実施してきた内容のブラッシュアップ（体験時間の有効活用化）	―
4年生	―	**【社会科】鉄道すごろく** Ｒ1までに試作したすごろくを学習として実施できる内容にブラッシュアップ	―
5年生	―	**【総合】琵琶湖と交通** H30に実施した学習の琵琶湖沿岸地域以外への適用性を検証、整理	―
6年生	―	**【社会科】地域の公共交通（新規）** 公共交通をテーマに市民の生活を支える行政の役割・地域のあり方等を学ぶ素材の提供方法を検討、試行	**【総合】地域探検（新規）** 複数年にわたる交通学習の集大成的取組として、公共交通手段を自分で調べ、目的地まで自分たちで移動する学習を支援

亀山小学校　土山小学校

図　2-42　学習プログラムの実施・試行内容

3）実施・試行内容の検討

（a）導入（取り込みやすい素材整理）

a）土山小学校１年生・生活科　交通安全学習

①今年度の位置付け

これまでの「導入」としての交通環境学習は、２年生でのバス車両を用いた乗り方教室のみとなっており、公共交通に対する理解をより深めてもらうには、１年生の時から親しみを持って学んでもらうことが重要である。

現在、１年生の生活科では交通安全学習を実施している学校が多く、検討対象モデル校へのヒアリングでも、バス通学の子どもに対する交通安全学習を行ってほしいという学校からのニーズもみられた。交通安全学習は、公共交通の利用促進に直接関連する内容ではないが、安全なバス利用の意識づけを通じて、公共交通へ意識を向けてもらうことが可能と考えられることから、生活科の理解を深めるという観点で、交通安全学習を題材としたプログラムを検討することとした。

②交通プログラムの検討

②－１　交通素材を活用した学習の流れ

学校との意見交換を踏まえ、多くの地域で実施されている交通安全学習に着目し、１年生でも興味をもって学習してもらえるよう、イラストやアニメーションを用いた学習プログラムを試行・検討することとした。

本学習プログラムは、バス停周辺やバス車内に潜む危険性について理解するとともに、危険を回避する方法を学んでもらうことを交通環境学習のねらいとして、バス停およびバス車内の各場面で起こり得る危険について予測し、その危険の回避方法について考えてもらう内容とした。また、１年生でも興味を持って理解してもらえるよう、実際に通学で利用するバス停を題材とした教材の作成等を行った。

以下に学習の流れを示す。

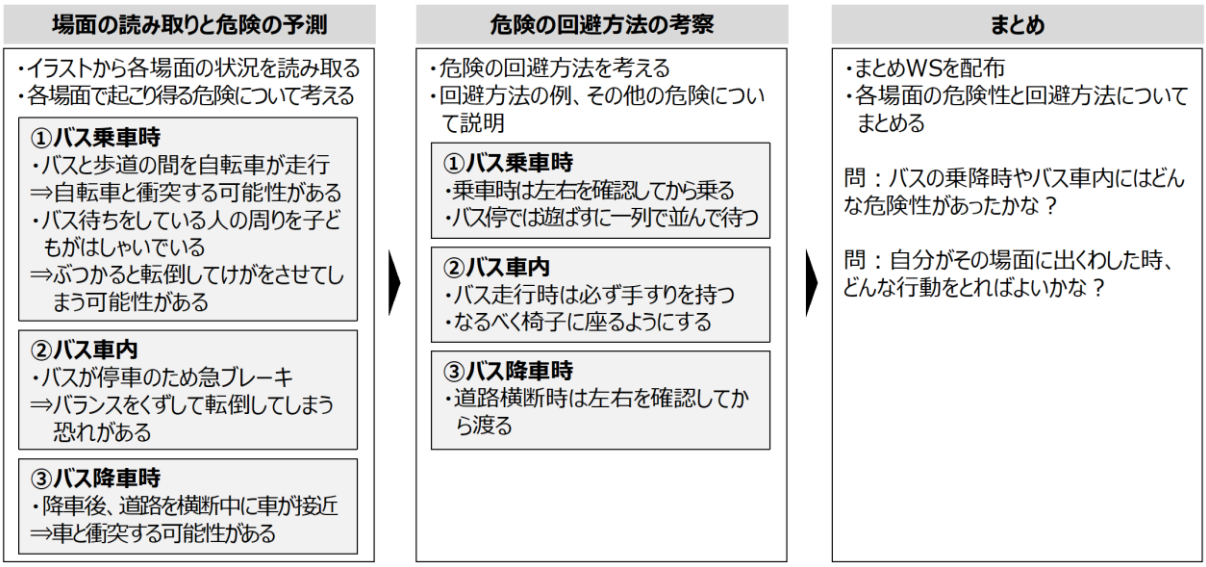


図　2-43　土山小学校１年生の授業の流れ

②－２　学習の準備

前項の学習の流れに対応して、危険を予測し回避方法を考えるためのアニメーション資料、振り返りを行うワークシートを作成した。以降に作成した学習ツールを示す。

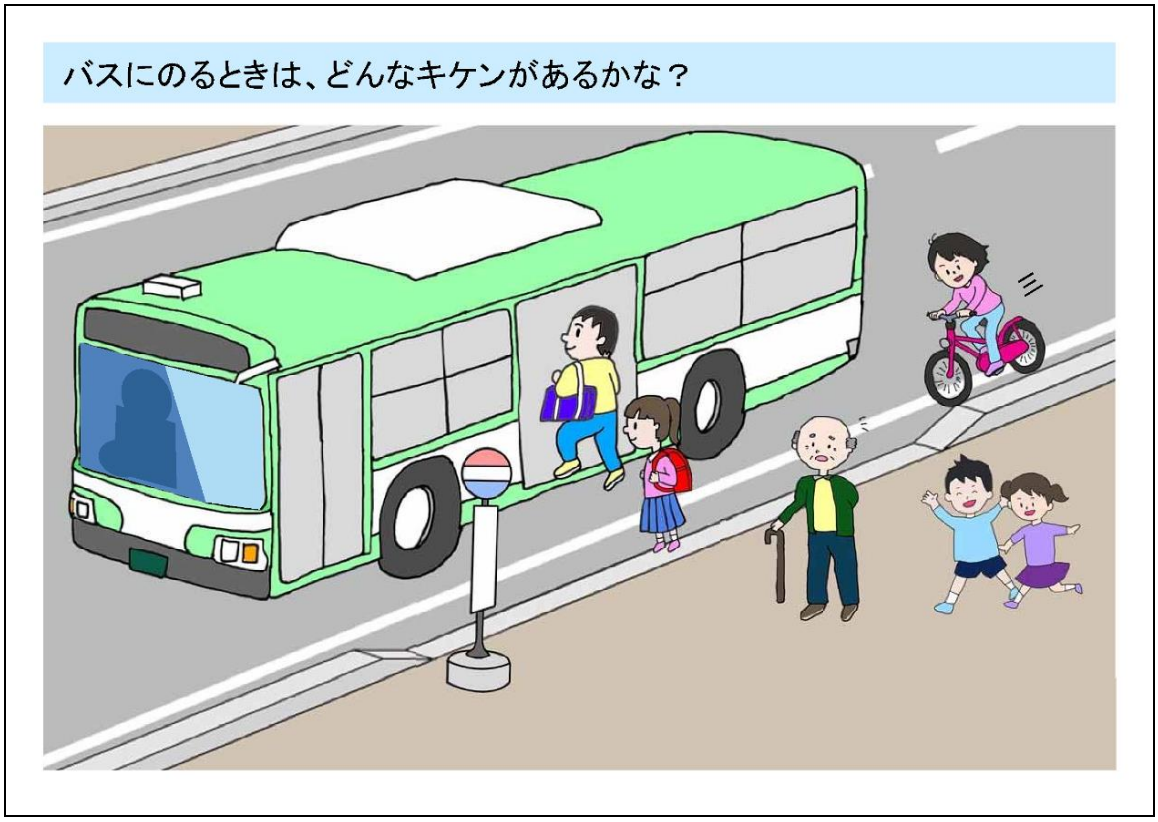


図　2-44　土山小学校１年生の授業資料（1/15）

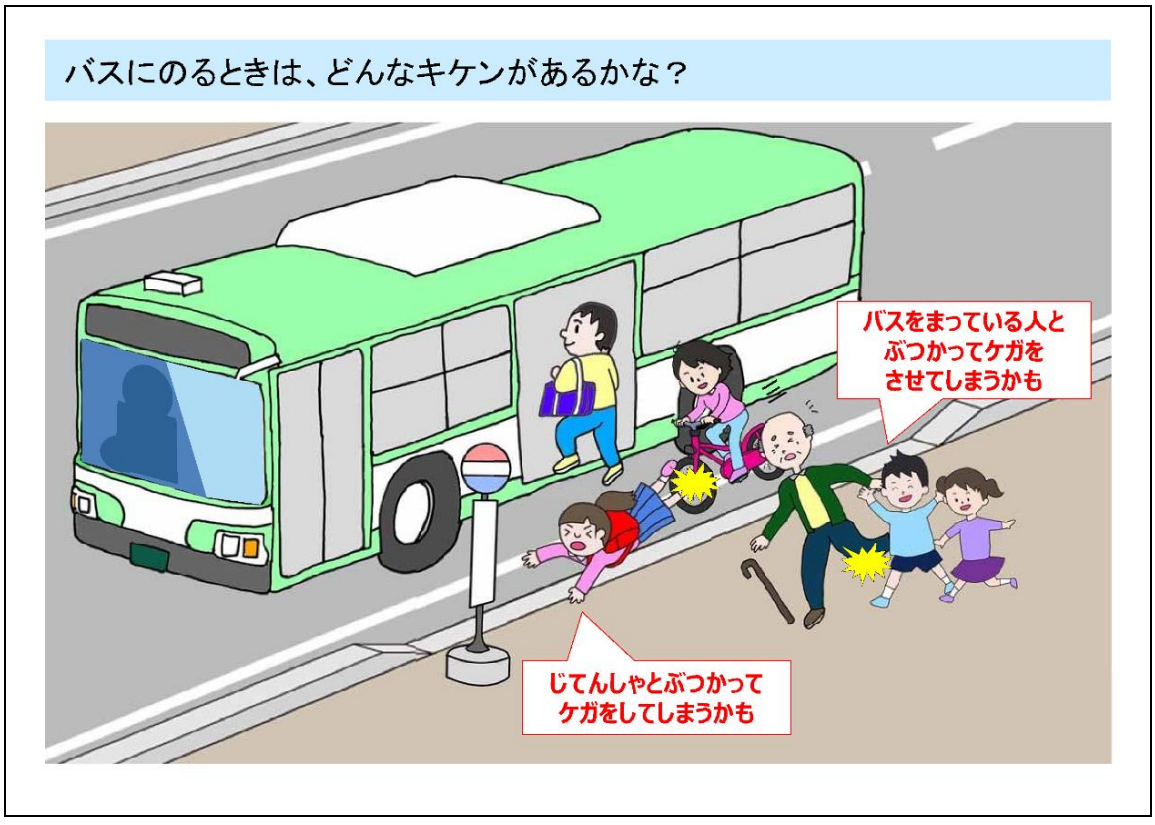
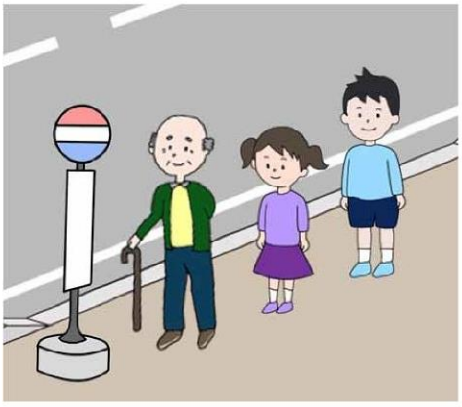


図　2-45　土山小学校１年生の授業資料（2/15）

バスにのるときにきをつけること





・ バスにのるときは、左右をかくにんしてからのりましょう！
・ バス停では、あそばないでいちれつにならんでまちましょう！

図　2-46　土山小学校１年生の授業資料（3/15）

おうみつちやまバス停（てい）は、どんなキケンがあるかな？



図　2-47　土山小学校１年生の授業資料（4/15）



図　2-48　土山小学校１年生の授業資料（5/15）



図　2-49　土山小学校１年生の授業資料（6/15）



図　2-50　土山小学校１年生の授業資料（7/15）



図　2-51　土山小学校１年生の授業資料（8/15）



図　2-52　土山小学校１年生の授業資料（9/15）



図　2-53　土山小学校１年生の授業資料（10/15）



図　2-54　土山小学校１年生の授業資料（11/15）

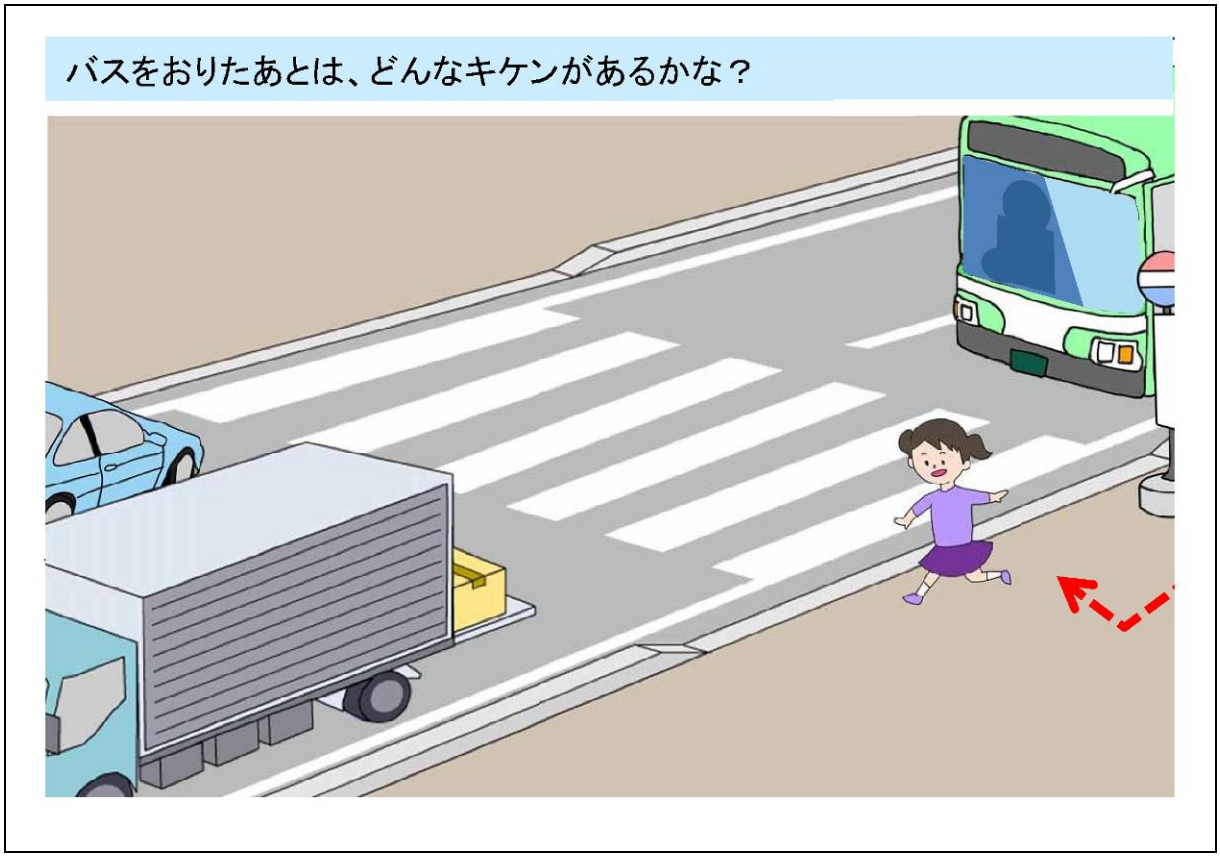


図　2-55　土山小学校１年生の授業資料（12/15）

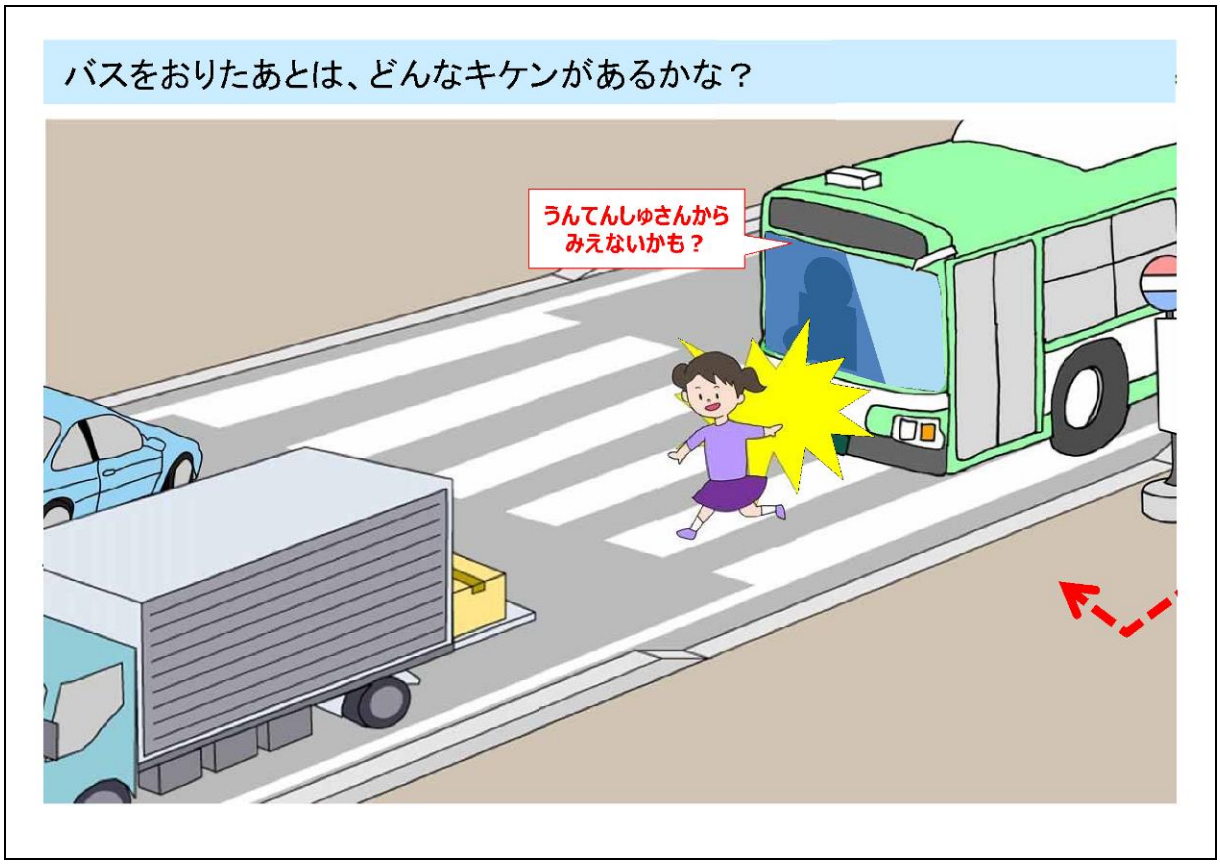


図　2-56　土山小学校１年生の授業資料（13/15）

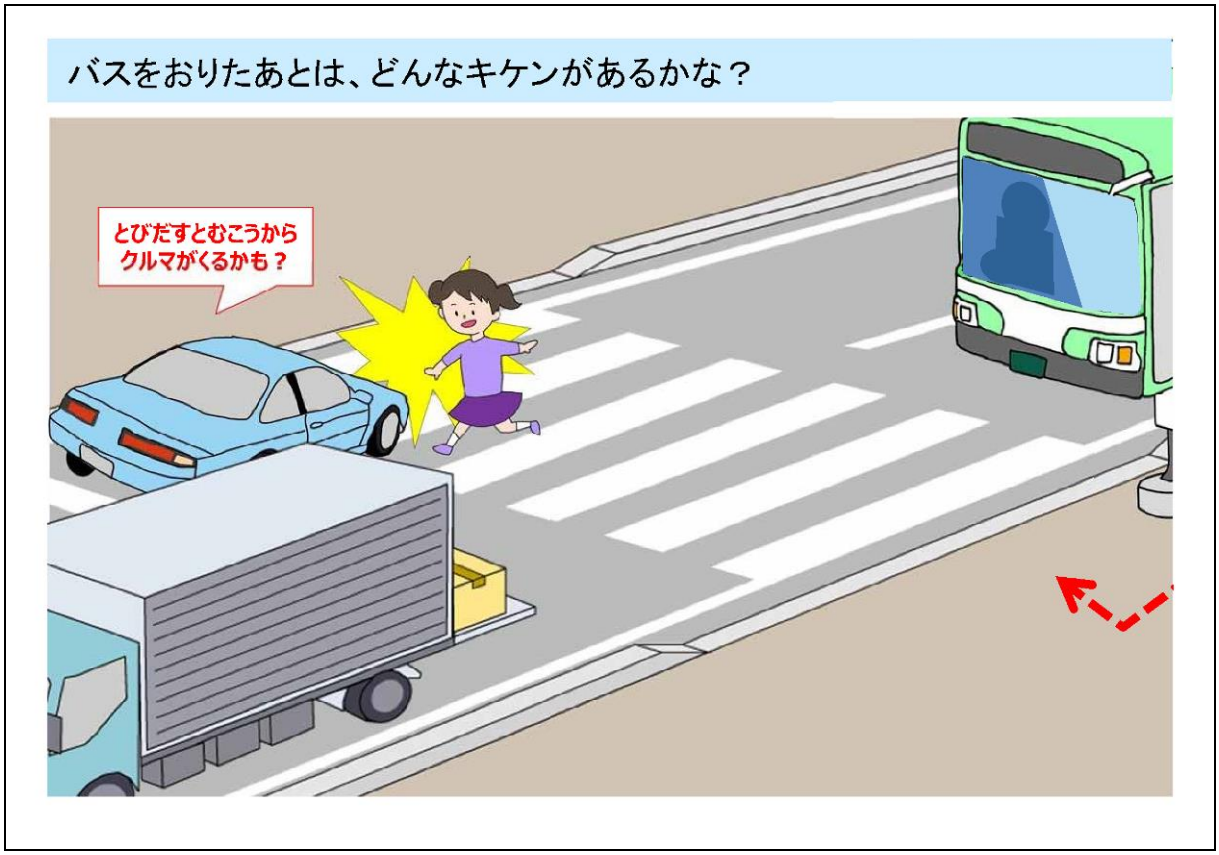


図　2-57　土山小学校１年生の授業資料（14/15）

バスをおりたあとにきをつけること





・ 道路をわたるときは、左右をかくにんしてからわたりましょう！

図　2-58　土山小学校１年生の授業資料（15/15）

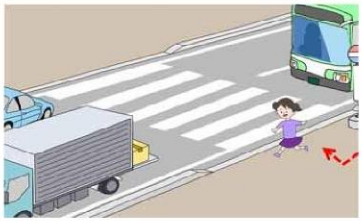
バスをつかうときのキケン（おさらいシート）

ばんごう：　　なまえ：

① バスやバス停にはどんなキケンがあったかな？おもいだしてかきこんでみよう！







② バス停でまっているときやバスにのっているときはどんなことに気をつければよかったかな？

図　2-59　土山小学校１年生のワークシート

b）土山小学校２年生・生活科　乗り方教室

①今年度の位置付け

昨年度までに実施してきた乗り方教室をくり返し実施し、取り組みの定着化を図ることとした。また、新型コロナウイルス感染症の防止の観点から、コロナ禍でのバスの乗り方・注意事項について学習する内容を組み込んだ授業について検討を行うこととした。

②交通プログラムの検討

②－１　交通素材を活用した学習の流れ

昨年度と同様に、バスや電車等の身近な交通を通じて、公共交通や公共施設の役割について理解を深めることを交通環境学習のねらいとして位置付け、乗り方教室単独の学習ではなく、単元の理解を深める一連の学習として、学習の流れを検討・調整した。

土山小学校では、乗り方教室で公共交通について学んでもらうのと同時に、公共交通の存在・役割について理解を深めてもらうため、バス・鉄道乗車体験や事業者等へのインタビューを授業に組み込んだ一連の学習として実施することとした。その一連の学習の内、乗り方教室は公共交通の存在に対する認識向上を図る導入的な学習として実施することとした。

以下に学習の流れを示す。

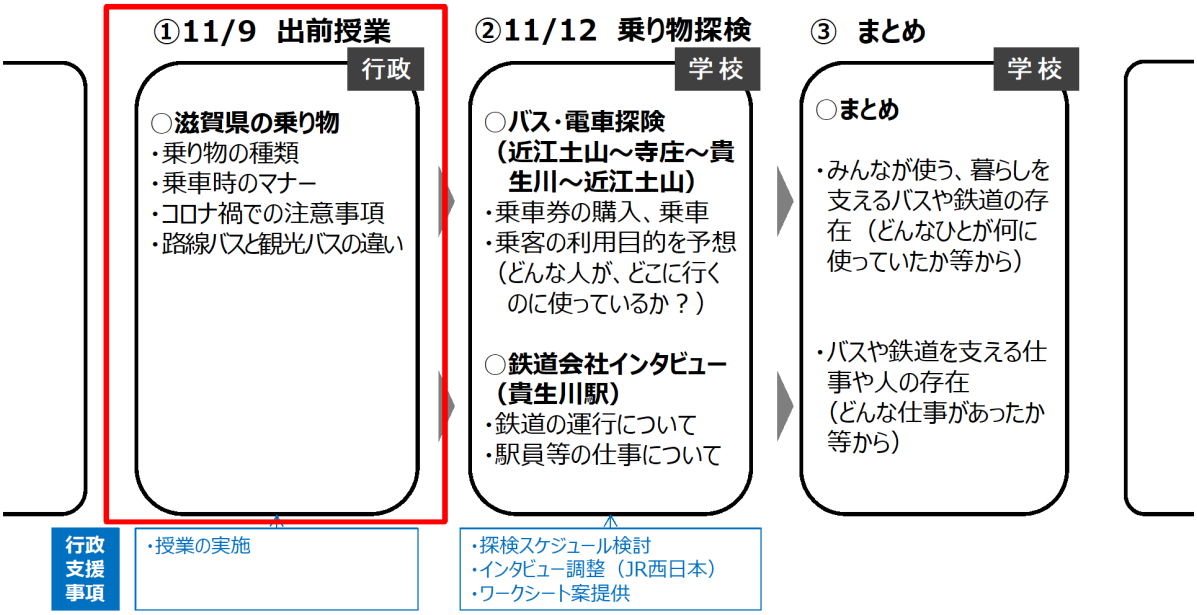


図　2-60　土山小学校２年生の授業の流れ

②－２　学習の準備

前項の学習の流れに対応して、バスの乗り方や乗車時のマナー等を学ぶための説明資料を行政（滋賀県）が作成した。



図　2-61　土山小学校２年生の授業資料（1/23）



図　2-62　土山小学校２年生の授業資料（2/23）



図　2-63　土山小学校２年生の授業資料（3/23）



図　2-64　土山小学校２年生の授業資料（4/23）



図　2-65　土山小学校２年生の授業資料（5/23）



図　2-66　土山小学校２年生の授業資料（6/23）



図 2-67 土山小学校２年生の授業資料（7/23）



図 2-68 土山小学校２年生の授業資料（8/23）



図　2-69　土山小学校２年生の授業資料（9/23）

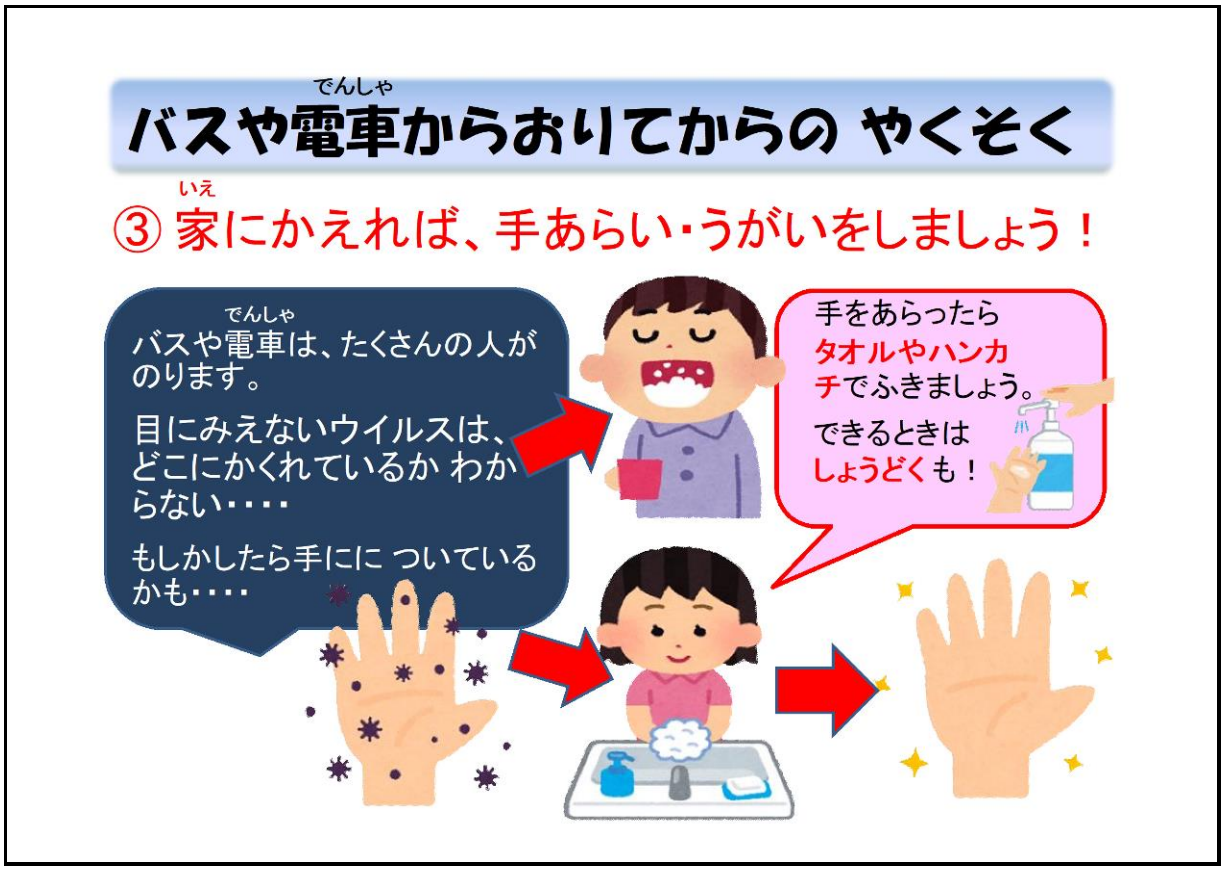


図　2-70　土山小学校２年生の授業資料（10/23）



図　2-71　土山小学校２年生の授業資料（11/23）

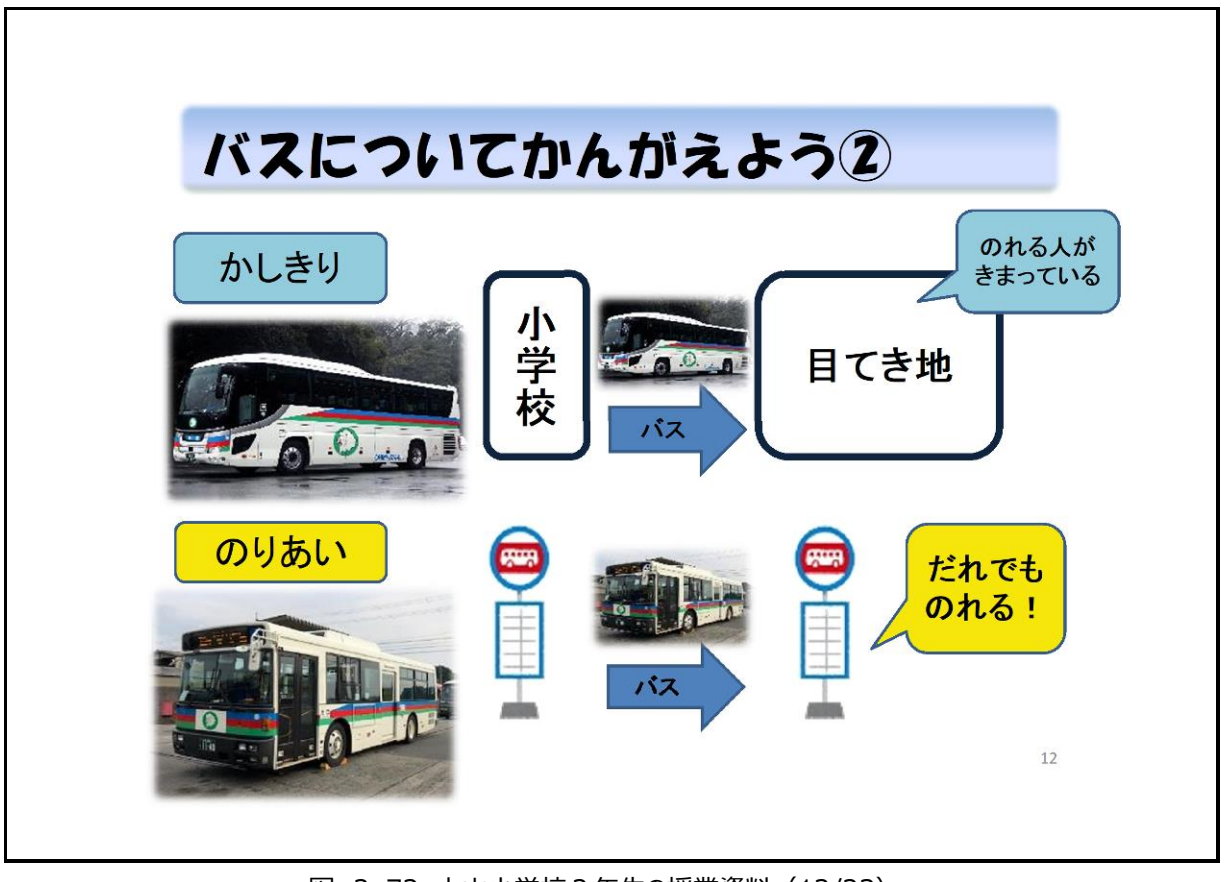


図　2-72　土山小学校２年生の授業資料（12/23）



図　2-73　土山小学校２年生の授業資料（13/23）

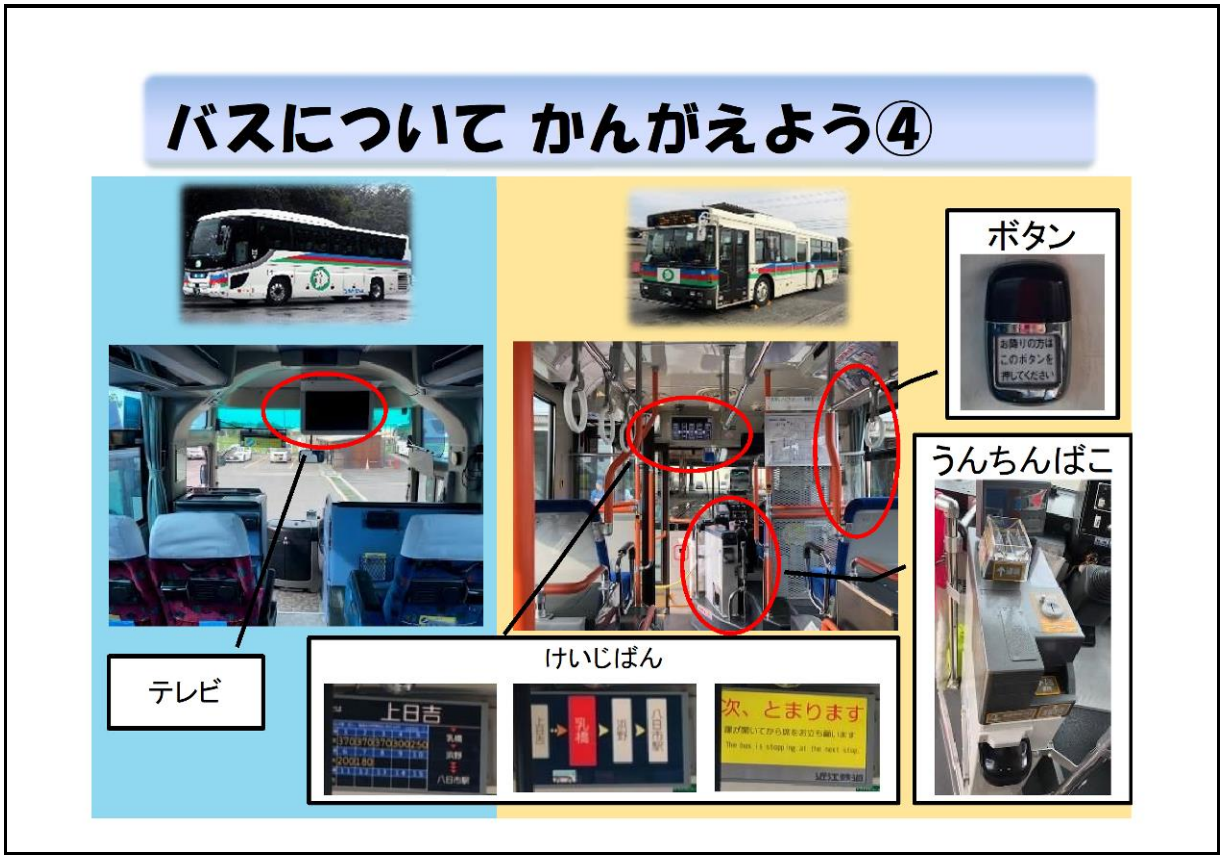


図　2-74　土山小学校２年生の授業資料（14/23）

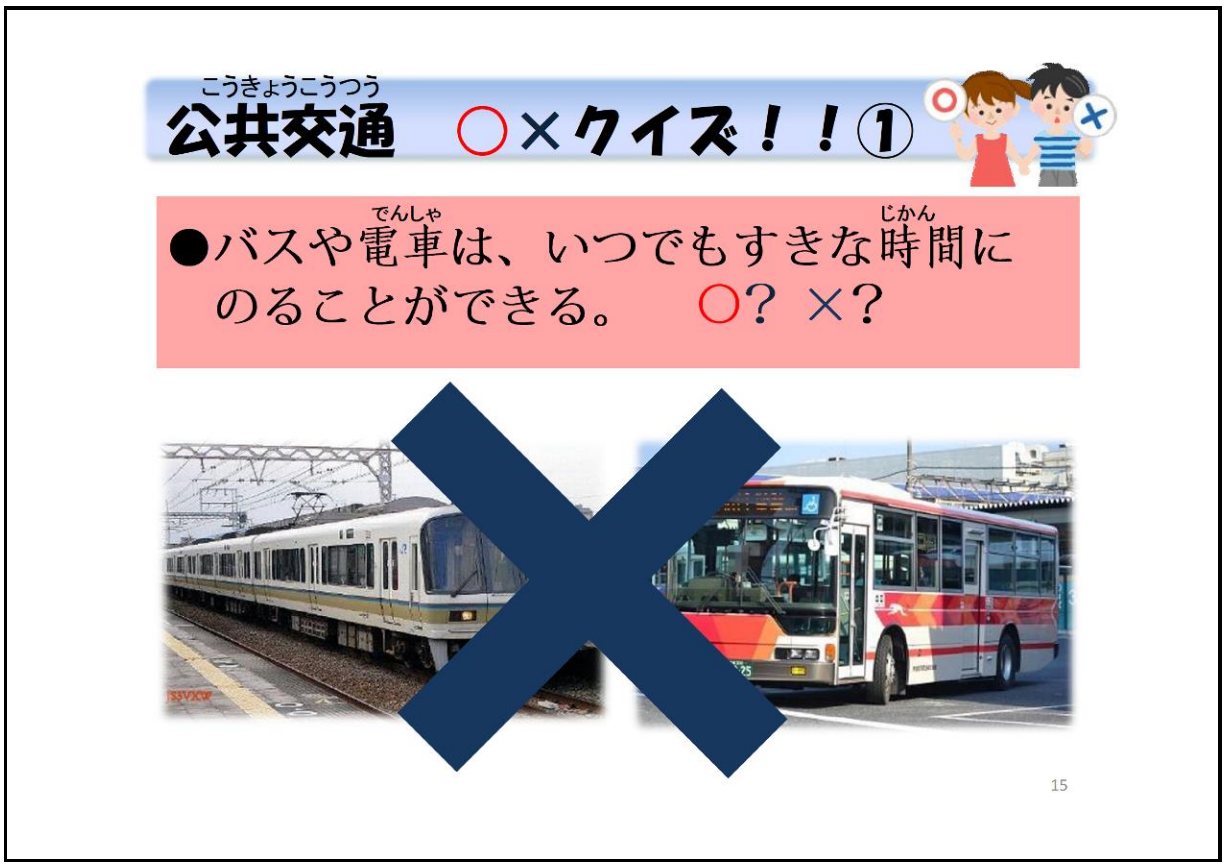


図　2-75　土山小学校２年生の授業資料（15/23）

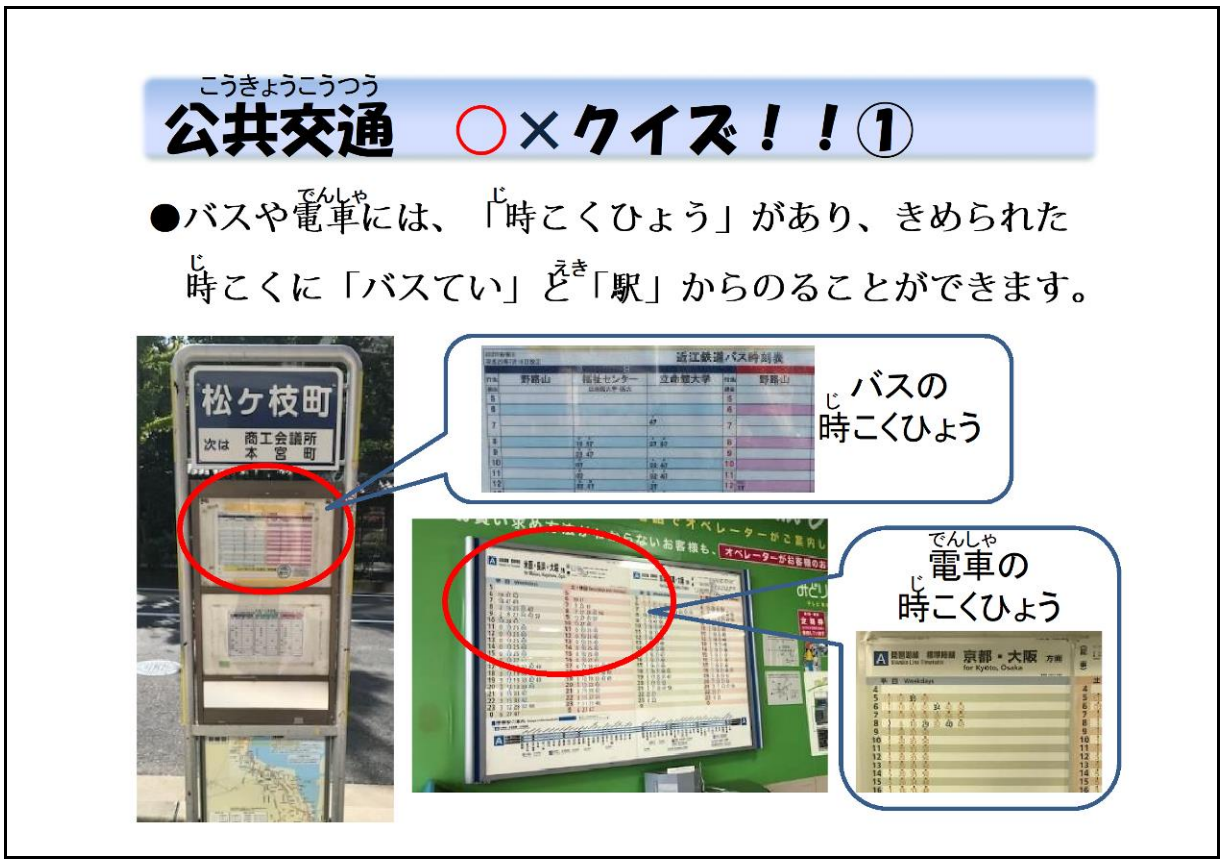


図　2-76　土山小学校２年生の授業資料（16/23）



図　2-77　土山小学校２年生の授業資料（17/23）



図　2-78　土山小学校２年生の授業資料（18/23）



図　2-79　土山小学校２年生の授業資料（19/23）



図　2-80　土山小学校２年生の授業資料（20/23）



図　2-81　土山小学校２年生の授業資料（21/23）



図　2-82　土山小学校２年生の授業資料（22/23）

おわりに・・・

●車だけでなく、バスや電車(でんしゃ)も なかよくしよう！

バスや電車(でんしゃ)は、みんなにとって、
とてもたいせつな　のりものです。



バスや電車(でんしゃ)で行(い)けるところには、
バスや電車(でんしゃ)で、お出かけしてみましょう。



おうちの人に、
「バスや電車(でんしゃ)で、おでかけ してみよう！」
と、いってみてくださいね。



図　2-83　土山小学校２年生の授業資料（23/23）

（b）拡大（交通から深める素材の整理）

a）土山小学校３年生・総合的な学習の時間　障がい者体験

①今年度の位置付け

昨年度までに実施してきた、バス車両を活用して福祉学習の理解を深める学習プログラムを繰り返し実施し、取組の定着化を図るとともに、課題として挙げられた体験の待ち時間の有効活用等について再検討することとした。

②交通プログラムの検討

②－１　交通素材を活用した学習の流れ

障がい者が日頃どのようにして生活しているのかを身近な交通のひとつであるバス車両での体験を通じて実感し、理解を深めてもらうことを交通環境学習のねらいとして位置づけ、学習の流れについて再検討・調整した。

昨年度と同様に、障がい者キットの使用方法及び介助方法の学習にあわせ、バス車両の福祉面の工夫を予測してもらう導入、障がい者体験と予想を確認するための観察を行う車両観察体験、バスにどんな工夫があったか、自分に何ができるかを考えるまとめまでを一連の学習として実施することとした。

また、バスの工夫点への気づきや理解をより深めるために、ノンステップバスとステップバスを順番に体験してもらい、ノンステップバスが利用者の乗り降りのしやすさ等に配慮された構造になっていることを実感・理解してもらうこととした。さらに、より実生活に近い体験とするため、障がい者キットを装着したままバス停まで移動する体験や、実際の硬貨を用いて支払いを行う体験を追加し、待ち時間を少なくする工夫・改善を行った。

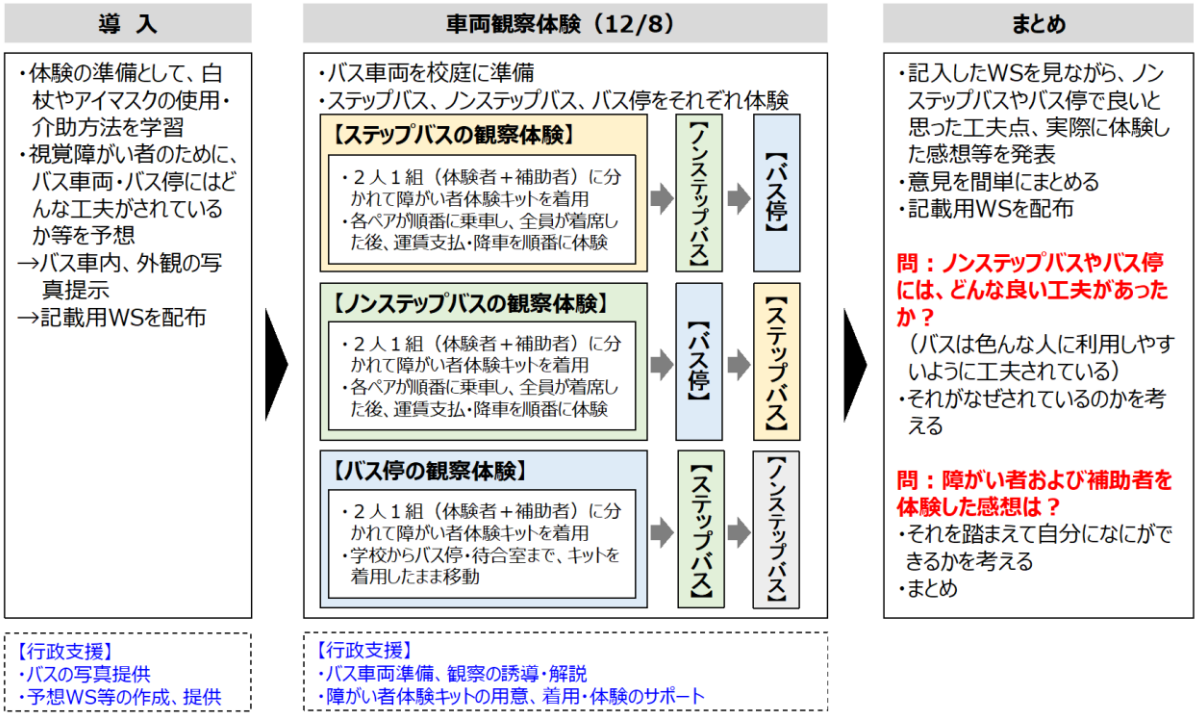


図　2-84　土山小学校３年生の授業の流れ

②－２　学習の準備

■体験の準備

昨年度と同様に、障がい者体験の準備として、シガ・エージェントシステムにバス車両の提供と福祉面での工夫点の説明について依頼し、当日の流れの検討・調整を行った。

障がい者体験の当日の流れを以下に示す。

時間		13:15	13:20	13:25	13:30	13:35	13:40	13:45	13:50	13:55	14:00	14:05	14:10	14:15	14:20	14:25	14:30	14:35	14:40	14:45
		約１０分		約２０分				約２０分				約２０分				約１０分		約５分	―	
1班（約10名）		・主旨、流れの説明		【ステップバス】（体験7分×２＋記入3分×２、合計20分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスクをつけ、もう一人がサポート） ⇒各ペアが順番に乗車し、全員が着席した後、順番に運賃支払い・降車を体験（実際の硬貨を用いて体験） ⇒終わったらWSに感想・気付いたことを記入 ⇒入れ替わっても一周 ⇒時間に余裕があれば、車両の工夫を観察（バー・座席の色、音声案内等）を観察 ＜必要グッズ数＞ アイマスク5個				【ノンステップバス】（体験7分×２＋記入3分×２、合計20分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスクをつけ、もう一人がサポート） ⇒各ペアが順番に乗車し、全員が着席した後、順番に運賃支払い・降車を体験（実際の硬貨を用いて体験） ⇒終わったらWSに感想・気付いたことを記入 ⇒入れ替わっても一周 ⇒時間に余裕があれば、車両の工夫を観察（バー・座席の色、音声案内等）を観察 ＜必要グッズ数＞ アイマスク5個				【バス停留所】（体験7分×２＋記入3分×２、合計20分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスクをつけ、もう一人がサポート） ⇒学校から近江土山停留所までアイマスクを装着したままペアで移動 ⇒バス停に到着したらWSに気付いたことを書く ⇒入れ替わって学校まで移動 ⇒学校に到着したらWSに気付いたことを書く ＜必要グッズ数＞ アイマスク5個				・バス車両の工夫を説明 ・バス事業者への質問		・あいさつ	―	
	場 所	校 庭		校 庭				校 庭				近江土山バス停				校 庭		校 庭	―	
2班（約10名）		・主旨、流れの説明		【ノンステップバス】（体験7分×２＋記入3分×２、合計20分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスクをつけ、もう一人がサポート） ⇒各ペアが順番に乗車し、全員が着席した後、順番に運賃支払い・降車を体験（実際の硬貨を用いて体験） ⇒終わったらWSに感想・気付いたことを記入 ⇒入れ替わっても一周 ⇒時間に余裕があれば、車両の工夫を観察（バー・座席の色、音声案内等）を観察 ＜必要グッズ数＞ アイマスク5個				【バス停留所】（体験7分×２＋記入3分×２、合計20分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスクをつけ、もう一人がサポート） ⇒学校から近江土山停留所までアイマスクを装着したままペアで移動 ⇒バス停に到着したらWSに気付いたことを書く ⇒入れ替わって学校まで移動 ⇒学校に到着したらWSに気付いたことを書く ＜必要グッズ数＞ アイマスク5個				【ステップバス】（体験7分×２＋記入3分×２、合計20分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスクをつけ、もう一人がサポート） ⇒各ペアが順番に乗車し、全員が着席した後、順番に運賃支払い・降車を体験（実際の硬貨を用いて体験） ⇒終わったらWSに感想・気付いたことを記入 ⇒入れ替わっても一周 ⇒時間に余裕があれば、車両の工夫を観察（バー・座席の色、音声案内等）を観察 ＜必要グッズ数＞ アイマスク5個				・バス車両の工夫を説明 ・バス事業者への質問		・あいさつ	―	
	場 所	校 庭		校 庭				近江土山バス停				校 庭				校 庭		校 庭	―	
2班（約10名）		・主旨、流れの説明		【バス停留所】（体験7分×２＋記入3分×２、合計20分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスクをつけ、もう一人がサポート） ⇒学校から近江土山停留所までアイマスクを装着したままペアで移動 ⇒バス停に到着したらWSに気付いたことを書く ⇒入れ替わって学校まで移動 ⇒学校に到着したらWSに気付いたことを書く ＜必要グッズ数＞ アイマスク5個				【ステップバス】（体験7分×２＋記入3分×２、合計20分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスクをつけ、もう一人がサポート） ⇒各ペアが順番に乗車し、全員が着席した後、順番に運賃支払い・降車を体験（実際の硬貨を用いて体験） ⇒終わったらWSに感想・気付いたことを記入 ⇒入れ替わっても一周 ⇒時間に余裕があれば、車両の工夫を観察（バー・座席の色、音声案内等）を観察 ＜必要グッズ数＞ アイマスク5個				【ノンステップバス】（体験7分×２＋記入3分×２、合計20分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスクをつけ、もう一人がサポート） ⇒各ペアが順番に乗車し、全員が着席した後、順番に運賃支払い・降車を体験（実際の硬貨を用いて体験） ⇒終わったらWSに感想・気付いたことを記入 ⇒入れ替わっても一周 ⇒時間に余裕があれば、車両の工夫を観察（バー・座席の色、音声案内等）を観察 ＜必要グッズ数＞ アイマスク5個				・バス車両の工夫を説明 ・バス事業者への質問		・あいさつ	―	
	場 所	校 庭		近江土山バス停				校 庭				校 庭				校 庭		校 庭	―	
学校	A	・はじめに		・バス車両の体験サポート（全体）				・バス車両の体験サポート（全体）				・バス車両の体験サポート（全体）				・進行		―	―	
	B	―		・バス停の体験サポート（全体）				・バス停の体験サポート（全体）				・バス停の体験サポート（全体）				―		―	―	
シガ・エージェント	A	―		・バス車両の体験サポート ・車両観察の対応				・バス車両の体験サポート ・車両観察の対応				・バス車両の体験サポート ・車両観察の対応				・質問対応		―	―	
	B	―		・バス車両の体験サポート ・車両観察の対応				・バス車両の体験サポート ・車両観察の対応				・バス車両の体験サポート ・車両観察の対応				・質問対応		―	―	
	C	―		・バス車両の体験サポート ・車両観察の対応				・バス車両の体験サポート ・車両観察の対応				・バス車両の体験サポート ・車両観察の対応				・質問対応		―	―	
	D	―		・バス停の体験のサポート ・バス停・待合室の観察対応				・バス停体験のサポート ・バス停・待合室の観察対応				・バス停体験のサポート ・バス停・待合室の観察対応				・質問対応		―	―	
甲賀市	A（進行）	・主旨説明		・ペア分け、説明 ・バス車両の体験サポート				・ペア分け、説明 ・バス車両の体験サポート				・ペア分け、説明 ・バス車両の体験サポート				―		・あいさつ	―	
	B	―		・バス停の体験サポート				・バス停の体験サポート				・バス停の体験サポート				―		―	―	
滋賀県	A（進行）	・主旨、白杖使い方説明		・ペア分け、説明 ・バス停の体験サポート				・ペア分け、説明 ・バス停の体験サポート				・ペア分け、説明 ・バス停の体験サポート				―		・あいさつ	―	
OC	A	―		・バス停の体験サポート				・バス停の体験サポート				・バス停の体験サポート				―		―	―	
	B	―		・バス停の体験サポート ・記録				・バス停の体験サポート ・記録				・バス停の体験サポート ・記録				―		―	―	

図　2-85　土山小学校３年生の当日の授業の流れ

■学習ツールの作成

昨年度と同様に、バス車両・バス停における福祉面での工夫点について、導入授業で予想したことや車両観察時に発見したことを記入するとともに、まとめ授業で「なぜ車両やバス停で福祉面での工夫がされているのか」や「障がい者の体験を行った感想」などの問いを通じ、自分たちは障がい者のために何ができるのかについて考えてもらうためのワークシートを作成した。また、バリアフリー対応の新型車両と旧型車両の比較がしやすいようにするとともに、障がい者だけでなく、補助者の体験についても感想が記入できるよう、ワークシートの工夫・調整を行った。

以降に作成した学習ツールを示す。



図　2-86　土山小学校３年生のワークシート（1/3）

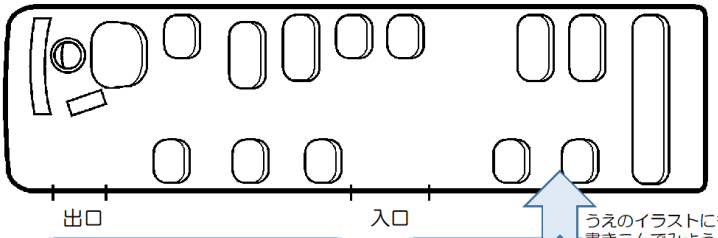
バス車両・バス停での視覚障がい者体験

当日シート①

名前：

■ステップバス（床が高いバス）





うえのイラストにも書きこんでみよう！

障がい者体験の感想

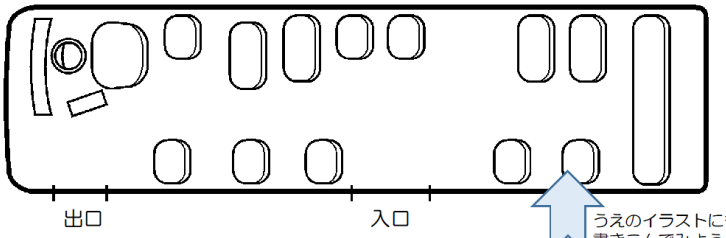
補助者体験の感想

その他に気づいたこと（車両にされている工夫など）

ステップバスとノンステップバスのちがいをくらべてみよう！！

■ノンステップバス（障がい者にやさしいバス）





うえのイラストにも書きこんでみよう！

障がい者体験の感想

補助者体験の感想

その他に気づいたこと（車両にされている工夫など）

図　2-87　土山小学校３年生のワークシート（2/3）

バス車両・バス停での視覚障がい者体験

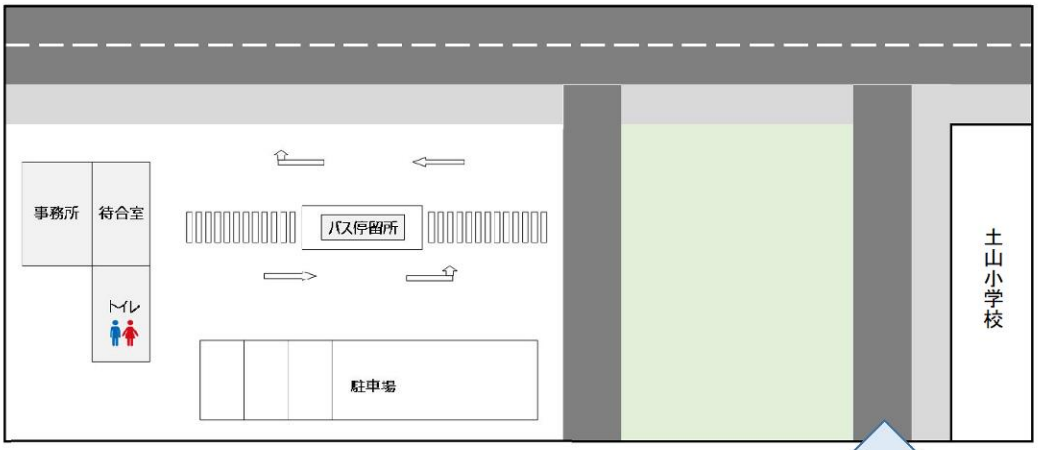
当日シート②

名前：

■近江土山バス停







うえのイラストにも
書きこんでみよう！

障がい者体験の感想

補助者体験の感想

その他に気づいたこと
（バス停にされている工夫など）

図　2-88　土山小学校３年生のワークシート（3/3）

b）土山小学校４年生・社会科　鉄道すごろく

①今年度の位置付け

社会科の単元の理解を深める学習ツールとして、昨年度までに検討してきた鉄道すごろくゲームを実施可能なツールとして調整・整理し、単元の理解を深める学習プログラムとして試行することとした。本学習プログラムは、鉄道の疑似体験を通じて、自分が住む滋賀県各地の特産品や伝統、文化、交通の広がり等について理解を深めてもらうことをねらいとして位置づけ、実施した。

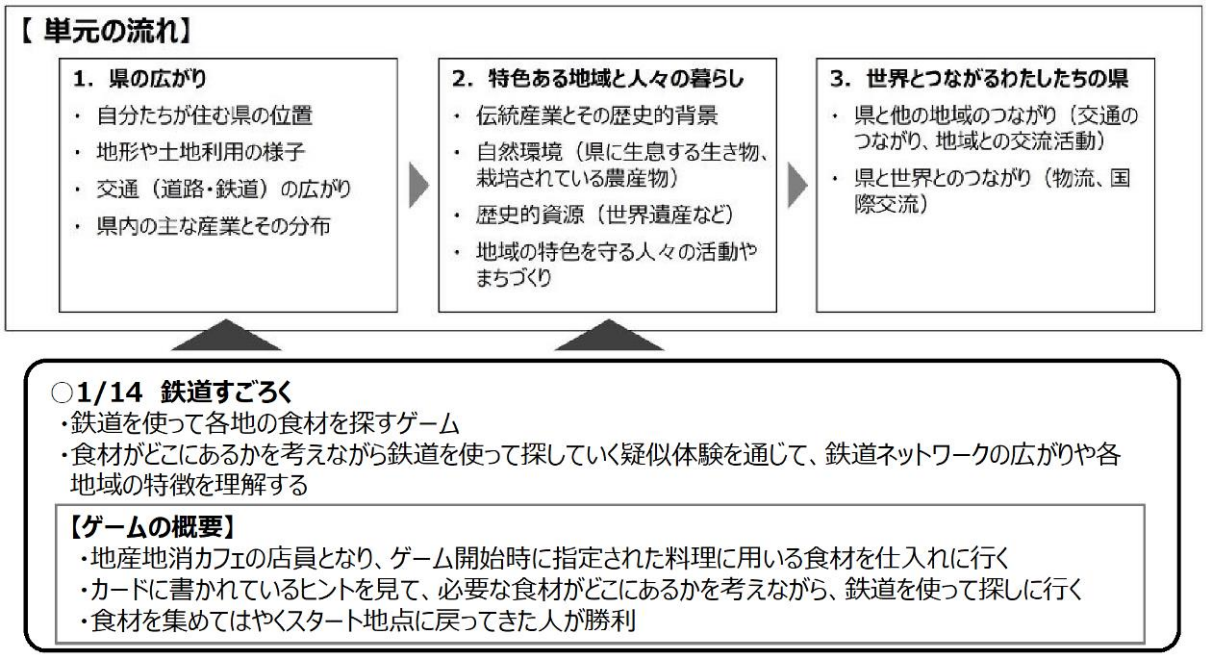


図　2-89　土山小学校４年生の授業の位置付け

②交通プログラムの検討

■ゲームの内容

昨年度は、必要な食材がどの市町にあるか、すごろくボード上の地形や地域の伝統工芸品・特産物に関するイラストから予測し、予測した市町の代表駅にコマを進めていく内容としていたが、学校との意見交換の中で挙げられた、知識に差がある子供たちでも楽しんで取り組んでもらえるように、ヒントをわかりやすくする方がよいという意見を踏まえ、食材を探すためのヒントの出し方について調整することとした。

調整・整理を行った鉄道すごろくのゲーム内容を以下に示す。

▼鉄道すごろくゲームの内容

■ゲームの概要

・地産地消カフェの店員となり、ゲーム開始時に指定された料理に用いる食材を仕入れに行く
・カードに書かれているヒントを見て、必要な食材がどこにあるかを考えながら、鉄道を使って探しに行く
・必要な食材を集めて早くスタート地点に戻ってきた人が勝利

■ゲームの流れ

１．初めにカフェレストランで提供する料理のメニューカードを引く
２．メニューカードに記載されている料理に必要な食材が手に入る駅を確認
３．必要な食材を手に入れるためにどの順番でまわっていくかボードを見ながら計画
４．順番にサイコロを振り、出た目の中で目的の駅までコマを移動
⇒目的の駅までぴったりの目もしくは、それより大きい目がでれば止まりたい駅に止まることが可能
⇒他の路線に乗り換えるときは、必ず乗換駅で停車
５．目的の駅に到着したら必要な食材カードを入手
６．４～５を繰り返し
７．メニューカードに記載されている料理に必要な食材がすべてそろったらスタート地点に戻る
８．はじめにスタート地点に戻ってきた人が勝ち

■使用ツール

・ボード
⇒周辺で地域の特産物の生産が行われている駅を食材入手可能駅として設定
⇒食材やメニューの数に応じて、使用する鉄道駅を絞って調整
⇒地域の特産物の他、滋賀県の特色について理解を深めれるよう、標高や河川等の地形情報を記載
・メニューカード
⇒メニューのイメージ図や写真等を掲載
⇒料理に必要な食材と、その食材が入手できる鉄道駅を記載
・食材カード
⇒鉄道駅で入手できるカード
⇒食材のイメージ図や写真等を掲載
⇒食材の由来や生産時期等の情報を掲載

表 2-3 ゲームで使用するメニュー・食材の一覧

NO	大分類	小分類	滋賀県の特産物	メニュー														
				鶏肉の南蛮そば	そばの実入りかぶら雑炊	マスのふわふわハンバーグ	湖魚と小エビのかき揚げ	しじみの炊き込みご飯	湖魚の南蛮漬け	焼きなすとかんぴょうの炊き合わせ	根菜と人参のサラダ	かぼちゃとかぶらのそぼろ煮	菜の花と枝豆のペペロンチーノ	豚肉と食用菊の和え物	はさみ揚げレンコンのまくわうりあんかけ	茶葉入りつくね	豚肉とナスのみぞれ煮	牛肉とみょうがのさっぱり炒め
1	そば	そば	多賀そば															
2			伊吹そば	●														
3			箱館そば		●													
4	畜産物	牛	近江牛			●									●			●
5		鶏	近江しゃも	●								●				●		
6		豚	藏尾ポーク（バームクーヘン豚）							●				●			●	
7	湖魚	魚	ビワマス			●												
8			イサザ				●											
9			ホンモロコ						●									
10		甲殻類・貝	スジエビ				●											
11			セタシジミ					●										
12	伝統野菜	大根	山田ねずみ大根								●							
13			伊吹大根														●	
14		茄子	下田なす							●								
15			杉谷なす														●	
16		唐辛子	弥平とうがらし										●					
17			杉谷とうがらし						●									
18		干瓢	水口かんぴょう							●								
19		菜花	鮎河菜										●					
20		山芋	秦荘のやまいも			●												
21		かぶら	北之庄菜		●													
22			日野菜															
23			赤丸かぶ								●							
24			万木かぶ									●						
25	その他の野菜	南瓜	とよ坊かぼちゃん									●						
26		春菊	しゅんぎく娘											●				
27		枝豆	能登川黒ダイヤ										●					
28		生姜	笠原しょうが					●										●
29		茗荷	甲津原みょうが															●
30		葱	豊浦ねぎ	●												●		
31		人参	八日市おとめにんじん		●				●									
32			多賀にんじん					●			●							
33		蓮根	琵琶湖からすま蓮根				●								●			
34		まくわうり	金太郎まくわ												●			
35		ごぼう	栗原ごぼう															
36		菊	坂本菊											●				
37	お茶	お茶	土山茶													●		
38			朝宮茶															
39			政所茶															

■ツールの作成

滋賀県の特産物が生産されている地域の位置を考慮した上で、食材カードを入手できる駅を調整し、すごろくボードを作成した。あわせて、メニューごとに必要な食材がどの駅の近くでつくられているかを掲載したメニューカードと、駅で手に入れられる食材カードを作成した。また、どの順番で駅をまわるのかを計画するとともに、入手した食材の旬の時期や主な産地等をまとめるためのワークシートと、授業当日に遊び方やルールについて説明するための資料を作成した。



図　2-90　すごろくボードのイメージ案



※写真・情報は滋賀の食材手、滋賀のおいしいコレクション HP を使用

図 2-91 メニューカード・辱材カード



図　2-92　遊び方の説明資料（1/11）

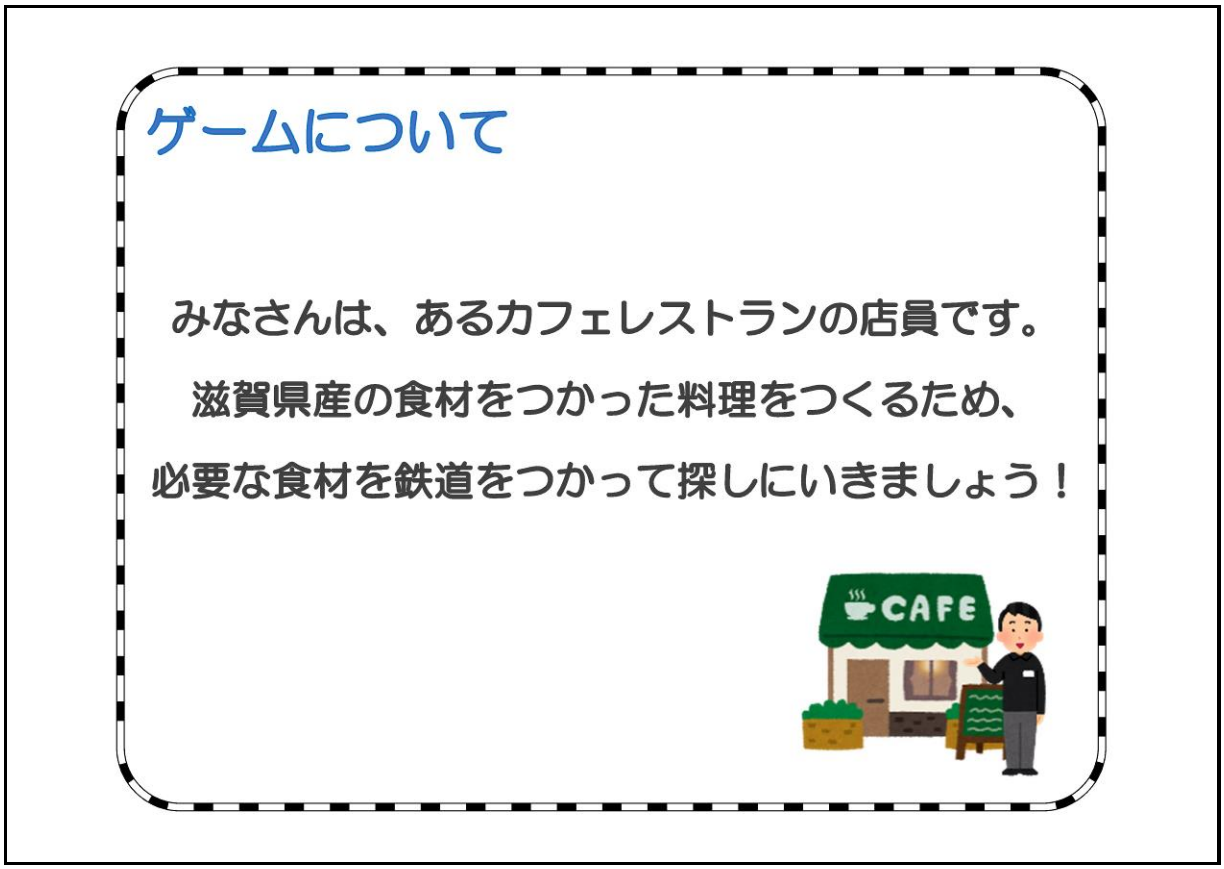


図　2-93　遊び方の説明資料（2/11）

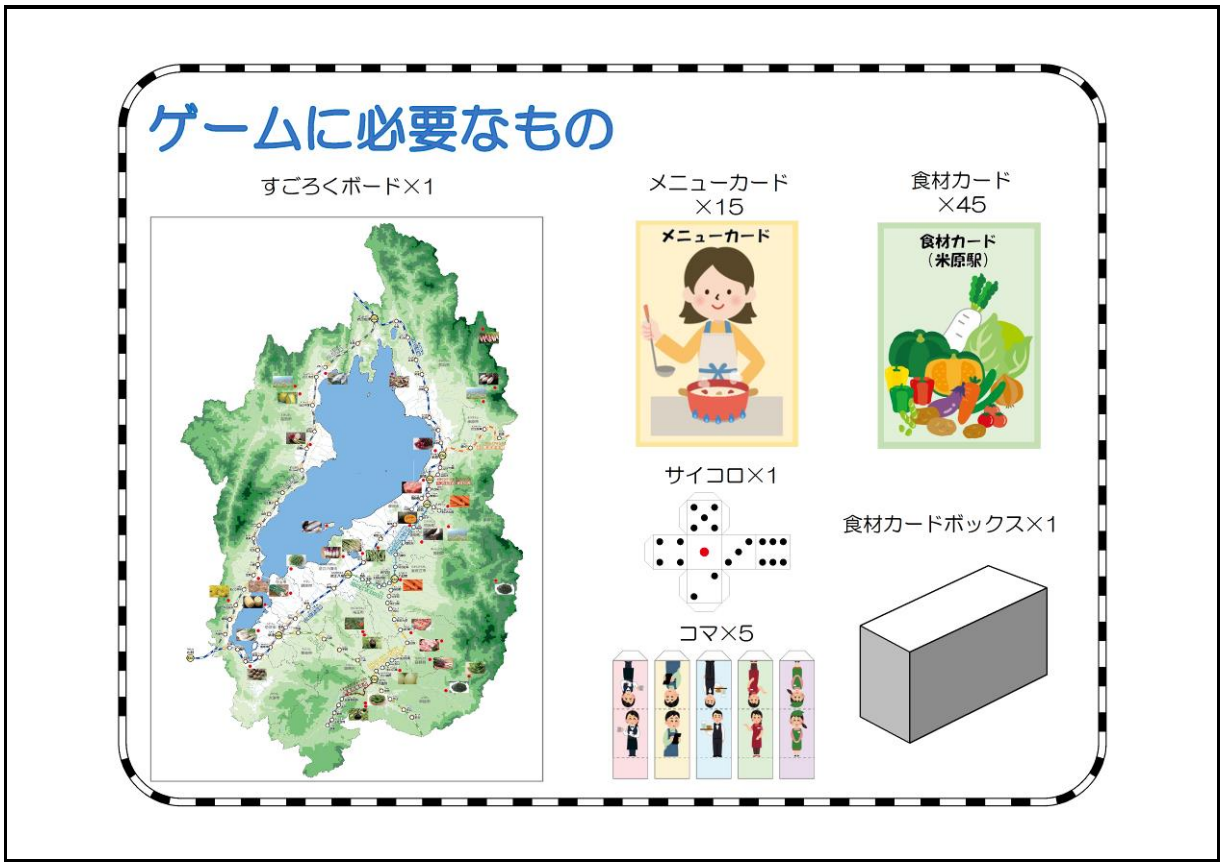


図　2-94　遊び方の説明資料（3/11）

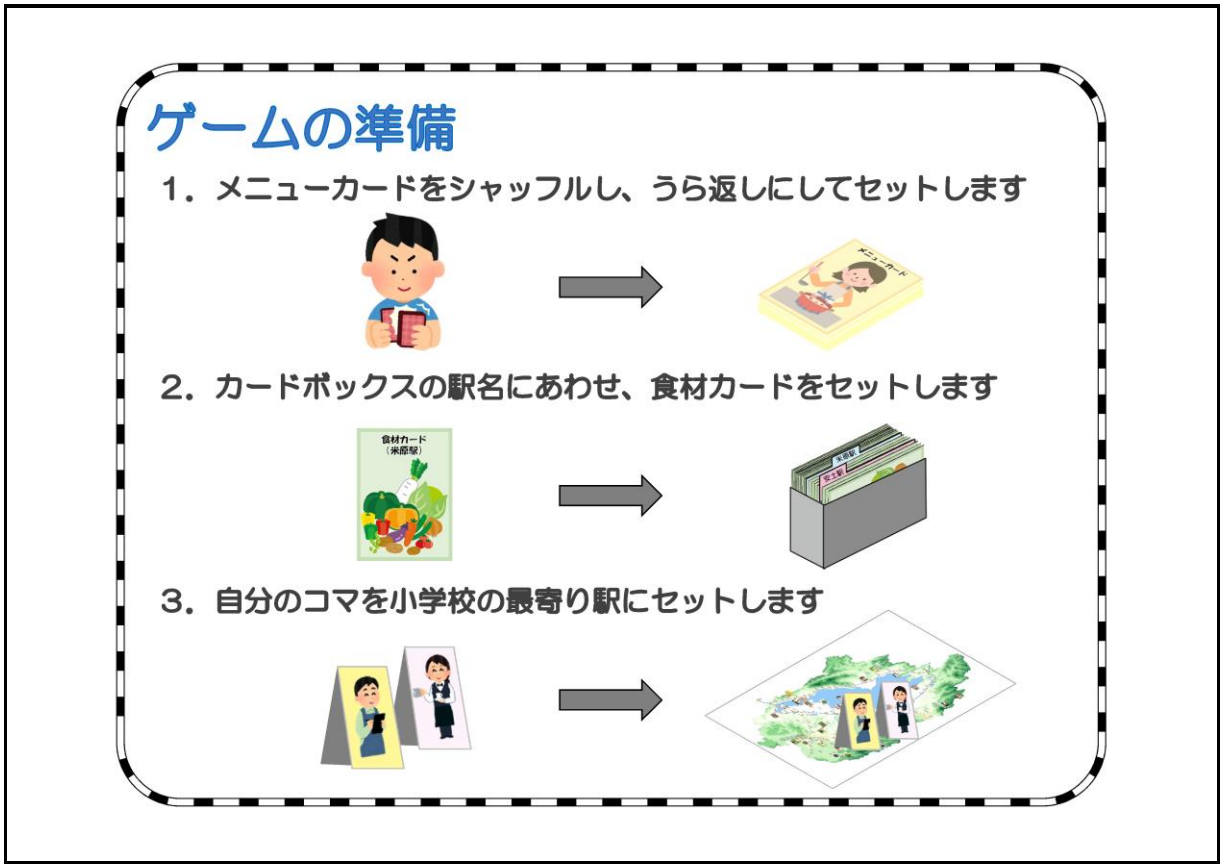


図　2-95　遊び方の説明資料（4/11）



図　2-96　遊び方の説明資料（5/11）

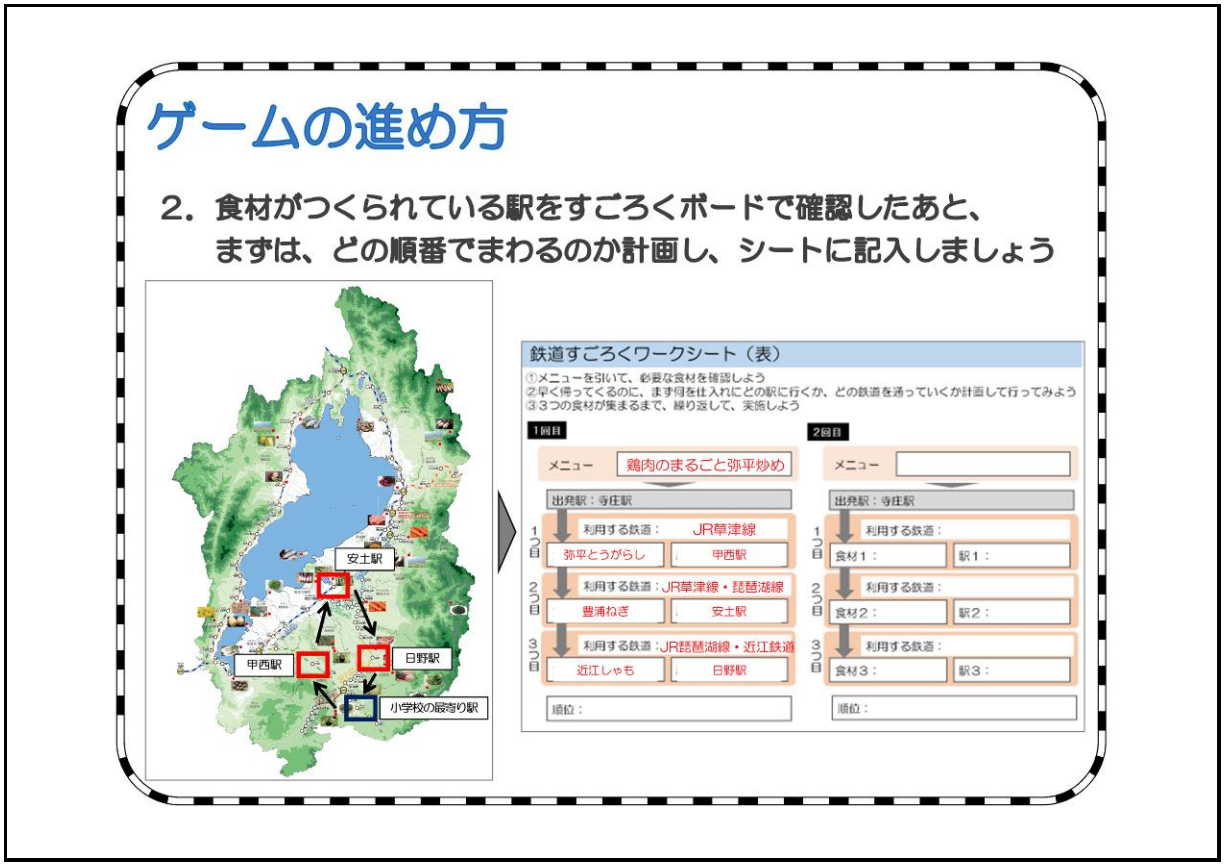


図　2-97　遊び方の説明資料（6/11）



図　2-98　遊び方の説明資料（7/11）



図　2-99　遊び方の説明資料（8/11）

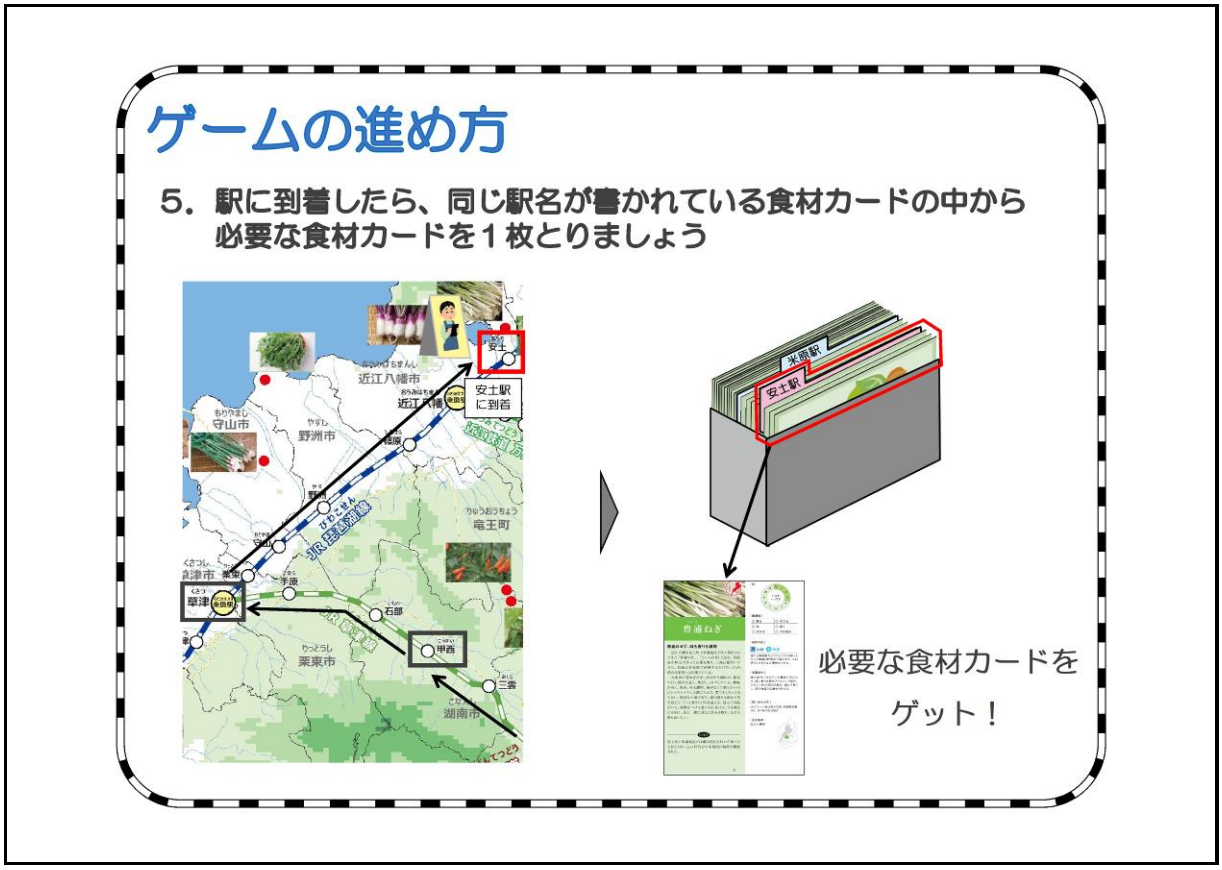


図　2-100　遊び方の説明資料（9/11）



図　2-101　遊び方の説明資料（10/11）

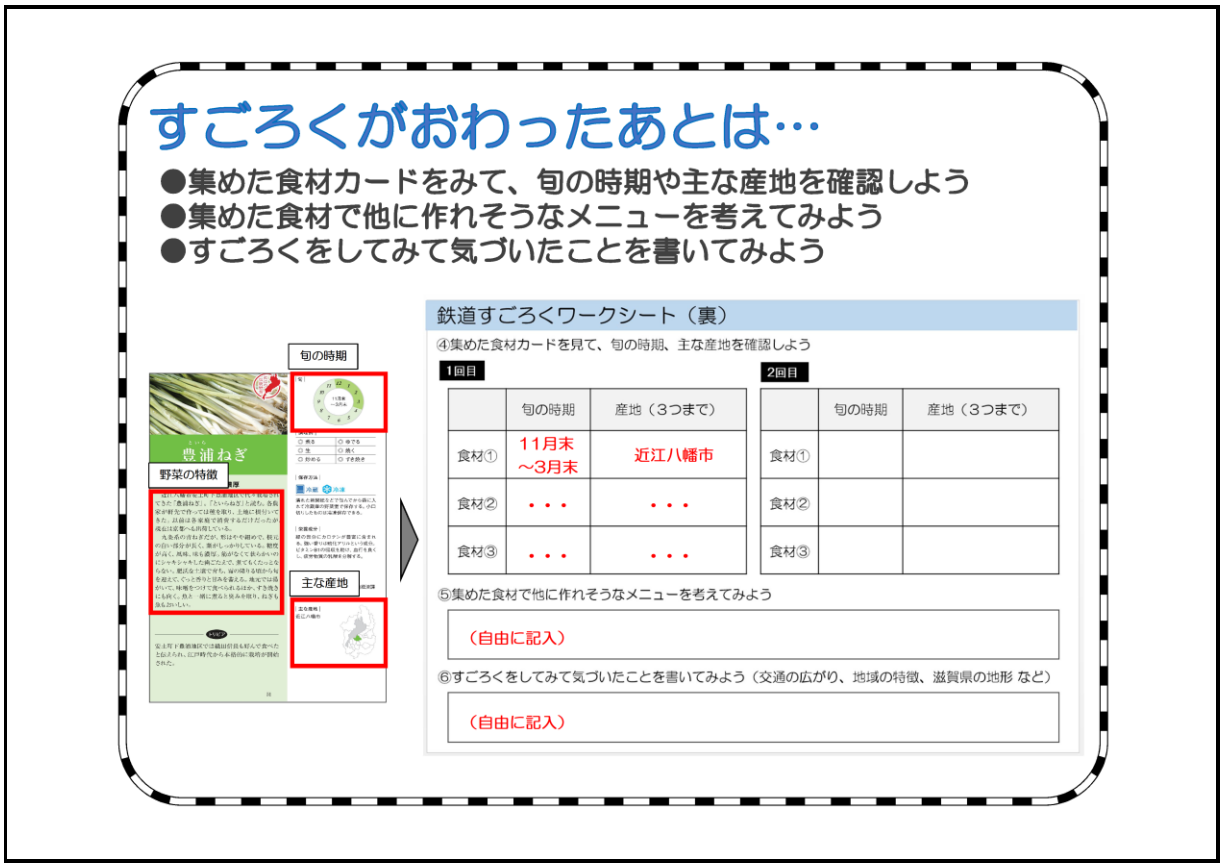


図 2-102 遊び方の説明資料（11/11）

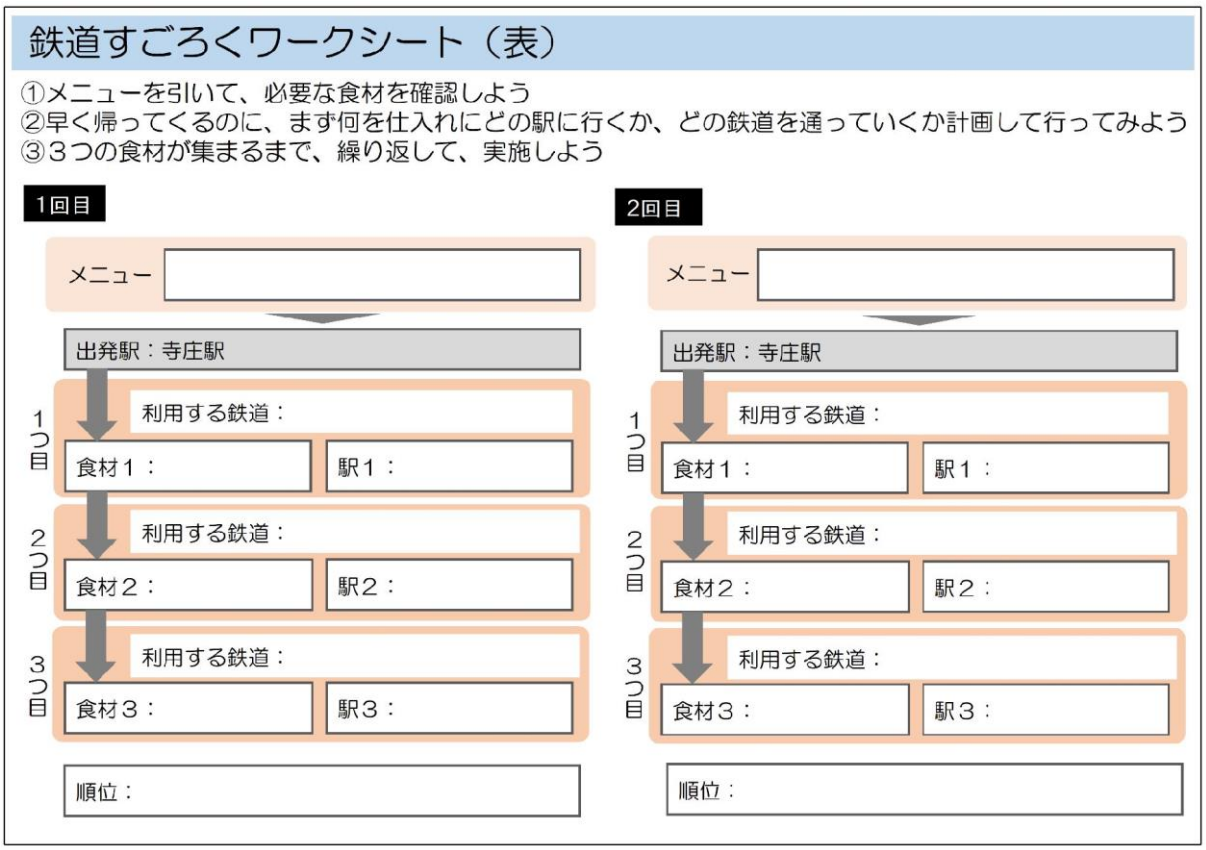


図　2-103　土山小学校４年生のワークシート（1/2）

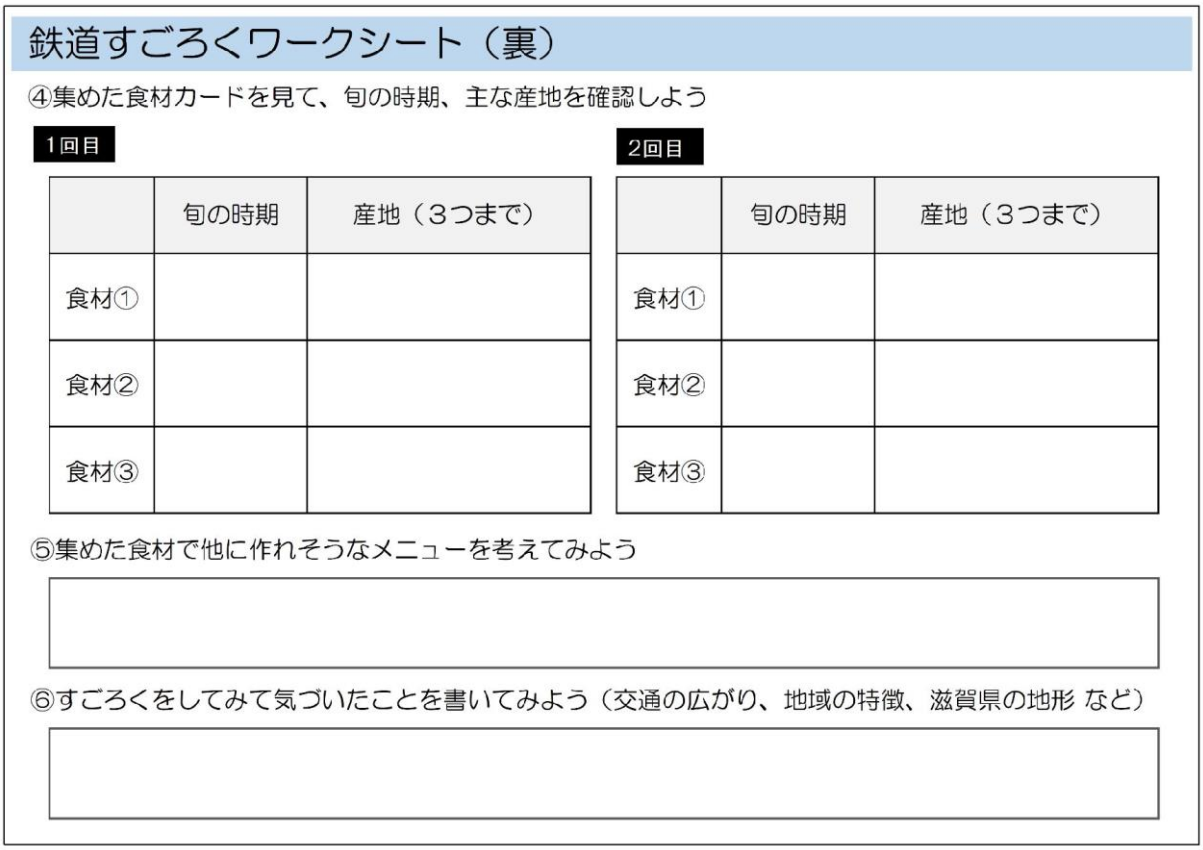


図　2-104　土山小学校４年生のワークシート（2/2）

c）土山小学校５年生・総合的な学習の時間　琵琶湖と交通

①今年度の位置付け

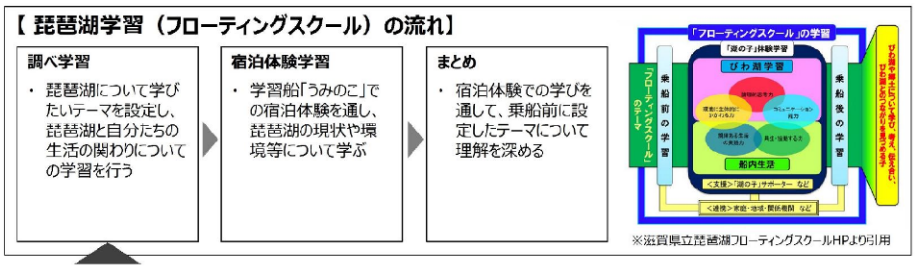
H30 年度に実施した琵琶湖と交通の学習が、琵琶湖沿岸以外の地域に位置する学校でも、学習の理解を深める素材として活用することができるかを確認するため、山間部に位置する土山小学校で学習プログラムを実施し、素材の適用可能性について検証することとした。

②交通プログラムの検討

②－１　交通素材を活用した学習の流れ

かつて琵琶湖で運航していた湖上交通の名残りから、現在も交通が生活・移動を支えていることを理解してもらうことを交通環境学習のねらいとして位置づけ、学習の流れについて再検討・調整した。

本学習プログラムは H30 年度と同様に、体験学習の事前学習として位置づけ、事前学習・体験学習・まとめ学習の一連の学習として実施することとした。また、土山小学校の子供たちは、琵琶湖沿岸に位置している学校と比べ、琵琶湖にふれあう機会が少ないと考えられることから、琵琶湖の様子等についてイメージしやすいよう内容の調整・工夫を行うこととした。



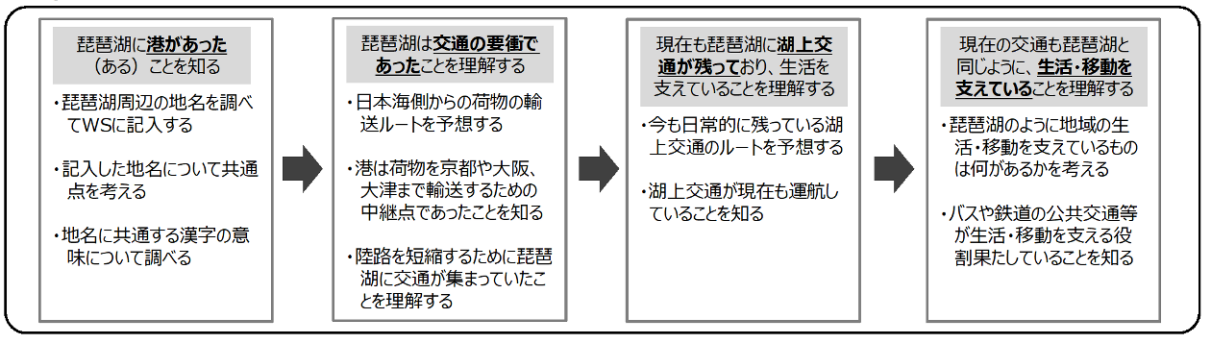


図　2-105　土山小学校５年生の授業の流れ

②－２　学習の準備

H30 年度と同様に、琵琶湖周辺の地名に共通する「津」という漢字の意味から、琵琶湖周辺に港がある、もしくはあったことを知ってもらうとともに、昔の物資輸送ルートや現在日常的に利用されているルートの予想を通じて、「京都や大阪、大津まで物資を輸送するために交通が集まっていたこと」や「現在も日常生活に使われる交通が存在していること」を理解してもらい、そこから琵琶湖における湖上交通の役割について考えてもらうワークシートを作成した。

授業資料では、琵琶湖とふれあう機会が少ない子供でも、琵琶湖についてイメージがしやすいよう、琵琶湖がことわざの由来になっていることや、琵琶湖の様子がわかる写真を資料に用いることとした。また、土山小学校周辺に位置する東海道の役割を考えてもらうことを通じて、琵琶湖も同じように生活・移動を支える役割があったことを理解してもらう内容とした。

以降に作成した学習ツールを示す。



図　2-106　土山小学校５年生の授業資料（1/11）

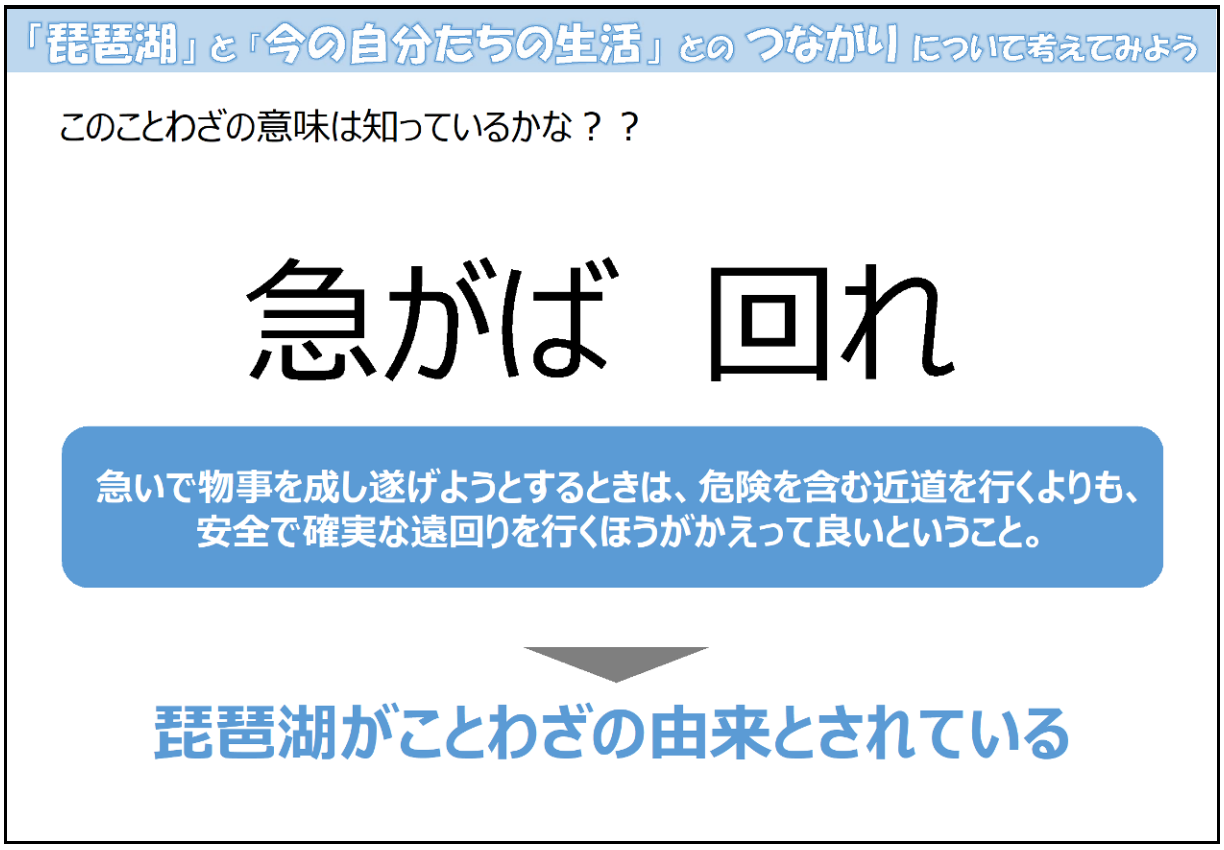


図　2-107　土山小学校５年生の授業資料（2/11）



図 2-108 土山小学校５年生の授業資料（3/11）



図 2-109 土山小学校５年生の授業資料（4/11）

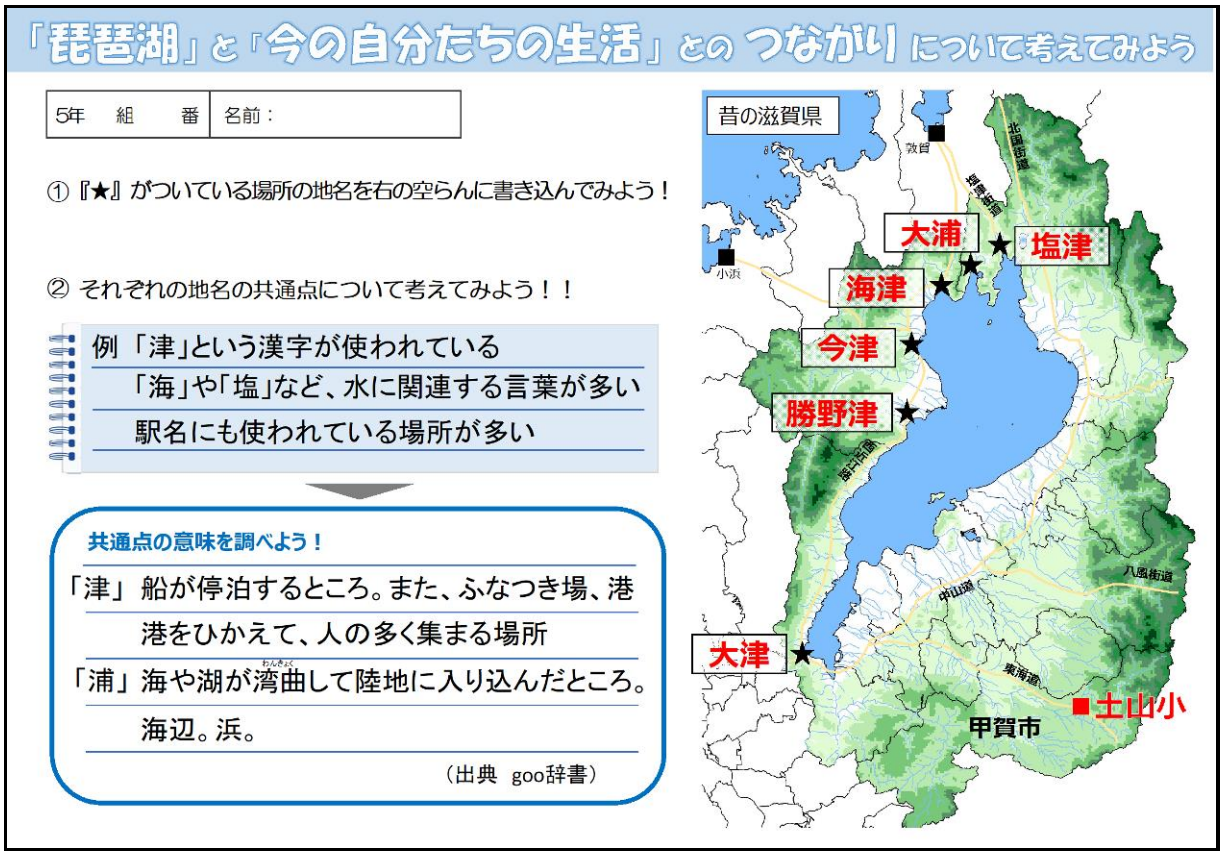


図　2-110　土山小学校５年生の授業資料（5/11）



図　2-111　土山小学校５年生の授業資料（6/11）

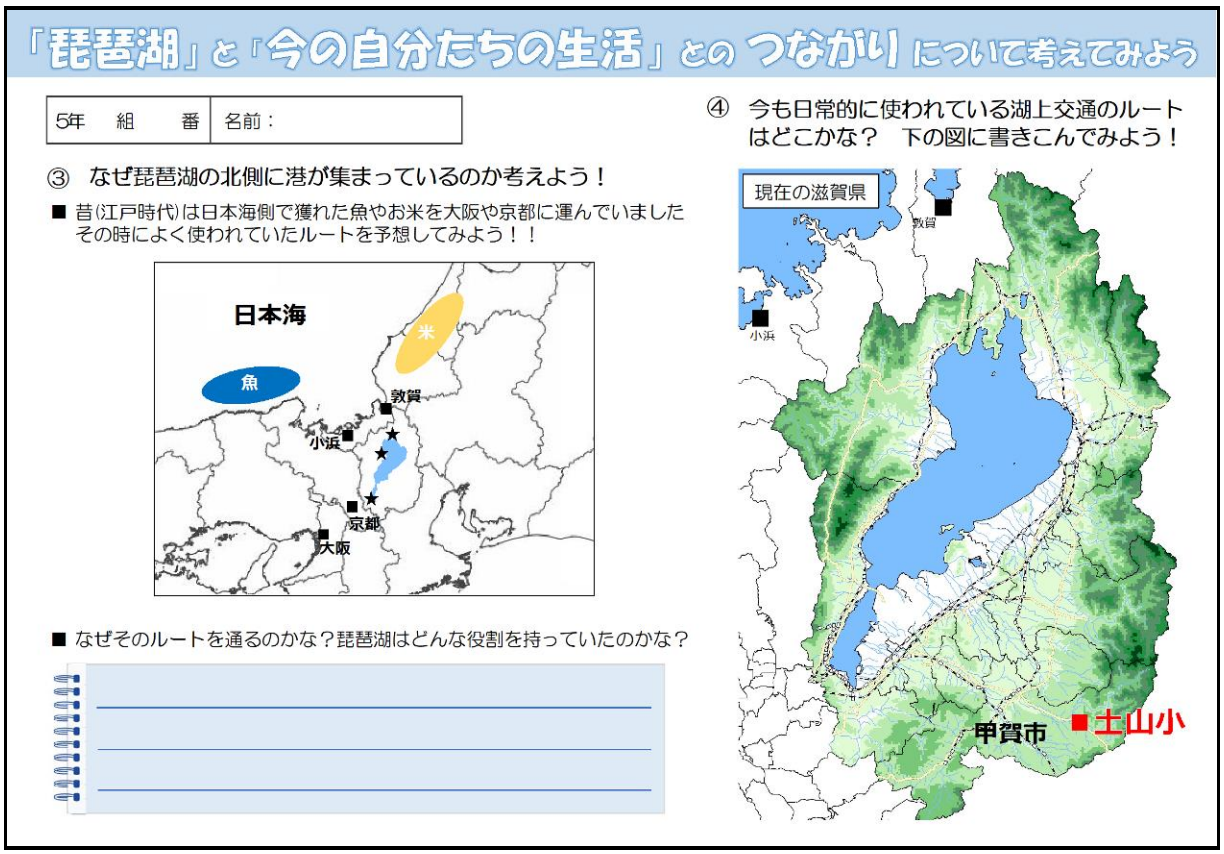


図 2-112 土山小学校５年生の授業資料（7/11）

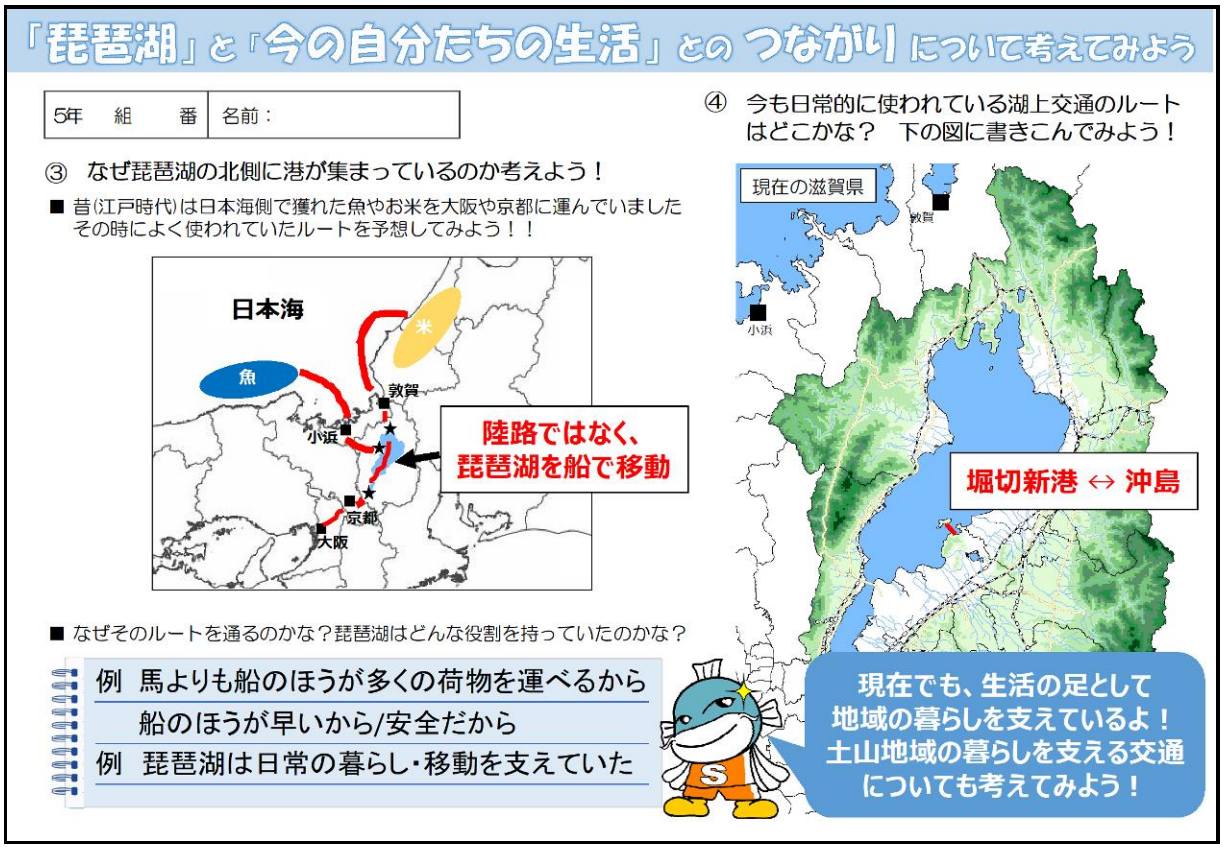


図 2-113 土山小学校５年生の授業資料（8/11）



図　2-114　土山小学校５年生の授業資料（9/11）



図　2-115　土山小学校５年生の授業資料（10/11）



図　2-116　土山小学校５年生の授業資料（11/11）

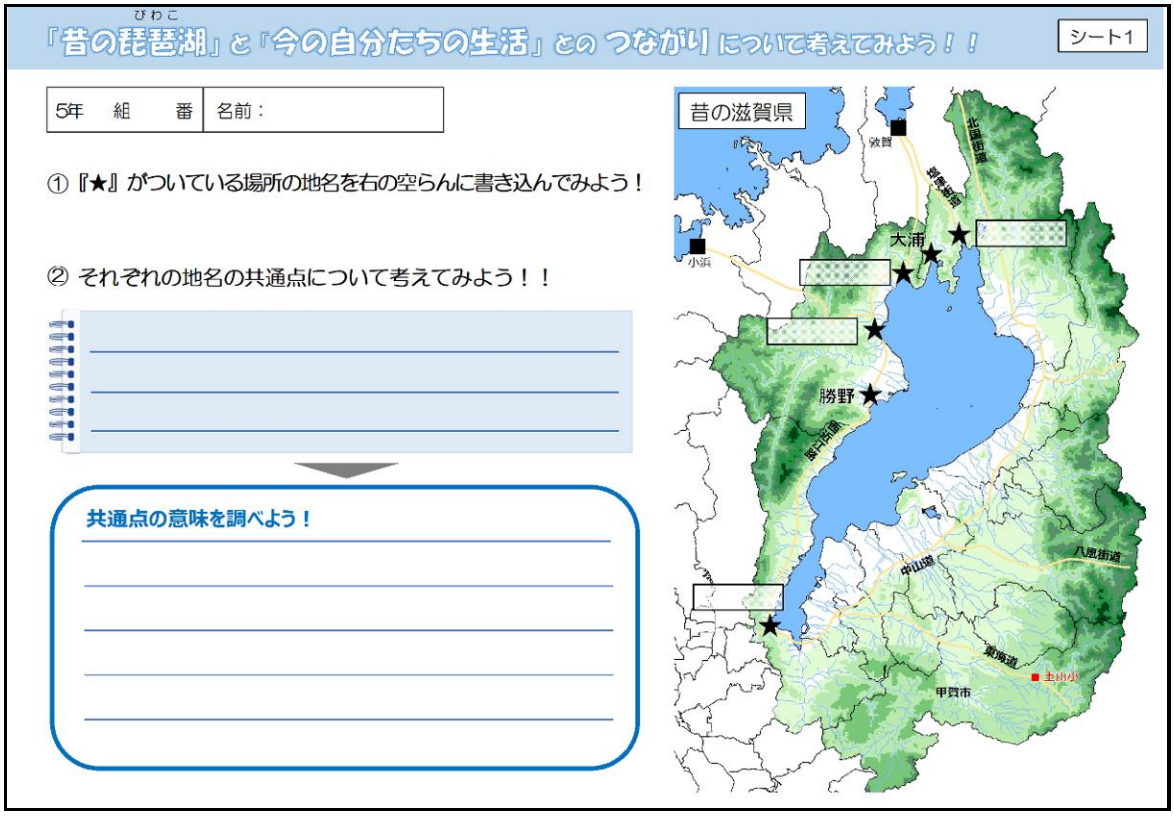


図　2-117　土山小学校５年生のワークシート（1/2）

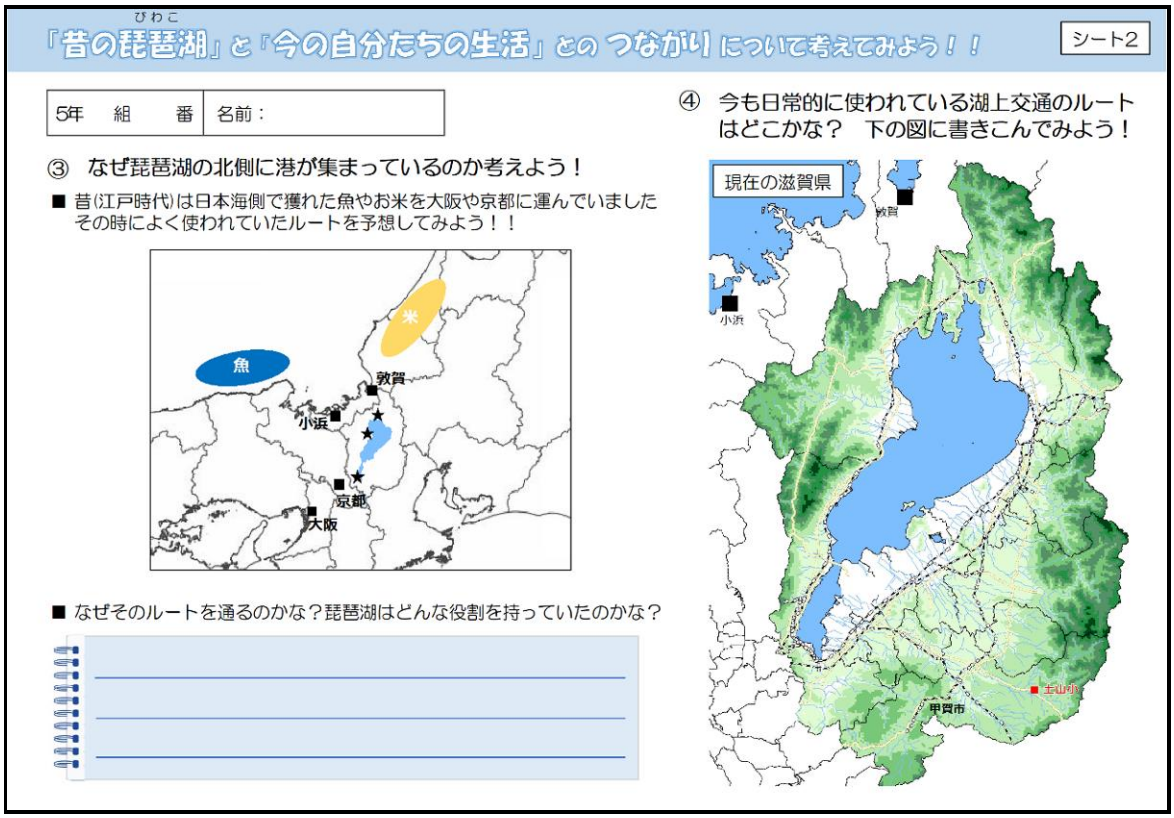


図　2-118　土山小学校５年生のワークシート（2/2）

d）亀山小学校６年生・総合的な学習の時間　地域の公共交通

①今年度の位置付け

従来の交通環境学習では、バス車両を用いた乗り方教室の実施が多く占めており、継続的に学習を実施してもらうためには、乗り方教室以外で交通素材の活用方法について検討を行う必要がある。これまで、学習の理解を深める「拡大」の観点での交通学習プログラムは、３年～５年である程度構築できたが、昨年度実施した６年生の空き家と地域交通に関する学習は、地域の状況に依存する内容となっており、県内の他の小学校へは展開しにくい内容となっていた。そこで、今年度は広く行われている単元を題材とした学習プログラムについて検討することとした。

現在、６年生の社会科では、政治の仕組みと役割について考える学習が行われており、検討対象モデル校からの活用ニーズもみられた。これらのニーズに対応するため、データや人の素材の活用により学習の理解を深めることを目的とし、素材の提供方法を検討、試行することとした。

②交通プログラムの検討

②－１　交通素材を活用した学習の流れ

公共交通の学習を通して、市民の生活を支える行政の役割・地域のあり方等を考えることを交通環境学習のねらいとして位置づけ、学習の流れについて検討することとした。

本学習プログラムは、地域の公共交通の現状・問題点を知ることを通じて、公共交通がなくなると地域の暮らしがどうなってしまうのかを考えてもらうと同時に、行政が公共交通を維持するために行っている取組・支援から、政治の仕組みや役割を理解してもらう内容とした。また、公共交通について実感をもって理解してもらうため、地域の交通に関わる人の考えや・想いを聞く、事業者へのインタビューを授業に組み込むこととした。

地域の公共交通の現状・対応	地域の交通に関わる人の考え・想い
○地域の公共交通の現状 問：彦根市の公共交通にはどんなものがあるのか、誰が運行しているのか？ →鉄道、路線バス、愛のりタクシー →JR・近江鉄道、湖国バス、彦根市 問：彦根市の公共交通の問題点は？ →多くが自家用車を利用、地域の人口が減少 →利用減少により、住民が少ない地域から撤退 →移動手段がなくなり日常生活に支障をきたす 問：彦根市の公共交通の役割は？ →高齢者の外出支援、渋滞解消、CO2削減等 ○行政が実施している利用促進 →小学校授業、チラシ作成、利用方法の説明会	問：どういう考え、想いで公共交通を運行しているのか？ →湖国バス、近江鉄道、近江タクシーから説明 →どのような人が利用しているか、公共交通がなくなるとどうなるか、利用促進の取組　等

図　2-119　亀山小学校６年生の授業の流れ

②－２　学習の準備

前項の学習の流れを踏まえ、地域の公共交通の現状・問題点から、何のために運行しているのか、公共交通がなくなるとどうなるかを考える資料を作成した。あわせて、地域の公共交通の現状・問題点の理解を深めるための素材として、交通に係る統計データの提供を行った。

また、湖国バス、近江鉄道、近江タクシーに対し事業者インタビューの対応について依頼した。

以降に作成した学習ツールを示す。

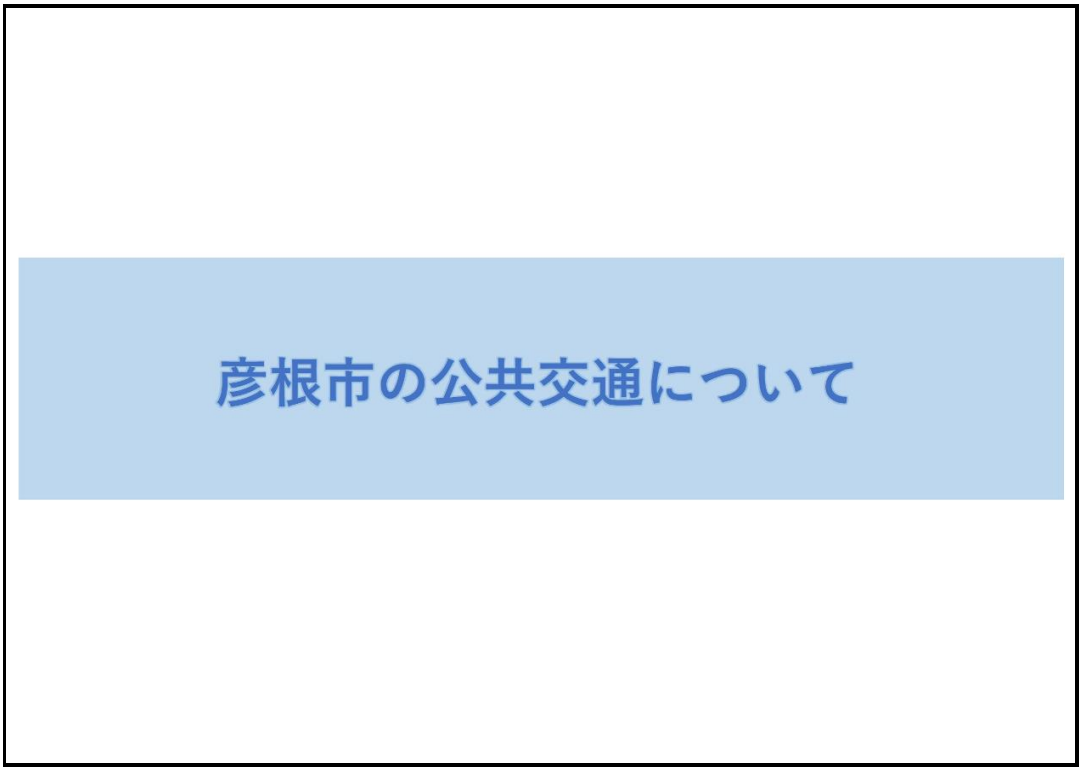


図　2-120　亀山小学校６年生の授業資料（1/15）



図　2-121　亀山小学校６年生の授業資料（2/15）



図　2-122　亀山小学校６年生の授業資料（3/15）



図　2-123　亀山小学校６年生の授業資料（4/15）

地域の公共交通は、誰が・どのように運行しているのか？

Q．彦根市の“公共交通”には何があるかな？

愛のりタクシー



愛のりタクシー とは

- タクシー車両を利用した公共交通
- あらかじめ路線（ルート）や停留所が決まっており、予約があった時のみ運行
- 同じ時間帯の便を予約した人がいる場合は、１つの車両に乗り合って移動（↔普通のタクシーは１つの車両を貸し切って移動）

図　2-124　亀山小学校６年生の授業資料（5/15）

地域の公共交通は、誰が・どのように運行しているのか？

Q．彦根市の“公共交通”は誰が運行してるでしょう？

鉄　道



近江鉄道株式会社



ＪＲ西日本
（西日本旅客鉄道株式会社）

バ　ス



湖国バス株式会社

愛のりタクシー



彦根市
愛荘町
豊郷町
甲良町
多賀町

図　2-125　亀山小学校６年生の授業資料（6/15）

地域の公共交通は、誰が・どのように運行しているのか？

Q．では、どのくらいの人が公共交通を使っているの？

●自動車はどれくらい使われているのか

彦根市における通勤・通学者の主な移動手段

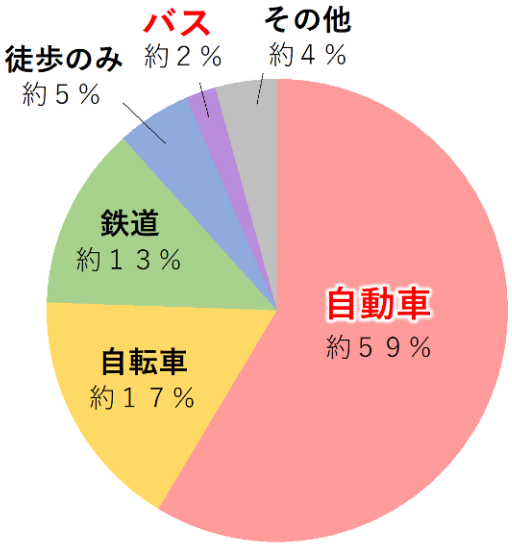


図　2-126　亀山小学校６年生の授業資料（7/15）

地域の公共交通は、誰が・どのように運行しているのか？

Q．どうして公共交通が利用されないの？



車ばかり使う



人口の減少

図　2-127　亀山小学校６年生の授業資料（8/15）

地域の公共交通は、誰が・どのように運行しているのか？

Q．どうして公共交通が利用されないの？

●図の赤いマスと青いマスは何を表しているか

●どういう場所に人口が集まっているか



図　2-128　亀山小学校６年生の授業資料（9/15）

地域の公共交通は、誰が・どのように運行しているのか？

Q．このままだとどうなるか？



車ばかり使う



人口の減少

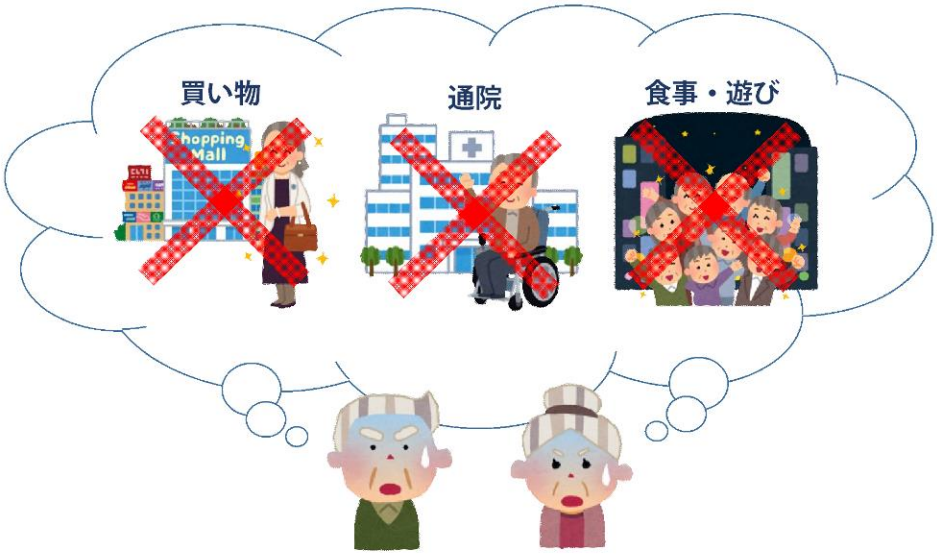


公共交通の利用が減少
・住民が少ない地域から撤退

図　2-129　亀山小学校６年生の授業資料（10/15）

地域の公共交通は、誰が・どのように運行しているのか？

Q．このままだとどうなるか？



移動手段がなくなると日常生活に支障をきたしてしまう…
地域の公共交通を守っていくことが大切！

図　2-130　亀山小学校６年生の授業資料（11/15）

地域の公共交通は、誰が・どのように運行しているのか？

Q．なぜ、公共交通を守らないといけないのか？

公共交通にはこんな良いところがあります。



渋滞が減る



CO_2が削減できる



誰でも乗ることができる



高齢者が外出できる



事故が防止できる

など・・・

図　2-131　亀山小学校６年生の授業資料（12/15）

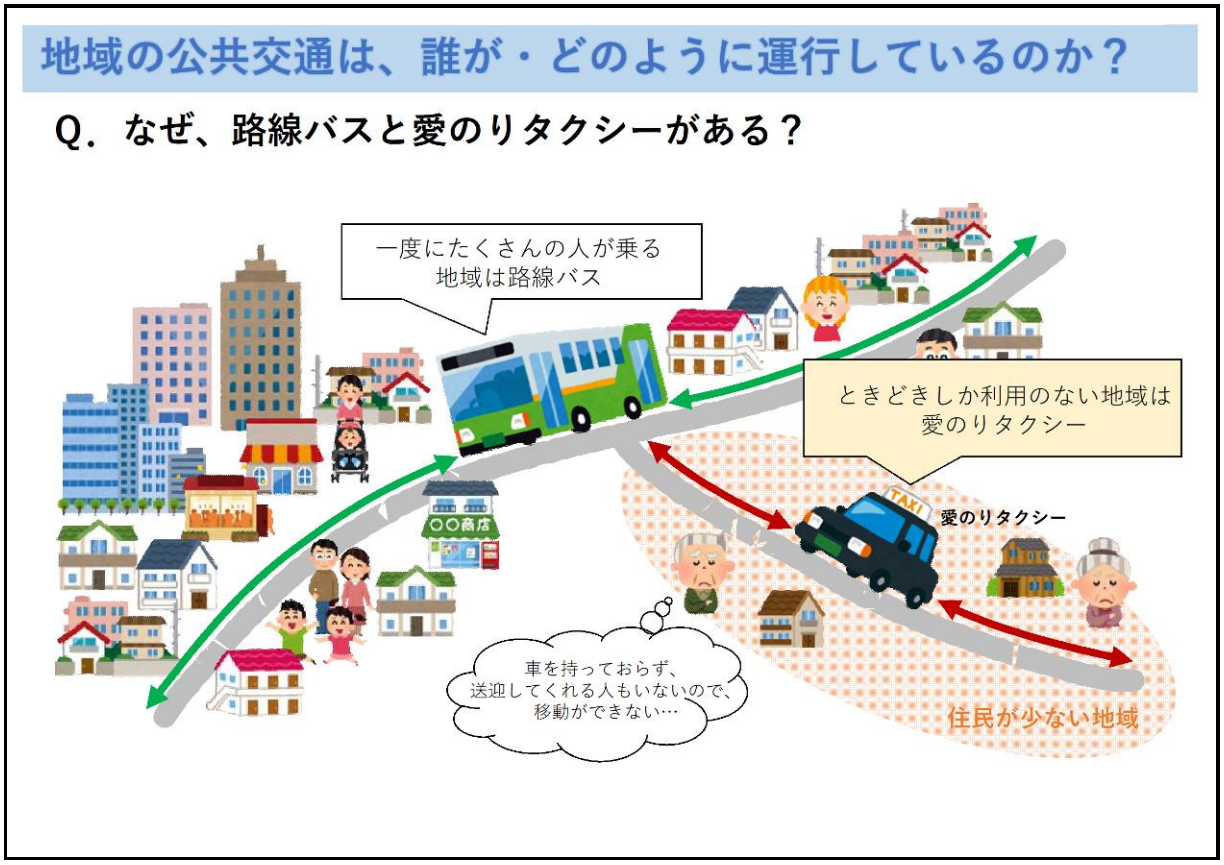


図　2-132　亀山小学校６年生の授業資料（13/15）



図　2-133　亀山小学校６年生の授業資料（14/15）



図　2-134　亀山小学校６年生の授業資料（15/15）

（c）発展（体験的活動等の事例づくり）

a）土山小学校２年生・生活科　乗り物探検

①今年度の位置付け

昨年度までに実施してきた乗り物探検をくり返し実施し、取り組みの定着化を図ることとした。また、あわせて昨年度取り組みの課題として挙げられた、クラス人数にあわせたバスの車両サイズ変更等についての準備・支援を実施することとした。

②交通プログラムの検討

②－１　交通素材を活用した学習の流れ

昨年度と同様に、バスや電車等の身近な交通を通じて、公共交通や公共施設の役割について理解を深めることを交通環境学習のねらいとして位置付け、乗り方教室で学んだ内容を実践すると同時に、公共交通の存在・役割について理解を深めてもらうため、バス・鉄道乗車体験や事業者等へのインタビューを授業に組み込んだ一連の学習として実施することとした。その一連の学習の内、乗り物探検は公共交通の存在に対する認識向上を図ると同時に、地域で働く人たちが生活を支えていること理解してもらうための学習として実施することとした。

以下に学習の流れを示す。

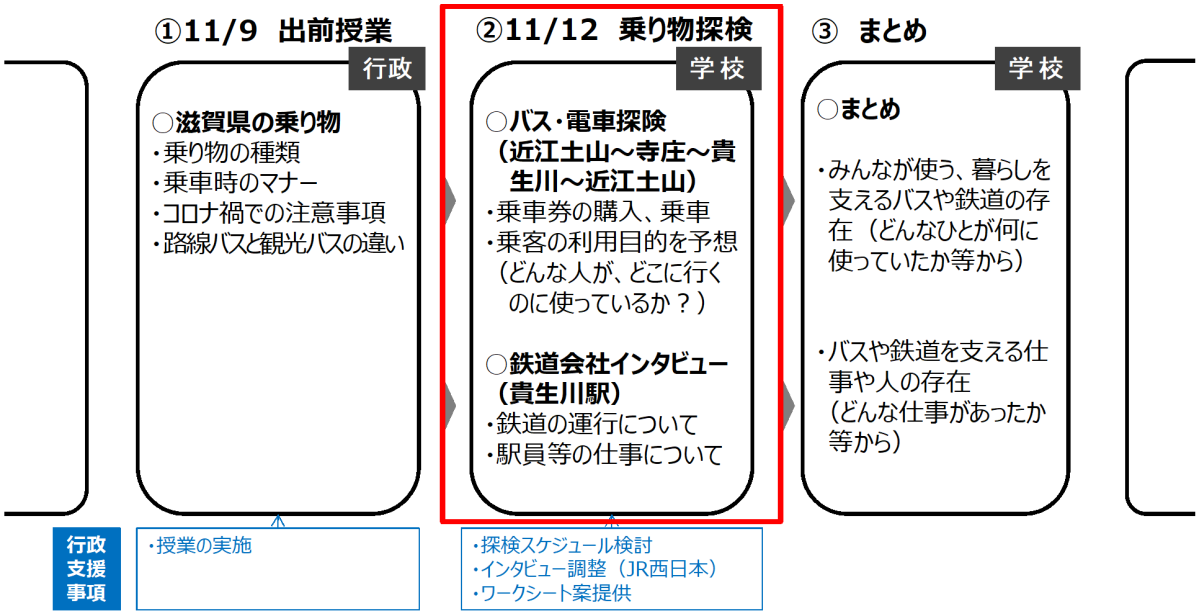


図　2-135　土山小学校２年生の授業の流れ

②－２　学習の準備

■体験の準備

昨年度と同様、午前中にバスと鉄道を利用して土山小学校まで戻ってくるとともに、JR 貴生川駅で鉄道事業者へのインタビューを行う時間を確保することを条件として、ダイヤ改正を考慮したルートやスケジュールについて整理した。あわせて、JR に事業者インタビューの対応について依頼した。また、今年度の鉄道体験ではコロナの影響を考慮し、車両内の密度が高くならないよう、児童を複数車両に分けて体験してもらうこととした。

乗車体験の当日の流れを以下に示す。

		バス体験（行き）				電車体験					バス体験（帰り）			
時間		8:20～	8:30～	8:35～	8:45～	9:05～	9:10～	9:32～	9:38～	9:42～	10:00～	10:20～	10:53～	11:00～
		約10分	約5分	約１０分	約２０分	約５分	約２０分	約5分	約５分	約１５分	約２０分	約３０分	約5分	約5分
場所		学校	移動	近江土山バス停	バス（近江土山バス停→寺庄駅）	移動	寺庄駅	電車（寺庄駅→貴生川駅）	移動	貴生川駅	移動･待機	バス（貴生川駅→近江土山バス停）	移動	学校
内容		・主旨、流れの説明 ・乗り方やマナーの振り返り ・WS記入方法の説明	・移動 （土山小→近江土山バス停）	・乗車券の購入方法の説明 ・窓口でフリー乗車券を購入	・バスに乗車 （近江土山→寺庄） ・乗客の利用目的を予想 ・WS記入	・移動 （バス停→寺庄駅）	・切符購入方法の説明 ・券売機で切符購入	・電車に乗車 （寺庄→貴生川） ※3つの車両にわかれて乗車 ・乗客利用目的を予想 ・WS記入	・移動 （ホーム→改札口）	・JR駅長にインタビュー ・WS記入	・移動 （改札口→バス停） ・WS記入 ・トイレ休憩	・バスに乗車 （貴生川→近江土山） ・乗客利用目的を予想 ・WS記入	・移動 （近江土山バス停→土山小）	・総括 ・終了のあいさつ
学校	A	・はじめに ・乗り方・マナー、WS記入方法の説明	・移動の誘導	・導入 ・乗車券購入方法の説明	・乗客の利用目的予想を指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導	・導入 ・切符購入方法の説明	・乗客の利用目的予想を指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導	・導入	・移動の誘導 ・WS記入指示 ・トイレ休憩対応	・乗客の利用目的予想を指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導	・総括
	B	—	・移動の誘導	・待機生徒の対応	・乗客の利用目的予想を指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導	・待機生徒の対応	・乗客の利用目的予想を指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導	—	・移動の誘導 ・WS記入指示 ・トイレ休憩対応	・乗客の利用目的予想を指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導	—
シガ･エージェント		—	—	・乗車券購入のサポート ・乗車券販売	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
JR駅員		—	—	—	—	—	・切符の購入のサポート	—	—	・「JR駅長にインタビュー」の対応	—	—	—	—
甲賀市		・あいさつ	・移動サポート	・シガ･エージェントのサポート ・乗車券購入のサポート	・WS記入サポート	・移動サポート	・切符購入のサポート	・WS記入サポート ※１つ目の車両を担当	・移動サポート	・JR駅長のサポート	・移動サポート	・WS記入サポート	・移動サポート	・あいさつ
滋賀県	A	・あいさつ		・シガ･エージェントのサポート ・乗車券購入のサポート	・WS記入サポート		・切符購入のサポート	・WS記入サポート ※２つ目の車両を担当		・JR駅長のサポート		・WS記入サポート		・あいさつ
	B	・あいさつ		・シガ･エージェントのサポート ・乗車券購入のサポート	・WS記入サポート		・切符購入のサポート	・WS記入サポート ※３つ目の車両を担当		・JR駅長のサポート		・WS記入サポート		・あいさつ
OC	A	—		—	—		—	—		—		—		—
	B	—		・記録			・記録			・記録		・記録		—

図　2-136　土山小学校２年生の当日の授業の流れ

■学習ツールの作成

昨年度と同様に、乗車体験の学習内容を意識づける観点から、利用したバス停・駅の名前、かかった運賃や乗車時間、鉄道事業者へのインタビュー結果等の体験内容を書きとめてもらい、まとめ授業での振り返りとして活用できるワークシートを使用した。なお、今年度は、コロナの影響を考慮し、乗客へのインタビューは実施しないこととし、乗客の年齢や乗降場所等から利用目的について予想し、どのような人が乗っていたかを考える内容とした。

以下に使用した学習ツールを示す。

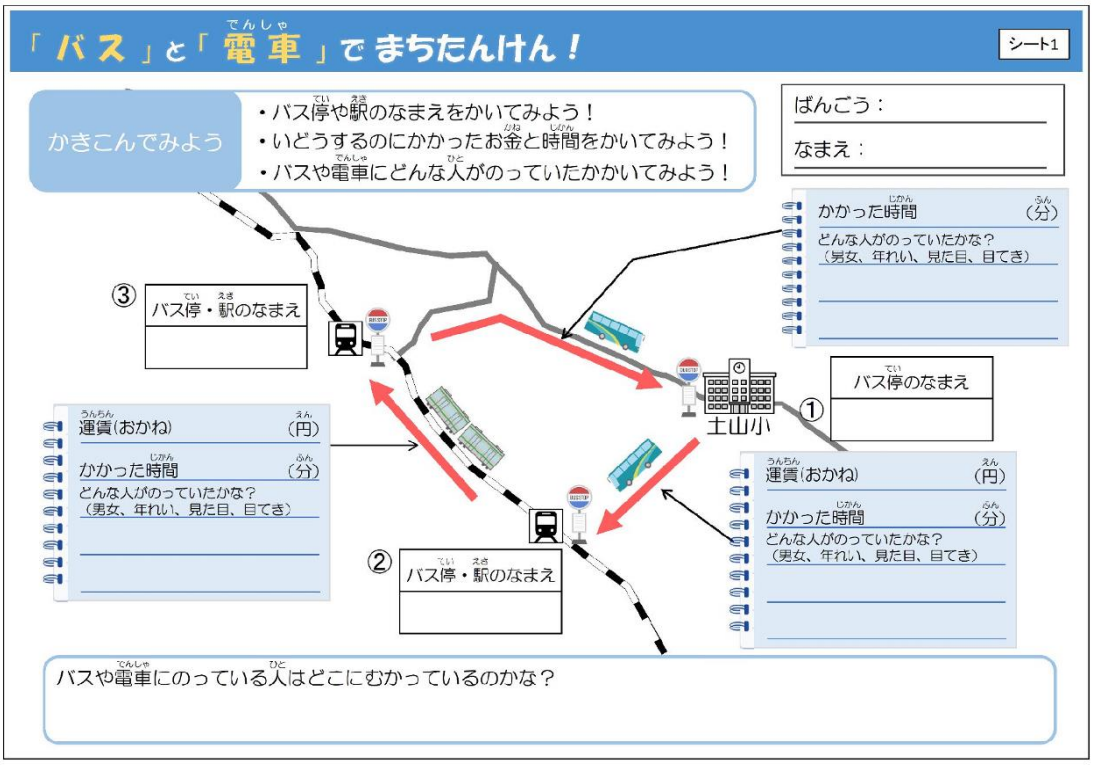


図　2-137　土山小学校２年生のワークシート（1/2）

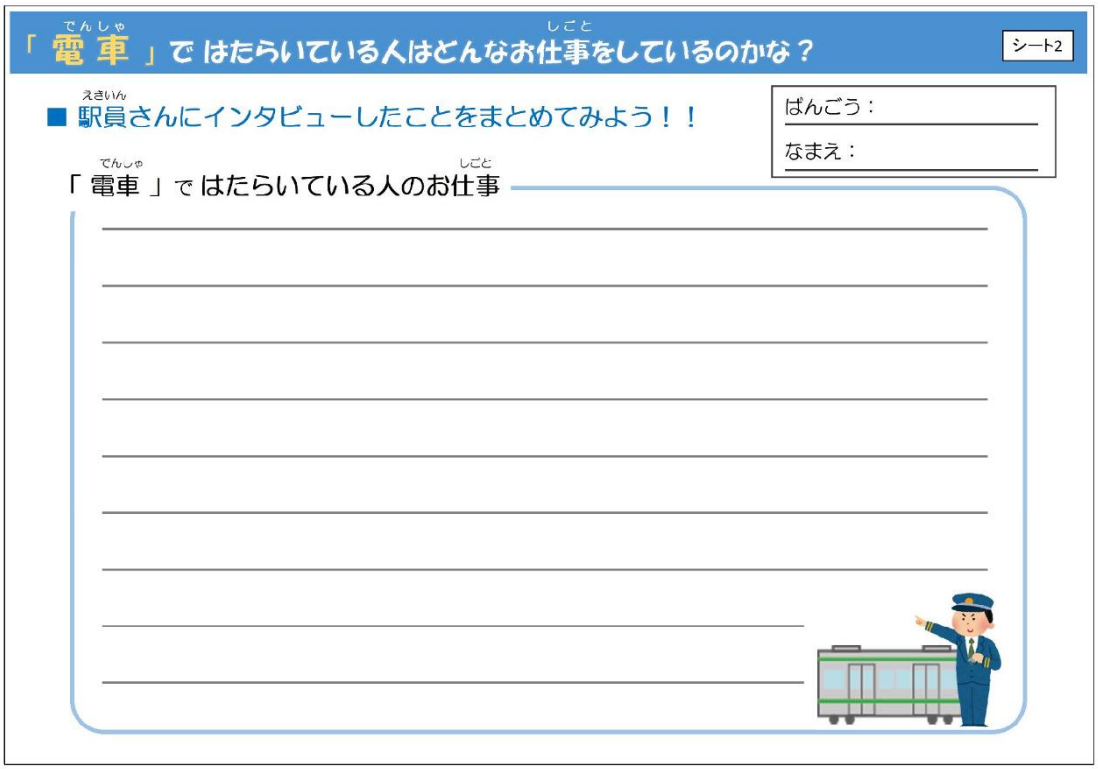


図　2-138　土山小学校２年生のワークシート（2/2）

b）土山小学校６年生・総合的な学習の時間　地域探検

①今年度の位置付け

事業目標である、交通を切り口に自分たちのまちづくりのことを自発的に考えられる人材を育成していくためには、ただ公共交通に関する知識を身に着けるだけでなく、実生活の中で活かしていくことが重要である。そのため、高学年では、それまでに学んできた内容を活かせる実フィールドでの体験機会を創出していくことが必要であると考える。

検討対象モデル校である土山小学校では、これまで３年間にわたり、交通環境学習を実施してきており、公共交通に対して一定の知識・理解を有していると考えられる。そこで、複数年にわたる交通学習の集大成的取組として、公共交通の利用について自分達で計画し体験する学習プログラムについて検討することとした。

②交通プログラムの検討

②－１　交通素材を活用した学習の流れ

学校との意見交換を踏まえ、学校が取り組みたい地域の文化財の学習に着目し、公共交通を使って文化財へ行く方法を調べ、実際にそこに行く体験を通して、地域文化財に対する理解を深めてもらうことを交通環境学習のねらいとして位置づけ、学習の流れについて検討することとした。

まず、文化財への行き方について、子どもたちだけで計画できるよう、時刻表・路線図の読み方やコミタクの予約方法等、公共交通の使い方について説明を行い、実際に自分たちで計画してもらう内容を体験の事前学習として実施することとした。そして、文化財巡り体験当日は、単に公共交通を利用して終わりとならないよう、駅・バス停周辺の観察を行い、公共交通の役割について理解を深めてもらうこととし、体験終了後は、体験で感じた内容にあわせ、公共交通を使って体験を行った感想等について共有するまとめを実施し、一連の学習として実施することとした。

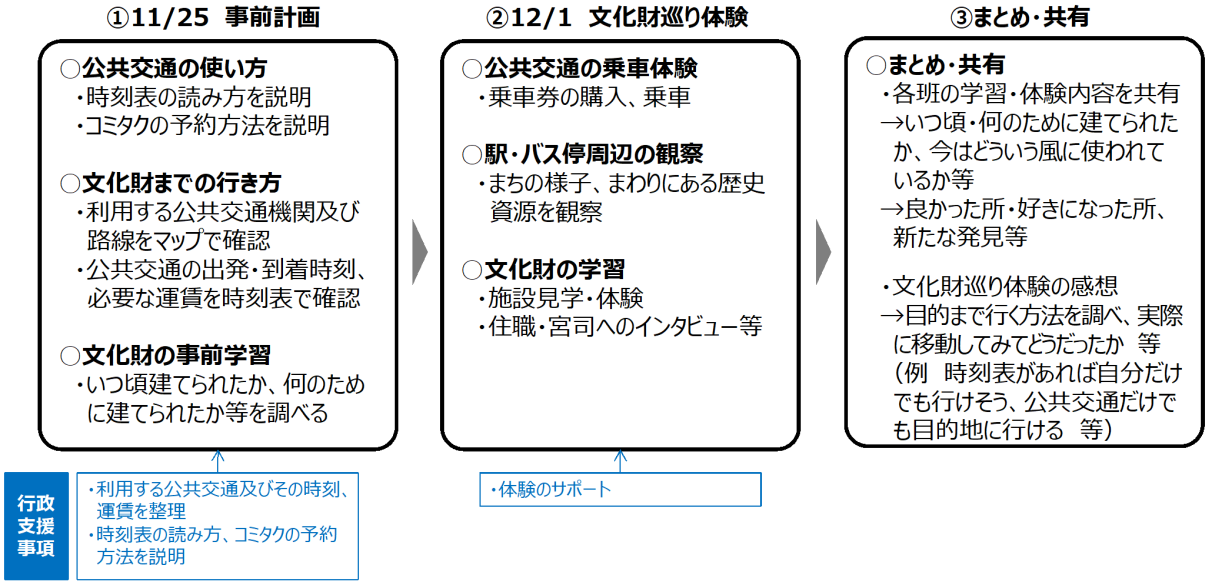


図　2-139　土山小学校６年生の授業の流れ

③－２　学習の準備

■体験の準備

体験の準備として、土山小学校周辺に位置する文化財について、バス、鉄道、コミタク等の公共交通を使って巡ることができるかを整理し、文化財巡りで体験する施設を抽出した。また、子どもたちが利用する公共交通の時刻やルート等をあらかじめ整理し、体験にかかる費用及び時間について整理した。

整理したルートや時刻等を以降に示す。

NO	寺社名	費用	事前の現地確認結果		移動時間																		備考
1	水口神社 ・水口城跡	・バス１日乗車券（250円） ・水口城資料館入館料（50円） ※お参りをする場合、別途お金が必要 ※資料館は事前申請で入館料免除 （https://www.city.koka.lg.jp/8318.htm） **合計300円**	・危険箇所：横断歩道、踏切、歩道を通行する自転車、自動車 ・休憩場所：神社内の休憩所 ・注意事項：神社内のものに上らない、資料館のものに手をふれない	行き	近江土山バス停			コミバス（土山本線）	中央公民館バス停			徒歩（200m）	水口城跡			徒歩（700m）	水口神社			—	昼食・学習時間 1h20min
					－	着	10:13 発		10:34	着	10:34 発		10:40	着	11:10 発		11:20	着	－ 発				
				帰り	水口神社			徒歩（700m）	あいこうか市民ホールバス停			コミバス（土山本線）	近江土山バス停			—							
					－	着	12:40 発		12:50	着	12:59 発		13:22	着	－ 発								
2	大池寺	・バス１日乗車券（250円） ・大池寺拝観料（200円） **合計450円**		行き	近江土山バス停			コミバス（土山本線）	新町バス停			コミバス（広野台線）	大池寺バス停			徒歩（400m）	大池寺			—	昼食・学習時間 1h20min
					－	着	10:13 発		10:31	着	10:46 発		10:55	着	10:55 発		11:10	着	－ 発				
				帰り	大池寺			徒歩（400m）	大池寺バス停			コミバス（広野台線）	新町バス停			コミバス（土山本線）	近江土山バス停			—			
					－	着	12:30 発		12:40	着	12:50 発		12:58	着	13:04 発		13:22	着	発				
3	矢川神社	・バス１日乗車券（250円） ・JR片道乗車券（70円） ※お参りをする場合、別途お金が必要 **合計390円**		行き	近江土山バス停			コミバス（土山本線）	貴生川駅			JR草津線	甲南駅			徒歩（700m）	矢川神社			—	昼食・学習時間 1h5min
					－	着	10:13 発		10:42	着	11:21 発		11:25	着	11:25 発		11:40	着	－ 発				
				帰り	矢川神社			徒歩（700m）	甲南駅			JR草津線	貴生川駅			コミバス（土山本線）	近江土山バス停			—			
					－	着	12:45 発		13:00	着	13:15 発		13:19	着	14:05 発		14:34	着	発				
4	甲賀流 忍術屋敷	・バス１日乗車券（250円） ・JR片道乗車券（70円） ・甲賀流忍術屋敷入館料（400円）※手裏剣体験別途300円？ **合計790円**	・危険箇所：横断歩道、自動車 ・休憩場所：プララの休憩スペース ・注意事項：資料館のものに手をふれない	行き	近江土山バス停			コミバス（土山本線）	貴生川駅			JR草津線	甲南駅			コミタク	忍びの里プララ（昼食）			徒歩（200m）	甲賀流忍術屋敷			昼食・学習時間 1h00min
					－	着	10:13 発		10:42	着	11:21 発		11:25	着	11:25 発		11:35	着	11:55 発		12:05	着	－ 発	
				帰り	甲賀流忍術屋敷			徒歩（200m）	忍びの里プララ			コミタク	甲南駅			JR草津線	貴生川駅			コミバス（土山本線）	近江土山バス停			
					－	着	12:45 発		12:55	着	12:55 発		13:05	着	13:15 発		13:19	着	14:05 発		14:34	着	－ 発	
5	櫟野寺	・バス１日乗車券（250円） ・櫟野寺拝観料（300円） ※小学生以下は保護者同伴で無料 **合計550円**		行き	近江土山バス停			コミバス（佐山線）	甲賀駅北口バス停			コミバス（大原線）	櫟野観音寺前バス停			徒歩（100m）	櫟野寺			—	昼食・学習時間 2h45min
					－	着	8:45 発		9:18	着	9:46 発		9:59	着	9:59 発		10:05	着	－ 発				
				帰り	櫟野寺			徒歩（100m）	櫟野観音寺前バス停			コミバス（大原線）	甲賀駅北口バス停			コミバス（広域水口線）	貴生川駅			コミバス（土山本線）	近江土山バス停		
					－	着	12:45 発		12:50	着	12:59 発		13:12	着	13:15 発		13:41	着	14:05 発		14:34	着	－ 発	
6	玉桂寺	・信楽鉄道＋バス１日乗車券（600円） **合計600円**	・危険箇所：つり橋 ・休憩場所：寺内の休憩所 ・注意事項：寺内のものに上らない、信楽高原鉄道に乗り遅れた場合は西福寺見学後、11:24発に乗車	行き	近江土山バス停			コミバス（土山本線）	貴生川駅			信楽高原鉄道	玉桂寺前駅			徒歩（200m）	玉桂寺			—	昼食・学習時間 1h50min
					－	着	9:43 発		10:16	着	10:24 発		10:46	着	10:46 発		10:50	着	－ 発				
				帰り	玉桂寺			徒歩（200m）	玉桂寺前駅			信楽高原鉄道	貴生川駅			コミバス（土山本線）	近江土山バス停			—			
					－	着	12:40 発		12:46	着	12:56 発		13:17	着	14:05 発		14:34	着	発				

図　2-140　体験当日のスケジュール

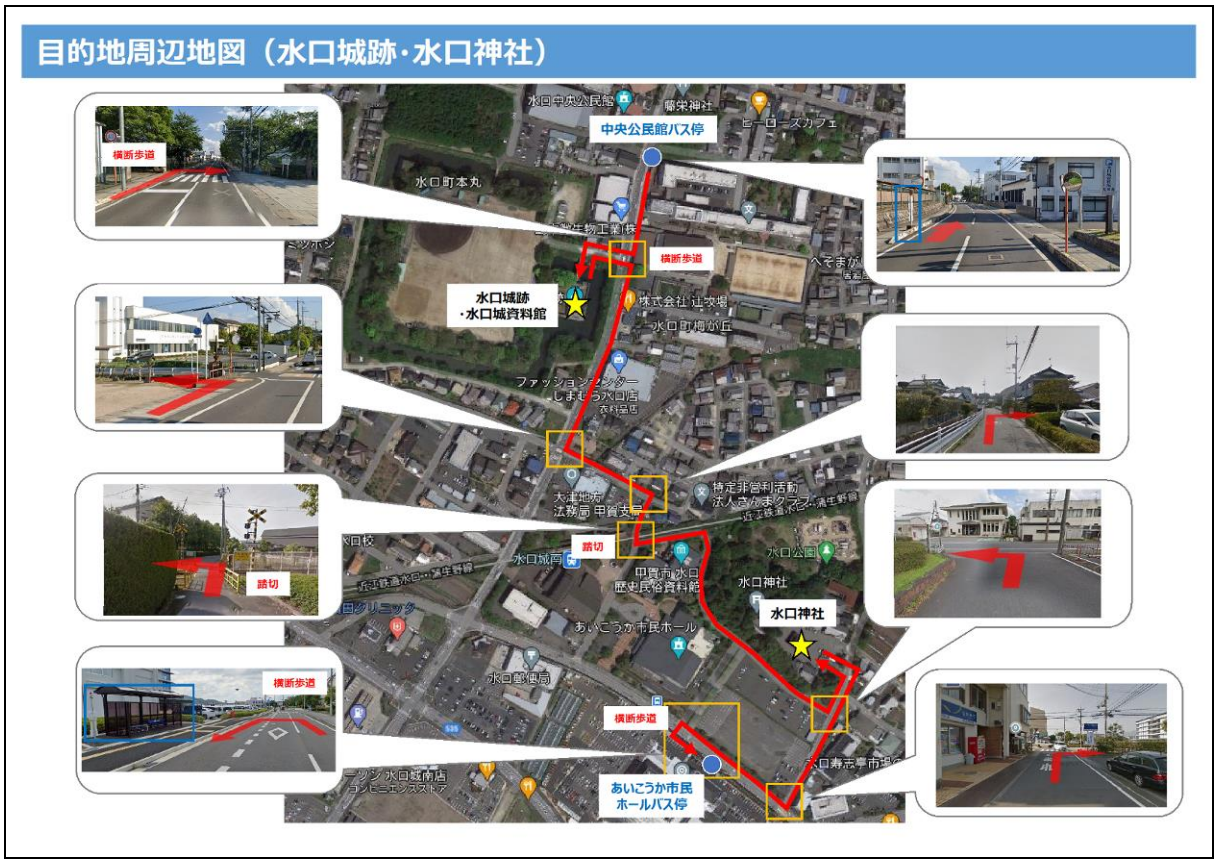


図　2-141　最寄りバス停から文化財施設までのルート（1/●）



図　2-142　最寄りバス停から文化財施設までのルート（1/８）

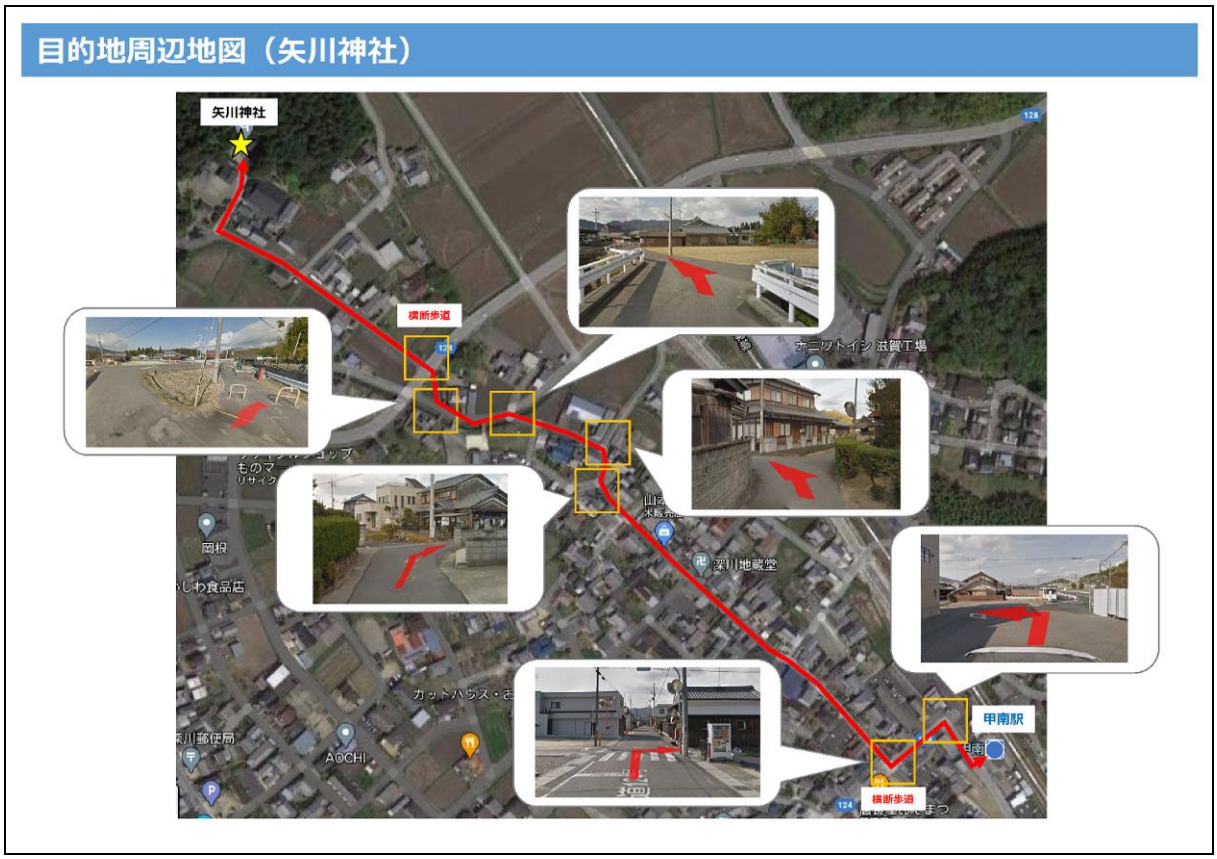


図　2-143　最寄りバス停から文化財施設までのルート（1/●）

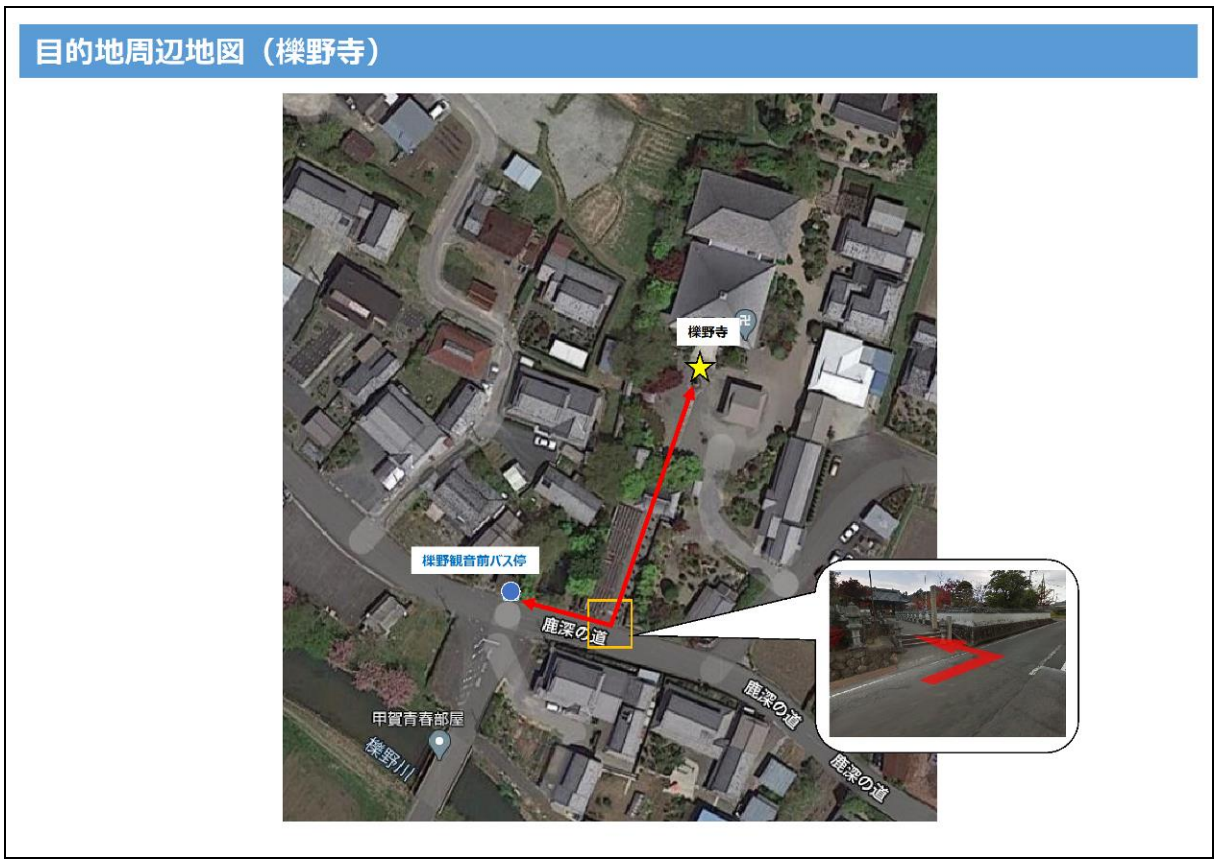


図　2-144　最寄りバス停から文化財施設までのルート（1/８）

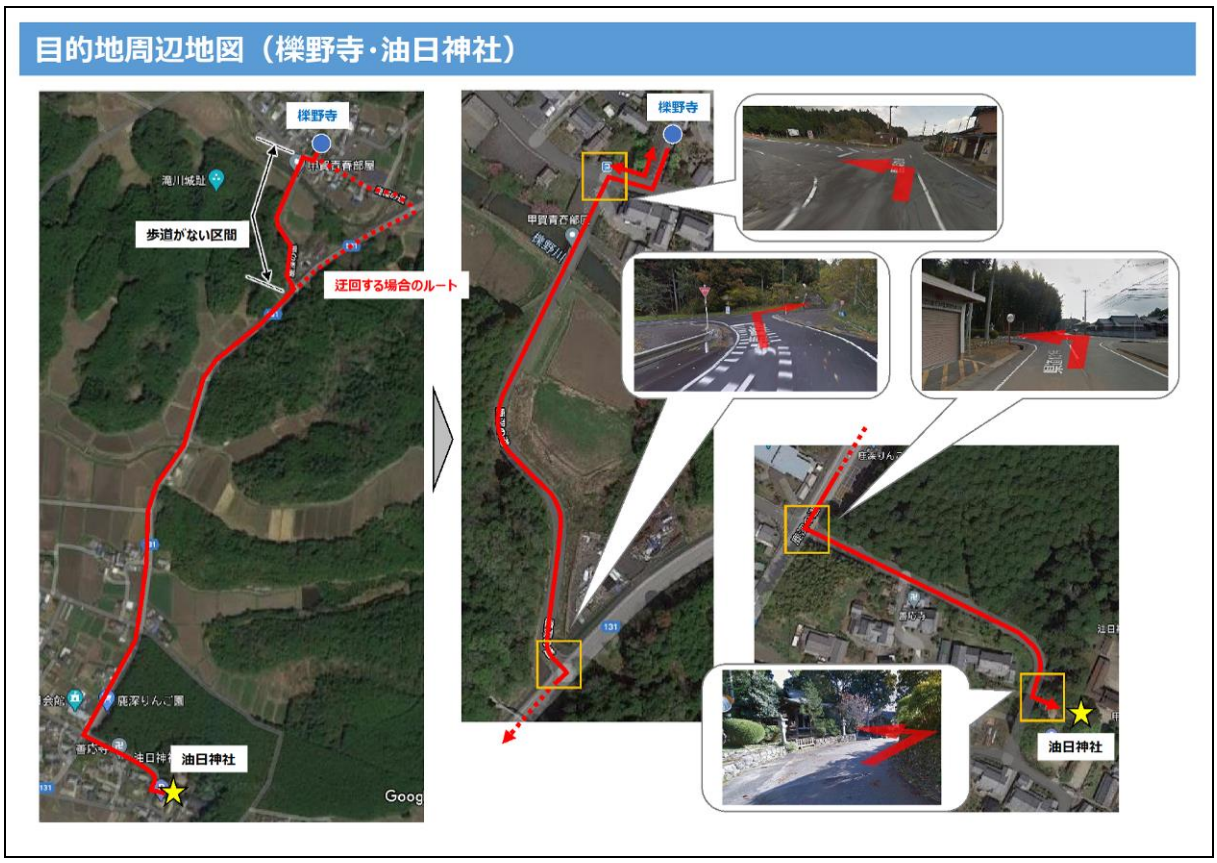


図　2-145　最寄りバス停から文化財施設までのルート（1/８）

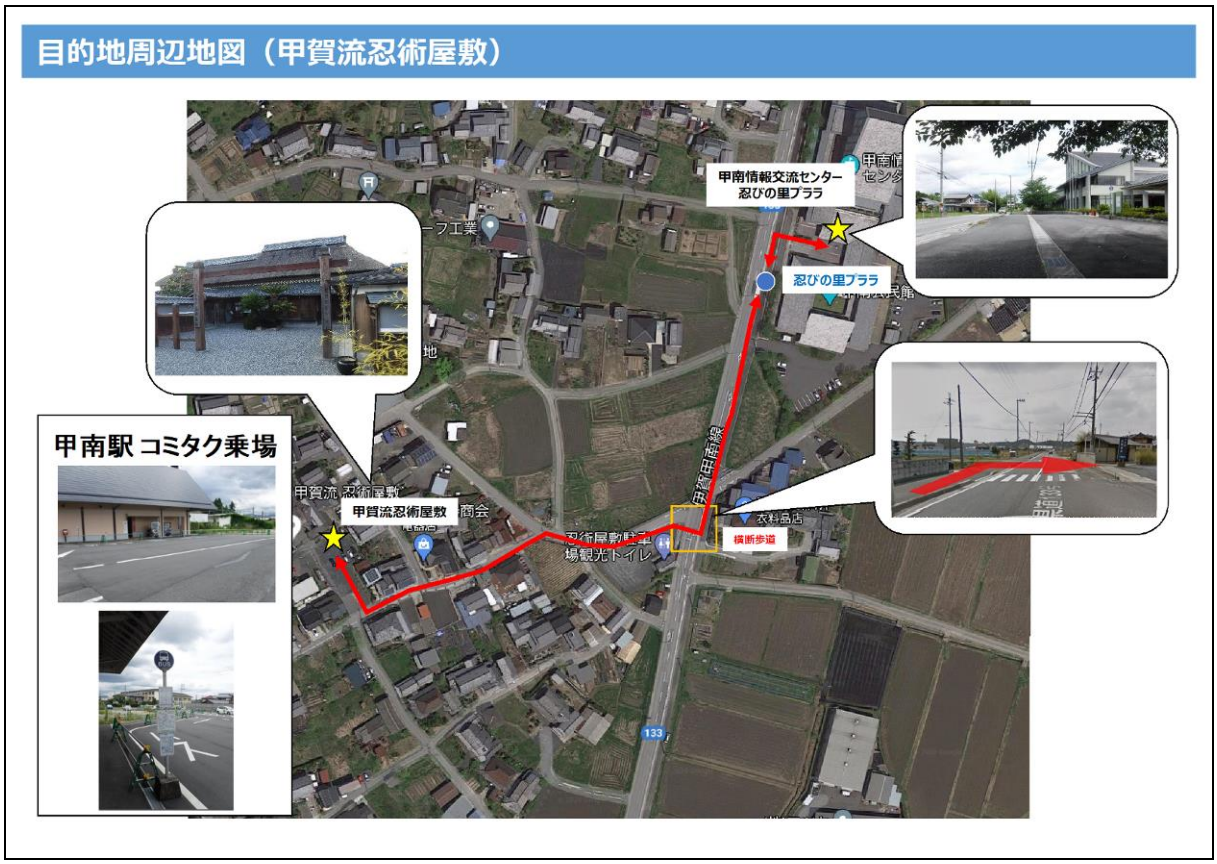


図　2-146　最寄りバス停から文化財施設までのルート（1/８）

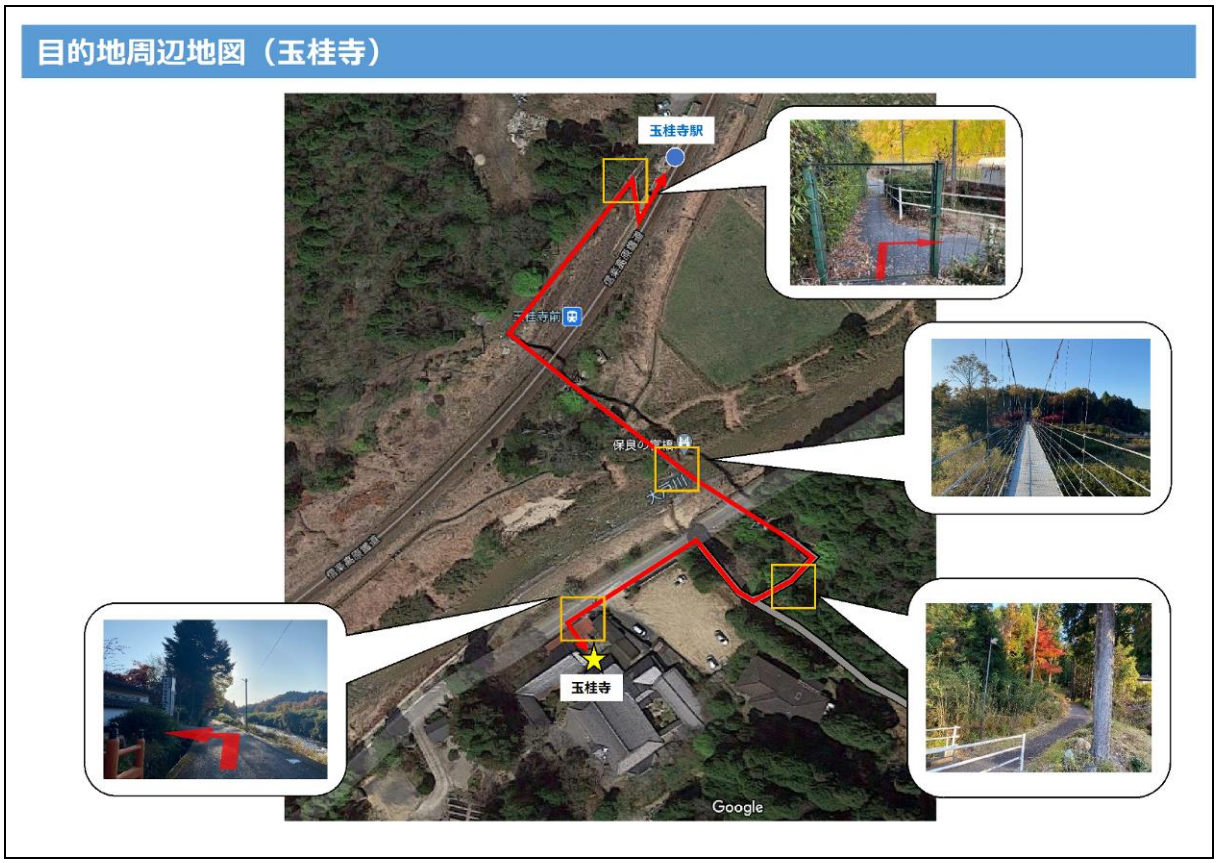


図　2-147　最寄りバス停から文化財施設までのルート（1/８）

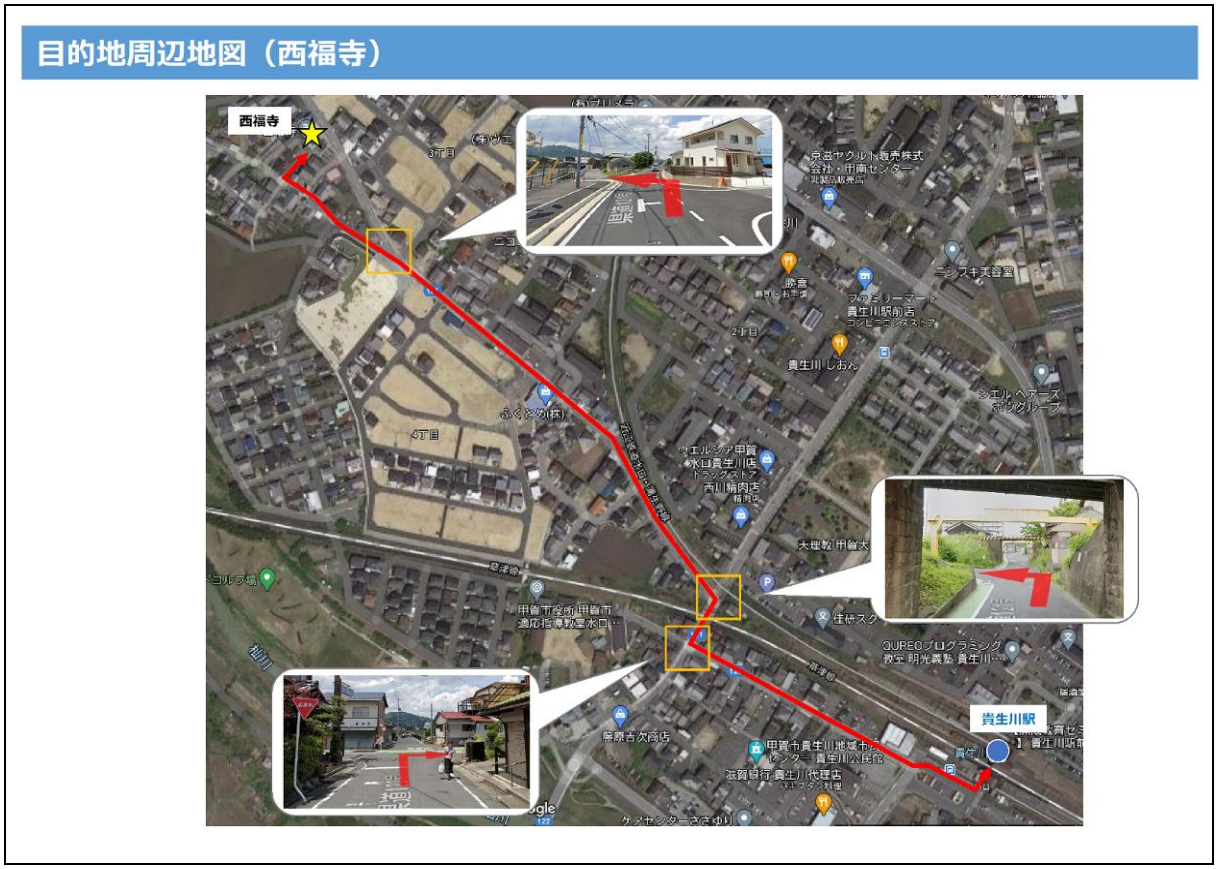
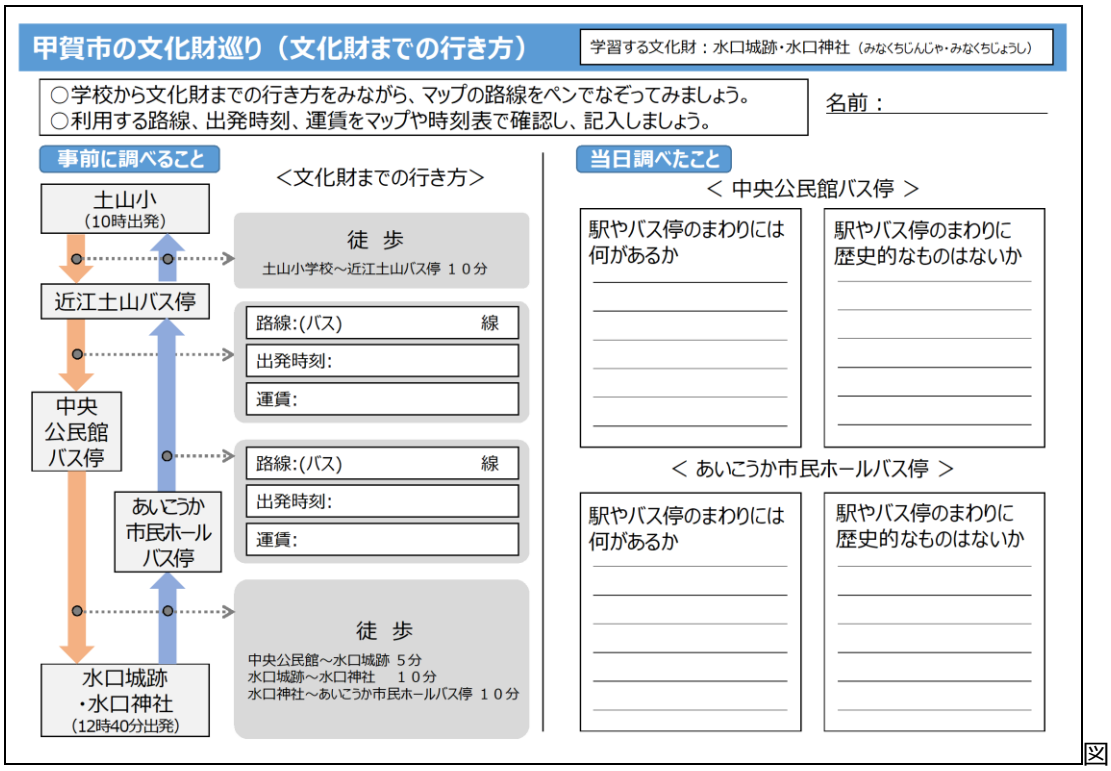


図　2-148　最寄りバス停から文化財施設までのルート（1/８）

■学習ツールの作成

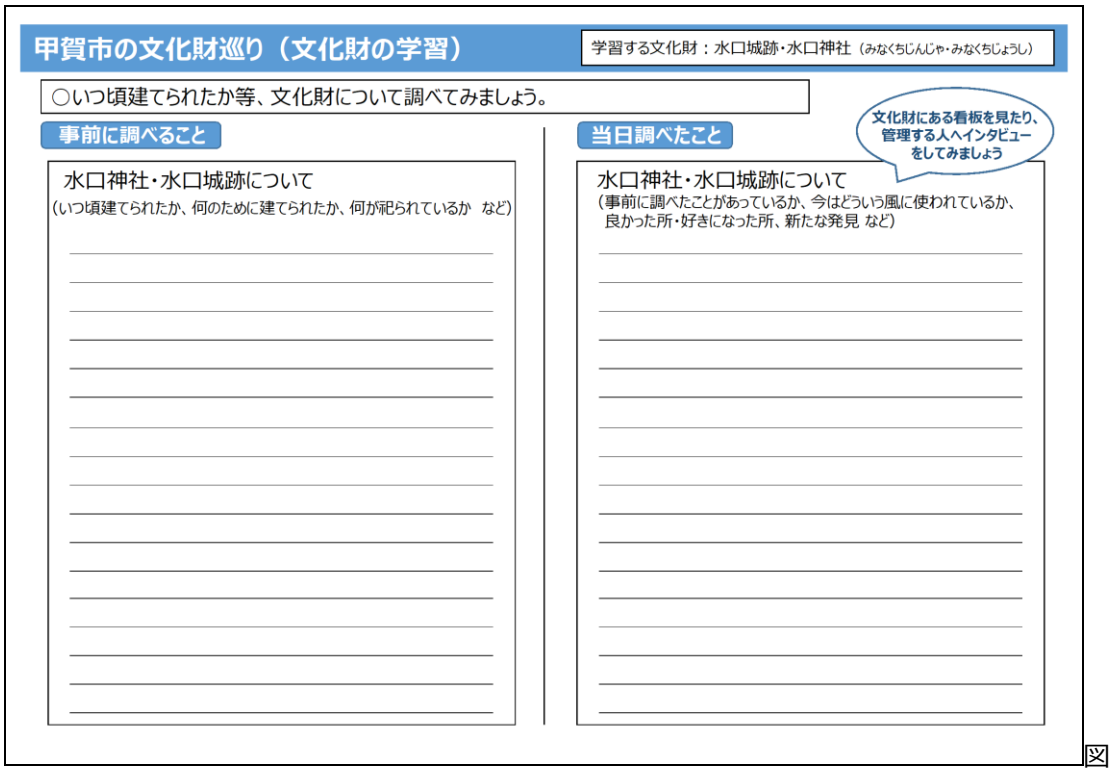
文化財までの行き方を計画する際に、利用する路線や出発時刻、運賃等を記録するためのワークシートを作成した。また、ワークシートでは、体験を行った際にバス停や駅周辺のまちの様子から理解を深めてもらうため、まわりにある施設等について書き留められるようにするとともに、文化財巡り体験で学んだことをまとめられるような形で作成した。

あわせて、時刻表や路線図の読み方について説明するための授業資料を作成した。



図

2-149 土山小学校６年生のワークシート（1/14）



図

2-150 土山小学校６年生のワークシート（2/14）

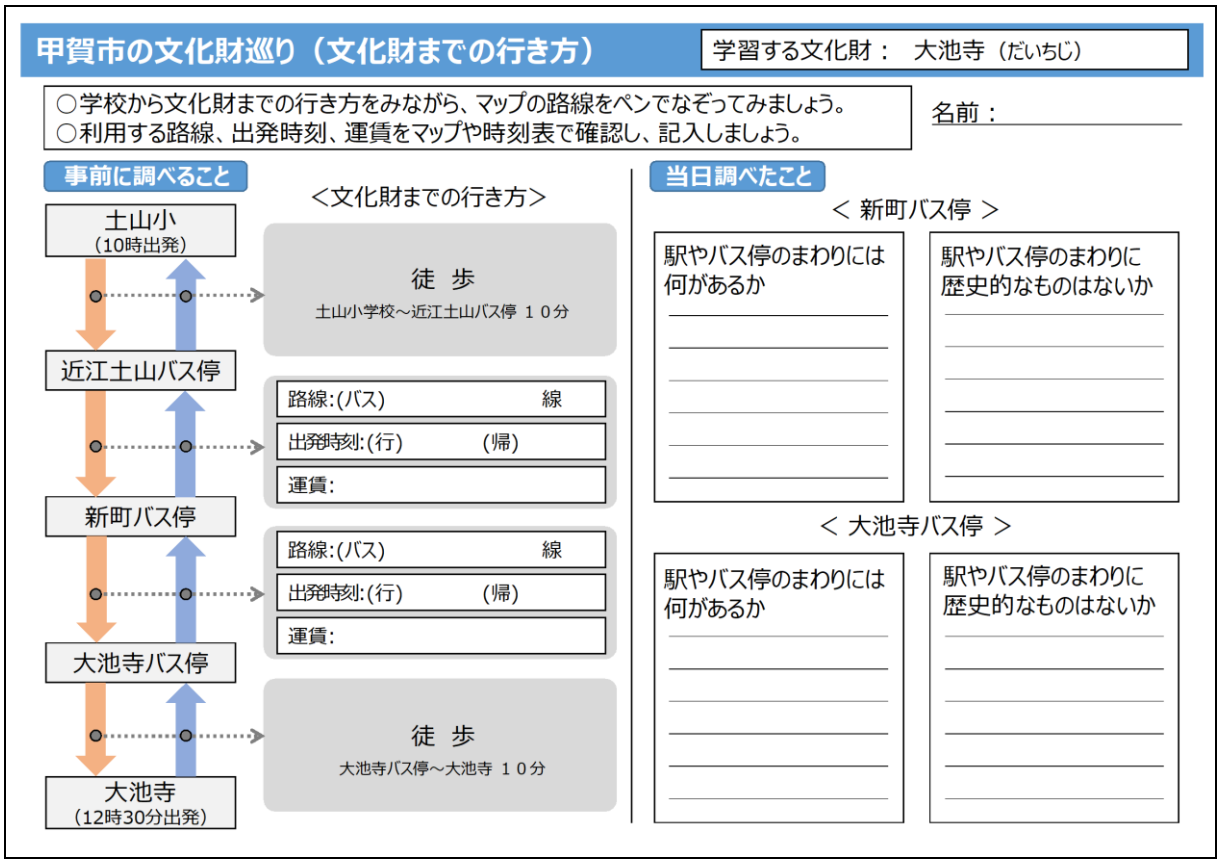


図 2-151 土山小学校６年生のワークシート（3/14）

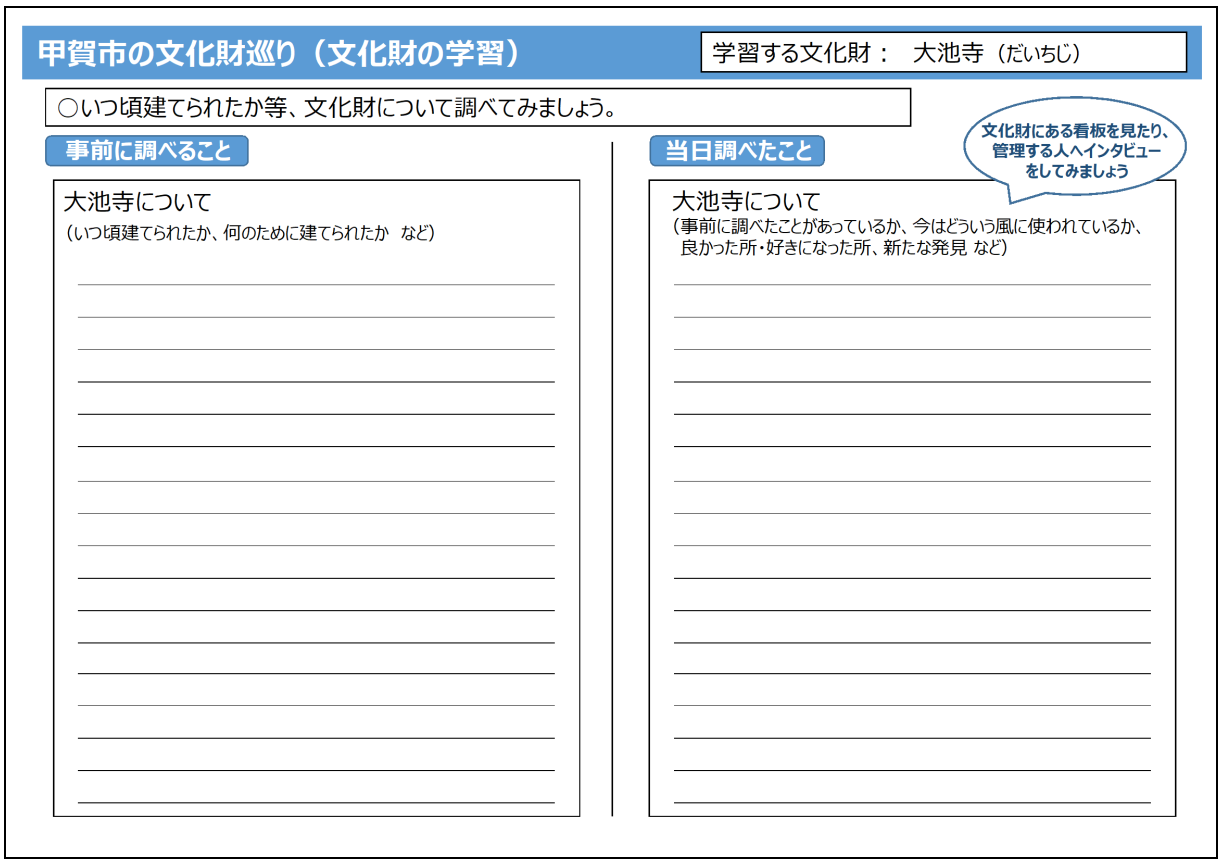


図 2-152 土山小学校６年生のワークシート（4/14）

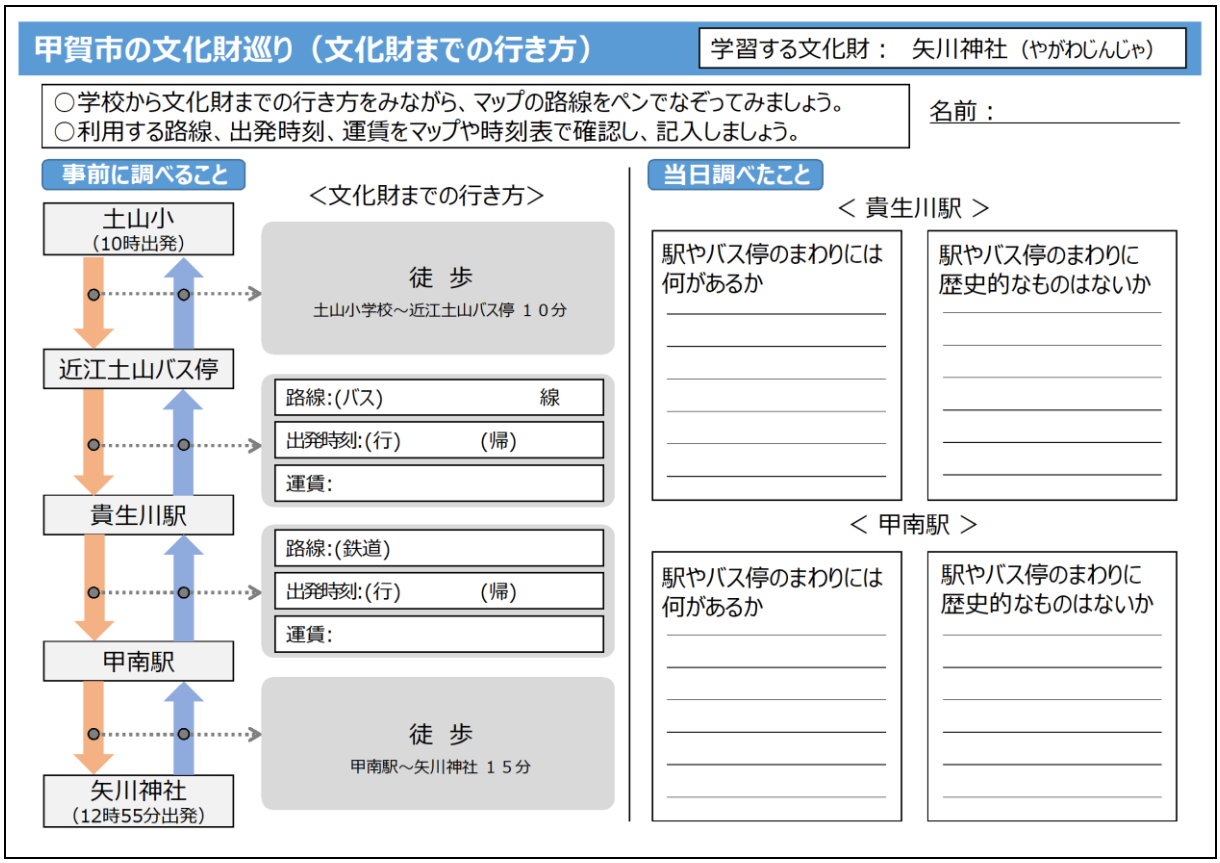


図 2-153 土山小学校６年生のワークシート（5/14）

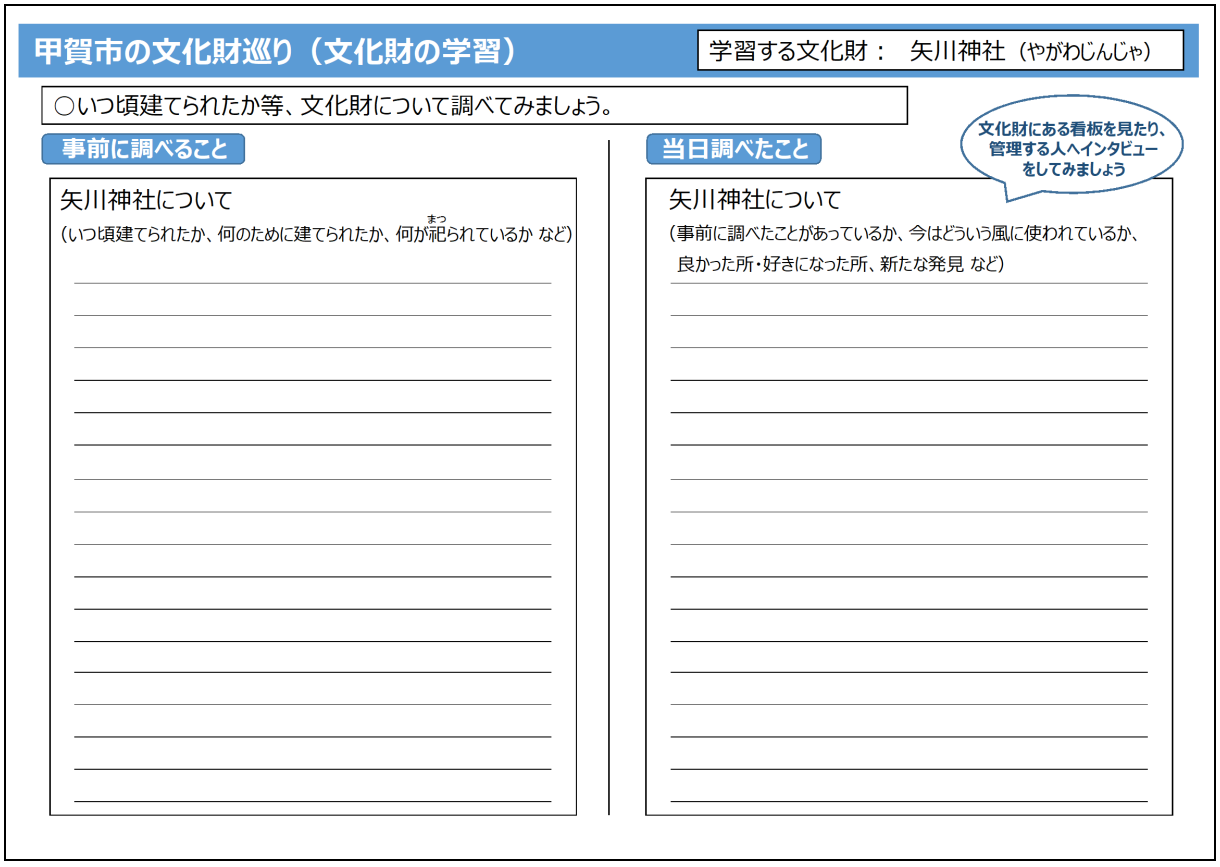


図 2-154 土山小学校６年生のワークシート（6/14）

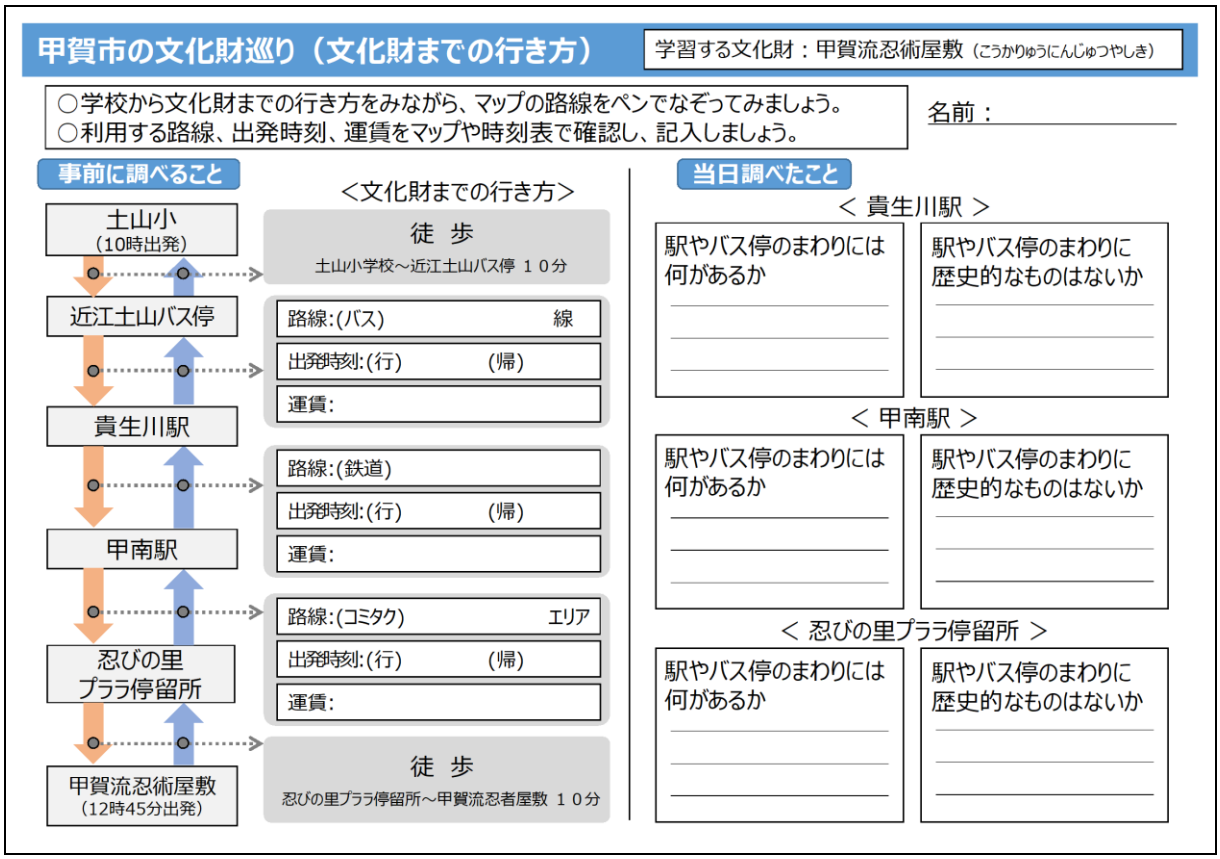


図　2-155 土山小学校６年生のワークシート（7/14）

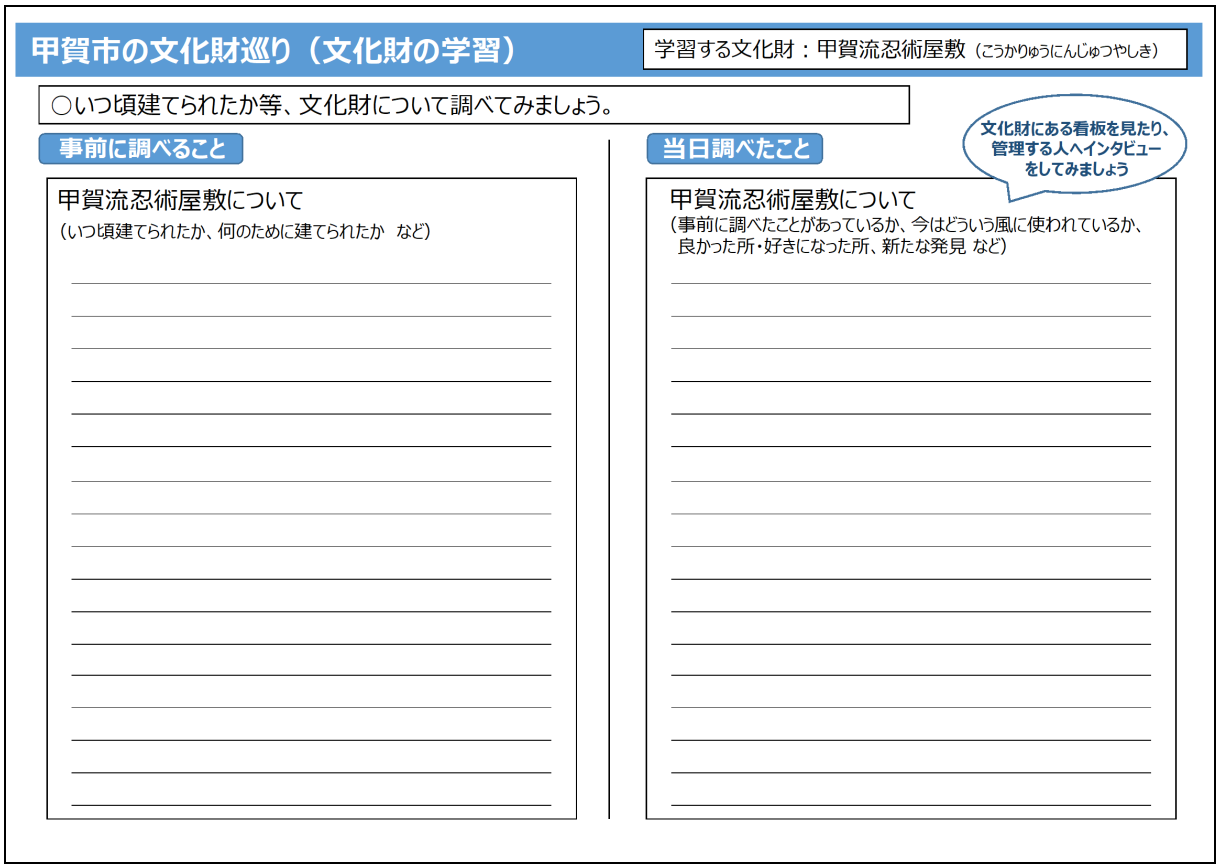


図　2-156 土山小学校６年生のワークシート（8/14）

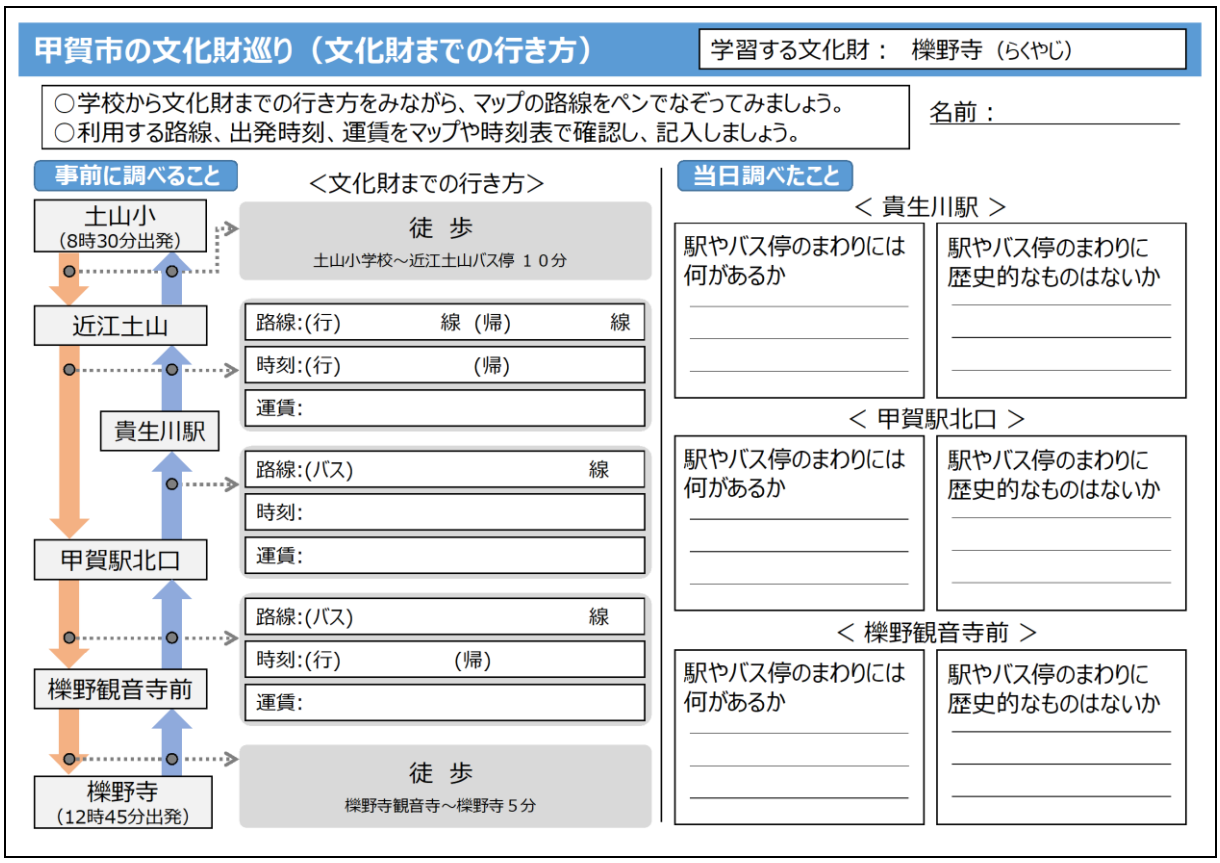


図 2-157 土山小学校６年生のワークシート（9/25）

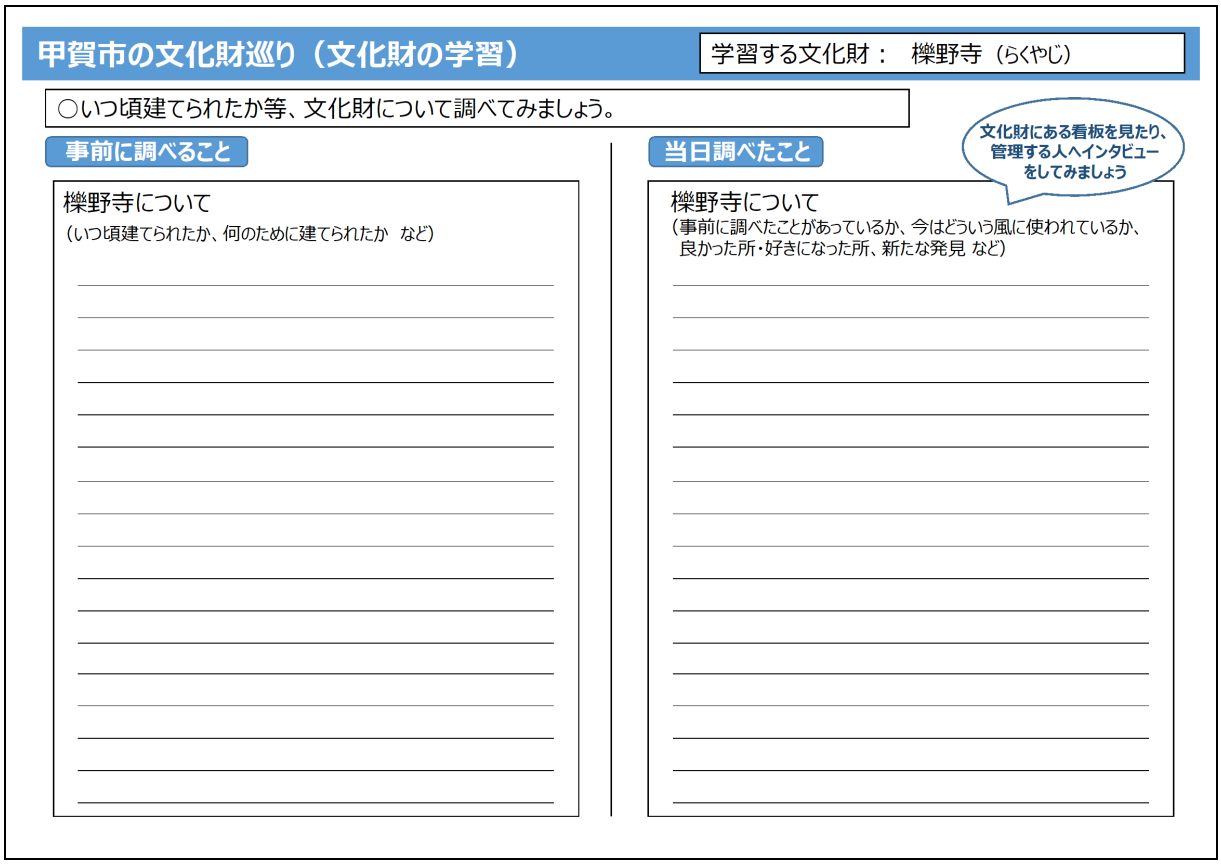


図 2-158 土山小学校６年生のワークシート（10/14）

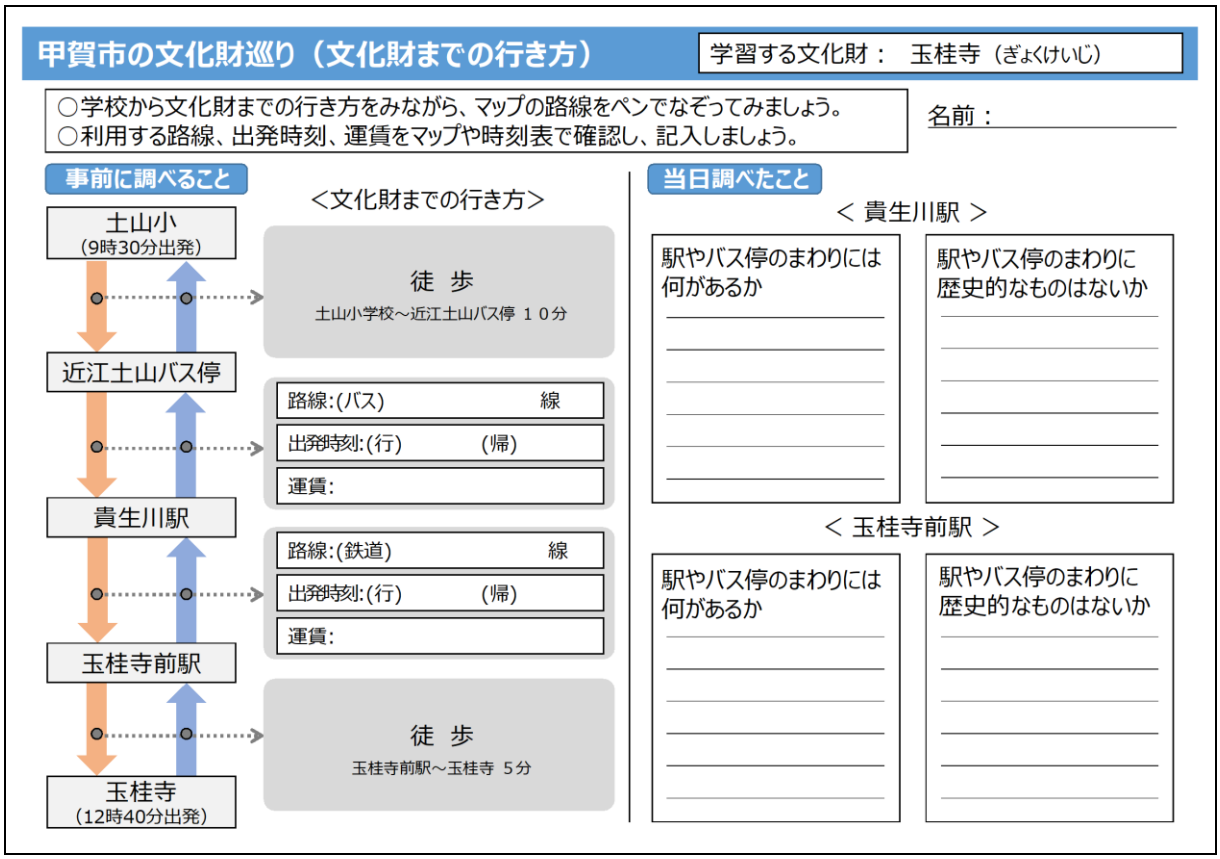


図 2-159 土山小学校６年生のワークシート（11/25）

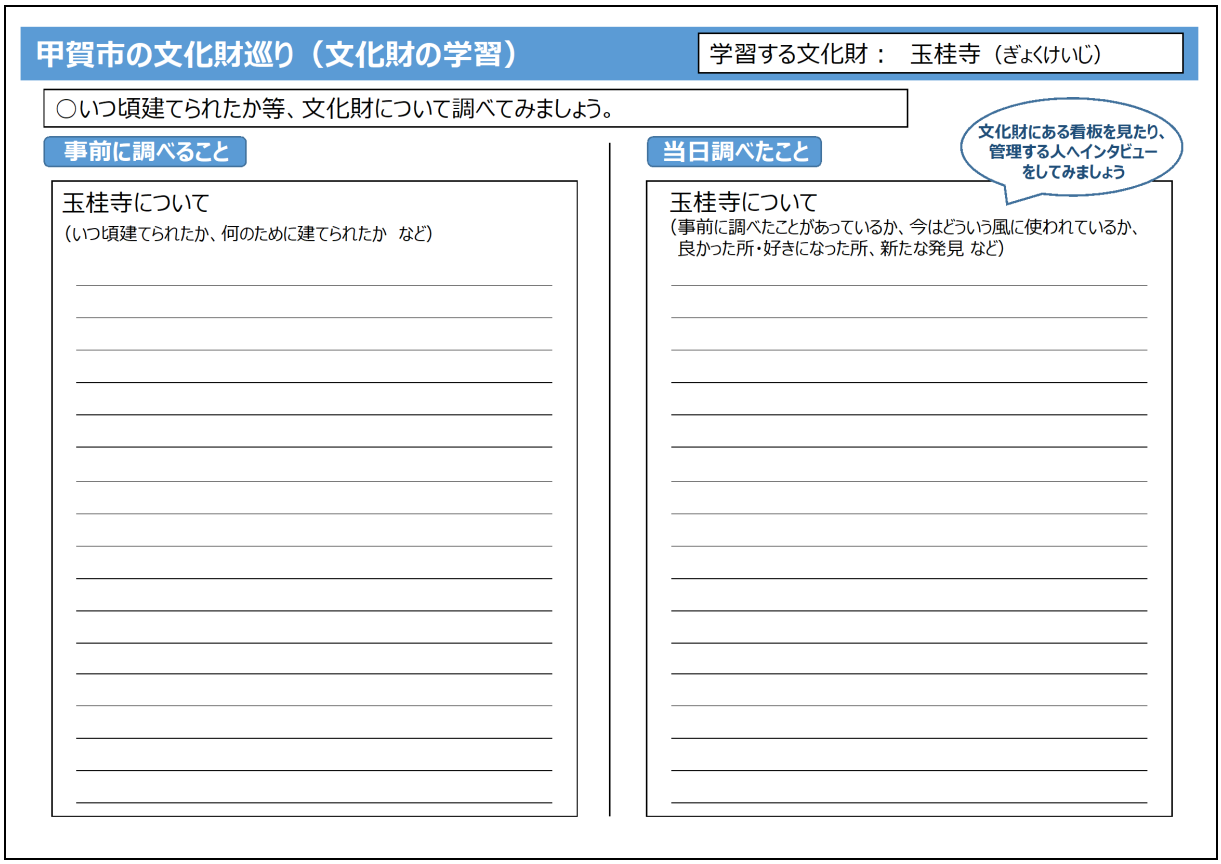


図 2-160 土山小学校６年生のワークシート（12/14）

甲賀市の文化財巡り（小学校から目的地までのマップ）

名前：＿＿＿＿＿＿＿＿



図　2-161 土山小学校６年生のワークシート（13/14）

甲賀市の文化財巡り（バス・鉄道・コミタクの運賃）

■甲賀市コミュニティバス

路線	大人	子ども
土山本線	２５０円	１３０円
広野台線		
広域水口線		
佐山線		
大原線		

■甲賀市コミタク

路線	大人	子ども
全エリア共通	２５０円	１３０円

■フリー乗車券（１日のりほうだい券）

路線	大人	子ども
コミュニティバス＋コミタク	５００円	２５０円
コミュニティバス＋コミタク＋信楽高原鉄道	１２００円	６００円

■JR草津線

貴生川	甲南	寺庄	甲賀	油日	柘植
１５０円 ７０円					
１９０円 ９０円	１５０円 ７０円				
２００円 １００円	１９０円 ９０円	１５０円 ７０円			
２００円 １００円	２００円 １００円	１９０円 ９０円	１５０円 ７０円		
３３０円 １６０円	２４０円 １２０円	２４０円 １２０円	２００円 １００円	１９０円 ９０円	

黒字：大人運賃
赤字：子ども運賃

■信楽高原鉄道

貴生川	紫香楽宮跡	雲井	勅旨	玉桂寺前	信楽
４１０円 ２１０円					
４１０円 ２１０円	２１０円 １１０円				
４７０円 ２４０円	２１０円 １１０円	２１０円 １１０円			
４７０円 ２４０円	２９０円 １５０円	２９０円 １５０円	２１０円 １１０円		
４７０円 ２４０円	２９０円 １５０円	２９０円 １５０円	２００円 １００円	２１０円 １１０円	

黒字：大人運賃
赤字：子ども運賃

図　2-162 土山小学校６年生のワークシート（14/14）

（例題）土山小学校～寺庄駅までの行き方

①学校から文化財までの行き方をみながら、マップの路線をペンでなぞってみましょう。
②利用する路線、出発時刻、運賃をマップや時刻表で確認し、記入しましょう。

名前：＿＿＿＿＿＿＿＿

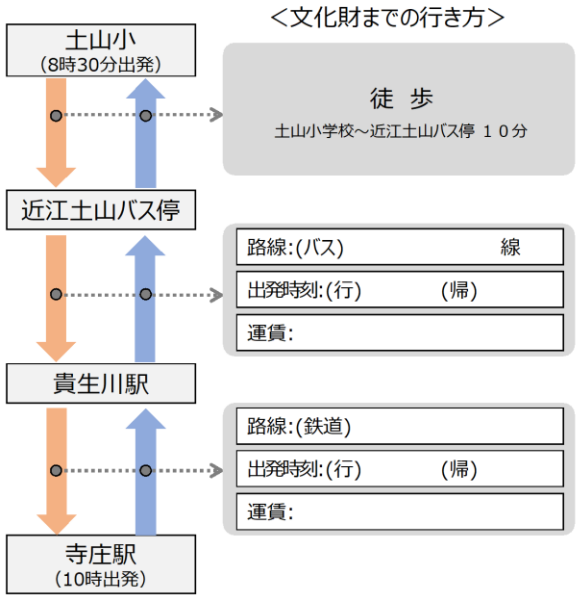


図　2-163 土山小学校６年生の授業資料（1/11）

（例題）土山小学校～寺庄駅までの行き方

名前：＿＿＿＿＿＿＿＿

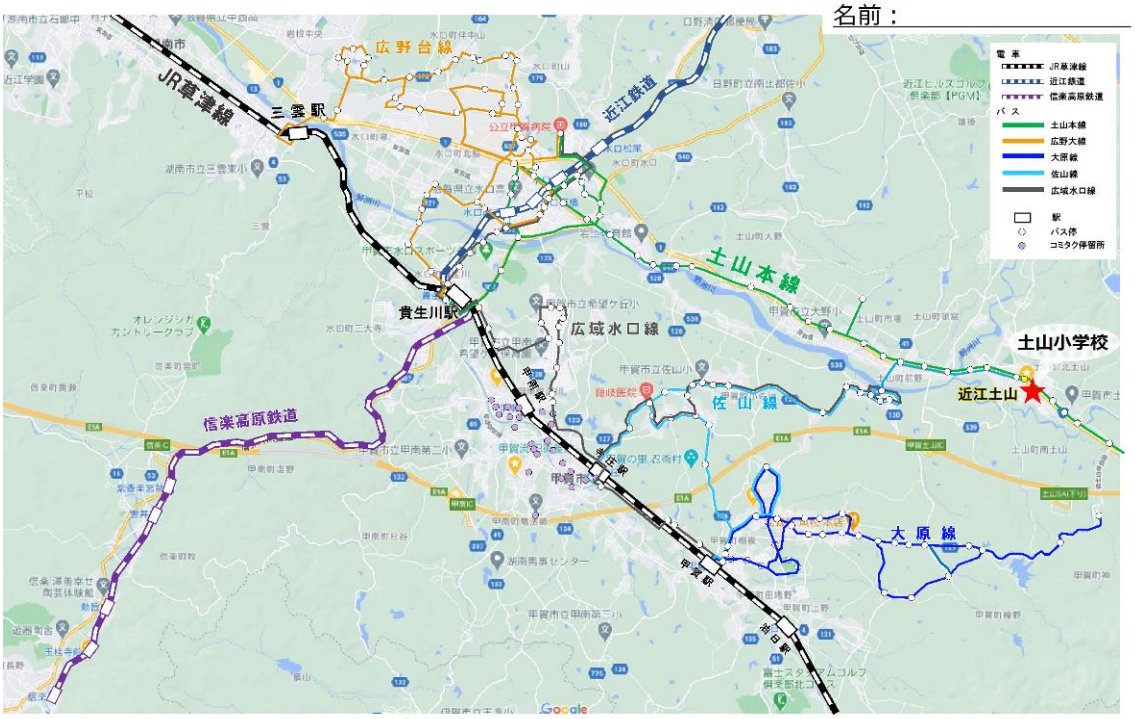


図　2-164 土山小学校６年生の授業資料（2/11）

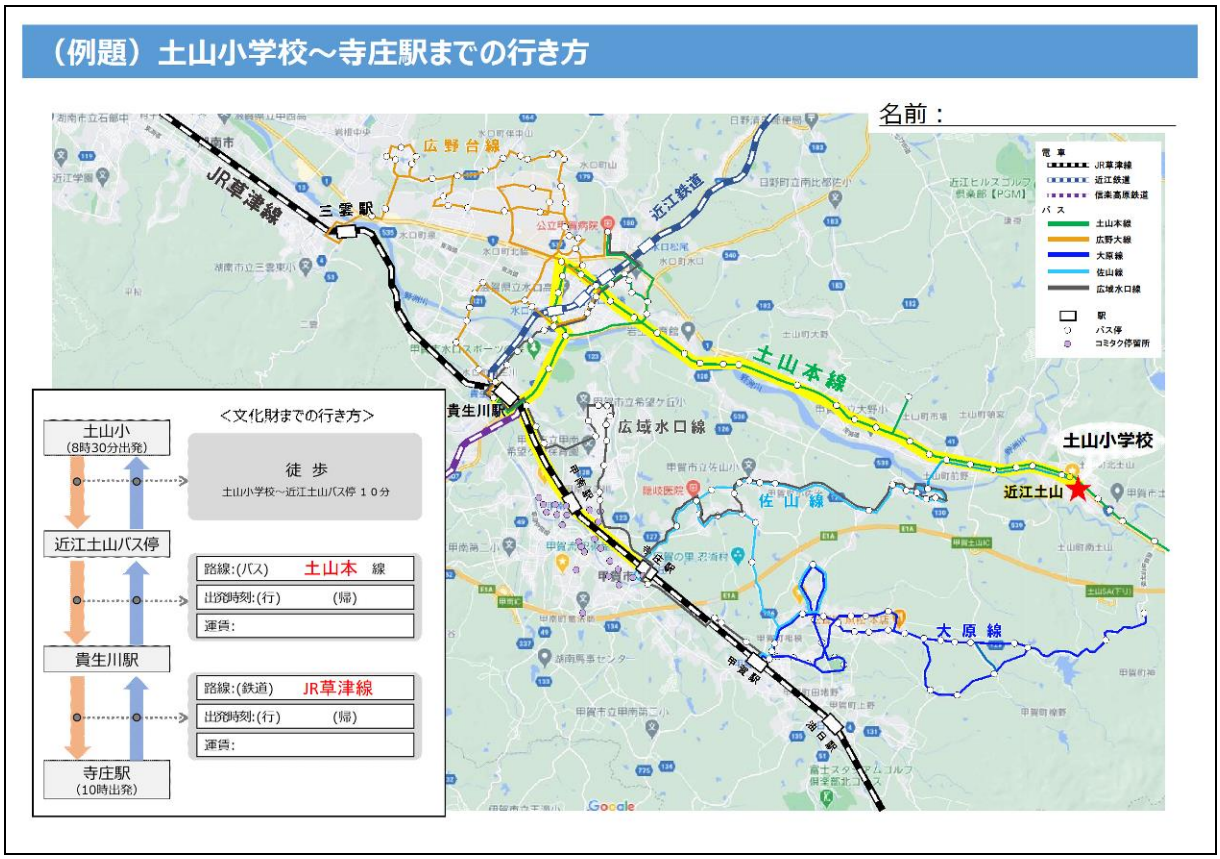


図　2-165 土山小学校６年生の授業資料（3/11）

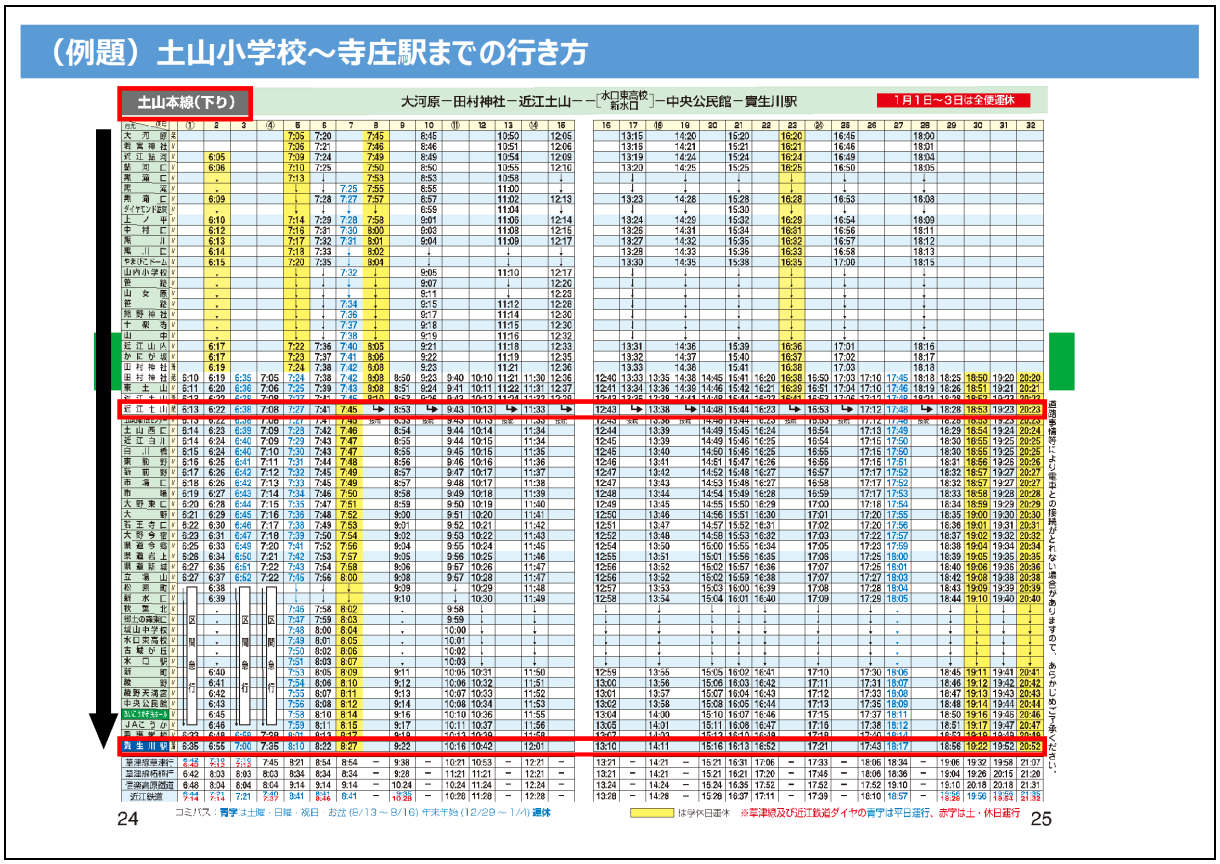


図　2-166 土山小学校６年生の授業資料（4/11）

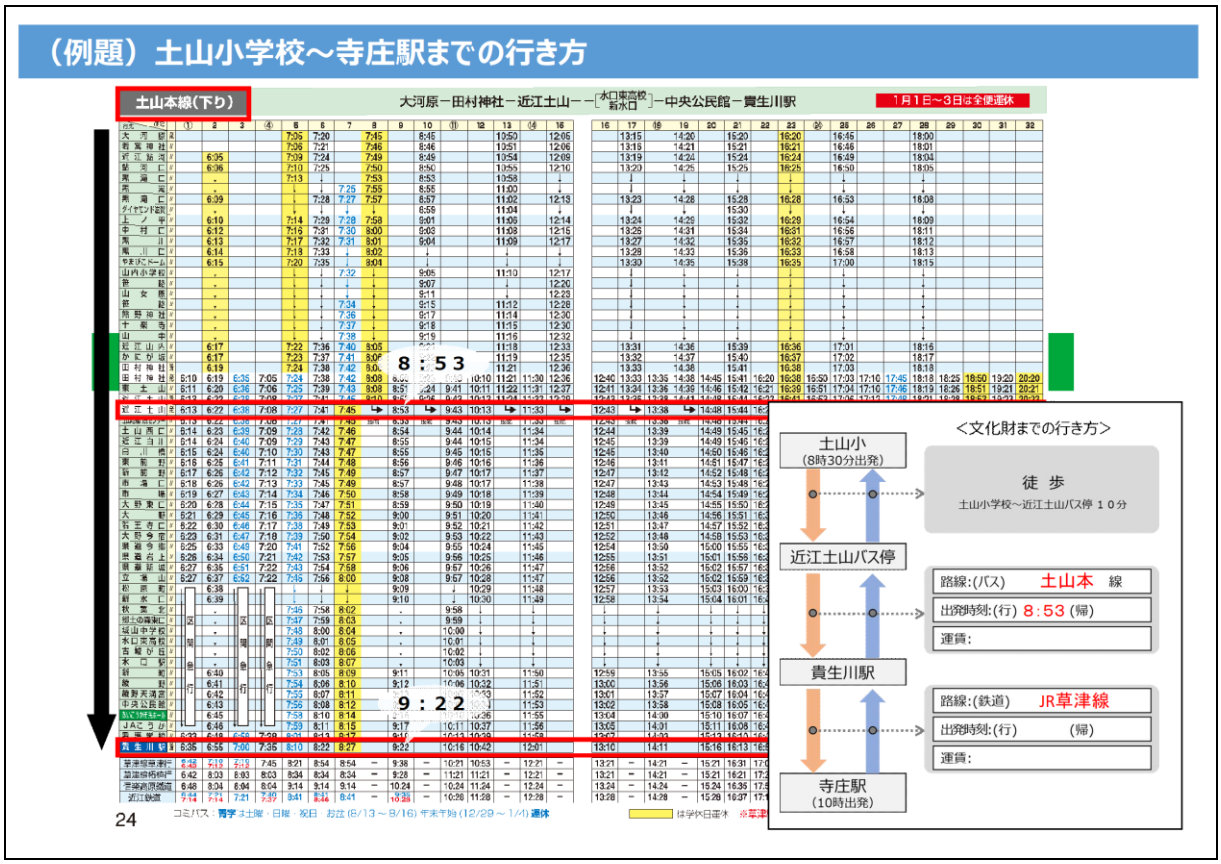


図 2-167 土山小学校６年生の授業資料（5/11）

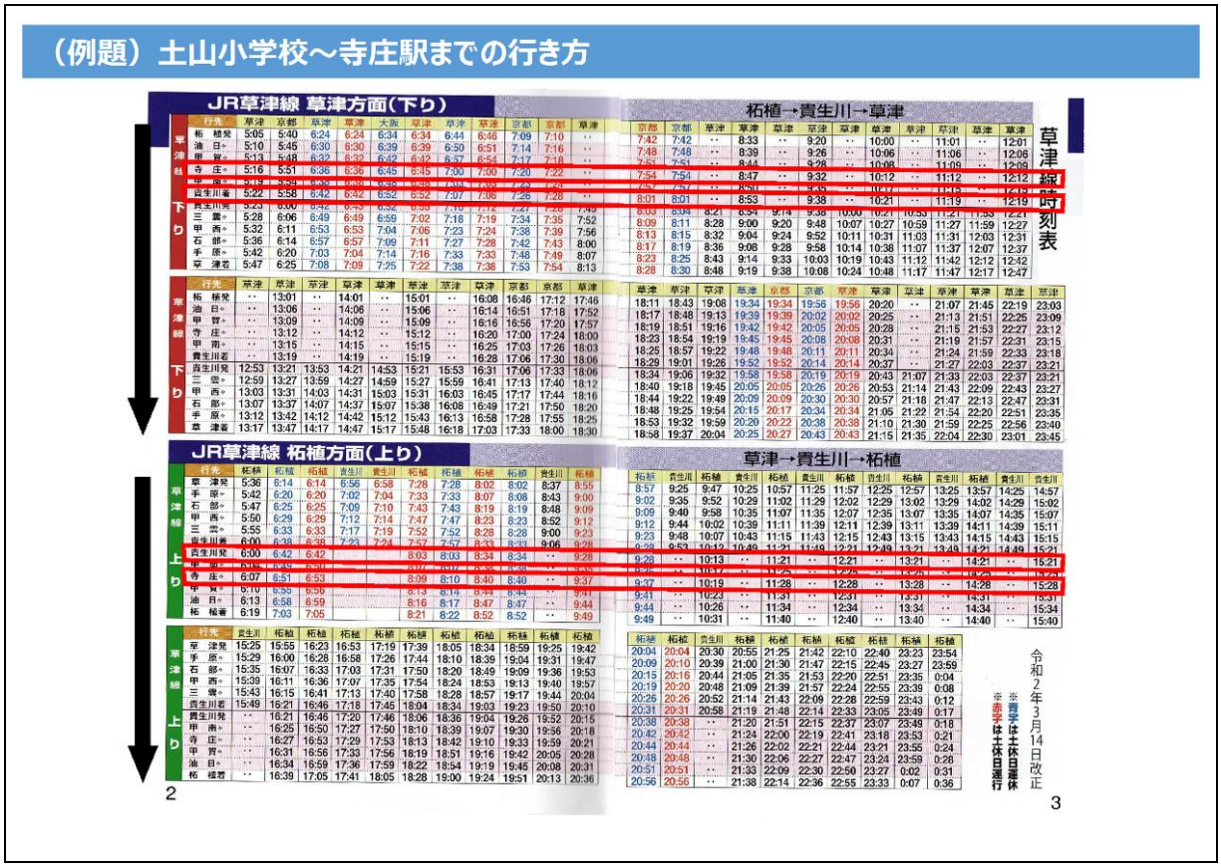


図 2-168 土山小学校６年生の授業資料（6/11）

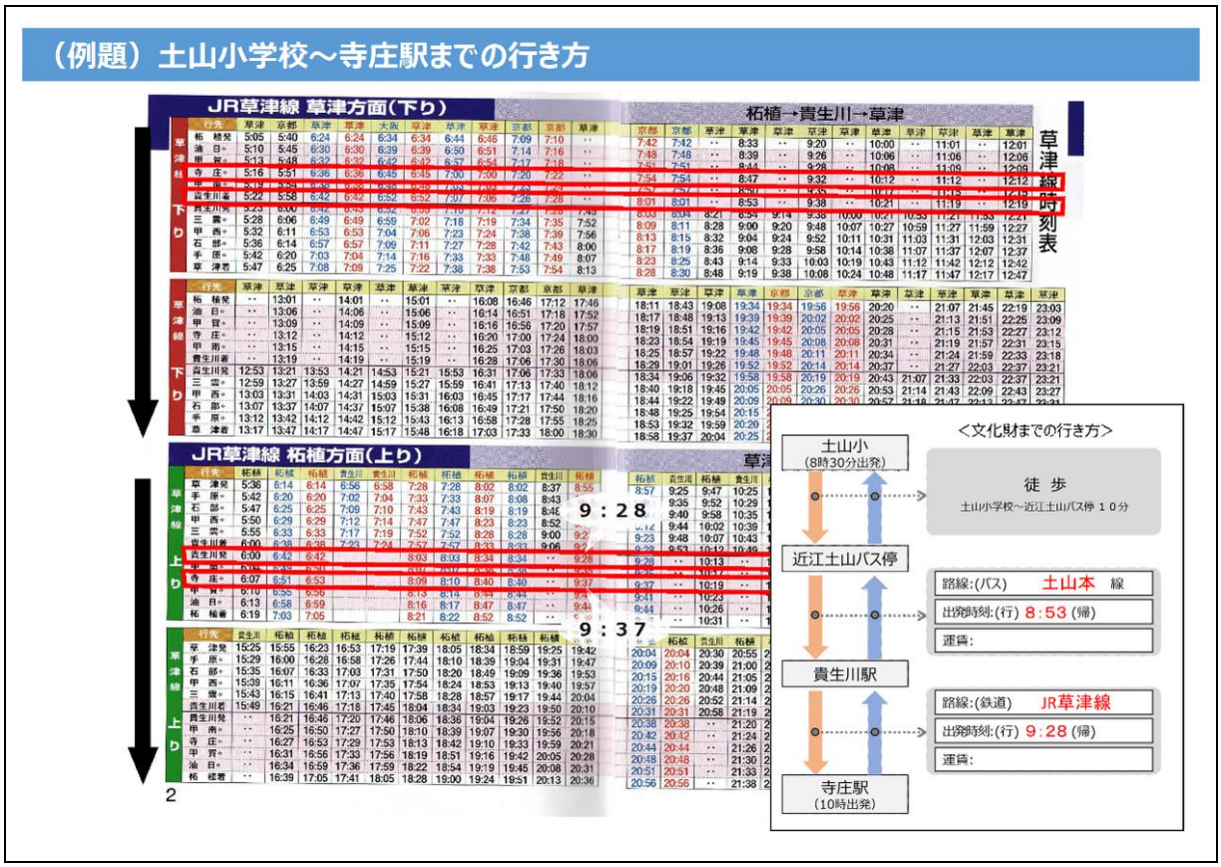


図 2-169 土山小学校６年生の授業資料（7/11）

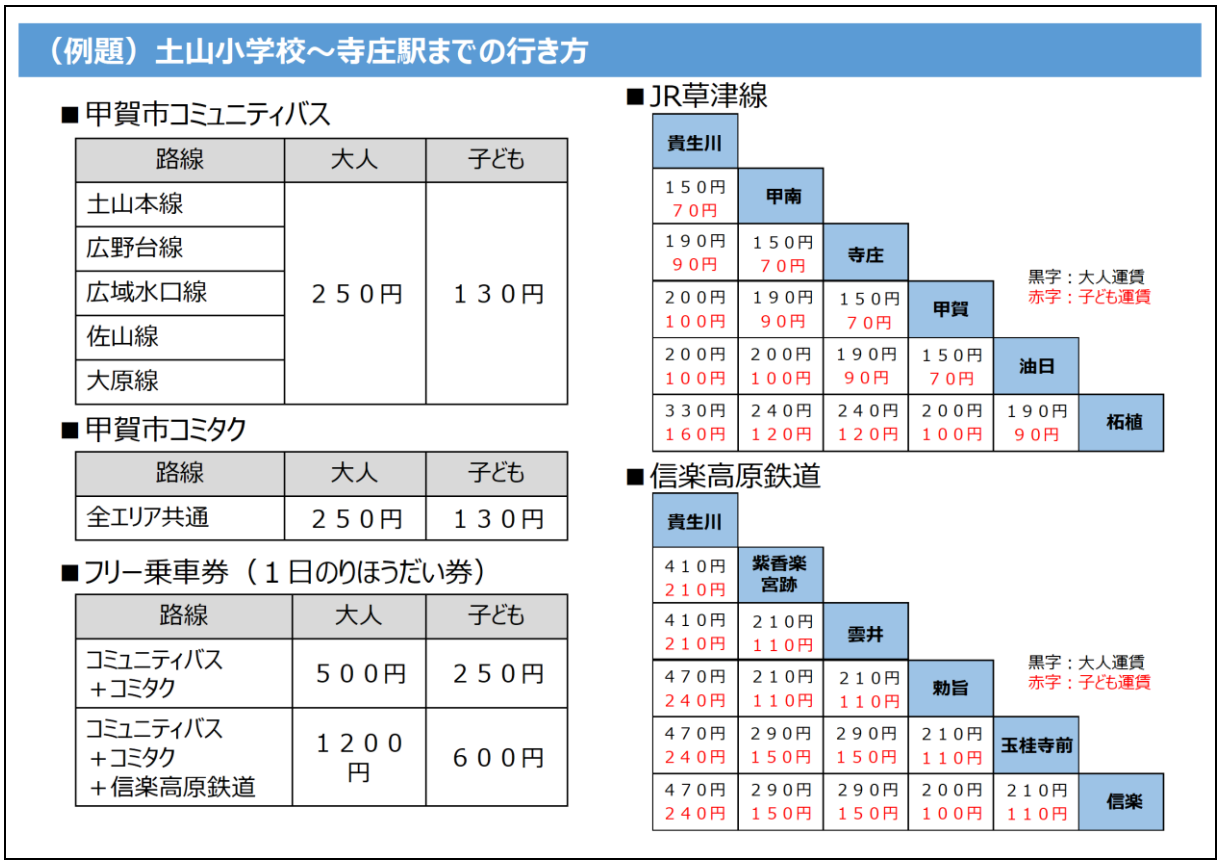


図 2-170 土山小学校６年生の授業資料（8/11）

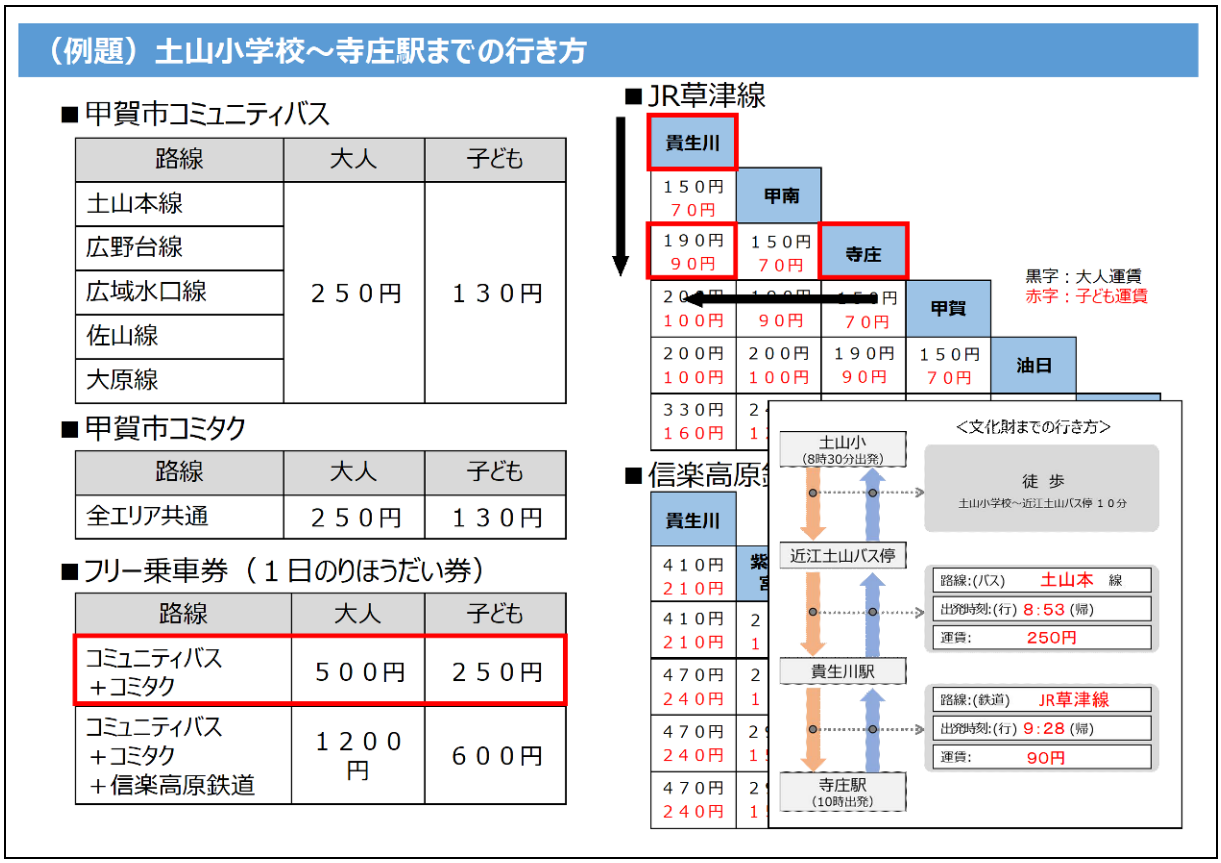


図　2-171 土山小学校６年生の授業資料（9/11）

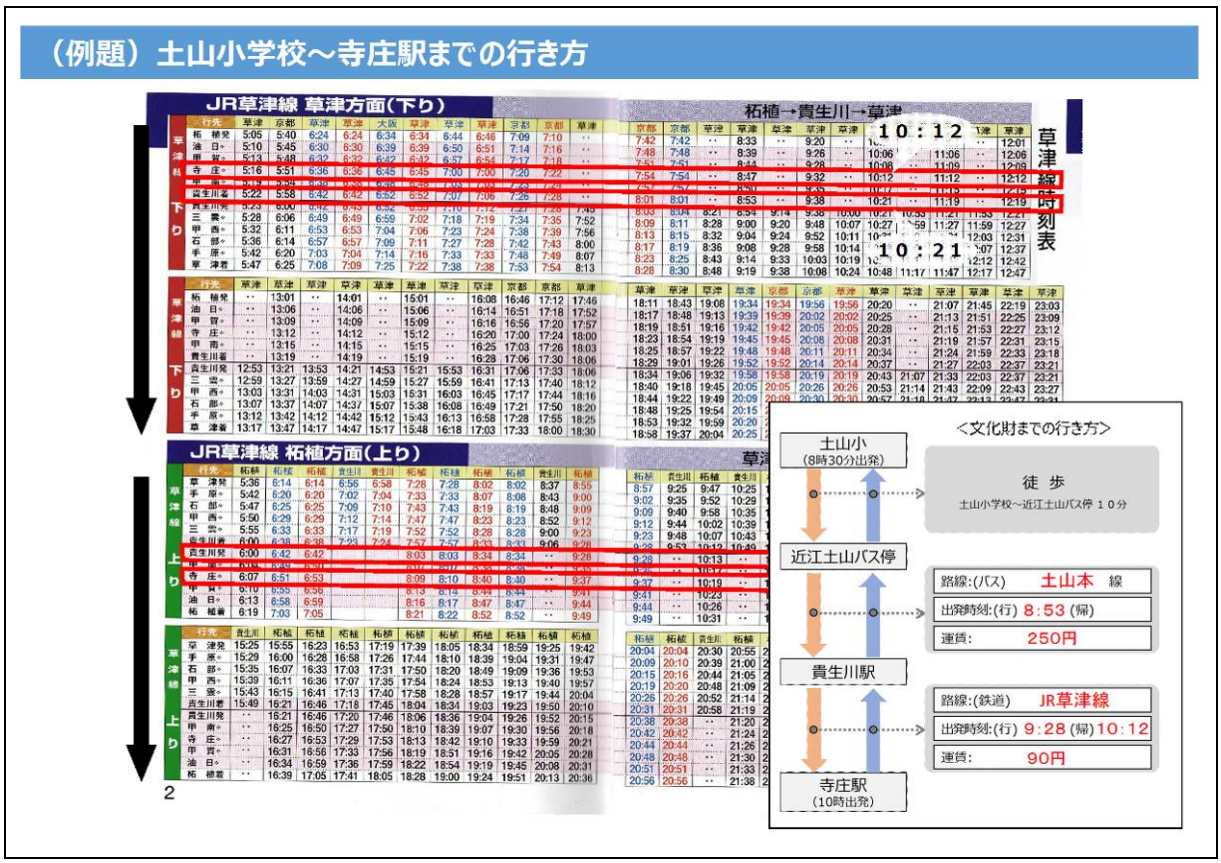


図　2-172 土山小学校６年生の授業資料（10/11）

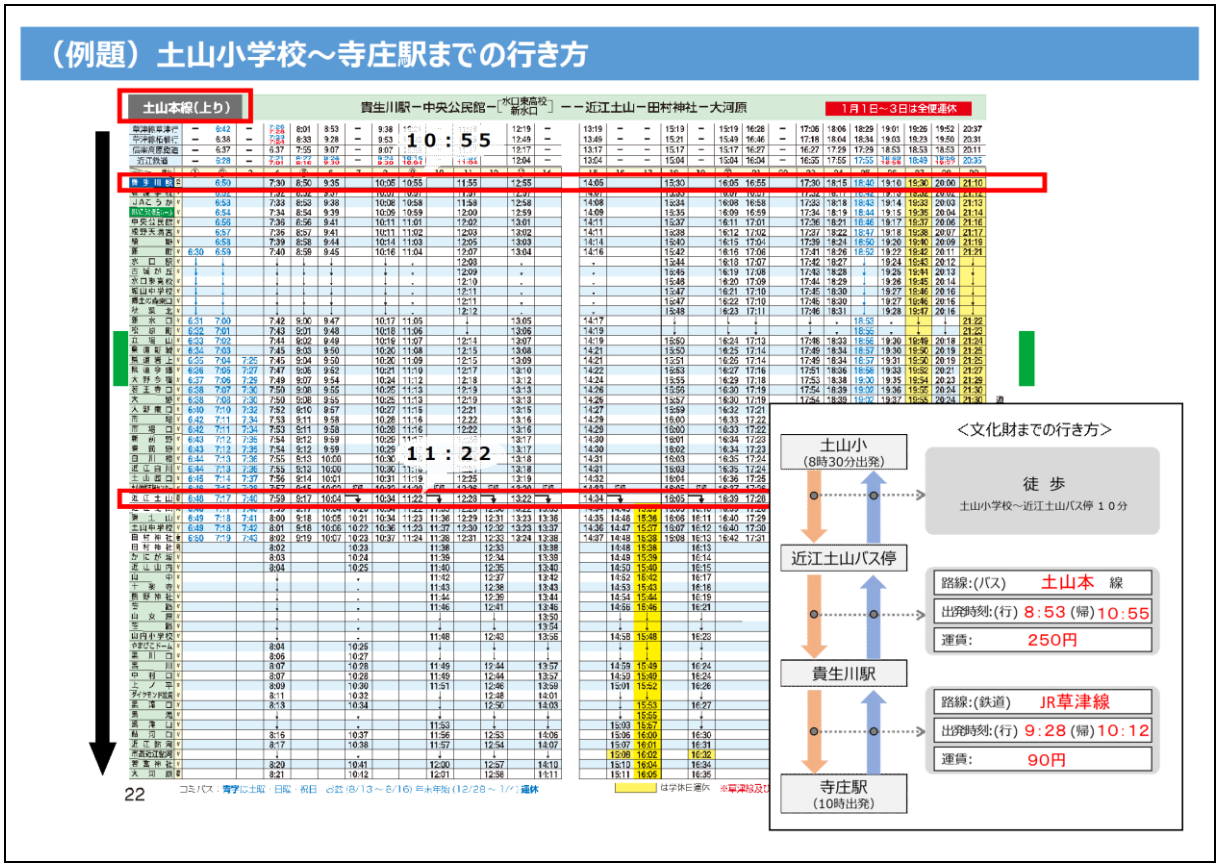


図 2-173 土山小学校６年生の授業資料（11/11）

２-２-３ 取り組みが広がっていく状況づくり

（１）体制の整理

１）目的

来年度以降の展開・進め方を検討していくにあたり、より取組が広がっていくやり方や学校に浸透・定着しやすい学習プログラムの内容について考えていく必要がある。また、今後も持続的に交通環境学習を実施していくためには、事業者や市町等と連携し、学習を実施・サポートしていく体制を構築していく必要がある。

以上を踏まえ、今後取り組みが広がっていく状況をつくるため、素材の有効活用の方法や教師に対する興味の高め方等について学校へ意見聴取を行うとともに、あわせて、今後の実施体制について事業者・市町等の考え方を把握することとする。

各者への意見聴取の方法を以下に示す。

表 ２-4 各対象における意見聴取の方法

対象	方法
学校	事業を実施した学校に対し、簡易アンケートを実施
交通事業者	車両提供等を実施した事業者と協議を実施
市町	モデル授業等を実施した市町と協議を実施

2）学校への意見聴取

（a）目的

交通環境学習の持続的な実施および発展に向け、学習プログラムで改善が必要な点や冊子による情報発信等のあり方について検討するため、授業を実施した小学校に対して簡易アンケートを実施することとした。

（b）アンケートの設問

a）考え方

今後、交通環境学習を持続的・効果的に実施していくためには、実施した教師の実態・意見を踏まえ、素材を、より単元等の学習に活用・アレンジしやすい・したくなるようなものとして整理・発信していく必要がある。これは、県や市町の授業支援の負担軽減にもつながると考えられる。

これらを踏まえて、以下の観点で調査を実施する。

○プログラム自体の評価・調整＋活用・アレンジの実態把握

⇒実施した授業の感想

⇒活用・アレンジの状況、意見

○学習の実施を促せる情報（冊子等）のあり方

⇒冊子での情報発信の分かりやすさ、考えやすさの評価

○（情報整理・発信以外も含めた）今後の発展に向けて

⇒その他のニーズ

b）確認項目

前項の考え方を踏まえ、把握が必要と考えられる事項及びアンケートで確認する項目を以下に整理する。

把握したい事項	アンケートで確認する項目
・実施した授業の感想 ・活用・アレンジの状況、意見	・交通環境学習の実施内容・感想　等 ・前後の授業でのアレンジの有無 ・また実施する場合に望む支援の組み合わせ →利用しやすい形、行政による座学の必要性の確認
冊子での情報発信の分かりやすさ、考えやすさの評価	・案内冊子や申込方法がわかりやすかったか、イメージできたか ・良かった点および工夫・改善点
その他のニーズ	・どのような単元で交通素材の活用ができるかを確認 ・その他、交通環境学習を普及させていくためのアイディア

c）調査票

学校へ配布した調査票を以下に示す

滋賀県交通環境学習に関するアンケート

Q. 今年度、県・市の支援で実施した交通環境学習について伺います。

（1）実施した交通環境学習について教えてください。

学校・学年	小学校　　年	氏 名	
実施した学習内容			
位置付けた教科・単元	（教科）　　（単元）		
この事業を知ったきっかけ	□案内パンフレット　□他学校の教師等からの口コミ　□その他（　　）		
申込みの目的・ねらい			
実施された感想	子どもたちの学習の理解度等、授業全体の感想をご記入ください。		

（2）交通環境学習の内容や提供資料・教材の工夫・改善点等があれば教えてください。

（3）実施した交通環境学習にあわせ、事前学習または事後学習等を実施しましたか。

□はい
□いいえ

どのような授業を行いましたか。また、提供した資料・教材等を活用しましたか。

交通環境学習を取り入れることで単元全体として、どのようなメリットがありましたか。

（4）もし、あなたが来年同じ学年でこの授業を実施するとしたら、どのような支援が有用と思いますか。（複数回答可）

□実物素材（車両・事業者による説明等）　□学校で座学が可能な教材データの提供　□行政の座学
□その他（　　）

Q. 交通環境学習の案内パンフレットや申込方法等について伺います。

（5）案内パンフレット冊子や申込方法はわかりやすかったですか。また、実施内容をイメージできましたか。

□わかりやすかった・イメージできた　□わかりにくかった・イメージがしにくかった

良かった点や工夫・改善点等をご記入ください



Q. その他、ご意見等について伺います。

（6）交通の素材（バス車両等）を用いることで、他に理解が深まりそうな単元があれば教えてください。

（7）その他に交通環境学習に対する要望やご意見等があれば教えてください。

ご協力ありがとうございました。

図　2-174 学校へ配布した調査票

（c）アンケート調査結果

a）実施概要

調査の考え方を踏まえ、以下の調査を実施した。
また、回答が得られた小学校・学年の一覧を次頁に示す。

表 2-5 実施概要

対象	・交通環境学習を実施した学年の代表者（申込者）：72 学年
方法	・FAX により配布・回収
回収	・55 部（回収率：約 76.4%）
実施期間	・令和３年１月下旬～２月上旬

表 2-6 回答が得られた小学校・学年一覧

市町	学校	学年	授業実施者		
			学校	市町	県
大津市	大津市立唐崎小学校	2年	○	○	○
	大津市立小野小学校	2年		○	○
	大津市立仰木の里東小学校	2年	○	○	○
	大津市立長等小学校	2年		○	○
	大津市立下坂本小学校	2年	○	○	○
	大津市立富士見小学校	4年		○	○
草津市	草津市立草津小学校	2年			○
	草津市立老上小学校	2年、特別支援学級	○	○	○
	草津市立老上西小学校	2年	○		○
	草津市立南笠東小学校	2年	○	○	○
	草津市立草津第二小学校	2年	○	○	○
	草津市立山田小学校	2年		○	○
	草津市立笠縫小学校	2年			○
東近江市	東近江市立五個荘小学校	2年		○	○
	東近江市立布引小学校	2年	○	○	○
	東近江市立愛東南小学校	2年	○	○	○
	東近江市立市原小学校	2年		○	○
	東近江市立蒲生北小学校	2年		○	
	東近江市立湖東第三小学校	2年		○	○
彦根市	彦根市立若葉小学校	2年		○	○
	彦根市立稲枝北小学校	2年		○	○
	彦根市立城南小学校	2年		○	○
	彦根市立旭森小学校	2年		○	○
	彦根市立金城小学校	2年		○	○
	彦根市立亀山小学校	2年、4年、6年		○	○
甲賀市	甲賀市立綾野小学校	2年		○	○
	甲賀市立伴谷小学校	4年		○	○
	甲賀市立土山小学校	1年、2年、3年、4年、5年、6年		○	○
長浜市	長浜市立長浜小学校	2年	○	○	○
	長浜市立神照小学校	2年		○	○
	長浜市立浅井小学校	2年		○	○
近江八幡市	近江八幡市立桐原東小学校	2年			○
	近江八幡市立武佐小学校	2年	○		○
栗東市	栗東市立大宝西小学校	2年			○
	栗東市立治田小学校	2年	○		○
日野町	日野町立西大路小学校	2年	○	○	○
	日野町立桜谷小学校	1年、2年、3年、4年、5年		○	○
守山市	守山市立守山小学校	2年		○	○
	速野小学校	2年		○	○
米原市	米原市立柏原小学校	2年			○
野洲市	野洲市立北野小学校	2年			○
豊郷町	豊郷町立日栄小学校	2年			○

b）調査結果

■回答属性

・草津市、彦根市、甲賀市の小学校からの回答が多い。
・２年生で交通環境学習を行った学校からの回答が多い。

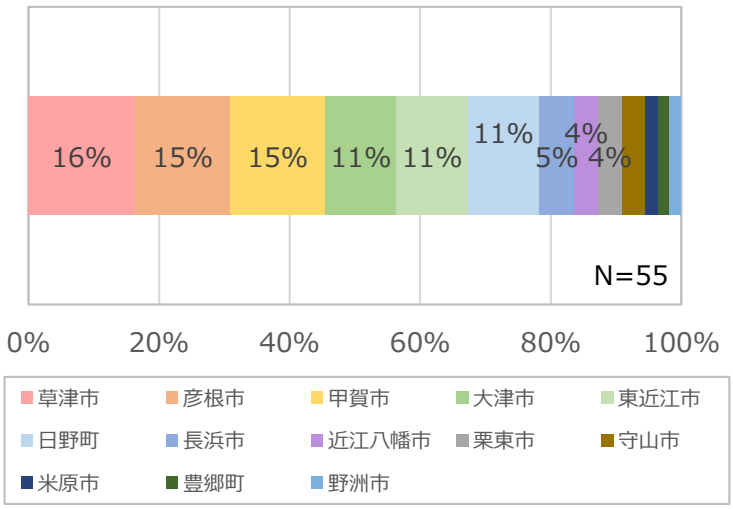
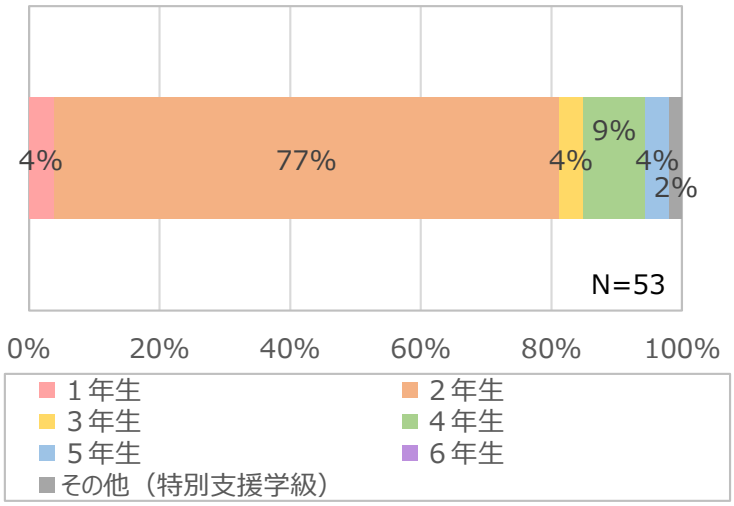
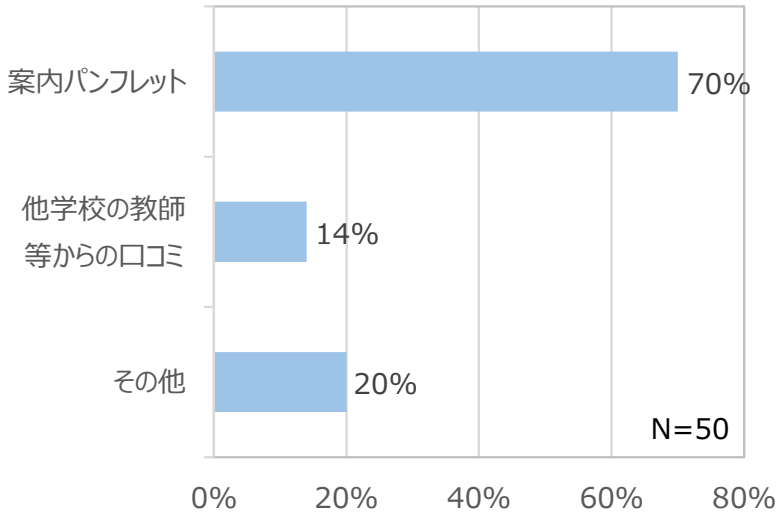
市町村	
学年	

図　2-175　回答属性

■交通環境学習の申込について

○事業を知ったきっかけ

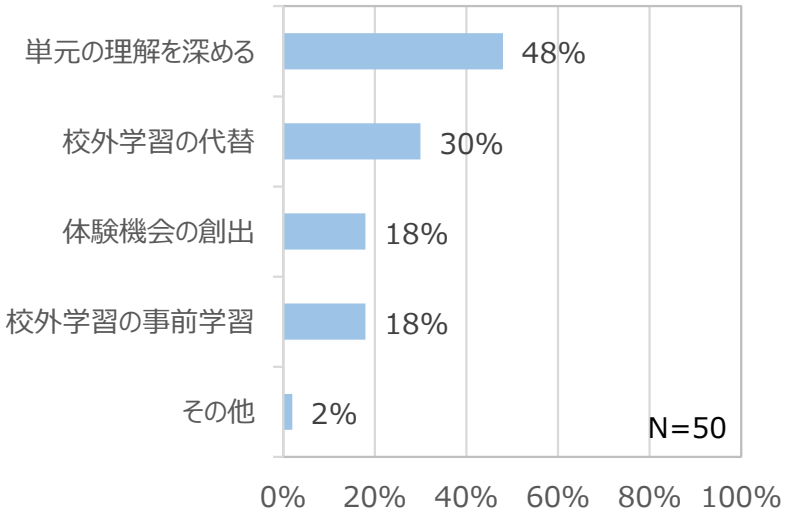
・案内パンフレットが約 7 割と最も多くなっている。
・また、その他意見として、学校内での教師同士での口コミや、市からの紹介等が挙げられている。



【その他の意見】
・学校職員からの口コミ
・市の紹介
・昨年からの継続実施
・モデル校としての実施依頼

○申込の目的・ねらい

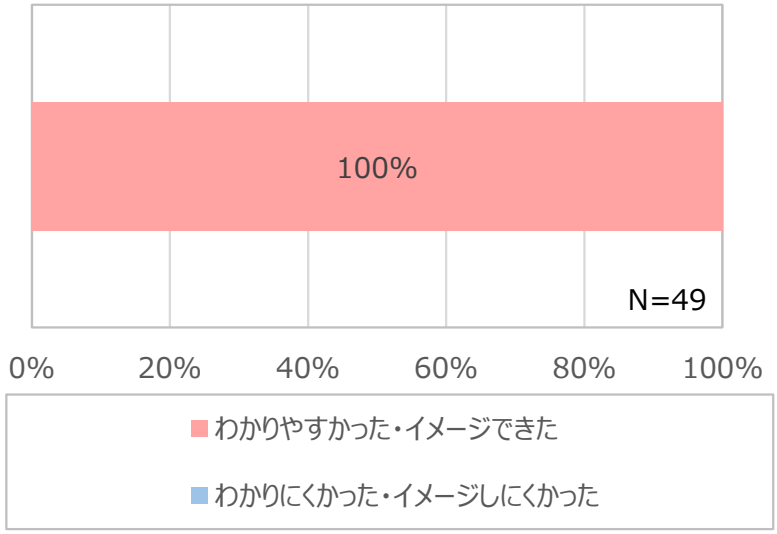
・単元の理解を深めるために申込を行ったという回答が最も多く、約半数占めている。
・また、約 3 割はコロナの影響で実施できなかった校外学習の代替授業として申込を行ったと回答している。



【その他の意見】
・例年申し込みをしているため。

○案内パンフレット・申込方法のわかりやすさ

・回答者の全員が案内パンフレット・申込方法について、わかりやすかった・イメージできたと回答している。
・良かった点として、「事例や写真があり、授業をイメージしやすかった」や、「必要な時間・人数や授業展開パターンが示されており、学習の流れが組みやすかった」等の意見がみられた。
・一方、工夫・改善点として、「印刷物の写真の見やすさ」等、レイアウト・デザインに関する意見がみられた。



【良かった点】
・各項目でどれくらいの時間・人数が必要なのかがわかるので、１時間の学習の流れが組みやすかった。
・事例がたくさん紹介されていてわかりやすかった。授業時間とどのメニューを組み合わせるとよいかがすぐわかり、計画がしやすかった。
・実際に他校で行われていた内容が分かりやすく書かれており、また、授業の様子がわかる写真がたくさん掲載されていたので、授業内容をイメージしやすかった。
・事前打ち合わせも丁寧に対応して頂き、初めての申込みでも学習内容がよくわかった。
・様々な学習素材・授業展開パターンが示されており、検討しやすかった。

【工夫・改善点】
・写真の印刷の濃さがもう少し薄いと見やすい。

図　2-176　案内パンフレット・申込方法のわかりやすさ

■交通環境学習の内容について

○位置付けた教科・単元および学習内容

・２年生は基本的に同じ内容の学習が行われているが、「まちのしせつ・くらしを学ぶ単元」や「のりものについて学ぶ単元」等、学校によって位置付けられている単元が異なっている。
・その他の学年では、社会科や総合的な学習の中で、地域学習やまちの将来について考える単元に位置付けて実施がされている。

表 2-7 位置付けた教科・単元および学習内容

教科	学年	単元	学習内容
生活科	２年	わたしたちのまちのくらし	バスの乗り方
		わたしのまちはっけん	身の回りの公共交通について、電車・バスの乗り方、マナー、乗車体験
		発見！町へとび出そう	身の回りの公共交通について、乗車体験
		もっとなかよくまちたんけん	身の回りの公共交通について、電車の乗り方、彦根市の公共交通について（彦根市のみ）
		みんなでつかうまちのしせつ	身の回りの公共交通について、乗車体験、彦根市の公共交通について（彦根市のみ）
		電車やバスにのるときは	電車・バスの乗り方、マナー、乗車体験
		のりものにのろう	身の回りの公共交通について、乗車体験
		公共の乗り物について学ぼう	身の回りの公共交通について、乗車体験
		いろいろなのりもの	公共交通の使い方、マナー
		出かけるときのマナー	身の回りの公共交通、電車の乗り方
社会科	３年	地域学習	身の回りの公共交通について、乗車体験
	４年	わたしたちの住んでいる県	鉄道すごろく
総合的な学習	３年	きまりをまもってのろう	視覚障がい者のバスの乗車について
	４年	みんなが住みやすい町の工夫を考えよう	みんなが住みやすいまちの工夫調べ
		優しい町、亀山をつくろう	―
		みんなが幸せになるために	バリアフリーについて
	５年	―	昔の湖上交通
	６年	甲賀市を学ぶ	交通機関を使って歴史施設を訪ねる
		未来へつながろう～今の自分から未来の自分へ	キャリア学習
学活	１年	みんなが気持ちよく	バスやバス停でのマナー
		―	身の回りの公共交通について、乗車体験
その他	４年	―	身の回りの公共交通について、公共交通がなくなるとどうなるか

○実施した学習の感想

・「実物素材用いた学習により子供達が実感をもって取り組め、理解が深まった」や、「クイズや写真・画像を用いた座学は子どもたちにもわかりやすい内容となっていた」等の意見がみられた。
・また、「実際に公共交通を利用してみたいという子どもたちの感想みられた」というように、交通環境学習が利用促進に寄与していると考えられる意見もみられた。

表 2-8 主な実施した学習の感想

教科	学年	学習内容	感想
生活科	2年	身の回りの公共交通について、電車・バスの乗り方、マナー、乗車体験	・実際のバスを観察し、設備や機械の説明を受け、乗車体験させていただいたことで、児童は興味深く学習し、理解度も相当上がっていた。
			・券売機の実物大の掲示物はインパクトがあり効果的であった。何度か体験することができ、校外学習ではスムーズに切符を買うことが出来た。
			・実物サイズの模型を使ったり、実際にバスに乗ることが出来たりと公共交通機関が少ない地域なので、子供達も意欲的に取り組み、学びも多かった。
			・実物のバスを見ながら学んだことにより、一つ一つの工夫を納得しながら学ぶことが出来て良かった。
			・実際にバスに乗ったり、周囲を見たりしながら受けた説明は印象に強く残っていた。座学では公共交通利用のマナーの大事さが強く響いたようで、まとめの学習で発言している子供が多くいた。
			・自分で券を買ったり乗ったりして、今後もまた乗ってみたいという声も多くあった。沢山の方に見守っていただき、案内も丁寧で安心して体験できた。
			・実際に一人一人体験したことで、切符の買い方がよくわかり、「ぜひ本当にやってみたい」と感想に記入する児童が多かった。
			・パワーポイントを使った座学もわかりやすく、環境についての内容が印象に残った子どもが多かった。家でも話題にした子供もいたようである。
			・クイズや画像等、工夫して説明頂いたので、子どもたちの集中も続いた。
社会科	3年	地域学習	・子どもたちは楽しく学んでいた。
	4年	鉄道すごろく	・すごろくを通して、楽しく学び、もっとやってみたいという児童が多くみられた。
総合的な学習	3年	視覚障がい者のバスの乗車について	・大きなバスを目の前にして、どの児童も目を輝かせていた。実際に体験することで、目が不自由であることに寄り添えたと思う。
	4年	みんなが住みやすいまちの工夫調べ	・普段からよく目にするバスにも、たくさんの工夫や優しさがあることを実感することが出来た。またさらに、改善していくためにはどうしたらよいのか、子供たちなりに考え、まとめることができた。
		バリアフリーについて	・バスが傾いたり、実際に車いすを使用しての乗車やアイマスクをしての乗車等をさせてもらえたので、子どもたちは実感を伴って理解できてよかった。
	6年	キャリア学習	・自分たちの身近に関わる人々の働くことの考えを知り、働くことの喜びを実感しているようだった。
		交通機関を使って歴史施設を訪ねる	・事前学習から学ぶことが多く、有意義だった。
学活	1年	身の回りの公共交通について、乗車体験	・路線バスや電車に乗らないので、1年生にとってはイメージしにくかったが、バス通学の子供がいるので、全体としては話をよく聞いていた。
		バスやバス停でのマナー	・実際にそのシーンごとに合わせたシチュエーションで大変分かりやすかった。

○学習内容や提供資料・教材の工夫・改善点

・学習内容では、「座学の内容がわかりにくい・イメージしにくい」や、「子どもたちの質問に答える時間や子供たちが考え話し合う時間が必要」等の意見がみられた。
・また、「バス車両が敷地に入らない場合の体験の仕方」や、「模型が利用できない場合の券売機体験の工夫の必要性」等、実物素材を用いた体験の改善点に関する意見もみられた。

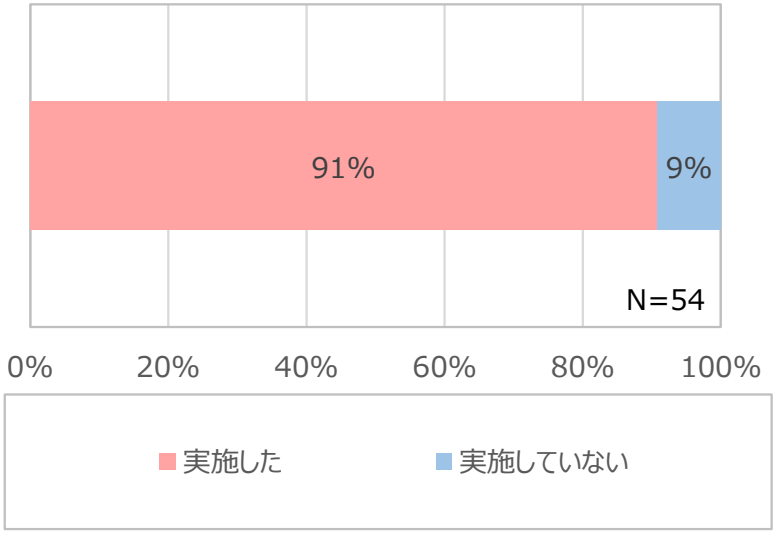
表 2-9 学習内容や提供資料・教材の工夫・改善点

学校・学年	工夫・改善点
東近江市立 市原小学校・２年	少し内容を詰め込みすぎていたので、もう少し削って、子供たちからの疑問に答える時間があったほうが良かった。
長浜市立 神照小学校・２年	バスのたんけんたいのプリントは２年生には記入しにくかったので、あまり活用できなかった。
彦根市立 稲枝北小学校・２年	話を聞くだけだと集中を維持することが難しいため、クイズや子どもたちが実演する場面をつくっていただくと、学習に意欲的に取り組めるのではないかと感じた。
草津市立 山田小学校・２年	時間が足りなかったので、もう少し話を聞いたり、質問する時間があれば良かった。
草津市立 老上西小学校・２年	一方的に説明するだけでなく、クイズ形式の話だと意欲的に子どもたちが参加できると感じた。
彦根市立 城南小学校・２年	・学習時に使用した資料や振り返りが行える資料をクラス分頂けると有難い。 ・バスが校舎敷地内で移動が少ないと良かった。ICOCA カードの説明をもっとしてほしかった。
豊郷町立 日栄小学校・２年	券売機の体験はポスターを押すだけだったので、子どもたちが飽きてきてしまう。学校に木枠があったので、それを利用したが、簡単なものでいいので、もう少しリアルに体験が出来たらよい。
米原市立 柏原小学校・２年	JR・私鉄の種類については、小学校２年生ということもあり、イメージがしにくそうだった。
彦根市立 金城小学校・２年	座学の内容が難しく、子どもたちの理解が追いついていなかったので、もう少し簡単な内容にしてほしい。
草津市立 笠縫小学校・２年	小学校の立地として、バス車両が入らず、実際に体験することができないため、そのような学校にも体験できるような手立てがあると有難い。（例えば、違う場所を借りて体験する等）
日野町立 桜谷小学校・５年	交通環境学習の授業内容と、バス事業者のお話しが同じ内容だったので違うことを話してほしい。また、バスガイドさんの説明が一方的で、時間も延びてしまった。講和ばかりでなく、子どもたちが考えたり、話し合ったりと自主的に取り組めるようにすればさらに充実するのではないかと感じた。
甲賀市立 土山小学校・２年	実際のバスの乗車体験では、乗客の密度が高く、コロナ状況下においては、子ども同士の感染や同乗している人の感染が不安である。密度を低くする工夫が必要。
甲賀市立 土山小学校・４年	今回のすごろくの発展バージョンとして、伝統工芸編や歴史建造物編などに展開することも可能だと感じた。
甲賀市立 土山小学校・５年	土山はびわ湖からは遠く、〇〇浦などの地名になじみがなく、子どもの実態に合わせ、内容を工夫する必要があると感じた。

○実施内容にあわせた事前・事後学習

① 事前・事後学習の実施有無

・約 9 割が交通環境学習にあわせ、事前・事後の学習を実施したと回答している。



② 事前・事後学習の内容

・事前学習では、当日の学習の理解がしやすくなるよう、事前に学習の内容を説明している学校もみられた。
・事後学習では、基本的に提供資料・データを用いた振り返りの学習が行われているが、「周辺バス停や路線図等を題材にした教材」や「券売機等の模型」等を独自に作成し学習を行っている学校もみられた。

表 2-10 主な事前・事後学習の内容

教科	学年	学習内容	感想	
生活科	2年	身の回りの公共交通について、電車・バスの乗り方、マナー、乗車体験	事前	・どのような内容の学習をするか説明を行った。
				・乗り方、券売機の使い方等について簡単な説明を行った。
				・駅の写真を示し、イメージを持てるように事前指導をした。
				・仙台市の HP からバスの乗り方の動画を見たり、生活の教科書の「出かける時のマナー」（p114,115)を読んで学習した。
			事後	・提供頂いた資料や児童の記録を取ったノートをもとに、バス・電車の路線や乗り方、マナーについて振り返りの学習を実施した。
				・提供頂いた券売機のポスターを使って切符の購入を練習した。
				・近くのバス停や JR 駅の写真等の画像を利用し、草津小独自の PPT を作成して学習した。
				・券売機を手作りし、お金を入れて切符を買う練習をした。
				・生活科の教科書にある「電車やバスに乗るときは」の写真資料等を使って、乗車手順や利用マナー等について考えた。
				・学校周辺地図を見せながら、線路の確認を行った。また、KJ 法を用いて公共のルールを学習した。
				・感想文を書き、振り返りを行った。
				・交通環境学習後、校外学習に行き、公共の乗り物や施設のルールやマナーを確認した。
				・今までの生活と公共交通とのつながりを考える学習を行った。
社会科	4年	鉄道すごろく	事後	・教材をそのまま活用し、もう一度すごろくを実施した。
総合的な学習	3年	視覚障がい者のバスの乗車について	事後	・ステップバスとノンステップバスの違いや、学習して感じたこと、初めて知ったことをまとめた。
	4年	みんなが住みやすいまちの工夫調べ	事後	・みんなが使いやすい未来のバスを考えた。
		バリアフリーについて	事後	・アイマスク、白杖を使った更なる学習を行った。また、自分の心を揺さぶったことに関して、さらに深く調べ新聞にまとめた。
	5年	昔の湖上交通	事後	・フローティングスクールに合わせて、人とびわ湖でのかかわりについての学習を行った。
	6年	キャリア学習	事後	・働く人の考えについて意見交換を実施した。
		交通機関を使って歴史施設を訪ねる	事後	・ゲストティーチャーとして来ていただき、時刻表の見方やルート確認を行った。
学活	1年	バスやバス停でのマナー	事後	・正しいバスの乗り方、バス停での待ち方をもう一度子どもたちと確認した。
その他	5年	身の回りの公共交通、公共交通がなくなるとどうなるか	事後	・公共交通マナー、電車の乗り方、駅にはどのようなものがあるか、どんな人が利用しているのかをパワーポイントを使って学習した。

○実施による単元全体でのメリット

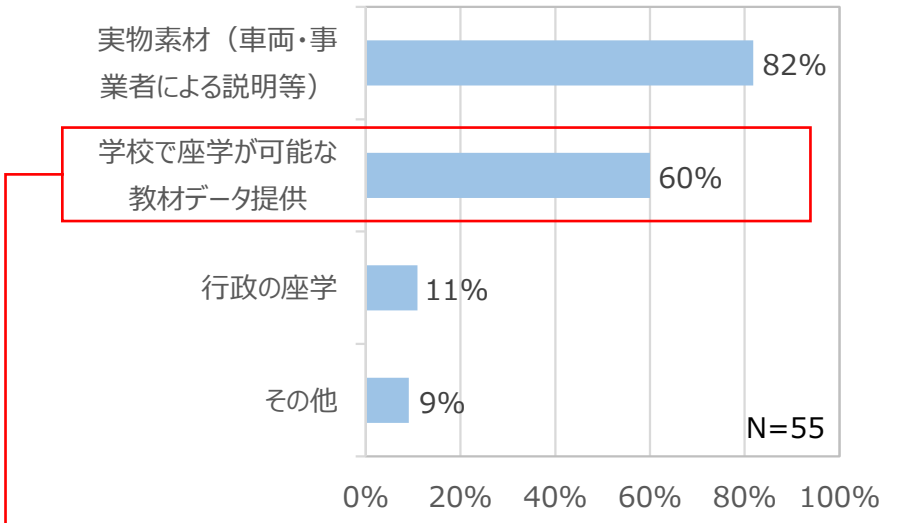
・学習のメリットとして、「体験を取り入れることで、子どもたちが意欲的に学習に取り組める」や「学習した内容を実際に体験し、実感をもつことで、より理解が深まる」等の意見がみられた。
・また、「公共交通の利用機会が少ない地域でも、公共交通を身近に感じてもらえた」や「公共交通を実際に利用する等、学習が生活に活かされていた」等、利用促進にもつながるメリットも見られた。

表 2-11 主な実施による単元全体のメリット

教科	学年	学習内容	実施による単元全体のメリット
生活科	2年	身の回りの公共交通について、電車・バスの乗り方、マナー、乗車体験	・実物を見て、説明を受けたり体験したりすることで、授業がいきいきとし、活発さが増した。
			・生活科「公共の乗り物について学ぼう」では、外部からの講師のお話を聞くことで、単元全体を通して意欲的に学べた。
			・コロナの影響で校外学習に行けなかったが、今回の学習で2年生でしか学べない学習を逃さずに行えた。
			・身の回りの生活で駅を利用することが少ない地域なので、子どもたちの視野が広がった。
			・校外学習の際、学んだことを活かして、マナーを守って公共交通機関を利用できた。また、いろいろな話を聞く時に、環境学習で聞いたことを結び付け、より理解が深まった。
			・公共交通について、みんなのために仕事をしてもらっているという意識を育むことができた。
			・教科書や町たんけんで公共施設を学習したので、交通環境学習で電車やバスが公共物であることを理解できた。
			・実際のバスでの体験が今後の生活に繋がる良い経験となった。
			・実際に電車やバスを利用してどこかへ行きたいという子が多くなった。また、中には、家族で実際にでバス・電車に乗った子もいた。
			・公共交通について詳しく知ることができ、自分たちの近くにあるものだという意識・実感が持てた。
社会科	4年	鉄道すごろく	・教科書だけではわからない、滋賀の魅力に気づくことが出来た。
総合的な学習	3年	視覚障がい者のバスの乗車について	・より視覚障がい者の気持ちを考えることが出来た。
	4年	みんなが住みやすいまちの工夫調べ	・具体的な町の工夫を実感することが出来た
		バリアフリーについて	・本で学んだことが実体験出来て良かった。また、バスを利用することは、彦根の子どもたちはあまりないので、良い体験になった。
			・実際に体験することで、今後の自分の行動や考え方を具体的に考えることが出来るようになった。
	6年	キャリア学習	・働く人々の考えを知ることで、働くということに多角的な視点で取れえることが出来た。
		交通機関を使って歴史施設を訪ねる	・地域の交通を知り、使おうとする意識がでた。
その他	5年	身の回りの公共交通、公共交通がなくなるとどうなるか	・興味関心をもって取り組むことが出来た。校外学習前に家族で同じコースを体験される子どももいた。

○来年も同じ学年で授業を実施する場合に有用と考える支援

・回答者の約 8 割が車両等の実物素材提供が授業実施に有用と考えている。
・また、学校で座学が可能な教材データ提供が有用と考えている人は約 6 割を占めているが、その内、約 9 割が行政の座学はなくてよいと考えている。



【その他の意見】
・クラス分のパンフレット配布
・実際の券売機を使用した体験
・時間・内容等の詳細な打合せ

図 2-177 来年も同じ学年で授業を実施する場合に有用と考える支援

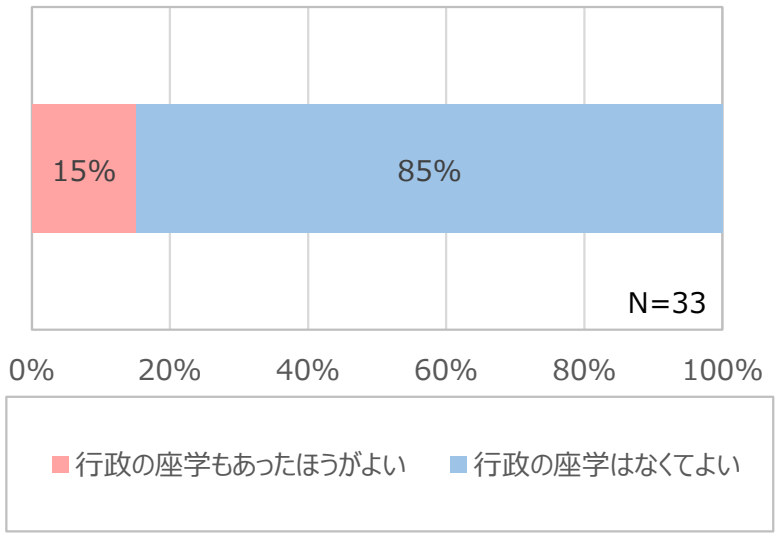


図 2-178 行政による座学の必要有無

○その他に交通素材が活用できそうな単元・内容

・学校によっては既に実施されている単元も多いが、新たに活用できそうな単元として、「1 年国語の自動車くらべ」や「外国語」等が挙げられている。

表 2-12 交通素材が活用できそうな単元・内容

学年	教科	単元・内容	理由
1 年	国語	自動車くらべ	―
2 年	生活科	まちたんけん	・バスに乗った経験のある児童が少なく、町を歩くときにバス停を意識していない。学習に取り入れると興味を持ち、関心・意欲が高まる。 ・学区が広く、歩いて行ける所が少ない。
3 年	社会科	地域学習	―
4 年	社会科	滋賀県の学習、郷土の学習	―
その他	総合的な学習	福祉学習・バスの中のバリアフリー	―
	外国語	―	―

3）事業者への意見聴取

（a）実施概要

意見聴取の実施概要を以下に示す。

表 2-13 意見聴取の実施概要

項目	日時	内容
事業者向け説明会	令和２年 ９月２日（水）	○交通環境学習について ・事業の目的 ・授業の内容 ・今年度の申込状況 ○乗車体験の授業におけるコロナ対策 ・手配する車両の大きさについて ・留意事項
バス協会との協議	令和３年 ３月３日（水）	・来年度の授業内容について ・来年度の実施校数について

（b）実施結果

事業者向け説明会及びバス協会との協議での主な意見を以下に示す。

意見聴取では、「たくさんの学校で授業を実施し一定のノウハウが身に着いた」や、「交通環境学習は効果的な取組なので、引き続き協力したい」というような意見がみられた。これを踏まえると、実施回数増加に伴う経験の蓄積により、一定の実施体制の構築・連携が図れてきていると考えられる。また、コロナの影響もあるが、来年度以降についても交通環境学習への協力が得られることから、さらなる実施体制強化・連携向上を図っていくことが求められる。

表 2-14 主な意見

・今年度は実施小学校が多く、またこれまで継続的に実施してきた経験から、授業準備・調整がスムーズに行えるようになってきており、ある程度のノウハウは身に付いてきたと思う。 ・利用者の中には、路線バスがどんなものか知らず、定刻で運行するものなのに「何故待ってくれないのか」という苦情も多い。小さい頃からバスに触れ学ぶ機会は貴重で効果的と思うので、来年度以降もできる範囲で引き続き協力させて頂きたい。 ・しかし、今年度は観光バスの利用が少なかったため、多くの授業に協力することができた。来年度観光バスの需要がまた増えたら、どこまで協力できるかはわからないが、状況を見ながら実施・協力させて頂きたい。

4）市町への意見聴取

（a）実施概要

意見聴取の実施概要を以下に示す。

表 2-15 意見聴取の実施概要

項目	日時	内容
市町担当者会議	令和３年 3月２４日（水）	・交通環境学習について ・今年度の授業実績および事例紹介について ・小学校への授業後アンケート結果について ・来年度の交通環境学習について

（b）実施結果

市町担当者会議での主な意見を以下に示す。

市町の地域交通計画の利用促進の取組として交通環境学習の実施を定めている市町もあるなど、年を重ねるごとに積極的に関わっていただく市町は増えてきている。しかし「市町だけで資料作成・授業実施を全て対応するのは難しい」といった意見もあり、来年度以降についても、県も市町と協力しながら実施・サポートしていくことが必要であると考えられる。また、交通環境学習の効果を明確にする必要もあることから、今後は効果を見える化するための仕組みづくり等も必要であると考えられる。

表 2-16 主な意見

・市町によっては交通環境学習の担当者が少なく、多くの学校から申込があった場合、全て対応するのは難しいので、県にも協力をお願いしたい。 ・自家用有償や複数市町で運行されている路線等もあることから市町の特性に応じた内容で授業をする必要がある。 ・交通環境学習が利用促進や運転手の担い手につながる取組みとして効果があるのかを把握する仕組みも今後は必要である。

第３章　交通環境学習実施校における
授業の実施

－ 目 次 －

３．　交通環境学習実施校における授業の実施 ３-1

３-１ 授業実施 ３-1
３-１-１ 導入（取り込みやすい素材整理） ３-1
３-１-２ 拡大（交通から学習を深める素材整理） ３-8
３-１-３ 発展（体験的活動等の事例づくり） ３-26
３-１-４ 実施・試行の結果 ３-40

３-２ 今後の進め方 ３-41
３-２-１ Ｒ２年度の実施・試行内容、結果のまとめ ３-41
３-２-２ 結果を踏まえた今後の展開・進め方 ３-42

３．交通環境学習実施校における授業の実施

３-１ 授業実施

３-１-１ 導入（取り込みやすい素材整理）

（１）土山小学校１年生･生活科 交通安全学習

１）学習の流れ

実施した学習の内容を以下に示す。

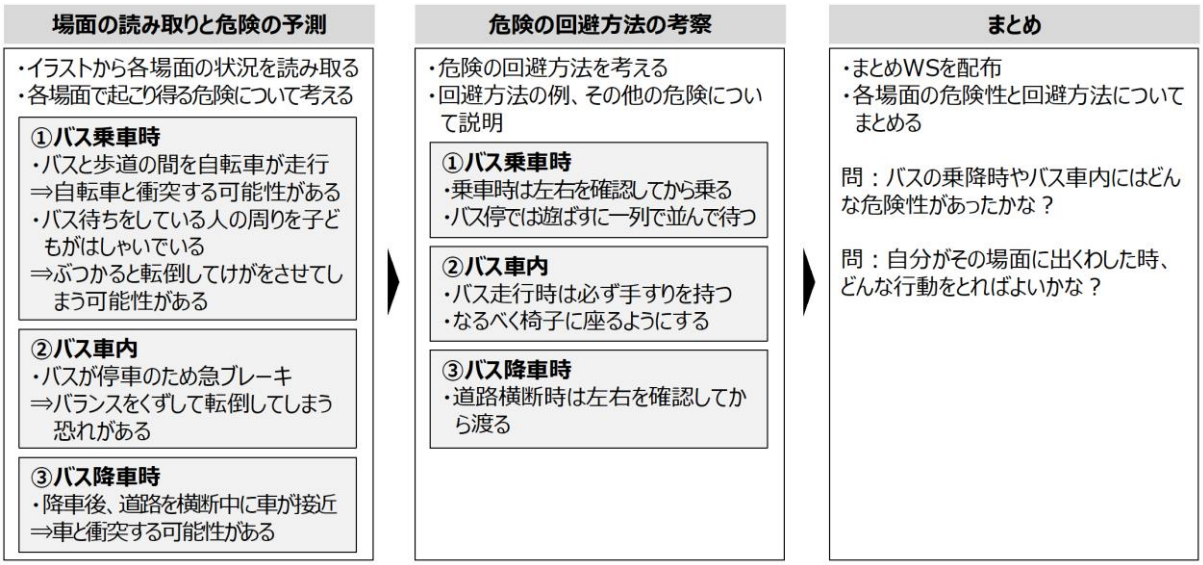
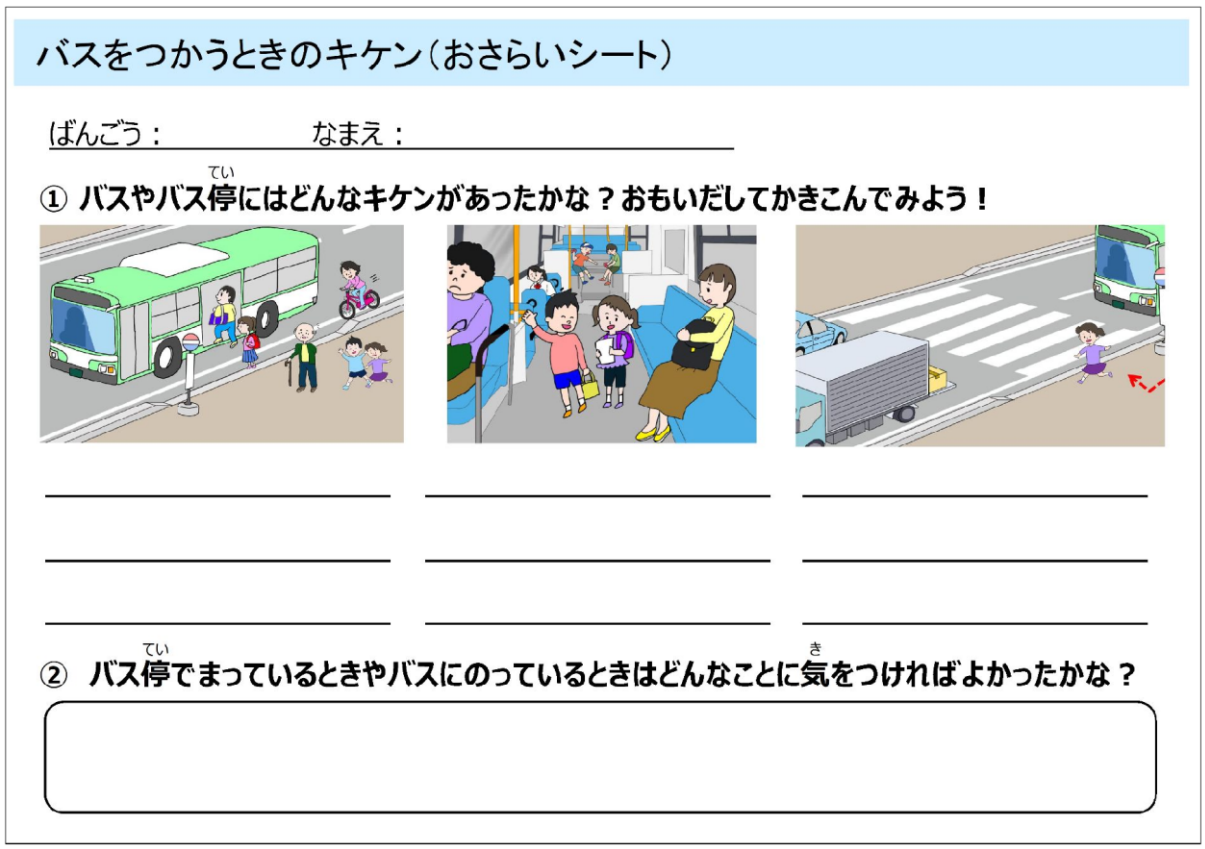


図 3-1 土山小学校１年生の授業の流れ（再掲）

2）実施結果

（a）ワークシートの作成･提供

作成した以下のような、授業で学習したバス･バス停での危険及び気を付けることを振り返るためのワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。



バスをつかうときのキケン（おさらいシート）

ばんごう：　　なまえ：

① バスやバス停にはどんなキケンがあったかな？おもいだしてかきこんでみよう！

② バス停でまっているときやバスにのっているときはどんなことに気をつければよかったかな？

図　3-2　土山小学校１年生のワークシート（再掲）

（b）授業の実施

学校の最寄りのバス停を題材に、起こり得る危険を予測し、その危険を回避するためのバス停での待ち方やバス車内の過ごし方について理解してもらうための授業を行政（滋賀県・甲賀市）が実施した。授業の様子を以下に示す。



図　3-3　土山小学校１年生の授業の様子（1/3）



図　3-4　土山小学校１年生の授業の様子（2/3）



図　3-5　土山小学校１年生の授業の様子（3/3）

3）結果についてのヒアリング

授業実施後、取組の感想等についてヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表　3-1　ヒアリング結果

ヒアリング対象	校長先生、教頭先生、１年生担任教師
ご意見	・イラストやアニメーションを用いて説明したことで、1 年生でも飽きることなく、バスの待機時、乗車時の危険性についてしっかりと理解することができた。 ・また、自分たちに身近な近江土山バス停を題材にしたこともあり、より子どもたちの興味を促すことができたと思う。 ・授業の間もヒントを出す前から、危険事象の予想について発言がみられる等、積極的に取り組めていた。 ・例年、警察による交通安全学習も実施していることから、今後、本格的に実施していく場合は、県警との調整等が必要である。

（２）土山小学校２年生・生活科　乗り方教室

１）学習の流れ

実施した学習の内容を以下に示す。

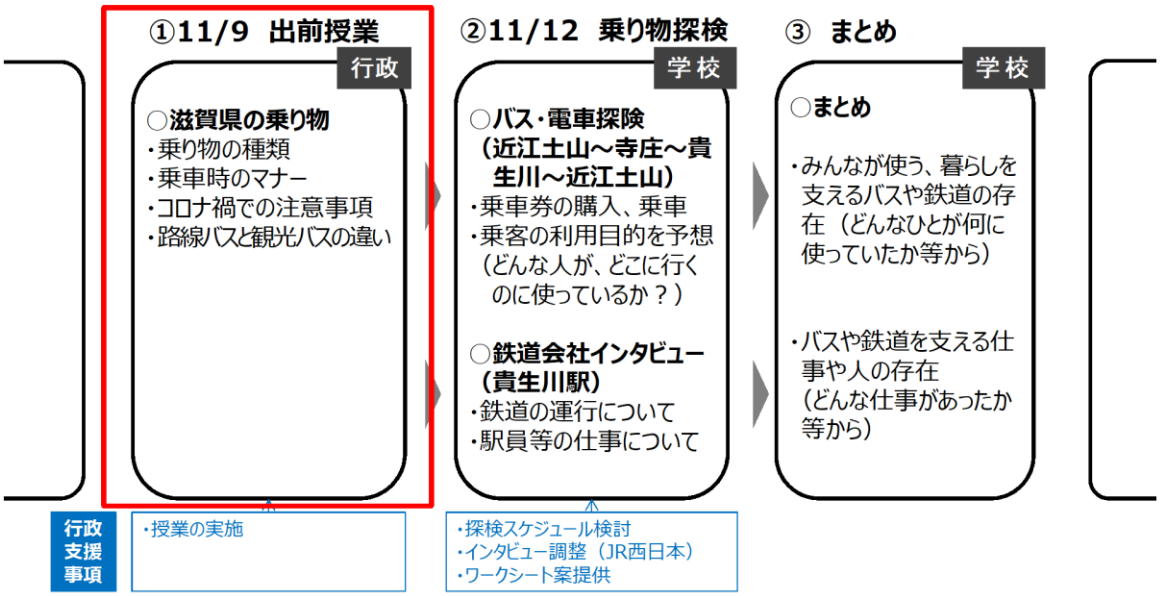


図　3-6　土山小学校２年生の授業の流れ（再掲）

2）実施結果

身の回りにある乗り物から公共交通の存在や、利用する際のマナー等を理解してもらうための授業を行政（滋賀県）が実施した。授業の様子を以下に示す。



図　3-7　土山小学校２年生の授業の様子（1/2）



図　3-8　土山小学校２年生の授業の様子（2/2）

3）結果についてのヒアリング

授業実施後、取組の感想等についてヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-2 ヒアリング結果

ヒアリング対象	校長先生、教頭先生、2年生担任教師
ご意見	・発展学習で乗り物探検を実施した際、途中で高齢者の方が乗車してきたが、子どもたちが自ら席を譲っていた。乗り方教室で学んだ内容がしっかりと身についており、実体験に活かすことができていた。 ・バス通学を行う子どもたちの利用マナーの悪さが小学校としても生徒指導上の課題となっていたが、乗り方教室の学習を通して子どもたちのマナーの改善も図れた。

3-1-2 拡大（交通から学習を深める素材整理）

（1）土山小学校３年生･総合的な学習の時間　障がい者体験

1）学習の流れ

実施した学習の内容を以下に示す。

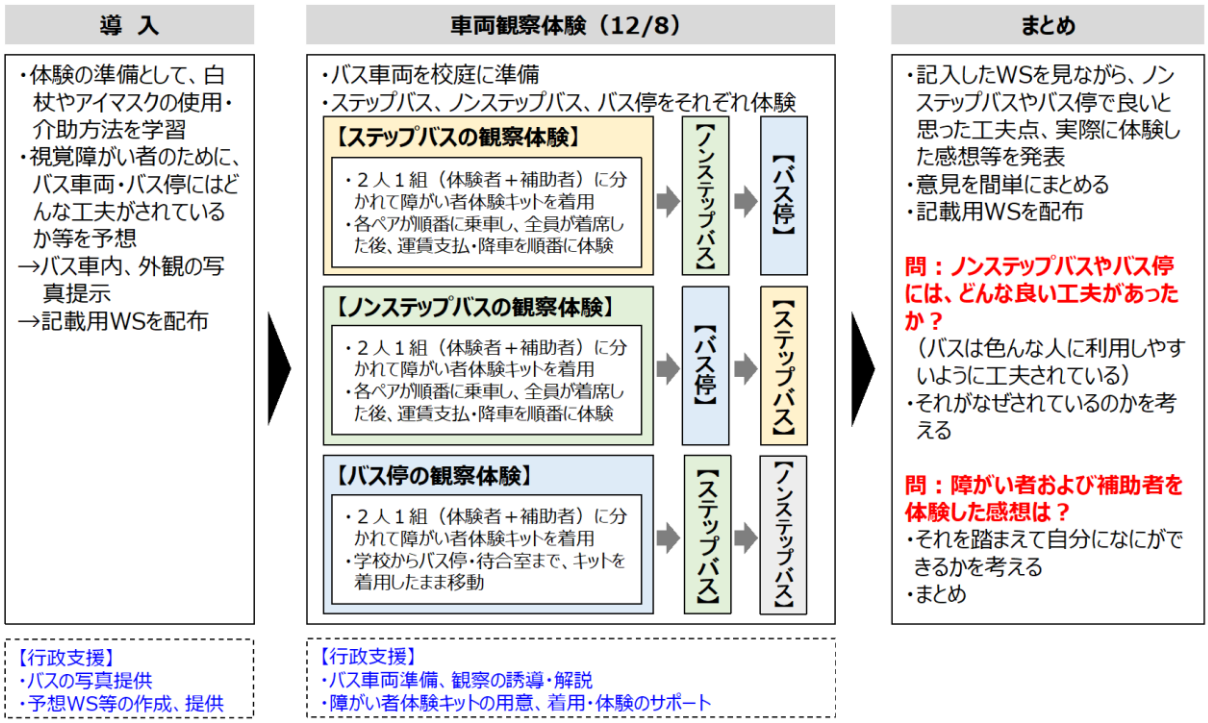


図　3-9　土山小学校３年生の授業の流れ（再掲）

2）実施結果

（a）ワークシートの作成・提供

作成した以下のような福祉面でのバス車両の工夫点を予想し、車両観察および障がい者体験の際に気づいたこと等を書きとめるためのワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。







図　3-10　土山小学校３年生のワークシート（再掲）

（b）授業の実施

視覚障がい者体験キットとしてアイマスクを装着し、乗車から降車までの一連の体験をノンステップバス、ステップバスで行った。また、あわせて、より現実に近い形での体験とするため、学校から近江土山バス停までアイマスクを装着したまま移動する体験を行った。体験が終わった後は、感想や気づいたこと、車両の工夫等のワークシートへの記入を行った。

授業の実施にあたり、バス事業者・行政（滋賀県・甲賀市）が体験のサポートを行った。



図　3-11　土山小学校３年生の授業の様子（1/4）



図　3-12　土山小学校３年生の授業の様子（2/4）



図　3-13　土山小学校３年生の授業の様子（3/4）



図　3-14　土山小学校３年生の授業の様子（4/4）

3）結果についてのヒアリング

授業実施後、取組の感想等についてヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-3 ヒアリング結果

ヒアリング対象	校長先生、教頭先生、3年生担任教師
ご意見	・たくさんの活動があったので、子どもたちの気づきも多かった。待ち時間のロスがなく活動できたのもよかったが、もう少し体験の時間をのばしてもよかったと思う。アイマスクの配布時間短縮等、工夫すれば時間確保は可能である。 ・ノンステップバス、ステップバス、バス停と3箇所でそれぞれ体験を行ったが、最後の体験となると慣れてきてしまい、怖さを感じていない子どもみられた。介助者なしで一人で体験をしてもらうやり方も考えられる。 ・公道を歩くのははじめての体験で、通り慣れていない子からしたら怖い部分もあり貴重な体験であったと思う。まだ3年生で、介助がしっかりとできていない部分もあったが、熱心に一生懸命取り組めていた。 ・ノンステップバスのように、出入り口が数 cm 下がるだけで乗りやすさが全然違う、お金を入れるときは手を添えてあげた方が良い等、肌ではたくさんいろんなことを感じていたけど、それをどれだけ言葉にできるかが重要である。ワークシートを準備頂き、まとめる時間を確保していただいたので、自身の体験を自分の言葉としてしっかりと整理できていた。

（２）土山小学校４年生･社会科　鉄道すごろく

１）学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

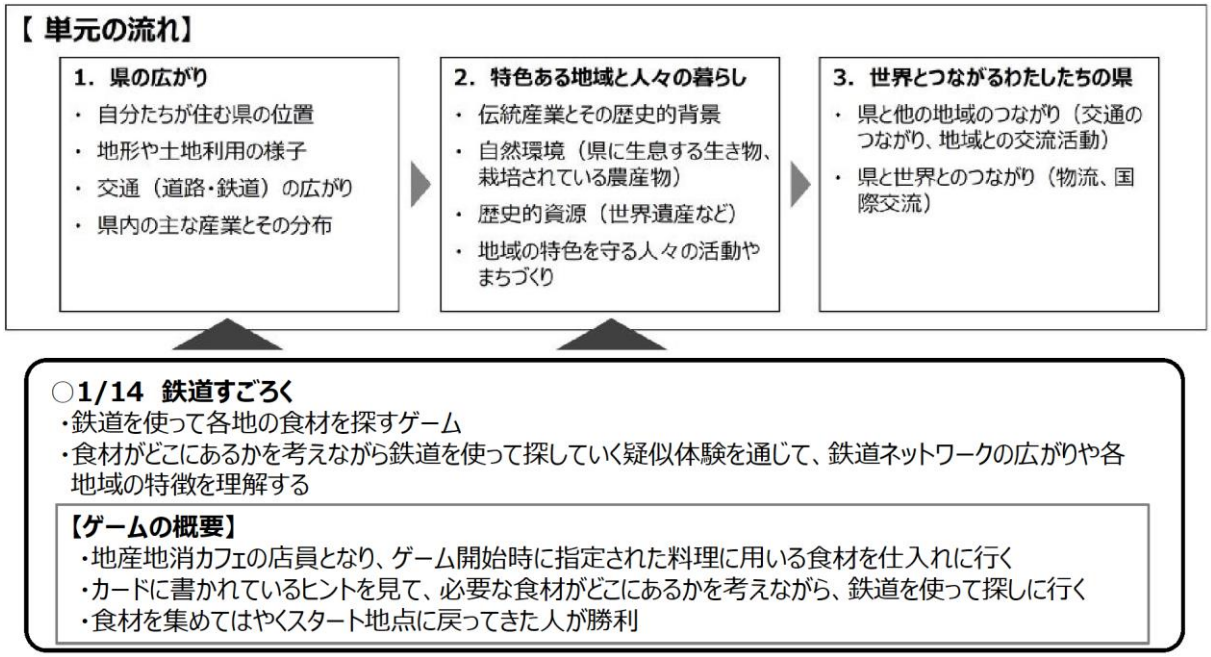


図　3-15　土山小学校４年生の授業の流れ（再掲）

2）実施結果

（a）ツール及びワークシートの作成・提供

作成した以下のような、鉄道すごろくゲームのツールと、食材カードに記載されている産地等の情報や、交通の広がりについて感じたこと等を書きとめるためのワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。



図　3-16　すごろくボード



図 3-17 メニューカード･食材カード

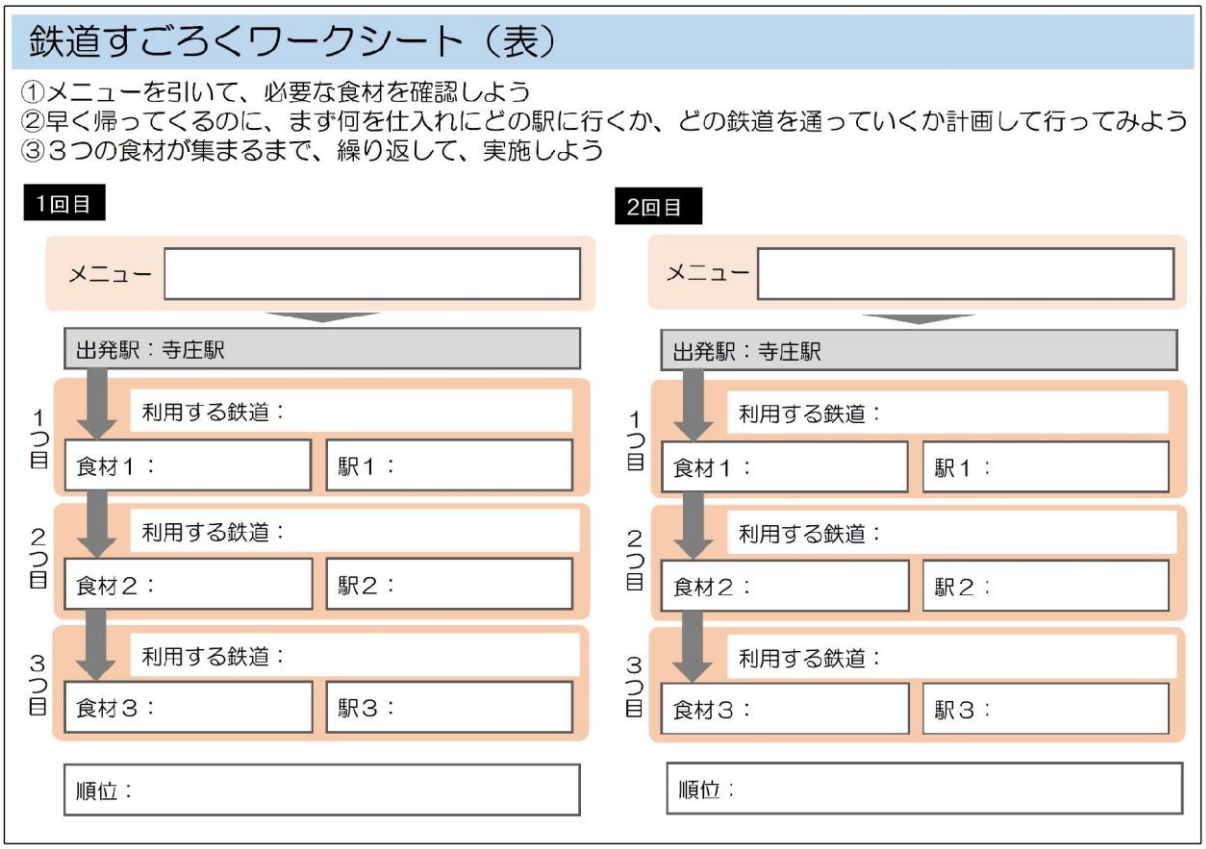
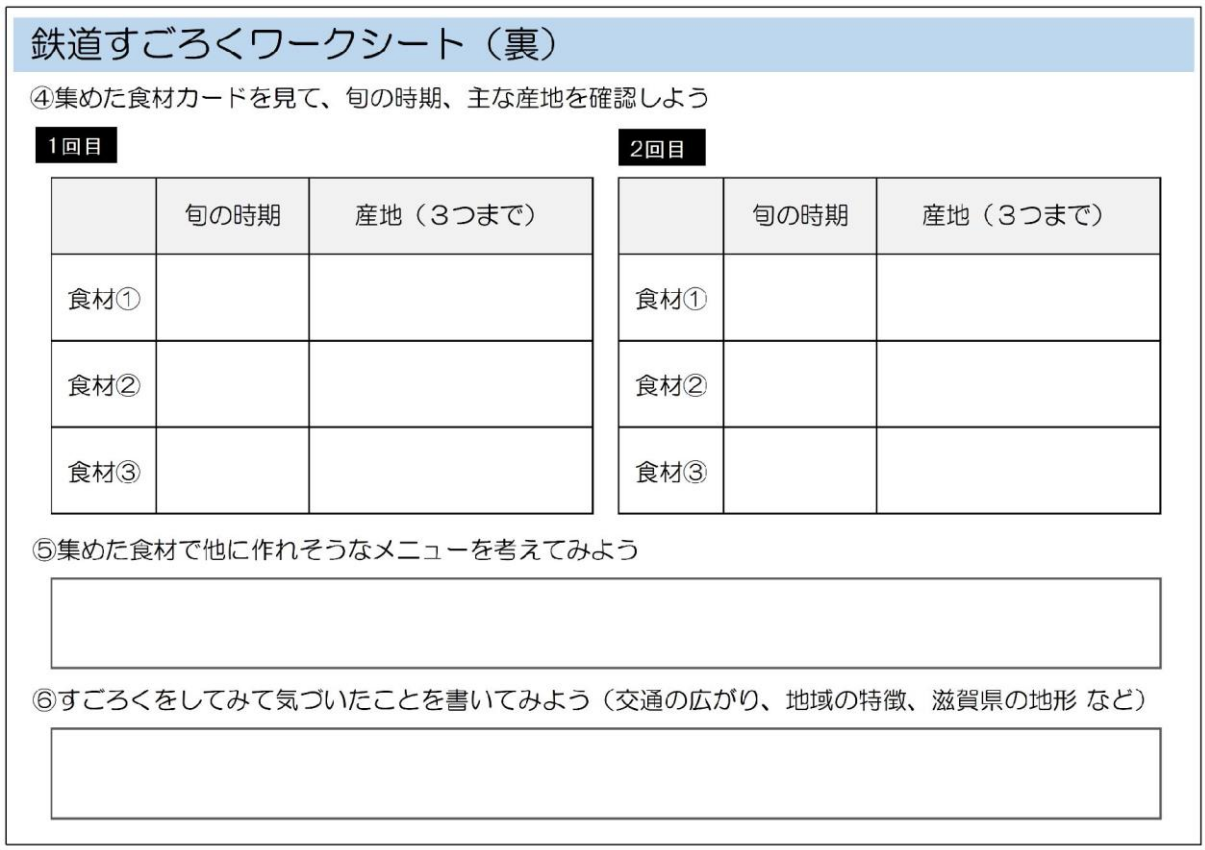


図　3-18　土山小学校４年生のワークシート（1/2）



	旬の時期	産地（３つまで）
食材①		
食材②		
食材③		

	旬の時期	産地（３つまで）
食材①		
食材②		
食材③		

図　3-19　土山小学校４年生のワークシート（2/2）

（b）授業の実施

カードに書かれているヒントを見ながら、必要な食材がどこにあるか鉄道を使ってさがしにいく鉄道すごろくゲームを行った。ゲームが終わった後は、滋賀県でつくられている食材について産地や旬の時期をまとめるとともに、交通の広がり等の観点からすごろくをしてみて気が付いたこと等をワークシートへの記入を行った。

授業の実施にあたり、行政（滋賀県・甲賀市）がサポートを行った。授業の様子を以下に示す。



図　3-20　土山小学校４年生の授業の様子（1/3）



図　3-21　土山小学校４年生の授業の様子（2/3）



図　3-22　土山小学校４年生の授業の様子（3/3）

3）結果についてのヒアリング

授業実施後、取組の感想等についてヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表　3-4　ヒアリング結果

ヒアリング対象	校長先生、教頭先生、４年生担任教師
ご意見	・今年度が初めての試みであったが、ゲームであることから子どもたちも意欲的に取り組み、楽しみながら地域の特産物や交通の繋がりを勉強することができていた。 ・地域の特産と鉄道の広がりを同時に学べる教材はないので、学習の理解を深めるのに効果的な教材であると思う。 ・教材内容ついては、情報量やゲームバランス等を調整し、もう少し簡単な内容にすると、子どもたちの理解がより深まると思う。

（３）土山小学校５年生･総合的な学習の時間　琵琶湖と交通

１）学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

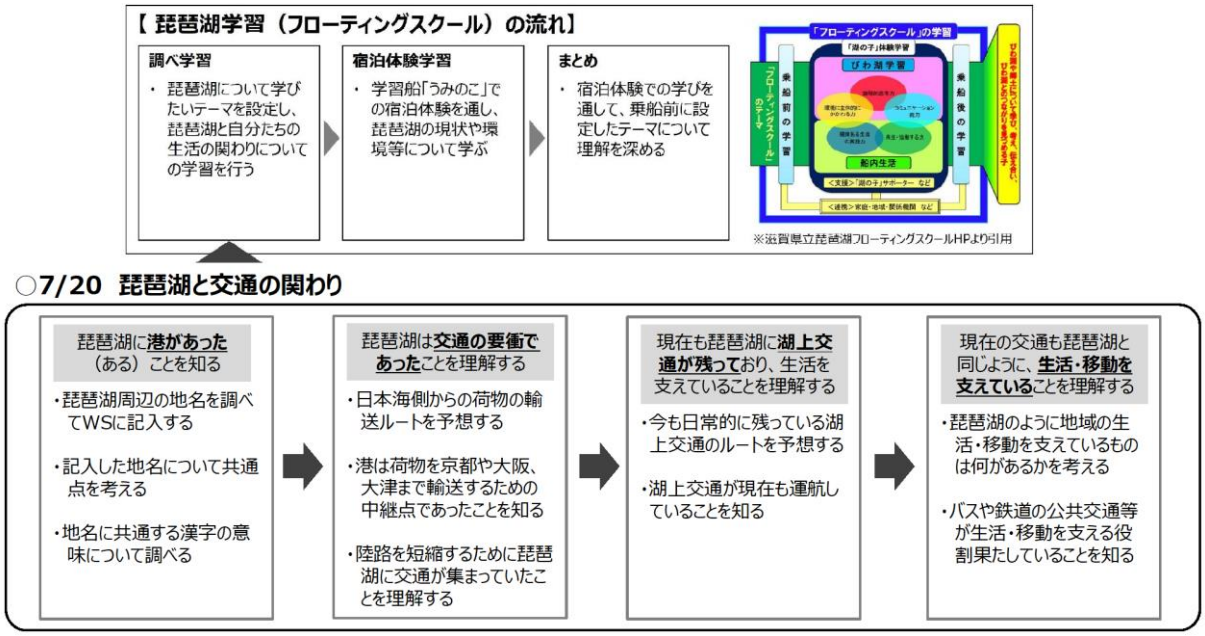


図　3-23　土山小学校５年生の授業の流れ（再掲）

2）実施結果

（a）ワークシートの作成･提供

作成した以下のような、琵琶湖周辺に共通する地名や昔の物資輸送ルートから湖上交通の役割について考えてもらうワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。

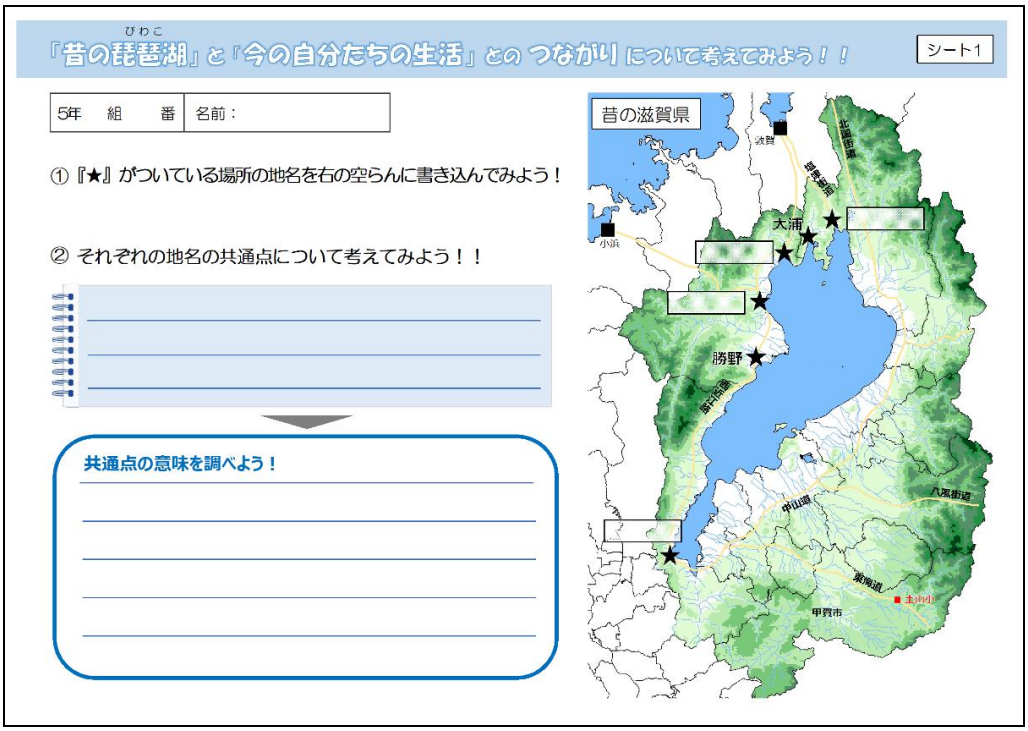


図　3-24　土山小学校５年生のワークシート（再掲）（1/2）

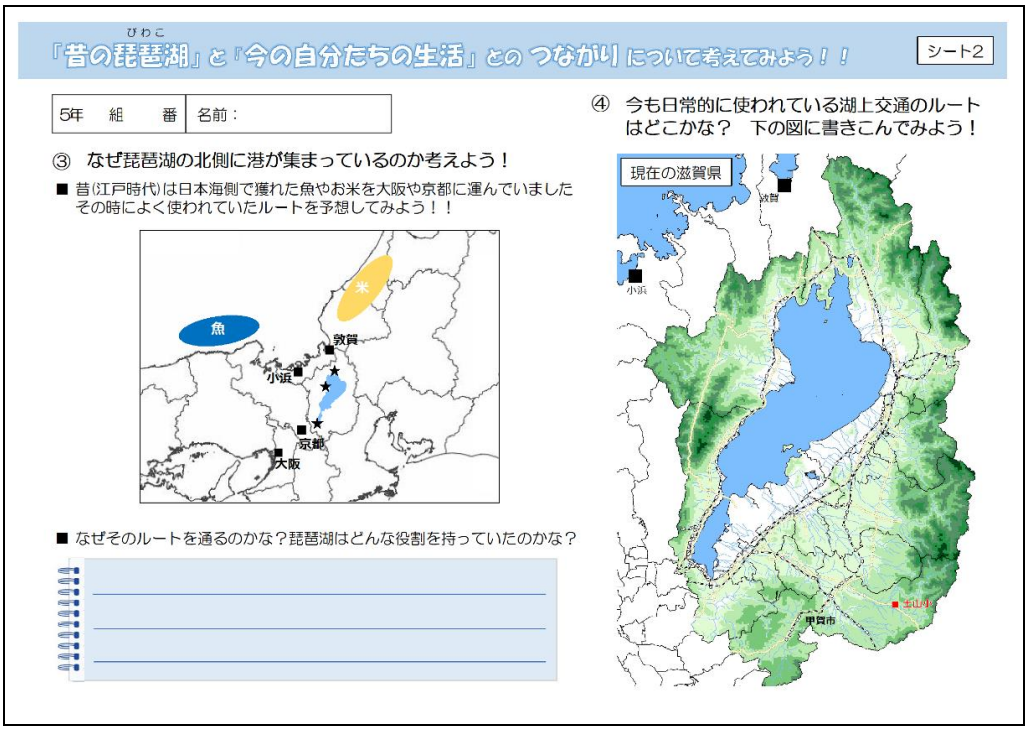


図　3-25　土山小学校５年生のワークシート（再掲）（2/2）

（b）授業の実施

湖上交通の名残りから、琵琶湖と交通の関わりや現在の生活を支える交通の役割について理解してもらう授業を行政（滋賀県・甲賀市）が実施した。授業の様子を以下に示す。



図　3-26　土山小学校５年生の授業の様子（1/3）



図　3-27　土山小学校５年生の授業の様子（2/3）



図　3-28　土山小学校５年生の授業の様子（3/3）

３）結果についてのヒアリング

授業実施後、取組の感想等についてヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表　3-5　ヒアリング結果

ヒアリング対象	校長先生、教頭先生、５年生担任教師
ご意見	・琵琶湖にふれあう機会が少ない子どもたちにとって、今回の学習は新鮮であったと思う。単に琵琶湖に行って体験するのと事前に学習してから体験するのとでは、学習の理解の深まり方が違う。実際に琵琶湖に行く時は、今回の学習が活きてくると思う。 ・地形図に標高を入れる、地形図のワークシートを大きくしたものを用意する等、教材や進め方については改善が必要。

（４）亀山小学校６年生・社会科　地域の公共交通

１）学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

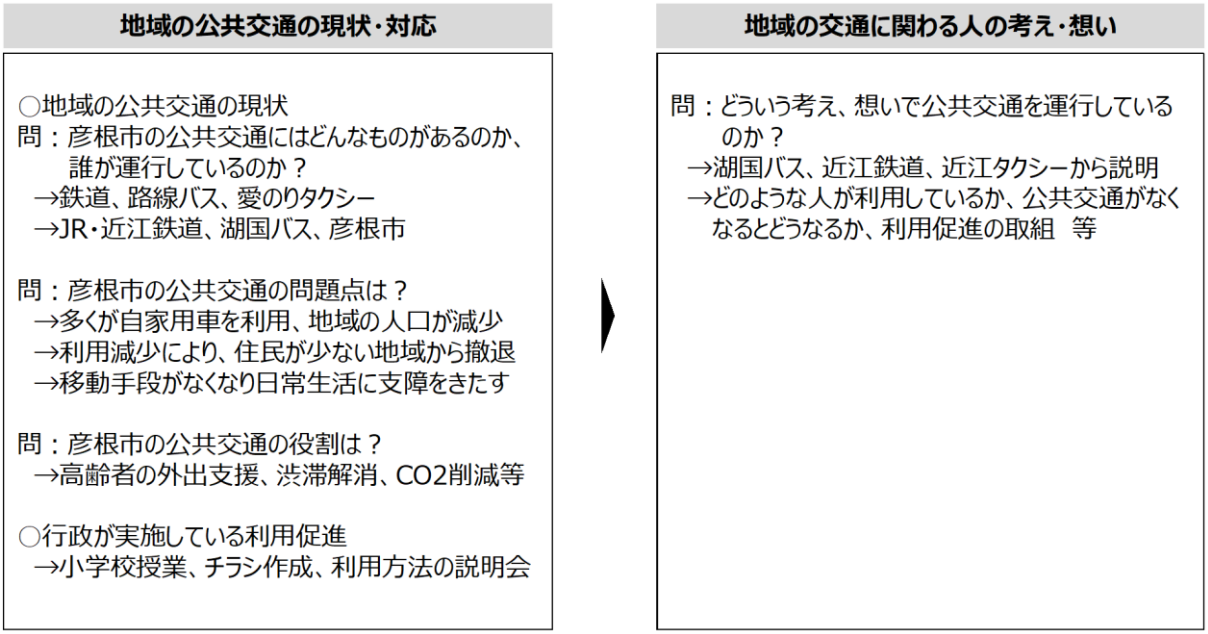


図　3-29　亀山小学校６年生の授業の流れ（再掲）

2）実施結果

地域の公共交通の現状・問題点を知ることを通じて、公共交通がなくなると地域の暮らしがどうなってしまうのかを考えてもらうと同時に、行政が公共交通を維持するために行っている取組・支援から、政治の仕組みや役割を理解してもらう授業を行政（彦根市・滋賀県）・事業者が実施した。実施の様子を以下に示す。



図　3-30　亀山小学校６年生授業の様子（1/3）



図　3-31　亀山小学校６年生授業の様子（2/3）



図　3-32　亀山小学校６年生授業の様子（3/3）

３）結果についてのヒアリング

授業実施後、取組の感想等についてヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表　3-6　ヒアリング結果

ヒアリング対象	６年生担任教師
ご意見	・自分の住んでいる地域の状況から公共交通を見ることで、地域が抱えている問題が理解できたと思う。 ・また事業者からの話もあり、キャリア学習にもつながった。

3-1-3 発展（体験的活動等の事例づくり）

（1）土山小学校２年生･生活科　乗り物探検

1）学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

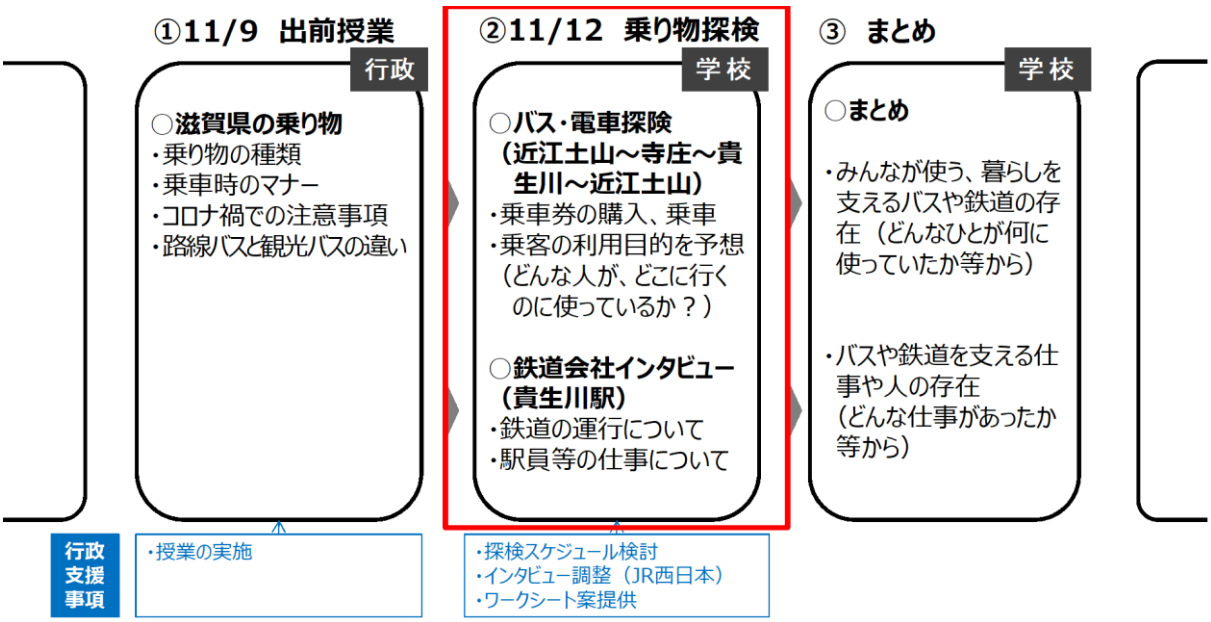


図　3-33　土山小学校２年生の授業の流れ（再掲）

2）実施結果

（a）ワークシートの提供

作成した以下の乗車体験で運賃等の情報を書きとめるワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。

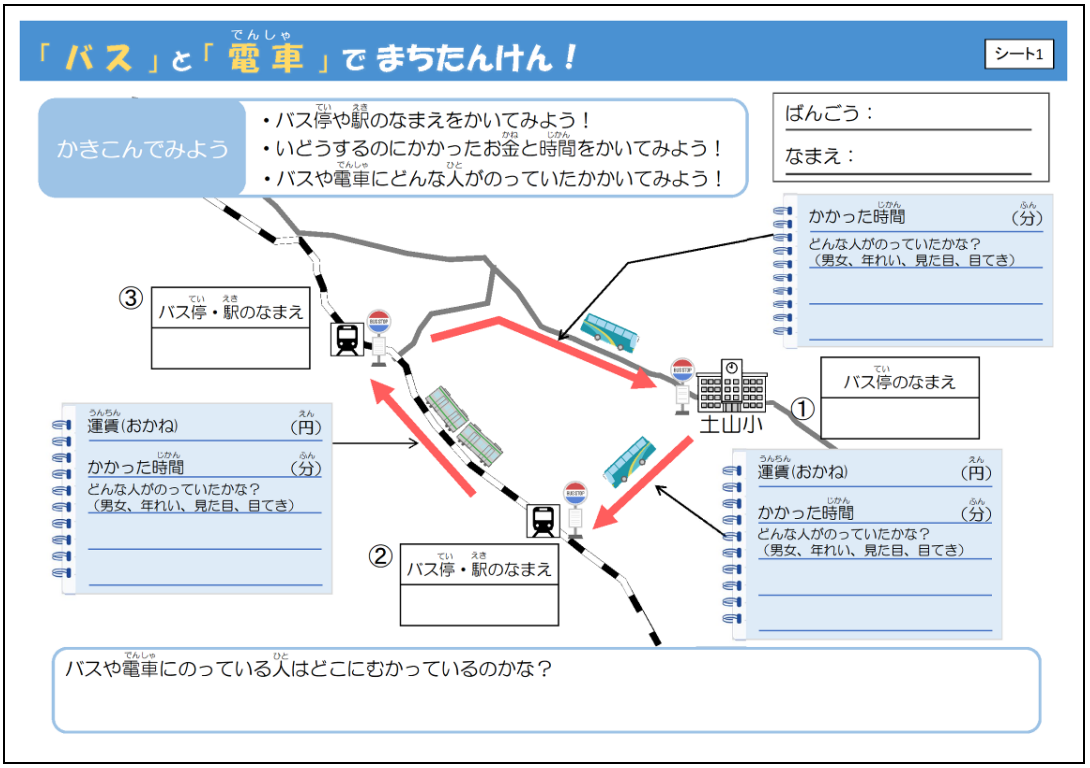


図　3-34 土山小学校２年生のワークシート　（1/2）

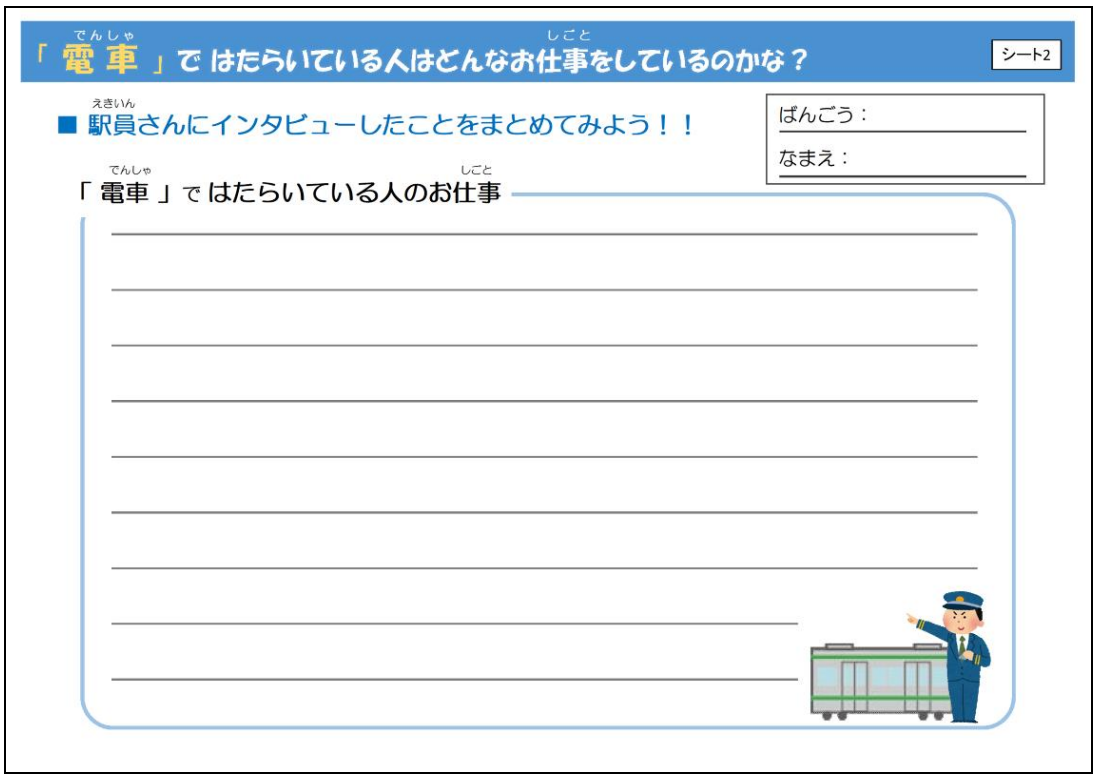


図　3-35　土山小学校２年生のワークシート　（2/2）

（b）授業の実施

a）バス・電車探検

乗り方教室を踏まえ、公共交通の役割を知るための体験学習として、バス・鉄道の乗車体験を実施し、窓口での乗車券購入および券売機での切符購入も併せて実施した。また、実施にあたり行政（滋賀県・甲賀市）が体験のサポートを行った。



図　3-36　土山小学校２年生のバス・鉄道体験の様子（1/6）



図　3-37　土山小学校２年生のバス・鉄道体験の様子（2/6）



図　3-38　土山小学校２年生のバス・鉄道体験の様子（3/6）



図　3-39　土山小学校２年生のバス・鉄道体験の様子（4/6）



図　3-40　図　3-41　土山小学校２年生バス･鉄道体験の様子（5/6）



図　3-42　土山小学校２年生バス･鉄道体験の様子（6/6）

b）鉄道事業者インタビュー（JR 西日本）

JR 貴生川駅までの乗車体験の後、鉄道の運行や運転手の仕事等について鉄道事業者に対するインタビューを実施した。実施の様子を以下に示す。



図 3-43 土山小学校２年生の鉄道事業者インタビューの様子

3）結果についてのヒアリング

授業実施後、取組の感想等についてヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-7 ヒアリング結果

ヒアリング対象	校長先生、教頭先生、2年生担任教師
ご意見	・ダイヤ改正によるルートの変更等があったが、3年目で授業のやり方も浸透してきて、ロスなくスムーズに実施できた。 ・電車を利用する子どもはほとんどいないので、貴重な体験になったと思う。 ・バス体験をしている途中で高齢の方が乗車した際、自ら席を譲っていた。乗り方教室での学習が活きていたと思う。 ・遠足等では、教師の人数が多くないため、生徒の行動が制限されていたが、今回のようにサポート体制がしっかりして頂いたため、子供たちを複数のグループに分けて、主体的な行動を促すことができたと思う。 ・また、駅長へのインタビューも事前に質問を用意するようにしたため、ロスなくスムーズに実施できたと思う。

（２）土山小学校６年生･総合的な学習の時間　地域探検

１）学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

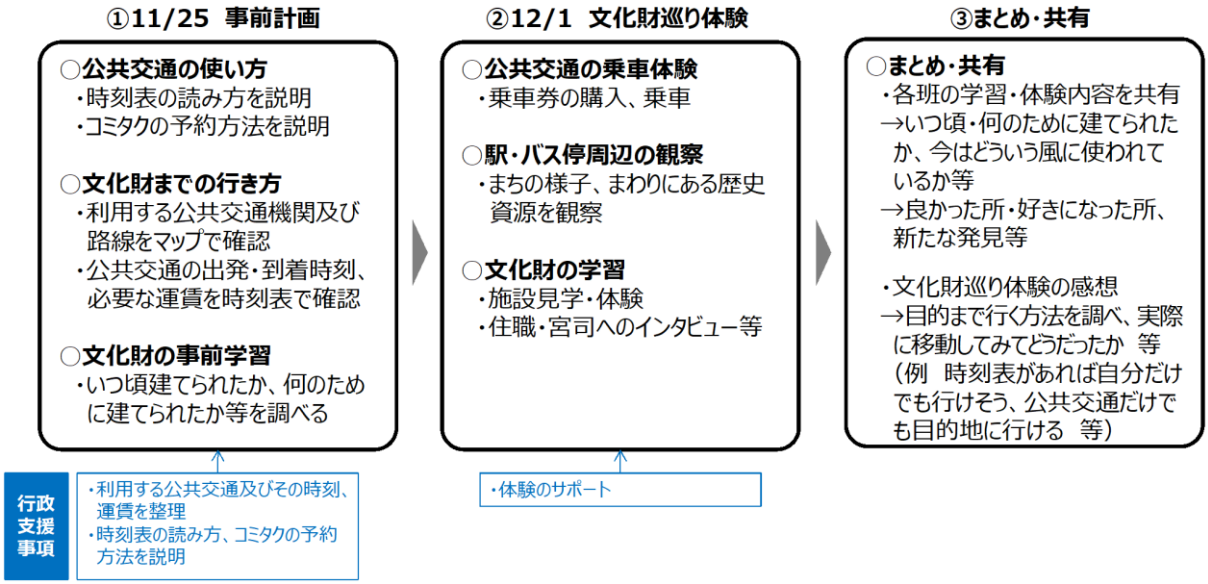
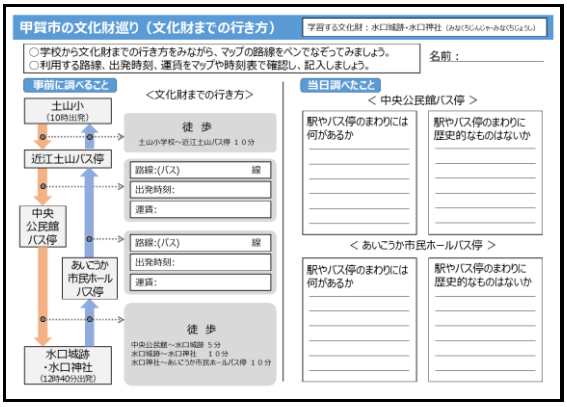


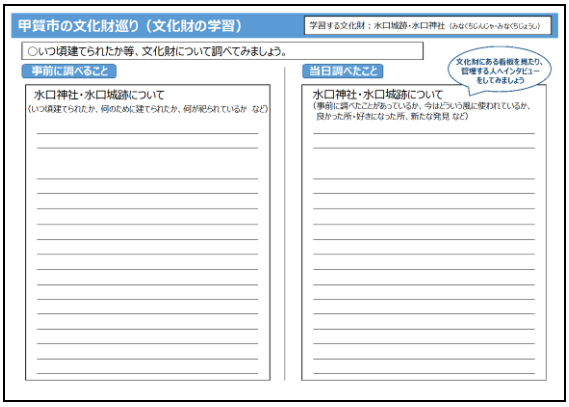
図　3-44　土山小学校６年生の授業の流れ（再掲）

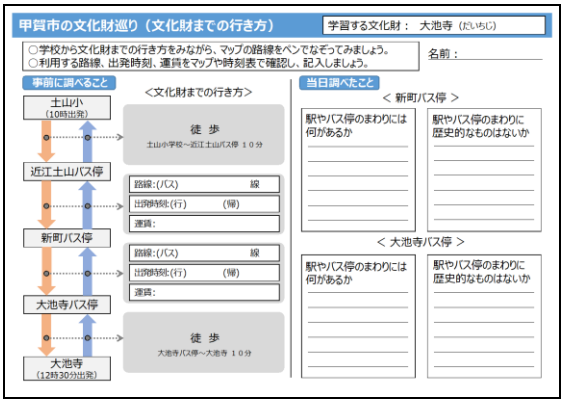
2）実施結果

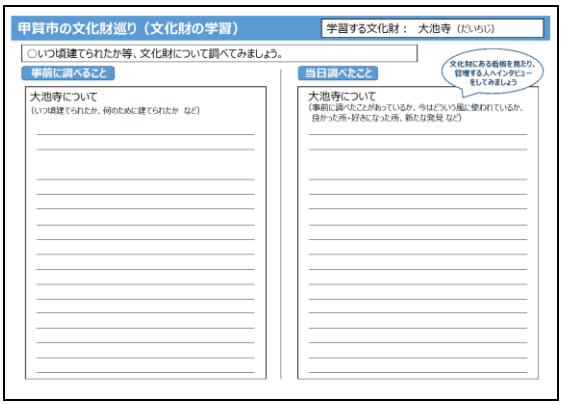
（a）ワークシートの作成および提供

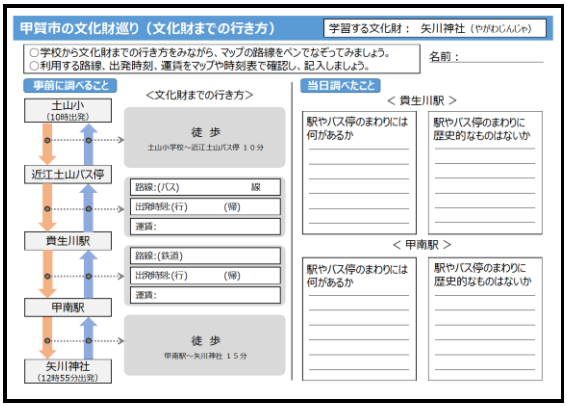
作成した以下のような、利用する路線や出発時刻、運賃等を記録するとともに、バス停や駅周辺の町の様子や文化財巡り体験で学んだことをまとめるためのワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。











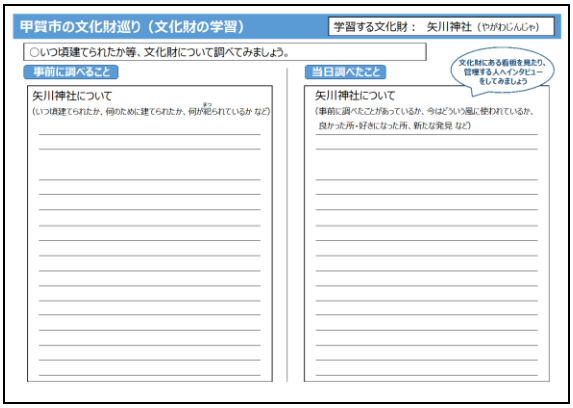
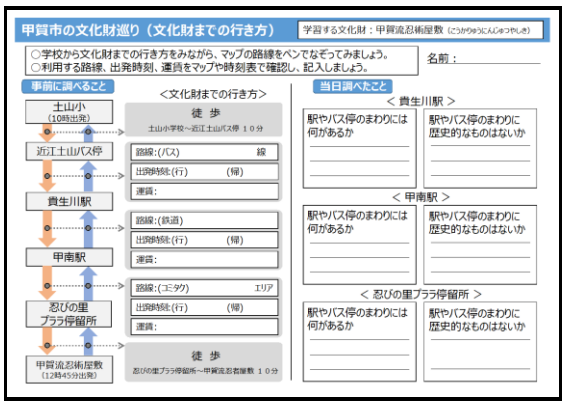
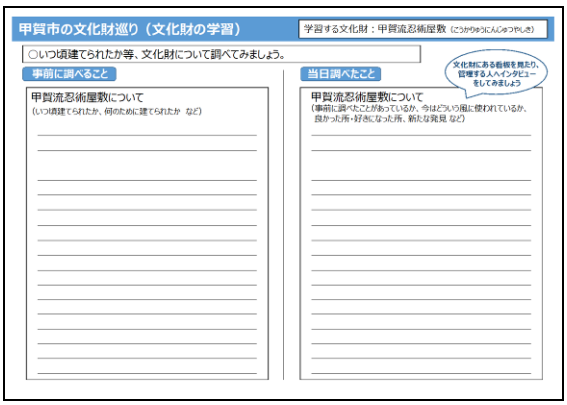
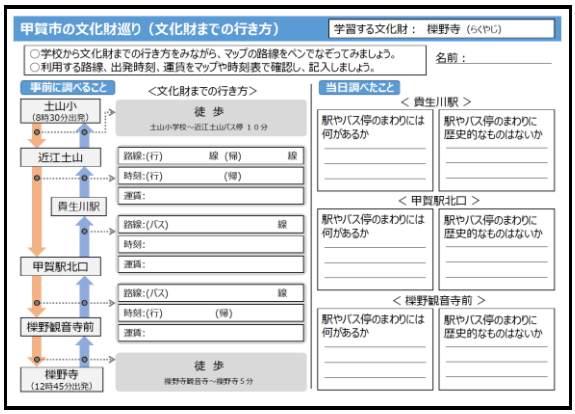
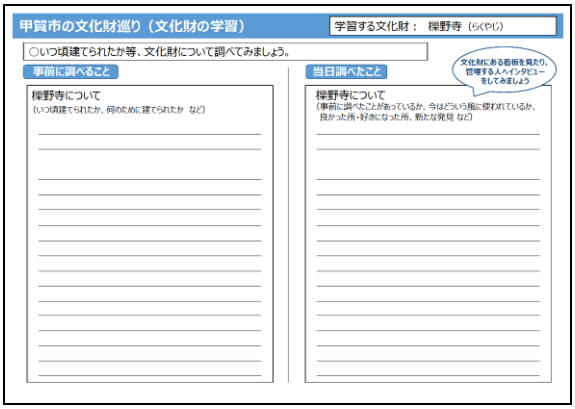


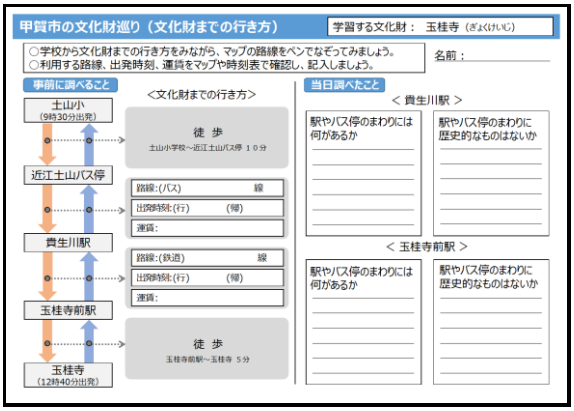
図　3-45 土山小学校６年生のワークシート（再掲）（1/2）











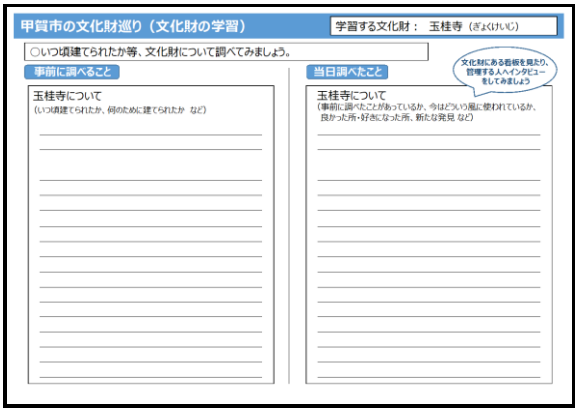


図 3-46 土山小学校６年生のワークシート（再掲）（2/2）

（b）授業の実施

a）事前計画

時刻表・路線図の読み方やコミタクの予約方法等、公共交通の使い方について説明を行い、文化財までの行き方を計画するための授業を行政（滋賀県・甲賀市）が実施した。

授業の様子を以下に示す。



図　3-47　土山小学校６年生の事前計画の様子（1/2）



図　3-48　土山小学校６年生の事前計画の様子（2/2）

b）文化財巡り体験

体験当日は、各施設を巡る子供たちの安全確保及び誘導を行うため、行政（甲賀市・滋賀県）は、グループごとに人を配置し、体験サポートを行った。

授業の様子を以下に示す。



図　3-49　土山小学校６年生の文化財巡り体験の様子（1/4）



図　3-50　土山小学校６年生の文化財巡り体験の様子（2/4）



図　3-51　土山小学校６年生の文化財巡り体験の様子（3/4）



図　3-52　土山小学校６年生の文化財巡り体験の様子（4/4）

3）結果についてのヒアリング

授業実施後、取組の感想等についてヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-8 ヒアリング結果

ヒアリング対象	校長先生、教頭先生、６年生担任教師
ご意見	・文化財巡りで体験した内容は、社会科の学習内容とつながる部分が多く、学習の理解を深めることができたと思う。教科書だけで学習するのと直接見聞きするのでは、理解の深まり方が違う。 ・子どもたちから、「甲賀市に住んでいるのにこんな場所があるのを知らなかった」、「こんな機会がなければ行くことがない」といった意見もあり、自分たちが住む地域のことを学習する貴重な機会であったと思う。 ・移動では複数グループがバスを利用する時間帯が被っており、コロナの影響を考えると、もう少し分散できればよかったと思う。 ・土山本線は利用したことがある子どもはいたが、水口線を利用するのは初めてという子どもも多く、路線の広がり等についても学習できたと思う。また、バスが病院を経由するのはなぜなのかと疑問をもつ子どももいたが、高齢者が多く通院で利用されているため、と自分たちで理由を導き出して、交通の勉強にもなっていたと思う。 ・マナーや他の乗客への配慮等、今まで交通環境学習で学んできたことの総まとめとしてもよかったと思う。来年度以降もぜひ実施できたらと思う。

3-1-4 実施・試行の結果

交通学習プログラムの実施結果及び教師の感想を踏まえ、R２年度の実施結果について以下のように整理した。

これまでの取組の結果、導入・拡大の観点でプログラム・素材を構築するとともに、発展的な事例について一定の蓄積が行えた。また、教材・ツール等で引き続き調整が必要なものがあるが、ここまでで整理した素材・事例で一定の取組・展開が可能であると考えられる。

土山小　亀山小

	導入｜取り込みやすい素材整理	拡大｜交通から学習を深める素材整理	発展｜体験的活動等の事例づくり
１年生	【生活科】交通安全学習（新規） ・イラスト・アニメ教材を活用し、交通に対する認識向上を図る安全学習を実施 →１年生への導入学習として蓄積	―	―
２年生	【生活科】乗り方教室 ・例年通り実施 →繰り返し実施により学習が定着	―	【生活科】乗り物探検 ・体験の調整、サポート等が定着 →学校に根付く事例として実施
３年生	―	【総合】障がい者体験 ・無駄な待ち時間等の削減 →体験・素材をより活かす方法蓄積	―
４年生	―	【社会科】鉄道すごろく ・試作したすごろくを授業で実際に試行 →ゲーム教材の活用可能性確認	―
５年生	―	【総合】琵琶湖と交通 ・琵琶湖学習前の意識づけとして機能するも、地図からの検索等が難しい面あり →沿岸地域以外でも活用可能性確認 →各エリアに対応できるパターン等必要	―
６年生	―	【社会科】地域の公共交通（新規） ・データ等を活かし、事業者をメインとする学習を実施 →（データ+）事業者の素材パターン構築	【総合】地域探検（新規） ・体験の支援に人手が必要だが、歴史・地域、交通双方で、記憶・意識が深まる学習を実現 →６年生での活動事例として蓄積

●導入、拡大の観点でのプログラム・素材、発展的な事例等を構築・整理
●引き続き調整等が必要なものもあるが、一定これらの素材・事例等での展開が可能と期待

図　3-53　R2 年度の実施・試行結果

3-2 今後の進め方

3-2-1 R２年度の実施・試行内容、結果のまとめ

これまで整理してきた内容を踏まえ、Ｒ２年度の実施・試行内容及び結果を以下の通り、整理した。

授業を実施できるサポート体制の確立としては、案内パンフレットによる周知により、新たな学校への広がりが多く見られ、また、人材・データ等の素材を活用したプログラムの申込も見られる等、一定の周知の仕組みづくりが行えた。さらに、学習プログラム・素材は、導入・拡大・発展の観点で整理を行うとともに、各種素材のブラッシュアップ・パターン確立により、ここまでで検討・試行してきた素材・事例で一定の取組・展開が可能となる提供体制を確保できた。

取り組みが広がっていく状況としては、学校で交通環境学習が単元理解を深める一連の学習として実施される他、素材イメージがつかめれば教材提供のみで学習が可能というように、先生だけでも学習を行える体制が構築できた。また、交通事業者や市町についても、これまでの継続的な実施によりノウハウをある程度蓄積し、実施・連携体制の構築が図れた。

①授業を実施できるサポート体制の確立

●周知の仕組みづくり

・案内パンフレットは周知に効果的、昨年度まで実施していなかった市町からの応募も多く、拡大
・提供資料等を使って自主的に授業を実施する学校も
・人材や統計データ等の素材を活用し、単元の理解を深める学習に応募する小学校も

●学習プログラム・素材の整理・高度化

・昨年度に引き続き土山小学校（１～６年）、亀山小学校等での試行を実施
導入：カリキュラムにより取り込みやすい素材・学習パターンを整理
拡大：学習の理解を深め、より幅広いカリキュラムに対応できる、教材・素材を整理
発展：実フィールドを活かした体験等、学校ニーズに応じた学習に効果的な事例を蓄積
・引き続き調整等が必要なものもあるが、一定これらの素材・事例等での展開が可能と期待

②取り組みが広がっていく状況

●体制づくり・場づくり

・学校：プログラムの評価は良く、単元として理解を深めるため事前・事後学習も学校側で実施
素材イメージがつかめれば、学校でアレンジ可能な教材提供のみで実施が可能
・交通事業者：実施回数増加による経験の蓄積、連携の向上
・市町：実施市町の拡大、各地域の特色に応じた内容への授業アレンジの実施、連携の向上

3-2-2 結果を踏まえた今後の展開・進め方

（1）検討の考え方

交通を切り口に自分たちのまちづくりのことを自発的に考えられる人材の育成を行っていくためには、事業終了後においても各市町での交通まちづくりにつながる学習・活動の展開を行っていく必要がある。

これらを踏まえると、今年度が本事業の最終年度であるため、事業としての成果・アウトプットを踏まえながら、R３年度以降の実施・展開について検討する必要がある。そこで、まずは、本事業の成果・アウトプットを踏まえ、今後の課題について整理し、R３年度以降の実施・展開イメージについて整理を行うこととした。

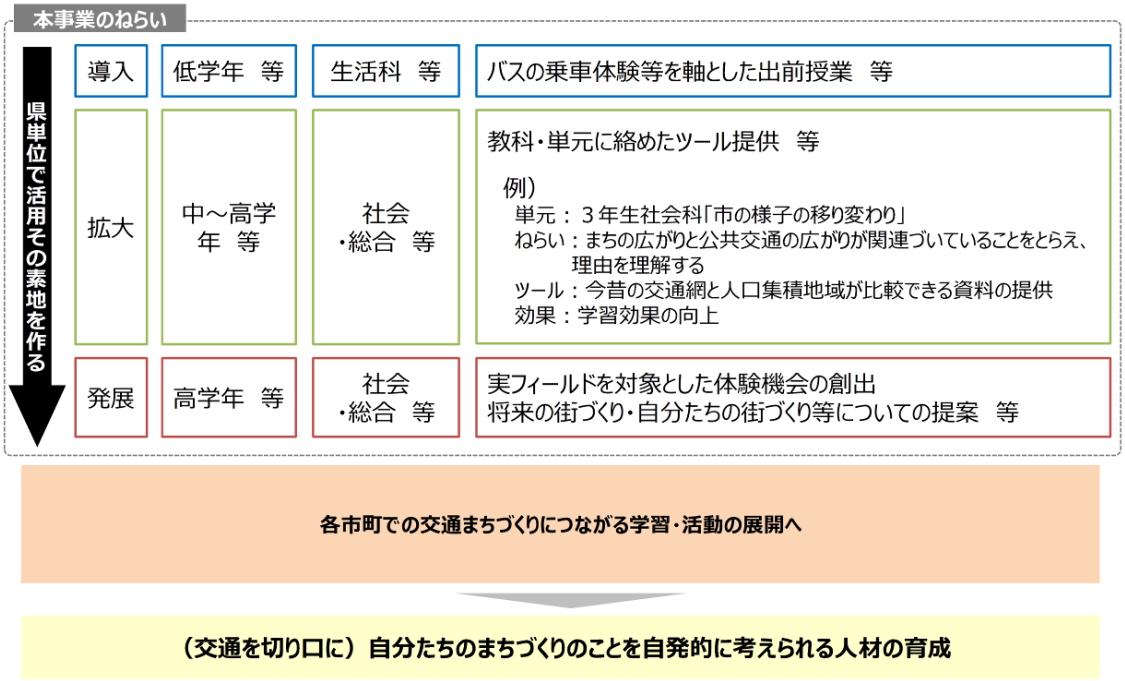


図　3-54　本事業のねらい及び MM 教育の目標

（２）今後の課題

これまで検討・試行してきた内容を普及・浸透させていくには、現在の取組を継続的に実施・展開していきながら、より学校に浸透していきやすい形として素材のブラッシュアップや実施・連携体制を強化していくことが望まれる。

これを踏まえ、MM 教育の目標を達成していくための今後の課題について、以下のとおり整理した。

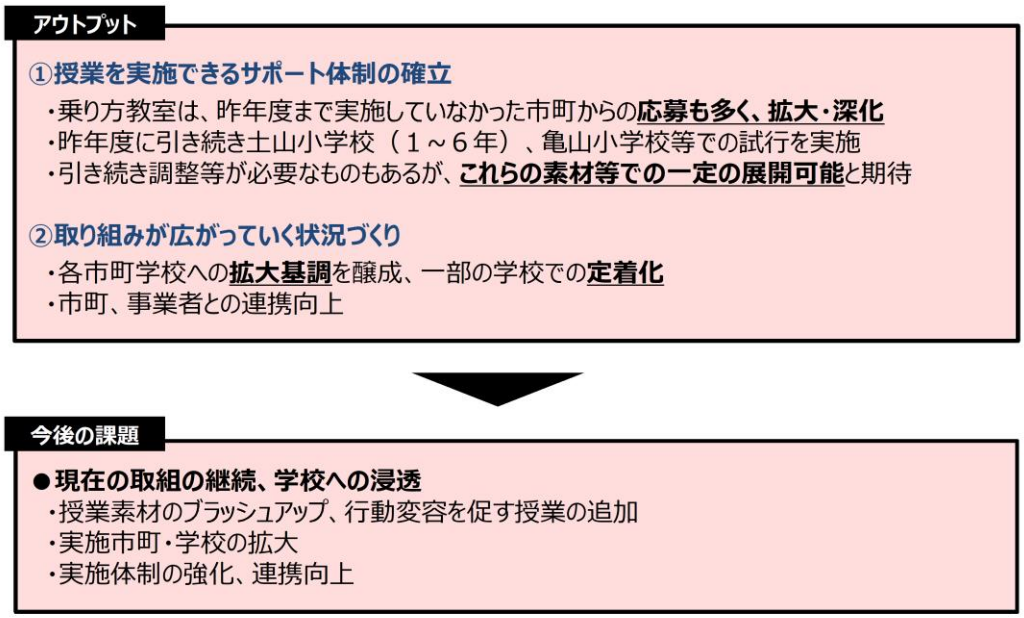


図　3-55　事業成果・アウトプットを踏まえた今後の課題

（３）Ｒ３年度以降の実施・展開イメージ

１）プログラム・素材のブラッシュアップ

今年度の学習プログラム・素材の整理・高度化の結果を踏まえ、昨年度までに整理したものに加えて、素材や事例として掲載・発信すべきもの、その教材等を整理するとともに、より学習理解を深めるツールとして、プログラム・素材のブラッシュアップを行っていく。

また、今後は学習理解の深化にあわせ、公共交通の利用促進につながる行動変容を促すような授業についても検討を行っていくこととする。

	（導入）取り込みやすい素材準備	（拡大）交通で深める素材準備	（発展）ニーズに応じた素材準備
低学年	**【生活科】乗り方教室** ・今年度実施した授業のブラッシュアップ	―	**【生活科】乗り物探検** ・生活科での体験学習例として整理、紹介
中学年	―	**【総合】障がい者体験** ・今年度実施した授業のブラッシュアップ	―
	―	**【社会科】鉄道すごろく** ・学習の理解を深めるツールとして、整理・追加	―
高学年	―	**【総合】琵琶湖と交通** ・各地域で活用しやすい形として、また現在の交通に繋がるように、今年度の指摘を踏まえて修正し、追加	**【総合】地域探検（新規）** ・社会科の歴史や地域学習での体験活動例として整理、紹介
	―	**【社会科】政治と公共交通（新規）** ・事業者・人の活用が主体の取り組みとして、整理・追加（市町と連携し可能な範囲でデータ提供）	

図　3-56　プログラム・素材のブラッシュアップ等のイメージ

2）周知ツールの見直し

（a）考え方

今年度実施した周知パンフレットの試行配布・活用の結果、新たな学校への取組の広がりが確認できた他、素材提供のみで実施する学校や実車のバス以外の素材を活用した学習への波及・展開もみられる等、一定の効果が確認できた。そこで、R３年度以降もパンフレットを活用した周知を行っていくため、今年度のプログラム・素材の整理・高度化の結果や学校への意見聴取結果を踏まえた、改善・ブラッシュアップを行うこととする。

あわせて、周知パンフレットで紹介している学習プログラム・素材の授業への活用をイメージしやすくするため、教材等のデータを滋賀県 HP へ掲載することとしデータ提供方法について検討を行っていくこととした。

周知パンフレットの改善・ブラッシュアップイメージ、HP への掲載イメージを以下に示す。

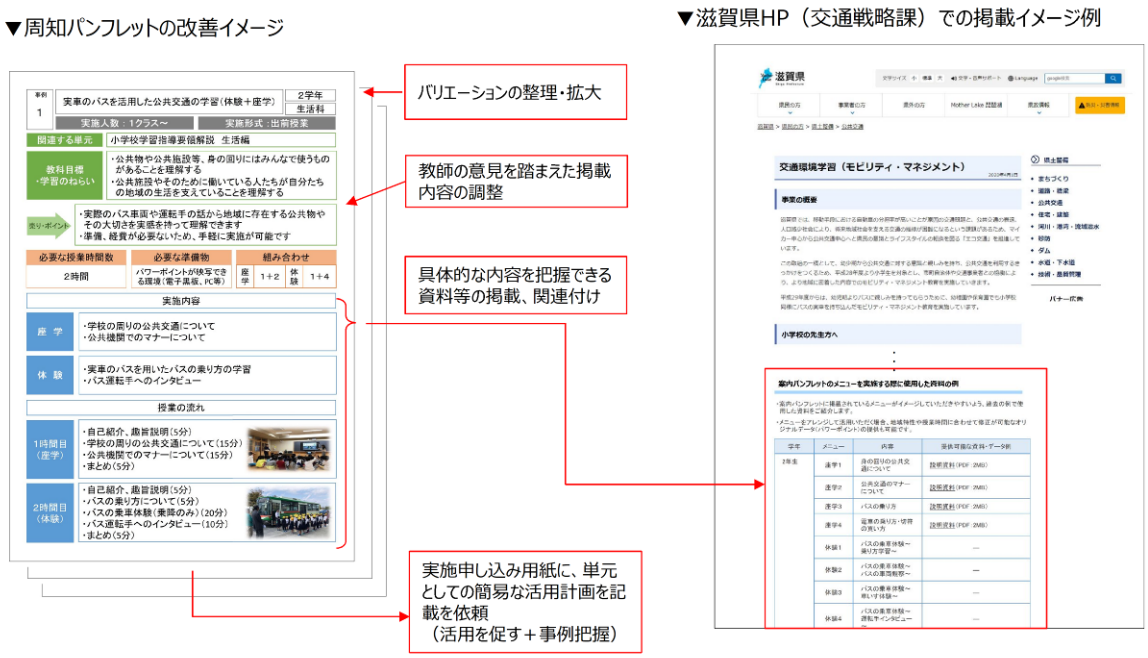


図　3-57　周知パンフレットの改善・ブラッシュアップイメージと HP での掲載イメージ例

（b）周知パンフレット

前回の考え方や改善・ブラッシュアップのイメージを踏まえ、更新した周知パンフレットを次頁以降に示す。

参考３

滋賀県 交通環境学習 のご紹介

子どもたちに身近な“交通”の素材を授業に活用してみませんか？



行政やバス会社が、バス車両や教材、出前授業等の素材をご提供します！







生活科や社会科、総合的な学習の時間等の授業を深められます！





滋賀県土木交通部交通戦略課

図　3-58　参考３－令和３年度案内冊子（1/36）

目　次

1. 交通環境学習について		P3
2. 交通環境学習の実施までの流れと留意事項		P4
3. 学習プログラムのメニュー・提供素材		P5
低学年向け		P8
座学1	身の回りの公共交通	P9
座学2	公共交通のマナー	P10
座学3	バスの乗り方	P11
座学4	電車の乗り方	P12
体験1	バスの乗降体験	P13
体験2	バスの車両観察	P14
体験3	運転手へのインタビュー	P15
体験4	バスの走行体験	P16
体験5	電車の切符購入体験	P17
学習の事例（組み合わせ活用例）		P18

図　3-59　参考 3－令和３年度案内冊子（2/36）

目　次

中学年向け			P22
	座学5	鉄道すごろくゲーム	P23
	体験6	バスを活用した障がい者体験	P25
高学年向け			P28
	座学6	琵琶湖と交通の関わり	P29
	座学7	地域公共交通の現状と問題	P31
	座学8	地域の交通の紹介、時刻表・路線図の読み方	P33
4．過去の実績			P36

※中・高学年での体験1「バスの乗降体験」の実施等、他学年向けの授業であっても内容次第では実施することが可能ですので、ご相談ください。

図　3-60　参考３－令和３年度案内冊子（3/36）

交通環境学習について

【交通をとりまく現状・問題】

自動車依存の高い滋賀県では、様々な場面で良くない影響が出てきています。

・道路の渋滞
・交通事故の増加
・環境汚染
・公共交通サービスの低下
・運動不足、肥満、脚力低下　等





産経新聞（H30.12.1）

しかし、滋賀県で自動車は必要不可欠な移動手段とされています。そこで滋賀県では、県民の意識とライフスタイルをマイカー中心から公共交通を中心とした「エコ交通」への転換を図る取組を積極的に実施しています。

ところが、子どもから高齢者を含む大人まで、バスに乗ったことがない・・・乗り方がわからない・・・などといった声をよく聞きます。
また、人口減少の進展と共に「移動＝自動車」と考える人が多いため、公共交通の利用は年々低迷し、ついには、バスや電車の路線維持・確保が難しく、ダイヤが悪くなり、最悪の場合は路線の廃止に至る可能性が非常に高くなってきています。

【交通環境学習の目的】

滋賀県では、これらの問題を解決するため、「幼少期から地域の公共交通に親しみを持ち、自発的な行動をとれる人間を育てる」ことを目的とした、交通環境学習の実践と普及活動に取り組んでいます。
次世代を担う子どもたちに、公共交通に親しみを持ってもらうことを通して、地域問題や環境問題に関心を持ってもらうことは、自発的に環境にやさしい交通行動を選択するきっかけになると考えています。
また、今後中学生、高校生と成長していく中で、バスや電車を活用する機会が多くなることを踏まえ、その使い方を勉強してもらい、役立ててもらいたいと考えています。
学校教育においては、地域社会の仕組みを学ぶための、身近で親しみやすい実物教材になると考えています。

【交通環境学習の活用方法】

各学年の生活科や社会科、総合的な学習の時間の単元に合わせた活用が可能です。

・公共施設の工夫やマナーの学習（バスの仕組みや工夫、乗車マナー等）
・福祉の学習（バスでの障害者疑似体験、バリアフリーの仕組みや工夫の発見等）

※他にも・・・環境問題、まちの広がりや歴史など、人々の生活に不可欠な「交通」を通して様々な学習展開が可能です。本物や実体験を通して学習することで、より深い学びにも繋がると、先生方からもご好評を頂いています。

【問い合わせ先】

滋賀県土木交通部交通戦略課　（交通環境学習担当とお伝えください）
（TEL:077-528-3680　FAX:077-528-4837　　MAIL:hc00@pref.shiga.lg.jp）

3

図　3-61　参考３－令和３年度案内冊子（4/36）

交通環境学習の実施までの流れと留意事項

実施までの流れ

本パンフレットで実施したい「学習プログラムのメニュー・提供素材」を選択

↓

「申し込みシート」に必要事項を記入し、FAX等で送信

↓

授業内容・進め方等の打ち合わせ（電話もしくは現地にて）

↓

授業の実施

↓

実施後、送付されるアンケートを記入し、FAX等で送信

留意事項

【交通環境学習全般について】

●各小学校によって、授業の進め方や事前・事後学習の内容、交通環境学習のめあて等は異なるため、当日の授業の進行は基本的に先生で進めてくださいますようお願いいたします。

※行政および交通事業者は必要なサポート、説明をさせていただきます。

●授業当日までに、各小学校から市町教育委員会へ交通環境学習の実施の連絡をお願いいたします。

●より良い交通素材の提供方法を検討していくとともに、活用事例の収集を行うため、教科・単元における学習の流れや内容の位置付け方、ご感想・ご要望等について、実施後にアンケートのご協力をお願いいたします。

【バスを用いる体験学習について】

バスの手配のため、1か月半前にはお申込み下さい。

※例年、秋シーズン（9月・10月・11月）に交通環境学習の申込みが多くあります。秋シーズンはバス事業者の繁忙期でもあるため、バスの乗車体験については実施が出来ない、もしくは実施日の変更をお願いする場合があります。早めのお申込みをお願いしますとともに、秋シーズン前の授業のご検討もお願いいたします。

【準備物について】

座学に必要な電子黒板（orプロジェクター）や、体験学習に必要なコーン、アイマスク等は小学校にてご準備お願いいたします。

※データの提供（説明資料・ワークシート・お金券等）、バスの手配はさせていただきます。

4

図　3-62　参考 3－令和 3 年度案内冊子（5/36）

学習プログラムのメニュー・提供素材

●学習プログラムのメニュー・提供素材をお選び頂き、申込シートにご記入ください。
・対象学年・学校側の要望により、授業内容は柔軟に変更できます（要相談）。
・1時間だけではなく、連続した時間での授業を行うことも可能です。
・授業実施だけでなく、素材の提供のみも可能ですので、実施形式をご確認ください。

『学習プログラムのメニュー・提供素材』の見方



①メニュー番号
・各メニューの番号で、座学と体験があります。
・申込シートにはこの番号を記入ください。

②マッチする学年・教科
・対象学年の中でも、内容が特にマッチする学年・教科です。
・その他の学年・教科での活用も可能です。

③メニューの実施形式
・実施が可能な形式です。
・出前授業・体験サポート・資料提供があります。

④学習の必要時間
・実施に要するおおよその時間です。（1クラス）

⑤提供素材の形式
・提供する素材の形式（実車バス、パワーポイント等）です。

⑥メニュー・提供素材内容
・メニュー・提供素材の特徴・内容です。

5

図 3-63 参考 3－令和３年度案内冊子（6/36）



図　3-64　参考３－令和３年度案内冊子（7/36）

低学年向けの
メニュー・提供素材



※座学と体験を組み合わせるとより効果的な学習ができます

8

図　3-65　参考３－令和３年度案内冊子（8/36）

座学 1	身の回りの公共交通

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約15分	素　材	パワーポイント

内　容

・普段乗っている「のりもの」から、滋賀県内の公共交通を写真や絵で紹介します。
・どのような方が利用されているかを学び、「誰でも使える大切な乗り物」として公共交通を学びます。
・小学校の周りの公共交通について、地図で紹介しながら学びます。

提供素材例

・身の回りの公共交通に関する資料



9

図　3-66　令和３年度案内冊子（9/36）

座学 2	公共交通のマナー

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約15分	素　材	パワーポイント

内　容

・公共交通を利用時のマナーについて、クイズをしながら学びます。
・説明するだけではなく、子どもたちに考えてもらいながら学習を進めます。
・問題数によって、必要時間の調整が可能です。

提供素材例

・公共交通のマナーに関する資料



10

図　3-67　参考 3－令和３年度案内冊子（10/36）

座学 3	バスの乗り方

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約15分	素　材	パワーポイント

内　容

・バスの乗り方について、パワーポイントを活用して学びます
・乗合バスと観光バスの違い等を写真で確認しながら学びます。
・安全な乗車方法についても、写真を見ながら学べます。

提供素材例

・バスの乗り方に関する資料



11

図　3-68　参考 3－令和３年度案内冊子（11/36）

座学 4	電車の乗り方

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約15分	素　材	パワーポイント

内　容

・電車の乗り方について、パワーポイントを活用して学びます。
・安全な乗車方法についても、写真を見ながら学べます。
・学校の最寄り駅での乗り方を学習できます。
・切符の購入体験（体験5）と組み合わせて学習すると効果的です。

提供素材例（例：JR）

・切符の買い方、電車の乗り方に関する資料



12

図　3-69　参考 3－令和３年度案内冊子（12/36）

体験 1	バスの乗降体験

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	体験サポート	必要時間 ※20人程度を想定	約20分	素　材	実車 バス

実施内容

・バスを小学校へお持ちし、乗降体験を行います。
・バス事業者よりバスの乗り方について説明します。
・実際のバスを活用した学習であり、実践的な内容です。
※道路、校庭の状況等により、バスの持ち込みが出来ない場合があります。
（他の場所を借りていただいて実施することも可能です。）

実施例

・バス事業者によるバスの乗り方の説明
・バスの乗車体験
乗車→ 整理券を取る→座席に座る→料金表の見方や車内マナーの説明
→ 降車ボタンを押す→運賃を払う（お金券）→降車








13

図　3-70　参考３－令和３年度案内冊子（13/36）

体験 2	バスの車両観察

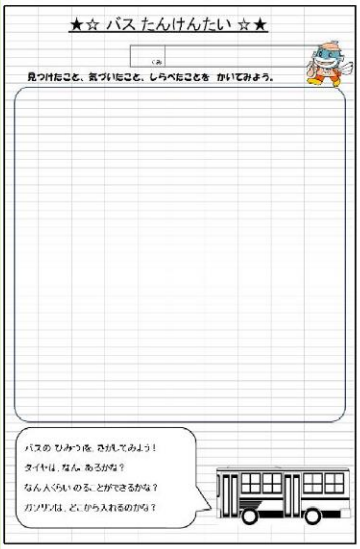
内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	体験サポート	必要時間 ※20人程度を想定	約15分	素　材	実車バス

実施内容

・バスを小学校へお持ちし、バス車両の観察を行います。
・バス事業者よりバスのしくみについて説明します。
・普段は見られないところも見学できます。
・子どもたちからの質問については、運転手やバス事業者が対応します。
・観察するためのワークシートの提供も行います。
※道路、校庭の状況等により、バスの持ち込みが出来ない場合があります。
（他の場所を借りていただいて実施することも可能です。）

実施例

・バスのしくみ説明
・バスの観察（車内外）











14

図　3-71　参考３－令和３年度案内冊子（14/36）

体験 3	運転手へのインタビュー

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	体験サポート	必要時間	適宜	素　材	実車 バス

実施内容

・バスの運転手さんたちが直接子どもたちの疑問に答えます。
・「働くひとたち」の学習もできます。
・事前に質問票をいただければ、細かい質問にも対応可能です。

実施例

・運転手さんたちへのインタビュー
・職業に対するおはなし







15

図　3-72　参考 3－令和３年度案内冊子（15/36）

体験 4	バスの走行体験

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	体験サポート	必要時間 ※20人程度を想定	約20分	素　材	実車 バス

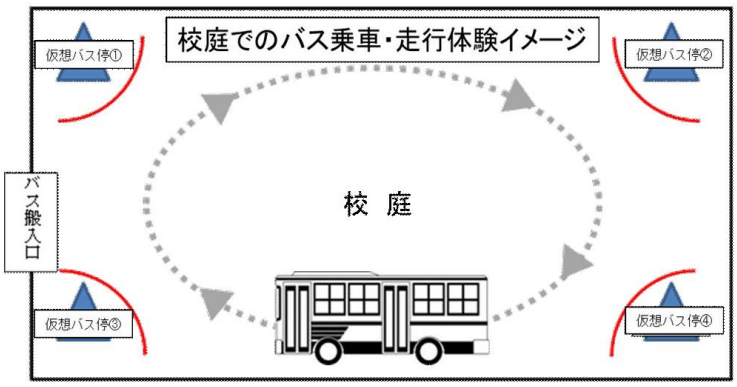
実施内容

・バスの乗降体験（体験1）の実践編として、校庭内にバス停を数個つくり、模擬のお金券を渡し、バスを走らせ乗降してもらいます。

※道路、校庭の状況等により、バスの持ち込みや走らせることが出来ない可能性があります。
※バスの乗降体験（体験1）とセットでの授業となります。

実施例

路線バスが校庭内を周回
・3つの班に分かれる
・模擬のお金券を児童に配布
・3班それぞれ別のバス停から乗車し、目的地のバス停で正しい運賃を払って降車







16

図　3-73　参考３－令和３年度案内冊子（16/36）

体験 5	電車の切符購入体験

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 体験サポート	必要時間 ※20人程度を想定	約20分 (約1分/人)	素　材	模擬券売機 (ポスター)

実施内容

・模擬の券売機(ポスター)を作成し、学校へ提供します。
・1人1人切符の買い方を練習します。
・練習時には、職員等がポスターの横で買い方の説明・支援を行います。
・電車の乗り方(座学4)と組み合わせて学習すると効果的です。

実施例

・模擬券売機の使い方説明
・切符の買い方体験







17

図　3-74　参考3－令和3年度案内冊子（17/36）

事例	実車のバスを活用した公共交通の学習 ～身の回りの公共交通、マナー＋バスの乗り方 ver. ～	2年生 生活科

必要な授業時間数	必要な準備物	必要な費用
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

関連する単元	生活科「公共物や公共施設の利用」
教科目標 ・学習のねらい	・身近な地域にどのような乗り物があるかを知り、公共物や公共施設等はみんなで使うものと理解する。 ・バスの乗り方を学び、愛着を持つ。
ポイント	・実際のバス車両や運転手の話から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます。 ・準備、経費が必要ないため、手軽に実施が可能です。

実施内容

座　学	・（座学1）身の回りの公共交通 ・（座学2）公共交通のマナー
体　験	・（体験1）バスの乗降体験 ・（体験3）運転手へのインタビュー

授業の流れ

1時間目 （座学）	・学校の周りの公共交通について（20分） ・公共交通のマナーについて（20分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （体験）	・バスの乗り方について（10分） ・バスの乗降体験（20分） ・運転手へのインタビュー（10分） ・まとめ（5分）	

実施した学校の先生の感想

・自分の住んでいる地域には、何の公共交通があるのかを知り、次おでかけするときはバスに乗りたいと話していた子もいた。校外学習の前にマナーについて学べたことが良かった。

・バスの乗車体験やバス運転手へのインタビューなど実際に自分の目で見て直接話を聞く体験は、座学で教えるよりも子どもたちの印象に残りやすく、授業にも積極的に取組んでもらえた。

18

図　3-75　参考 3－令和３年度案内冊子（18/36）

事例	実車のバスを活用した公共交通の学習 ～バス乗車・走行体験 ver. ～	2年生 生活科

必要な授業時間数	必要な準備物	必要な費用
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

関連する単元	生活科「公共物や公共施設の利用」
教科目標 ・学習のねらい	・身近な地域にどのような乗り物があるかを知り、公共物や公共施設等はみんなで使うものと理解する。 ・バスの乗り方を学び、実際に走行するバスが危険であることを知る。

ポイント

・実際のバス車両や運転手の話から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます。
・準備、経費が必要ないため、手軽に実施が可能です。

実施内容

座　学	・（座学1）身の回りの公共交通 ・（座学2）公共交通のマナー
体　験	・（体験1）バスの乗降体験 ・（体験4）バスの走行体験

授業の流れ

1時間目（座学）

・学校の周りの公共交通について（20分）
・公共交通のマナーについて（20分）
・まとめ（5分）



2時間目（体験）

・自己紹介、趣旨説明（5分）
・バスの乗り方について（10分）
・校庭でのバス乗車・走行体験（25分）
・まとめ（5分）



実施した学校の先生の感想

・バス停での待ち方から降車の仕方まで実際に走行するバスを用いて乗車体験ができたことで、校外学習に向けてより実践的な学習ができた。

19

図　3-76　参考３－令和３年度案内冊子（19/36）

事例	座学のみの公共交通の学習 ～バスの乗り方、電車の乗り方 ver. ～	2年生 生活科

必要な授業時間数	必要な準備物	必要な費用
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

関連する単元	生活科「公共物や公共施設の利用」
教科目標 ・学習のねらい	・身近な地域にどのような乗り物があるかを知り、公共物や公共施設等はみんなで使うものと理解する。 ・身近な公共交通の乗り方を学ぶ。
ポイント	・校外学習の事前学習として効果的です。 ・準備、経費が必要ないため、手軽に実施が可能です。

実施内容

座　学	・（座学1）身の回りの公共交通 ・（座学3）バスの乗り方 ・（座学4）電車の乗り方
体　験	・（体験5）電車の切符購入体験

授業の流れ

1時間目 （座学）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（20分） ・バスの乗り方について（15分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （座学 ＋ 体験）	・電車の乗り方について（25分） ・電車の切符購入体験（15分） ・まとめ（5分）	

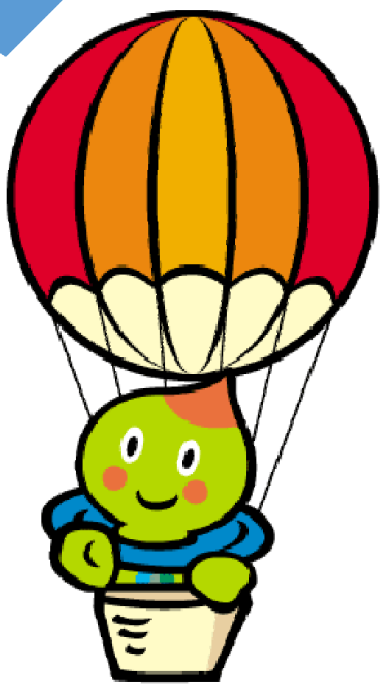
実施した学校の先生の感想

・電車の乗り方を事前に学習したことで校外学習当日にスムーズに電車に乗ることができた。
・模擬の券売機を用いた体験により、子どもたちが積極的に取り組んでくれた。

20

図　3-77　参考 3－令和３年度案内冊子（20/36）

中学年向けの
メニュー・提供素材



22

図　3-78　参考３－令和３年度案内冊子（21/36）

座学 5	鉄道すごろくゲーム

内容が特にマッチする学年・教科	4年生 社会科	実施形式	資料提供	必要時間	約45分	素　材	ゲームツールのデータ

内　容

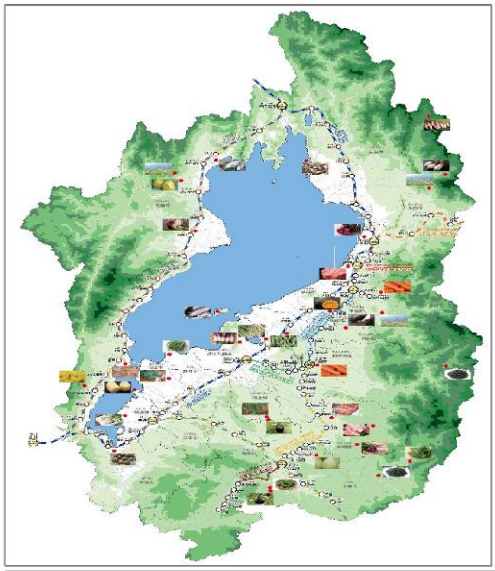
滋賀県内の鉄道路線図をすごろくとし、県内で実際につくられている食材を集めに鉄道駅を進んでいく、ゲーム型の素材です。

ポイント

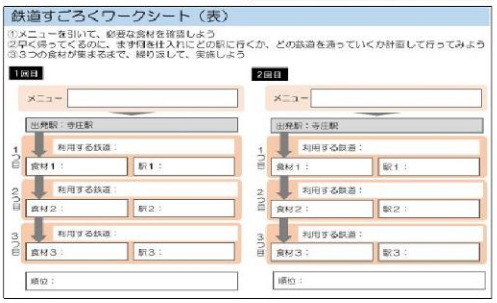
・体験を通じて交通の広がり（路線名や乗換駅等）や地域の特徴・特産品を学びます。
・鉄道すごろくゲームで遊びながら、単元の理解を深めることができます。

提供素材例

・鉄道すごろくの遊び方に関する資料
・ワークシート







【ゲームの内容】
・地産地消カフェの店員となり、ゲーム開始時に指定された料理に用いる食材を鉄道をつかって仕入れに行くゲームです。
・カードに書かれているヒントを見て、必要な食材が　どこにあるかを考えながら、鉄道を使って探しに行きます。
・食材を集めてはやくスタート地点に戻ってきた人が勝利です。

23

図　3-79　参考 3－令和３年度案内冊子（22/36）

授業の実施イメージ

【鉄道すごろくゲームの説明】 …5分

・鉄道すごろくの内容
・鉄道すごろくの準備、遊び方　等

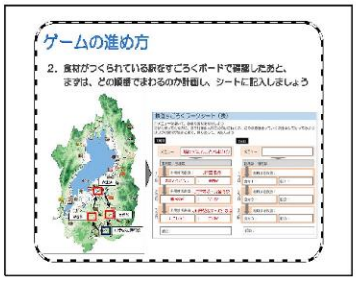
【鉄道すごろくの実施 …40分（20分×2回）

・１班５人に分かれて、鉄道すごろくを実施
・利用した駅や、食材の特徴（時期や主な産地等）をワークシートに記入

【まとめ】 …5分

・すごろくをして気づいたことを発表
（交通の広がり、地域の特徴、滋賀県の地形　など）

















実施した学校の先生の感想

・すごろくを通して、楽しみながら滋賀県の鉄道や特産物について学ぶことができ、もっとやりたいという児童が多くみられた。教科書だけでは分からない滋賀の魅力に気付くことができた。

24

図　3-80　参考３－令和３年度案内冊子（23/36）

体験 6	バスを活用した障がい者体験

内容が特にマッチする学年・教科	4年生 総合的な学習	実施形式	体験サポート	必要時間	約45分	素　材	実車バス

実施内容

・バスを小学校へお持ちし、障がい者の乗降体験を行います。
【身体障がい者体験例】 車いすを利用しての乗降体験
【視覚障がい者体験例】 アイマスク・白杖を装着しての乗降体験
・バス事業者より、車いすや白杖使用者の乗車時の対応や、バスの工夫等について説明します。
・バス車両の工夫点を観察することが出来ます。
・体験を行う時は安全確保のため、バス事業者等が乗車支援・サポートをします。
・体験するためのワークシートの提供も行います。

※留意事項（P.4）の確認をお願いします。
※時間配分の関係上全員が体験できない場合があります。

ポイント

・実際のバス車両での体験から、普段の生活や移動で自分にできることを実感を持って理解できます
・すでに取り組まれているバリアフリーの配慮・工夫等から、社会の仕組みを実感することができます

授業の流れ（例）

※導入、まとめは小学校にて実施願います。

導　入

<u>障がい者とともに生きることを考える</u>
・（例）白杖、ｱｲﾏｽｸ等の使用、介助方法を学習する
・（例）バス車両の仕組みを予想する



体験学習（1時間）

<u>導入授業を踏まえ、障がい者の移動を実感する</u>



まとめ

<u>体験学習を通じて、自分にできることを考える</u>
・（例）体験、観察を通して気付いたことを発表　（バスの工夫等）
・（例）公共交通はみんなにとって大切な移動手段であることに気付く

25

図　3-81　参考３－令和３年度案内冊子（24/36）

授業の実施イメージ

【事業者からの話】 …5分

・バス車両の工夫ついて
・利用者からの声
・障がいがあるお客様への対応、気を付けてほしいこと　　等

【バス車両でのアイマスク体験】 （全員） …20分

・２人１組（体験者＋介助者）に分かれてアイマスクを着用
・各ペアが順番に乗車し、運賃支払・降車を順番に体験
・ワークシートに体験の感想・気づいたこと等を記入

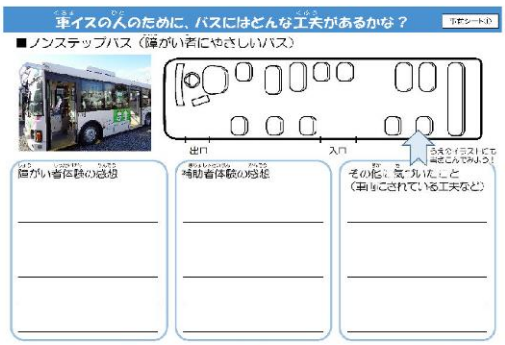
【バス車両での車イス体験】 （代表児童） …5分

・代表児童（体験者1人、介助２人）による車いす体験
・感想を発表
・ワークシートに体験の感想・気づいたこと等を記入

【車両観察、質問コーナー】 …15分

・バス車両のバリアフリーの工夫や仕組みを観察
・観察時の疑問や全体を通した事業者への質問









実施した学校の先生の感想

・アイマスクをしながら車両の狭い空間を行き来する体験は、介助の大切さを知る貴重な機会。
・大人も初めて知るような工夫が車両にはたくさんあり、子どもたちの発見につながる良い経験になった。

26

図　3-82　参考３－令和３年度案内冊子（25/36）



図　3-83　参考３－令和３年度案内冊子（26/36）

座学 6	琵琶湖と交通の関わり

内容が特にマッチする学年・教科	5年生 フローティングスクール	実施形式	資料提供	必要時間	約45分	素　材	パワーポイント

内　容

・琵琶湖周辺の暮らし・交通の変化から琵琶湖は昔、交通の要衝で人々の暮らしを支えていたことを知り、現在の交通も生活・移動を支えていることを学びます。

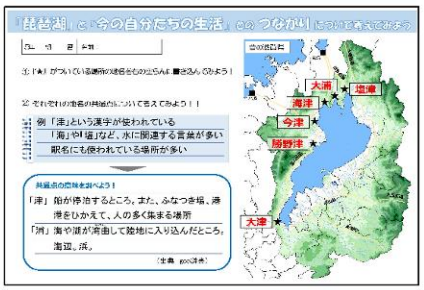
ポイント

・昔の琵琶湖は湖上交通が発達しており、それに伴って周りのまちが発展してきた経緯があります。交通を視点とした琵琶湖学習を行うことにより、琵琶湖とまちの関わりをより幅広く学ぶことができます。

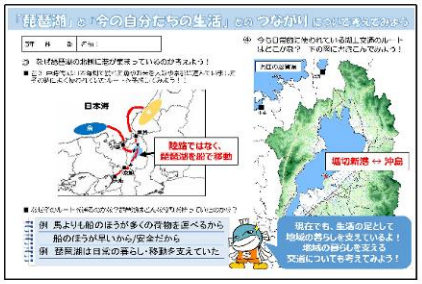
提供素材例

・琵琶湖周辺の暮らし・交通の変化に関する資料（奈良時代～昭和）
・湖上交通の役割について考えるワークシート

琵琶湖と交通の関係性に関する資料









琵琶湖周辺の暮らし・交通の変化に関する資料





29

図　3-84　参考３－令和３年度案内冊子（27/36）

授業の実施イメージ

琵琶湖に**<u>港があった</u>**（ある）ことを知る

・琵琶湖周辺の地名を調べてWSに記入する

・記入した地名について共通点を考える

・地名に共通する漢字の意味について調べる

琵琶湖は**<u>交通の要衝であった</u>**ことを理解する

・日本海側からの荷物の輸送ルートを予想する

・港は荷物を京都や大阪、大津まで輸送するための中継点であったことを知る

・陸路を短縮するために琵琶湖に交通が集まっていたことを理解する

現在も琵琶湖に**<u>湖上交通が残っており、生活を支えている</u>**ことを理解する

・今も日常的に残っている湖上交通のルートを予想する

・湖上交通が現在も運航していることを知る（沖島）

陸上においても、**<u>現在の交通も生活・移動を支えている</u>**ことを理解する

・琵琶湖のように地域の生活・移動を支えているものは何があるかを考える

・バスや鉄道等の交通が生活・移動を支える役割を果たしていることを知る







<u>実施した学校の先生の感想</u>

・琵琶湖にふれあう機会が少ない地域の子どもたちにとっても有効な学習であったと思う。単に琵琶湖に行って体験するのと事前に学習してから体験するのとでは、学習の理解の深まり方が違う。

・宿泊体験時に湖上交通に関する話があり、子どもたちは学習内容を思い出しながら興味を持って話を聞けていた。

30

図　3-85　参考３－令和３年度案内冊子（28/36）

座学 7	地域の公共交通の現状と問題						
内容が特にマッチする学年・教科	6年生 総合的な学習	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約45分	素　材	パワーポイント

内　容

・地域の公共交通の現状・問題と、それに対する行政の支援等（コミュニティバス・乗合タクシーの運行、利用促進の取組等）を紹介します。

ポイント

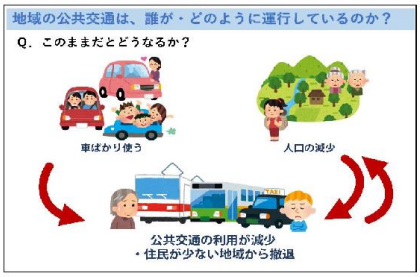
・暮らしに密接した公共交通の視点から考えることにより、地域の現状と将来のあり方を考えるとともに、政治の役割・働きについてイメージがしやすくなります。

・行政担当者等から話を聞くことで地域で働く人の想い・考えを学ぶ、キャリア学習としても効果的です。

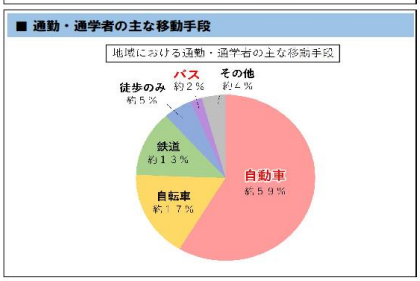
提供素材例

・地域の公共交通の現状と行政支援に関する資料
・地域の公共交通に関するデータ（路線図、利用者推移等）

地域の公共交通の現状・問題に関する資料

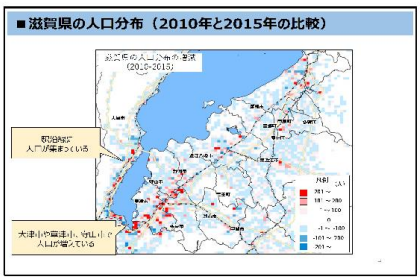


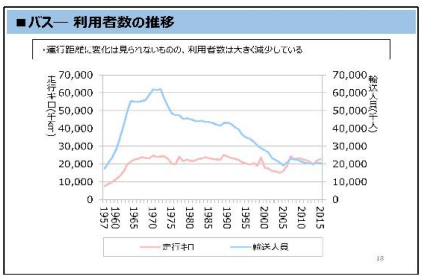






地域の公共交通に関するデータ





31

図　3-86　参考３－令和３年度案内冊子（29/36）

授業の実施イメージ

〇地域の公共交通の現状

問：地域の公共交通にはどんなものがあるのか、誰が運行しているのか？
→（公共交通の種類）鉄道、路線バス、乗合タクシー等
→（運行主体）●●鉄道、●●バス、●●市

問：地域の公共交通の問題点は？
→自家用車の利用増加、地域の人口が減少
→利用減少により、住民が少ない地域から撤退
→移動手段がなくなり日常生活に支障をきたす

問：地域の公共交通の役割は？なぜ守る必要があるのか？
→高齢者の外出支援、渋滞解消、交通事故抑制、CO2削減等

〇行政や事業者が実施している利用促進等

→小学校への授業、チラシ作成・配布、利用方法の説明会等

〇まとめ

地域の交通に関わる人の話を踏まえ、自分たちにもできることは何かあるか






実施した学校の先生の感想

・滋賀県の交通環境について知り、地域の人々にとっても、観光等で滋賀県を訪れる人にとっても公共交通は大切であり、守っていかないといけないと学んでいた。
・働く人々の考えを知ることで自己の成長に生かせた。

32

図　3-87　参考３－令和３年度案内冊子（30/36）

座学 8	地域の交通の紹介、時刻表・路線図の読み方

内容が特にマッチする学年・教科	ー	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約45分	素　材	パワーポイント

内　容

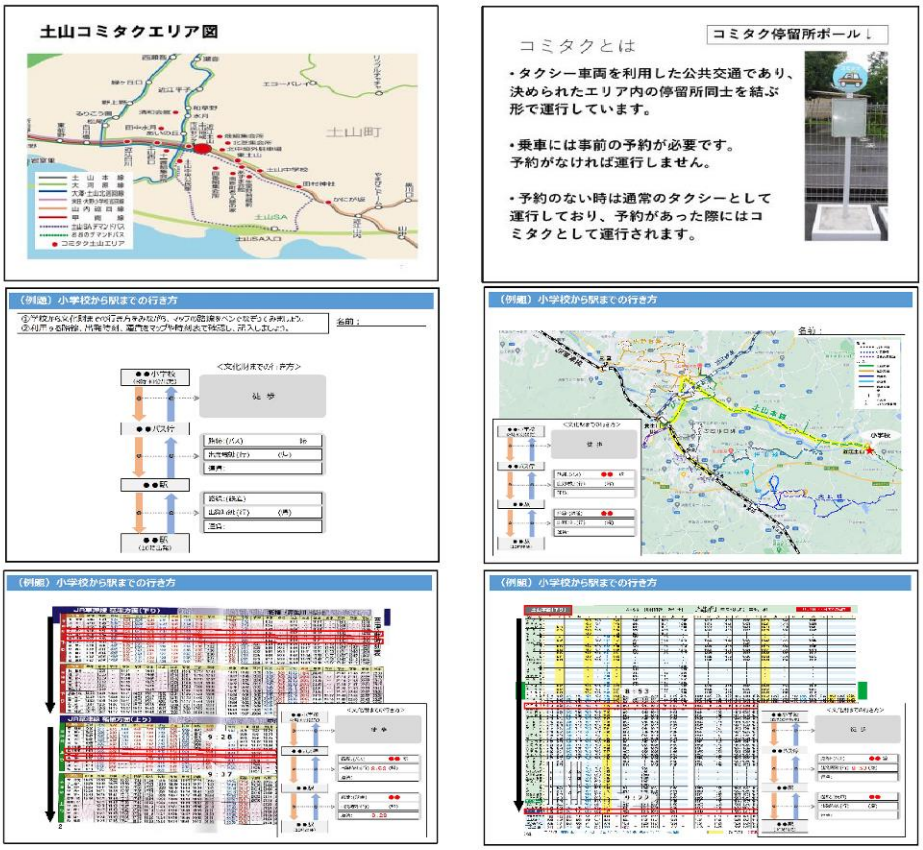
・自分の住んでいる地域を支えている交通について紹介し、時刻表・路線図の読み方等について学習します。

ポイント

・地域を支えている公共交通の運行形態や利用方法等を学べます。
・公共交通を使って一人でも目的地にたどり着けるように、実際の時刻表等の読み方について学ぶため、校外学習で公共交通を利用する際の事前学習としても効果的です。

提供素材例

・地域の交通についての資料
・時刻表・路線図の読み方に関する資料



33

図　3-88　参考３－令和３年度案内冊子（31/36）

授業の実施イメージ

【事前学習】
〇公共交通の使い方（講座）
・小学校の地域を運行する公共交通の紹介
・時刻表の読み方を説明
・利用方法を説明

〇目的地（例：文化財）までの行き方（計画をたてる）
・利用する公共交通機関及び路線をマップで確認
・公共交通の出発・到着時刻、必要な運賃を時刻表で確認

【校外学習】
調べたルート・時間のとおり公共交通を利用し、目的地まで行く。

※この授業では事前学習について、お手伝いします。







実施した学校の先生の感想
・地域の交通が何があるかを知り、利用方法もわかったことで利用していこうとする意識が出ていた。
・時刻表の見方やプランの計画をわかりやすく教えていただき、有意義だった。自分の住む地域のことを学習する貴重な機会であり、実物素材を活用することで理解が深まった。

34

図　3-89　参考３－令和３年度案内冊子（32/36）

過去の実績



36

図　3-90　参考３－令和３年度案内冊子（33/36）

過去の実績

～ 過去の実績一覧 ～

年度	件数
H28年度	2市町　3校
H29年度	6市町　14校
H30年度	9市町　20校
R1年度	9市町　26校
R2年度	15市町　55校

～ 年度別の実施小学校・学年～

【H28年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
草津市	1校	志津南小学校（2年生）
東近江市	3校	市原小学校（3・6年生）、湖東第三小学校（2年生）、能登川北小学校（2年生）
合計	2市町　4校	

【H29年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	1校	瀬田北小学校（2年生）
彦根市	1校	城東小学校（2年生）
草津市	2校	草津小学校（2年生）、志津南小学校（2年生）
甲賀市	2校	大野小学校（2年生）、土山小学校（2年生）
湖南市	1校	しおん園（3～5歳児）
東近江市	7校	愛東あいあい幼稚園（3～5歳児）、玉緒幼稚園（3～5歳児）、もみじ幼稚園（4・5歳児）、市原小学校（6年生）、布引小学校（2年生）、御園小学校（2年生）、八日市養護学校（高等部）
合計	6市町　14校	

37

図　3-91　参考３－令和３年度案内冊子（34/36）

過去の実績

【H30年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	3校	上田上小校（2年生）、瀬田北小学校（2年生）、仰木の里東小学校（2年生）
彦根市	2校	城東小学校（2年生）、旭森小学校（2年生）
草津市	2校	老上西小学校（2年生）、志津南小学校（2・5年生）
守山市	1校	守山小学校（2年生）
甲賀市	2校	土山小学校（2・3・4年生）、大野小学校（2・6年生）
湖南市	2校	菩提寺小学校、三雲小学校
東近江市	6校	御園小学校（2年生）、八日市西小学校（2年生）、布引小学校（2年生）、市原小学校（2年生）、五箇荘小学校（2年生）、能登川小学校（2年生）
竜王町	1校	竜王西小学校（2年生）
甲良町	1校	甲良東小学校（2年生）
合計	9市町　20校	

【R1年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	3校	上田上小校（1・2・5年生）、瀬田南小学校（2年生）、瀬田北小学校（2年生）
彦根市	4校	城東小学校（2年生）、佐和山小学校（2年生）、旭森小学校（2年生）、高宮小学校（2年生）
近江八幡市	1校	岡山小学校（2年生）
草津市	3校	老上西小学校（2年生）、笠縫小学校（2年生）、志津南小学校（2年生）
甲賀市	3校	土山小学校（2・3・4・5・6年生）、綾野小学校（2年生）、大野小学校（2年生）
湖南市	2校	菩提寺小学校（3年生）、三雲小学校（2年生）
東近江市	7校	箕作小学校（2年生）、八日市西小学校（2年生）、布引小学校（2年生）、市原小学校（2年生）、五個荘小学校（2年生）、愛東南小学校（2年生）、能登川北小学校（2年生）
竜王町	2校	竜王小学校（2年生）、竜王西小学校（2年生）
甲良町	1校	甲良東小学校（2年生）
合計	9市町　26校	

38

図　3-92　参考３－令和３年度案内冊子（35/36）

過去の実績

【R2年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	7校	富士見小学校（2・4年生）、下坂本小学校（2年生）、小野小学校（1・2年生）、膳所小学校（2年生）、仰木の里東小学校（2年生）、唐崎小学校（2年生）、長等小学校（2年生）
彦根市	8校	亀山小学校（2・4・6年生）、城西小学校（2年生）、金城小学校（2年生）、佐和山小学校（2年生）、旭森小学校（2年生）、城南小学校（2年生）、稲枝北小学校（2年生）、若葉小学校（2年生）
近江八幡市	3校	桐原東小学校（2年生）、武佐小学校（2年生）、沖島小学校（1・2年生）
草津市	8校	老上西小学校（2年生）、山田小学校（2年生）、草津小学校（2年生）、草津第二小学校（2年生）、南笠東小学校（2年生）、笠縫東小学校（2年生）、笠縫小学校（2年生）、老上小学校（2年生、特別支援学級）
甲賀市	3校	土山小学校（1・2・3・4・5・6年生）、綾野小学校（2年生）、伴谷小学校（4年生）
湖南市	1校	石部南小学校（2年生）
東近江市	10校	湖東第一小学校（2年生）、五個荘小学校（2年生）、愛東南小学校（2年生）、湖東第二小学校（2年生）、布引小学校（2年生）、市原小学校（2年生）、箕作小学校（2年生）、湖東第三小学校（2年生）、蒲生北小学校（2年生）、能登川東小学校（2年生）
竜王町	1校	竜王西小学校（2年生）
長浜市	4校	神照小学校（2年生）、長浜小学校（2年生）、浅井小学校（2年生）、長浜南小学校（2年生）
守山市	2校	守山小学校（2年生）、速野小学校（2年生）
米原市	1校	柏原小学校（2年生）
栗東市	3校	治田小学校（2年生）、治田東小学校（2年生）、大宝西小学校（2年生）
日野町	2校	西大路小学校（1・2年生）、桜谷小学校（1・2・3・4・5・6年生）
豊郷町	1校	日栄小学校（2年生）
野洲市	1校	北野小学校（2年生）
合計	15市町　55校	

39

図　3-93　参考３－令和３年度案内冊子（36/36）

（c）HP への掲載イメージ

a）現在の掲載情報の整理

学習プログラム・素材の授業への活用をイメージしやすい HP でのデータ提供方法について検討していくにあたり、まずは滋賀県の HP に掲載されている現在の掲載情報について整理することとした。

現在、滋賀県の HP に掲載されている情報は、事業についての紹介を行う市民向けの内容と、素材を活用する際の参考となる小学校の先生向けの内容が混在している状況であり、また、学校の先生向けの内容は HP の下部に掲載されているため、情報を得るには一定の画面スクロールが必要となっている状況である。

これらを踏まえ、HP へのデータ提供にあたっては、学校の先生が必要とする情報が一目でわかるようにするとともに、情報を得るための負担を減らすことを基本に検討を行うこととした。

表 3-9 現在滋賀県の HP に掲載されている情報

項目		内容
１．交通環境学習について		・滋賀県ではエコ交通を推進している。 ・公共交通を利用するきっかけづくりとして、MM 教育を実施している。
２．学年ごとの目的	低学年	・自動車以外の乗り物（鉄道・バス）について学習する。 ・自動車と公共交通の移動の違いについて学習し、移動手段で公共交通を選択するきっかけをつくる。 ・バスの乗り方や乗車マナーを学習する。
	高学年	・環境問題と自動車の関係について学習する、 ・自動車と公共交通での移動の違いを、環境問題の観点から考える。 ・地域社会における公共交通の役割を学習する。 ・自動車と公共交通を上手に使い分ける生活を学ぶ。 ・バスの路線図や時刻表の見方とバスの乗り方や乗車マナーを学習する。
	幼稚園 ・保育園	・自動車以外の乗り物（鉄道・バス）について学習する。 ・バスの乗り方について学習する。 ・バスの実車に触れることにより、興味を持ってもらう。
３．実施学校・実施例		・各年度の実施学校・実施例 ※実施学校が多く、画面スクロールの負担が大きい。
４．実施のススメ		・交通環境学習の取組紹介・案内 ・交通環境学習の周知パンフレット ・申し込みシート
５．お問い合わせ		・滋賀県土木交通部交通戦略課の連絡先



図 3-94 滋賀県 HP に掲載されている現在の情報（1/2）



平成30年度

1. 大津市立上田上小学校（2年生）
2. 大津市立瀬田北小学校（2年生）
3. 大津市立仰木の里東小学校（2年生）
4. 彦根市立城東小学校（2年生）
5. 彦根市立旭森小学校（2年生）
6. 草津市立老上西小学校（2年生）
7. 草津市立志津南小学校（2年生、5年生）
8. 守山市立守山小学校（2年生）
9. 甲賀市立大野小学校（2年生、6年生）
10. 甲賀市立土山小学校（2年生、3年生、4年生）
11. 東近江市立御園小学校（2年生）
12. 東近江市立八日市西小学校（2年生）
13. 東近江市立布引小学校（2年生）
14. 東近江市立市原小学校（2年生）
15. 東近江市立五個荘小学校（2年生）
16. 東近江市立能登川北小学校（2年生）
17. 竜王町立竜王西小学校（2年生）
18. 甲良町立甲良東小学校（2年生）

平成29年度

平成29年度からは、幼稚園・保育園でも実施しております。

1. 東近江市立玉緒幼稚園
2. 東近江市立市原小学校（6年生）
3. 東近江市立もみじ保育園
4. 草津市立草津小学校（2年生）
5. 甲賀市立土山小学校（2年生）
6. 彦根市立城東小学校（2年生）
7. 東近江市立御園小学校（2年生）
8. 東近江市立愛東あいあい幼稚園
9. 甲賀市立大野小学校（2年生）
10. 東近江市立布引小学校（2年生）
11. 湖南市 しおん園
12. 草津市立志津南小学校（2年生）
13. 大津市立瀬田北小学校（2年生）
14. 滋賀県立八日市養護学校（高等部）

平成28年度

1. 東近江市立能登川北小学校（2年生）
2. 東近江市立市原小学校（3、6年生）
3. 東近江市立湖東第三小学校（2年生）
4. 草津市立志津南小学校（2年生）

実施のススメ

交通環境学習は、ただ「バスが来た！」「バスに乗った！」というだけでなく、バスに触れて興味を持つことで、公共交通に関する様々な問題を解決するきっかけにする、という明確な目的があります。

その様々な問題は地域によって異なるため、この事業は滋賀県だけでなく各市町、交通事業者、バス協会などと協働して実施していきます。

興味をお持ちの方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

資料

交通環境学習のご紹介2020 (PDF:7 MB)
申込シート2020 (PDF:59 KB)
◆小学校向け「交通環境学習のススメ」(PDF:2 MB)
◆幼児（幼稚園・保育園）向け「交通環境学習のススメ」(PDF:810 KB)

お問い合わせ

滋賀県土木交通部交通戦略課
電話番号：077-528-3684
FAX番号：077-528-4837

図　3-95　滋賀県 HP に掲載されている現在の情報（2/2）

b）滋賀県 HP への掲載イメージ例

前項の考え方を踏まえ、教材データの掲載を行う際の HP 構成及び掲載イメージ例について以下の通り整理した。

まず、市民向けの内容と小学校の先生向けの内容を区別しやすくするため、掲載情報の項目に「小学校の先生方へ」という文言を記載し、必要とする情報が一目でわかるようにした。また、画面をスクロールする負担を軽減するため、PDF 等でのデータ添付や別ウインドウでの表示を行う等により、一画面で表示する情報を少なくすることとした。また、教材やワークシートについては、周知パンフレットの掲載内容とリンクさせるため、周知パンフレットで紹介しているメニューに対応する形で掲載するよう整理した。

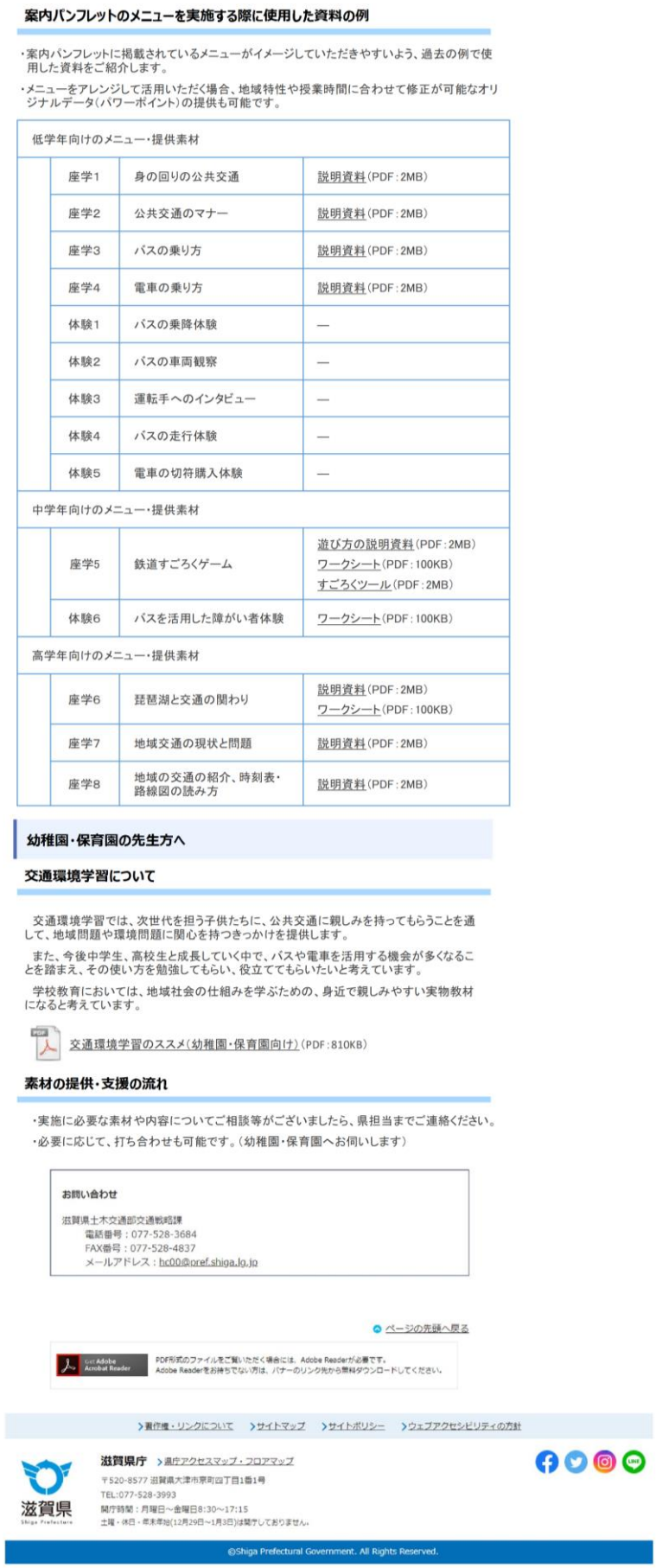
以下に、HP の構成イメージ及びデータの掲載イメージ例を示す。

表 3-10 HP の構成イメージ

項目		内容
１．事業の概要		・滋賀県ではエコ交通を推進している。 ・公共交通を利用するきっかけづくりとして、MM 教育を実施している。 ・各年度の実施学校・実施例（※PDF 等データを添付）
２．小学校の先生方へ	交通環境学習について	・地域問題や環境問題に関心を持つきっかけを提供する。 ・バス等の使い方を勉強してもらい、生活に役立ててもらうことを目的とする。 ・教育の観点でも、地域社会の仕組みを学ぶための、身近で親しみやすい実物教材となる。
	素材の提供・支援の流れ	・交通環境学習の周知パンフレット ・申し込みシート ・申込から実施までの流れ
	案内パンフレットのメニューを実施する際に使用する資料の例	・案内パンフレットで紹介しているメニューごとに、説明資料やワークシート等のデータを PDF 等で添付
３．幼稚園・保育園の先生方へ	交通環境学習について	・地域問題や環境問題に関心を持つきっかけを提供する。 ・バス等の使い方を勉強してもらい、生活に役立ててもらうことを目的とする。 ・教育の観点でも、地域社会の仕組みを学ぶための、身近で親しみやすい実物教材となる。
	素材の提供・支援の流れ	・実施する場合は、県担当へ連絡する。
５．お問い合わせ		・滋賀県土木交通部交通戦略課の連絡先


滋賀県
Shiga Prefecture
文字サイズ 小 標準 大 文字・音声サポート Language google検索
県民の方 事業者の方 県外の方 Mother Lake 琵琶湖 県政情報 防災・災害情報
滋賀県 > 県民の方 > 県土整備 > 公共交通
交通環境学習（モビリティ・マネジメント）
2020年4月1日
事業の概要
滋賀県では、移動手段における自動車の分担率が高いことが原因の交通問題と、公共交通の衰退、人口減少社会により、将来地域社会を支える交通の維持が困難になるという課題があるため、マイカー中心から公共交通中心へと県民の意識とライフスタイルの転換を図る「エコ交通」を推進しています。
この取組の一環として、幼少期から公共交通に対する意識と親しみを持ち、公共交通を利用するきっかけをつくるため、平成28年度より小学生を対象とし、市町自治体や交通事業者との協働により、より地域に密着した内容でのモビリティ・マネジメント教育を実施していきます。
平成29年度からは、幼児期よりバスに親しみを持ってもらうために、幼稚園や保育園でも小学校同様にバスの実車を持ち込んだモビリティ・マネジメント教育を実施しています。
♦令和2年度交通環境学習実施状況（PDF：200KB）
♦令和元年度交通環境学習実施状況（PDF：200KB）
♦平成30年度交通環境学習実施状況（PDF：200KB）
♦平成29年度交通環境学習実施状況（PDF：200KB）
♦平成28年度交通環境学習実施状況（PDF：200KB）
小学校の先生方へ
交通環境学習について
交通環境学習では、次世代を担う子供たちに、公共交通に親しみを持ってもらうことを通して、地域問題や環境問題に関心を持つきっかけを提供します。
また、今後中学生、高校生と成長していく中で、バスや電車を活用する機会が多くなることを踏まえ、その使い方を勉強してもらい、役立ててもらいたいと考えています。
学校教育においては、地域社会の仕組みを学ぶための、身近で親しみやすい実物教材になると考え、学習を深める素材の提供を行っています。
交通環境学習のススメ（小学校向け）（PDF：2MB）
素材の提供・支援の流れ
交通環境学習案内パンフレット（PDF：7MB）
申し込みシート（PDF：59KB）
案内パンフレットで実施したい授業を選択
「申し込みシート」に必要事項を記入し、FAX送信（メールも可）
滋賀県の交通環境学習担当者より連絡（日時、内容の確認）
授業実施
実施後アンケートの送付
・実施内容について御不明点がございましたら、県担当までご連絡ください。
・必要に応じて、打ち合わせも可能です。（小学校へお伺いします）
県土整備
まちづくり
道路・橋梁
公共交通
住宅・建築
河川・港湾・流域治水
砂防
ダム
水道・下水道
技術・品質管理
バナー広告

図 3-96 HP への掲載イメージ例（1/2）



案内パンフレットのメニューを実施する際に使用した資料の例

・案内パンフレットに掲載されているメニューがイメージしていただきやすいよう、過去の例で使用した資料をご紹介します。

・メニューをアレンジして活用いただく場合、地域特性や授業時間に合わせて修正が可能なオリジナルデータ（パワーポイント）の提供も可能です。

低学年向けのメニュー・提供素材			
	座学1	身の回りの公共交通	説明資料（PDF：2MB）
	座学2	公共交通のマナー	説明資料（PDF：2MB）
	座学3	バスの乗り方	説明資料（PDF：2MB）
	座学4	電車の乗り方	説明資料（PDF：2MB）
	体験1	バスの乗降体験	—
	体験2	バスの車両観察	—
	体験3	運転手へのインタビュー	—
	体験4	バスの走行体験	—
	体験5	電車の切符購入体験	—
中学年向けのメニュー・提供素材			
	座学5	鉄道すごろくゲーム	遊び方の説明資料（PDF：2MB） ワークシート（PDF：100KB） すごろくツール（PDF：2MB）
	体験6	バスを活用した障がい者体験	ワークシート（PDF：100KB）
高学年向けのメニュー・提供素材			
	座学6	琵琶湖と交通の関わり	説明資料（PDF：2MB） ワークシート（PDF：100KB）
	座学7	地域交通の現状と問題	説明資料（PDF：2MB）
	座学8	地域の交通の紹介、時刻表・路線図の読み方	説明資料（PDF：2MB）

幼稚園・保育園の先生方へ

交通環境学習について

交通環境学習では、次世代を担う子供たちに、公共交通に親しみを持ってもらうことを通して、地域問題や環境問題に関心を持つきっかけを提供します。

また、今後中学生、高校生と成長していく中で、バスや電車を活用する機会が多くなることを踏まえ、その使い方を勉強してもらい、役立ててもらいたいと考えています。

学校教育においては、地域社会の仕組みを学ぶための、身近で親しみやすい実物教材になると考えています。

交通環境学習のススメ（幼稚園・保育園向け）（PDF：810KB）

素材の提供・支援の流れ

・実施に必要な素材や内容についてご相談等がございましたら、県担当までご連絡ください。

・必要に応じて、打ち合わせも可能です。（幼稚園・保育園へお伺いします）

お問い合わせ

滋賀県土木交通部交通戦略課
電話番号：077-528-3684
FAX番号：077-528-4837
メールアドレス：hc00@pref.shiga.lg.jp

ページの先頭へ戻る

Get Adobe Acrobat Reader　PDF形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe Readerが必要です。Adobe Readerをお持ちでない方は、バナーのリンク先から無料ダウンロードしてください。

著作権・リンクについて　サイトマップ　サイトポリシー　ウェブアクセシビリティの方針

滋賀県 Shiga Prefecture

滋賀県庁　県庁アクセスマップ・フロアマップ
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号
TEL:077-528-3993
開庁時間：月曜日～金曜日8:30～17:15
土曜・休日・年末年始(12月29日～1月3日)は開庁しておりません。

©Shiga Prefectural Government. All Rights Reserved.

図　3-97　HP への掲載イメージ例（2/2）

3）実施・連携体制の構築・強化

従来の出前授業で終わるのではなく、単元の理解を深める交通素材を活用した学習の支援を市町・事業者が主体となって実施していくことが望まれるが、短期的に市町や事業者だけで進めていくことは難しいと考えられる。そのため、引き続き、県からプログラム・素材について周知・サポートを行うとともに、より効果的なものにしていくために学校の意見を踏まえながら、学校・行政・事業者それぞれに有益な授業となるように素材のブラッシュアップを行っていく必要がある。

また、継続的な実施に向けて実施体制を強化させるため、引き続き、市町・事業者と協議しながら、毎年実施する授業として定着化させていくことが望まれる。

これらを踏まえて、Ｒ３年度以降の実施・連携体制の構築・強化として以下のように整理した。

＜実施・連携体制の構築・強化のイメージ＞

①県が研究会で構築したプログラム・素材を学校へ周知・提供

⇒②市町やバス協会との連携体制を構築・強化

⇒③県・市町・バス協会がもつノウハウを活かし、事業者へのサポートを行う。

⇒④県・市町・バス協会・事業者が連携して、学習の実施または学校へのサポートを行う。

⇒⑤学習の結果を踏まえ、教師との意見・情報交換を実施する。

⇒①・・・

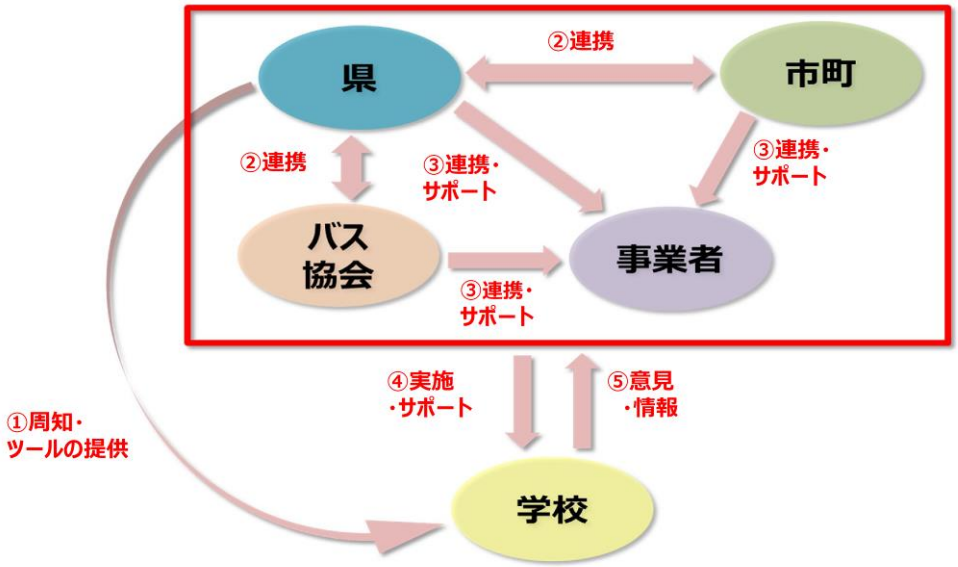


図　3-98　実施・連携体制の構築・強化のイメージ

第４章　近江の心を育む交通環境学習の普及･検討研究会の実施

－ 目 次 －

４．　近江の心を育む交通環境学習の普及･検討研究会の実施 ４-1

４-１ 実施方針 ４-1

４-２ 令和２年度 近江の心を育む交通環境学習の普及･検討研究会 ４-2

４-２-１ 研究会概要 ４-2

４-２-２ 研究会資料 ４-3

４-２-３ 議事録 ４-87

４-３ 令和２年度交通環境学習における市町担当者会議 ４-92

４-３-１ 市町担当者会議概要 ４-92

４-３-２ 会議資料 ４-93

４-３-３ 議事録 ４-150

４．近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会の実施

４-１ 実施方針

これまで検討・試行を行ってきた内容を踏まえ、研究会及び市町説明会に諮る資料のとりまとめを行った。

表 ４-1 実施概要

項目	開催日時	議題
令和２年度　近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会	令和３年３月17日（水） 10:00～12:00	（１）昨年度までの取組状況 （２）今年度の取組状況
令和２年度交通環境学習における市町担当者会議	令和３年３月24日（水） 14:00～16:00	（１）交通環境学習について （２）今年度の授業実績および事例紹介について （３）小学校への授業実施後アンケート結果について （４）来年度の交通環境学習について

4-2 令和２年度 近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会

4-2-1 研究会概要

研究会の開催概要を以下に示す。

表 4-2 研究会の開催概要

項目	内容
開催日時	令和３年３月17日（水） 10:00～12:00
開催場所	Web 会議
出席者	【会長】 市川 智史（滋賀大学 環境総合研究センター 教授） 【副会長】 水山 光春（京都橘大学 国際英語学部 教授） 野村 義明（滋賀県バス協会 専務理事） 【委員】 野口 明（代理）（JR 西日本 地域創生室長） 畔柳 滋（トヨタ自動車 未来創生センター 担当部長） 遠藤 賢一（近江鉄道 鉄道部 部長） 森井 貴士（滋賀県教育委員会 幼小中教育課 指導主事） 酒井 敏一（国土交通省 近畿運輸局 滋賀運輸支局 主席運輸企画専門官） 北川 雄司（滋賀県 交通戦略課 参事） 【事務局】 交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境企画課 滋賀県 土木交通部交通戦略課 【調査担当機関】 （株）オリエンタルコンサルタンツ
議事次第	１．開会 ２．議題 （１）昨年度までの取組状況 （２）今年度の取組状況
資料	・議事次第 ・出席者名簿 ・資料１ 昨年度までの取組状況 ・資料２ 今年度の取組状況 ・参考１ 学習プログラムの実施・試行結果 ・参考２ 教師宛アンケート ・参考３ 令和３年度案内冊子（案） ・参考４ 学習プログラムの応募、実施状況

4-2-2 研究会資料

今年度の検討・実施の結果を踏まえて、研究会で使用する資料を以下の通り作成した。

（1）議事次第

令和２年度　近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会

次第

日　時：令和３年３月１７日（水）10：00～12：00
（ZOOM 会議）

１．開会

２．議題

（１）昨年度までの取組状況

（２）今年度の取組状況

【配布資料】

議事次第
出席者名簿

資料１	昨年度までの取組状況
資料２	今年度の取組状況
参考１	学習プログラムの実施・試行結果
参考２	教師宛アンケート
参考３	令和３年度案内冊子（案）

図　4-1　議事次第

（２）出席者名簿

研究会名簿

委員					
立場	所属	役職	氏名	備考	出欠
教育系学識者	滋賀大学	教授	市川　智史	会長	出席
教育系学識者	京都橘大学	教授	水山　光春	副会長	出席
交通系学識者	筑波大学	教授	谷口　綾子		欠席
交通事業者（バス）	滋賀県バス協会	専務理事	野村　義明	副会長	出席
交通事業者（バス）	滋賀県バス協会	会長	田畑　太郎		欠席
交通事業者（自動車）	トヨタ自動車	未来創生センター　フロンティア部　担当部長	畔柳　滋		出席
交通事業者（鉄道）	近江鉄道	執行役員　鉄道部長	遠藤　賢一		出席
交通事業者（鉄道）	信楽高原鐵道	総務課長	中西　敏弘		欠席
交通事業者（鉄道）	西日本旅客鉄道㈱近畿統括本部京都支社	地域創生室長	野口　明		代理出席
行政（国）	近畿運輸局　滋賀運輸支局	首席運輸企画専門官	酒井　敏一		出席
行政（県）	滋賀県交通戦略課	参事	北川　雄司		出席
行政（市町）	東近江市	都市基盤整備課長	山本　亨志		欠席
行政（市町）	彦根市	交通対策課長	宮永　幹雄		欠席
行政（市町）	草津市	交通政策課長	岩城　弘宜		欠席
行政（市町）	甲賀市	公共交通推進課長	田村　勝也		欠席
行政（教育委員会）	滋賀県幼小中教育課	指導主事	森井　貴士		出席

事務局					
	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境企画課　調査役	岡本　英晃		出席
	株式会社オリエンタルコンサルタンツ	交通政策部	土崎　伸		出席
	株式会社オリエンタルコンサルタンツ	交通政策部	東川　祐樹		出席
	滋賀県交通戦略課	主事	森口　紋加		出席
	滋賀県交通戦略課	主事	角　謙昇		出席

図　4-2　出席者名簿

（３）資料１　昨年度までの取組状況



図　4-3　資料１－昨年度までの取組状況（1/4）

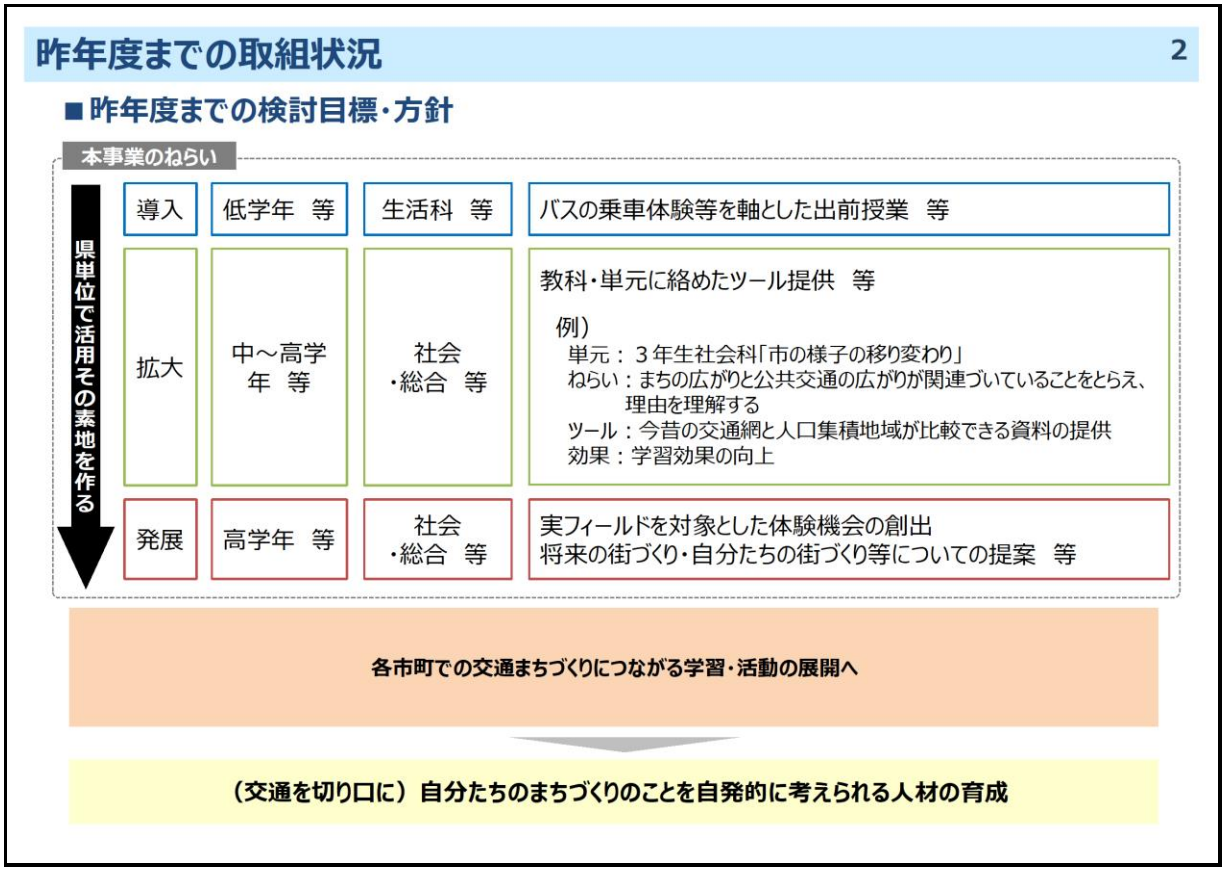


図　4-4　資料１－昨年度までの取組状況（2/4）

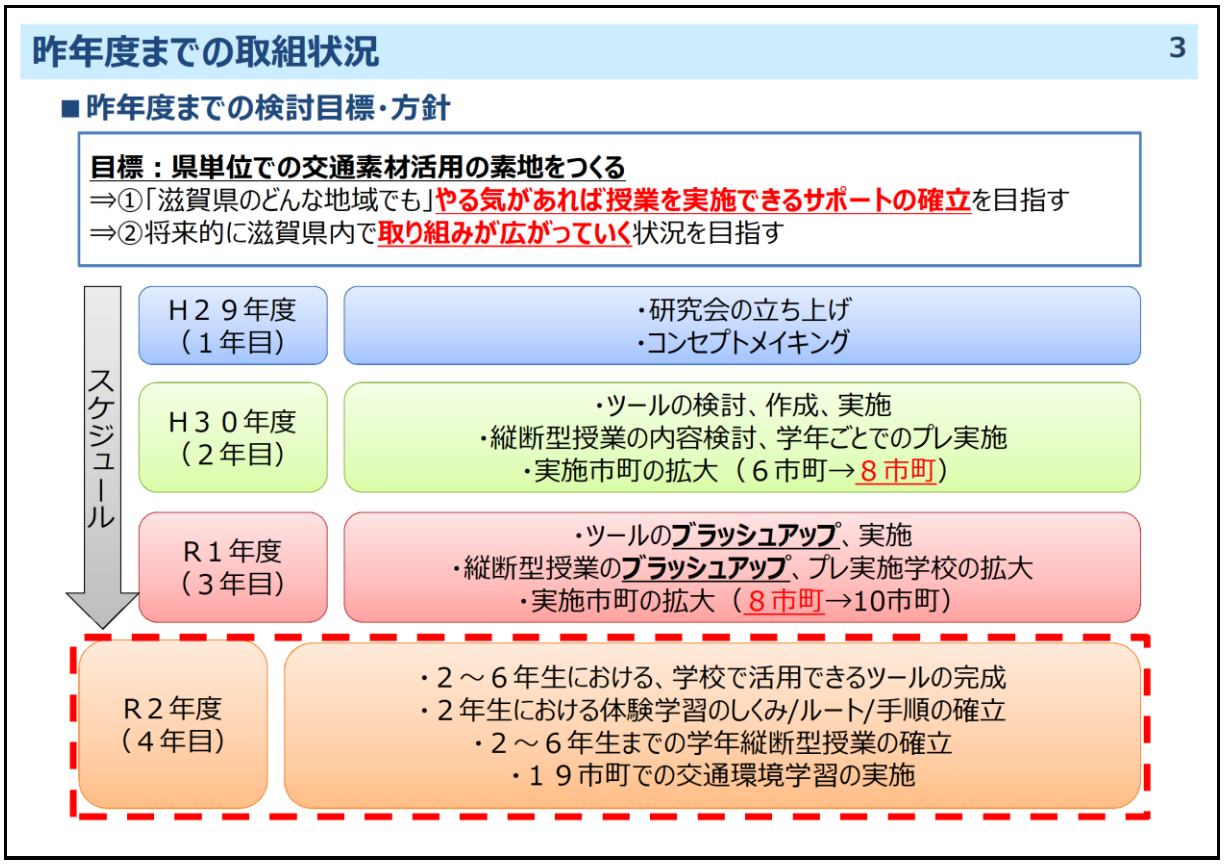


図　4-5　資料１－昨年度までの取組状況（3/4）

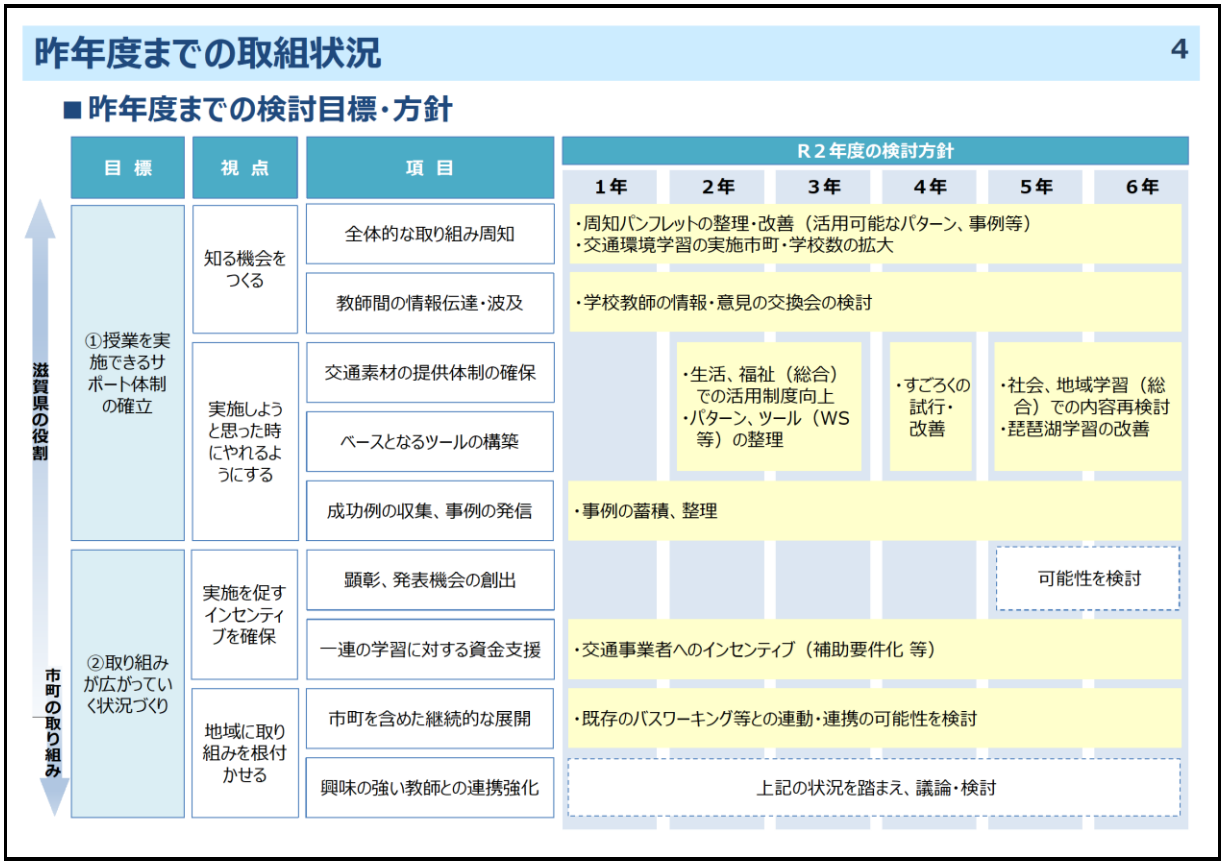


図　4-6　資料１－昨年度までの取組状況（4/4）

（４）資料２　今年度の取組状況



図　4-7　資料２－今年度の取組状況（1/18）



図　4-8　資料２－今年度の取組状況（2/18）

1．今年度の検討の考え方 3

■コロナの状況を踏まえた今年度の検討方針

新型コロナウイルス感染症の状況・影響を考慮し、今年度は下記の方針で検討・実施

①授業を実施できるサポート体制の確立

●周知の仕組みづくり

・Ｒ１年度に作成した素材の周知パンフレットの実用化に向け、**試行配布・検証**

●学習プログラム・素材の整理・高度化

・昨年度までに実施してきた学習プログラム・素材を**高度化・整理**（導入・拡大・発展の観点で）

②取り組みが広がっていく状況づくり

●体制の整理（会合や時間確保が難しい状況を踏まえて）

・素材の有効活用や興味を深めるため、今年度実施した学校、教師へ幅広く意見聴取

・ここまでの取組を踏まえ、事業者、市町の考え方の確認・共有

⇒ ①、②を踏まえ、 **次年度以降の取組方針・進め方を整理**

図 4-9 資料２－今年度の取組状況（3/18）

2．今年度の実施・試行内容、結果 4

①授業を実施できるサポート体制の確立

●周知の仕組みづくり

＜周知パンフレットの試行配布・活用（Ｒ１年度作成）＞

○目的・考え方
・提供できる素材・教材等を一通り紹介し、多様な学年・教科で活用できることや、ニーズに合わせた素材提供が可能なことを理解してもらう
・学習指導要領にあった内容となっていることや売り・ポイントをアピールする
・実施したい学習をFAXで回答できる形とし、調整等の行政の負担軽減を図る

○主な記載内容
・学習指導要領に対応する単元
・教科目標・学習のねらい
・学習のポイント
・授業に必要な時間・準備物・経費
・実施内容・授業の流れ

○配布について
・対象：県内全小学校（218校）
・時期：4月、8月
※コロナの影響で、応募が少なかったため、8月に再度配布
（4月配布時は小学校が休校中であり、カリキュラムが組めない等により、10校程度の申込み状況であった）

▼配布した周知パンフレット





図 4-10 資料２－今年度の取組状況（4/18）

2．今年度の実施・試行内容、結果　5

①授業を実施できるサポート体制の確立

●周知の仕組みづくり

＜試行配布の結果＞

・乗り方教室は、昨年度まで実施していなかった市町からの応募も多く、広がりがみられた。
・提供資料等を使って自主的に授業を実施する学校も出てきた。
・人材や統計データ等の素材を活用し、単元の理解を深める学習に応募する小学校もみられた。

▼プログラム・素材提供への応募状況　黒：2年生座学（出前講座）、青：2年生座学（素材提供活用あり）、赤：他学年、太字：実車バス提供

市町	R1年度		R2年度	
大津市	3校	上田上小校、瀬田南小学校、瀬田北小学校	7校	富士見小学校、下坂本小学校、小野小学校、膳所小学校、仰木の里東小学校、唐崎小学校、長等小学校
彦根市	4校	城東小学校、佐和山小学校、旭森小学校、高宮小学校	8校	亀山小学校、城西小学校、金城小学校、佐和山小学校、旭森小学校、城南小学校、稲枝北小学校、若葉小学校
近江八幡市	1校	岡山小学校	3校	桐原東小学校、武佐小学校、沖島小学校
草津市	3校	老上西小学校、笠縫小学校、志津南小学校	8校	老上西小学校、山田小学校、草津小学校、草津第二小学校、南笠東小学校、笠縫東小学校、笠縫小学校、老上小学校
甲賀市	3校	土山小学校、綾野小学校、大野小学校	3校	土山小学校、綾野小学校、伴谷小学校
湖南市	2校	菩提寺小学校、三雲小学校	1校	石部南小学校
東近江市	7校	箕作小学校、八日市西小学校、布引小学校、市原小学校、五個荘小学校、愛東南小学校、能登川北小学校	10校	湖東第一小学校、五個荘小学校、愛東南小学校、湖東第二小学校、布引小学校、市原小学校、箕作小学校、湖東第三小学校、浦生北小学校、能登川東小学校
竜王町	2校	竜王小学校、竜王西小学校	1校	竜王西小学校
甲良町	1校	甲良東小学校	—	—
長浜市	—	—	4校	神照小学校、長浜小学校、浅井小学校、長浜南小学校
守山市	—	—	2校	守山小学校、速野小学校
米原市	—	—	1校	柏原小学校
栗東市	—	—	3校	治田小学校、治田東小学校、大宝西小学校
日野町	—	—	2校	西大路小学校、桜谷小学校
豊郷町	—	—	1校	日栄小学校
野洲市	—	—	1校	北野小学校
合計	9市町　26校　32学年　（青：1校　赤：2校　太字：22校）		15市町　55校　72学年　（青：15校　赤：6校　太字：42校）	

図　4-11　資料２－今年度の取組状況（5/18）

2．今年度の実施・試行内容、結果　6

①授業を実施できるサポート体制の確立

■学習プログラム・素材の高度化・整理

＜学習プログラム・素材の整理の考え方＞

・まずは、学習に交通素材を**取り入れてもらえる**よう、素材の有用性・魅力を高める。
その際、滋賀県のどんな地域でも実施がしやすい内容・方法となるようにする。【導入】

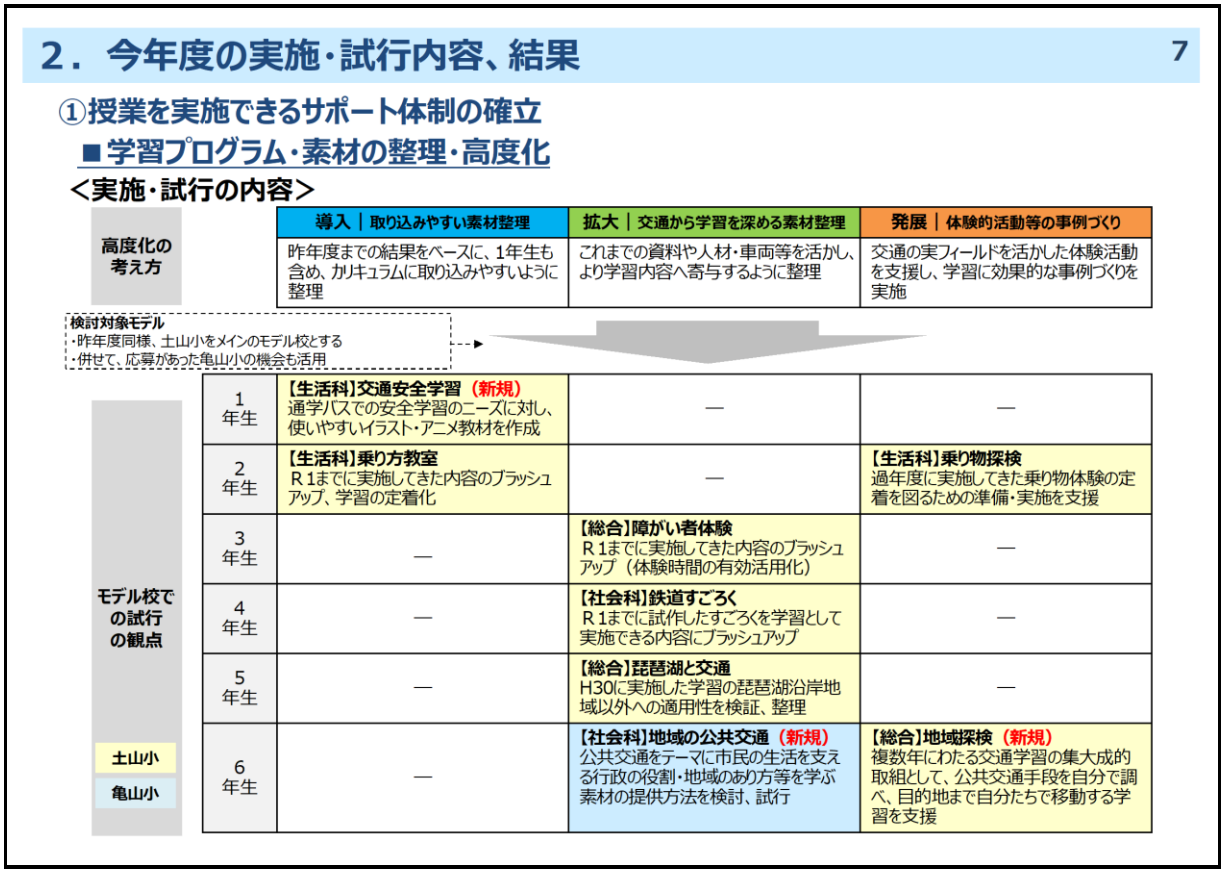
・そして、交通素材を活用することで単元の理解を深めることができる内容とし、
県内の**小学校へ展開・浸透**させていきやすい形とする。【拡大】

・交通の実フィールドを活かした体験活動等、**学校独自のニーズに応じた学習**に対応するための
事例を蓄積・発信していく。【発展】

上記の考え方を踏まえ、
以下の観点で学習プログラムを整理・高度化

導　入	拡　大	発　展
カリキュラムの中に取り込みやすい素材を準備し、基本的な内容の学習ができる形として整理	学習指導要領や県の特色にあわせた素材を準備し、より幅広いカリキュラムに対応できる形として整理	地域の交通の実フィールドを活かした体験等、地域独自の学習を支援する事例として整理

図　4-12　資料２－今年度の取組状況（6/18）



2．今年度の実施・試行内容、結果　7

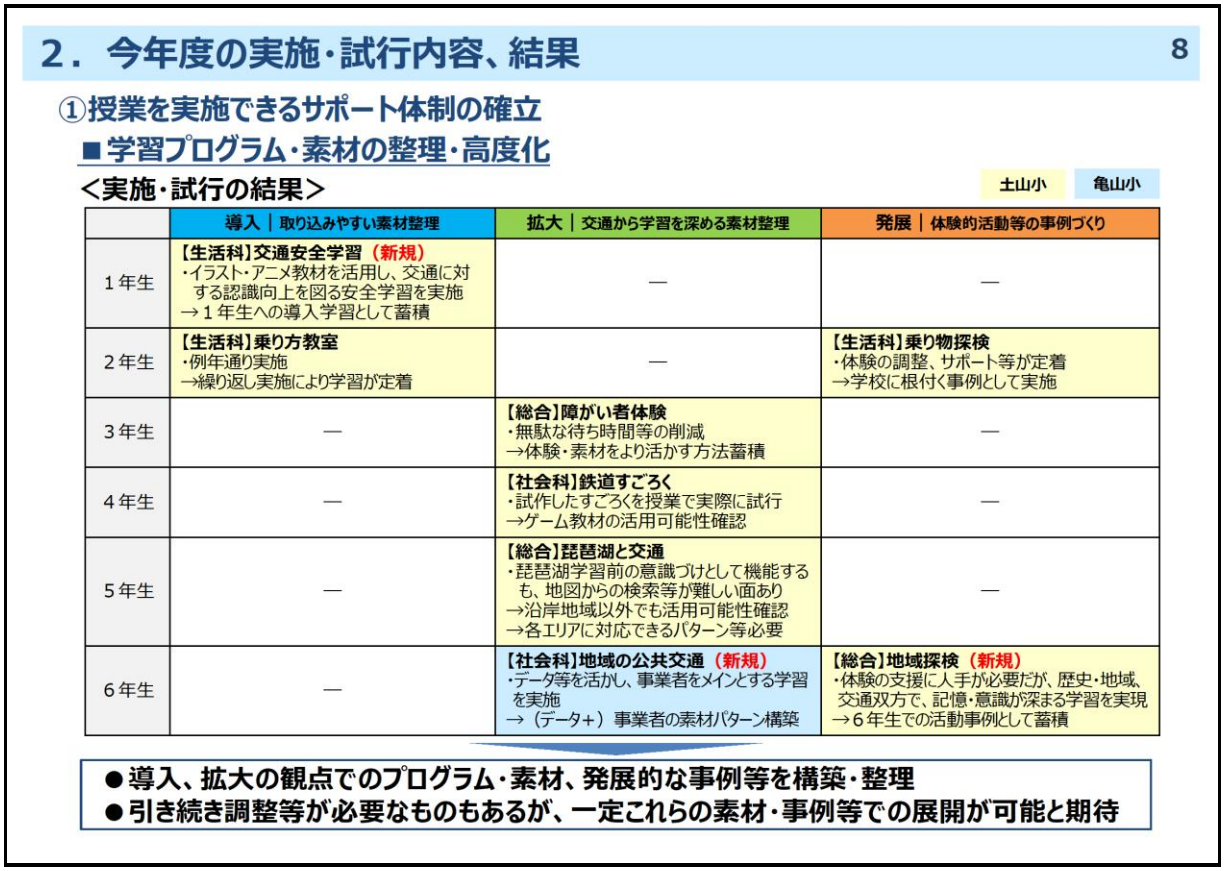
①授業を実施できるサポート体制の確立

■学習プログラム・素材の整理・高度化

＜実施・試行の内容＞

		導入｜取り込みやすい素材整理	拡大｜交通から学習を深める素材整理	発展｜体験的活動等の事例づくり
高度化の考え方		昨年度までの結果をベースに、1年生も含め、カリキュラムに取り込みやすいように整理	これまでの資料や人材・車両等を活かし、より学習内容へ寄与するように整理	交通の実フィールドを活かした体験活動を支援し、学習に効果的な事例づくりを実施
検討対象モデル ・昨年度同様、土山小をメインのモデル校とする ・併せて、応募があった亀山小の機会も活用				
モデル校での試行の観点 土山小 亀山小	1年生	【生活科】交通安全学習（新規） 通学バスでの安全学習のニーズに対し、使いやすいイラスト・アニメ教材を作成	—	—
	2年生	【生活科】乗り方教室 R1までに実施してきた内容のブラッシュアップ、学習の定着化	—	【生活科】乗り物探検 過年度に実施してきた乗り物体験の定着を図るための準備・実施を支援
	3年生	—	【総合】障がい者体験 R1までに実施してきた内容のブラッシュアップ（体験時間の有効活用化）	—
	4年生	—	【社会科】鉄道すごろく R1までに試作したすごろくを学習として実施できる内容にブラッシュアップ	—
	5年生	—	【総合】琵琶湖と交通 H30に実施した学習の琵琶湖沿岸地域以外への適用性を検証、整理	—
	6年生	—	【社会科】地域の公共交通（新規） 公共交通をテーマに市民の生活を支える行政の役割・地域のあり方等を学ぶ素材の提供方法を検討、試行	【総合】地域探検（新規） 複数年にわたる交通学習の集大成的取組として、公共交通手段を自分で調べ、目的地まで自分たちで移動する学習を支援

図　4-13　資料２－今年度の取組状況（7/18）



2．今年度の実施・試行内容、結果　8

①授業を実施できるサポート体制の確立

■学習プログラム・素材の整理・高度化

＜実施・試行の結果＞

土山小　亀山小

	導入｜取り込みやすい素材整理	拡大｜交通から学習を深める素材整理	発展｜体験的活動等の事例づくり
1年生	【生活科】交通安全学習（新規） ・イラスト・アニメ教材を活用し、交通に対する認識向上を図る安全学習を実施 →1年生への導入学習として蓄積	—	—
2年生	【生活科】乗り方教室 ・例年通り実施 →繰り返し実施により学習が定着	—	【生活科】乗り物探検 ・体験の調整、サポート等が定着 →学校に根付く事例として実施
3年生	—	【総合】障がい者体験 ・無駄な待ち時間等の削減 →体験・素材をより活かす方法蓄積	—
4年生	—	【社会科】鉄道すごろく ・試作したすごろくを授業で実際に試行 →ゲーム教材の活用可能性確認	—
5年生	—	【総合】琵琶湖と交通 ・琵琶湖学習前の意識づけとして機能するも、地図からの検索等が難しい面あり →沿岸地域以外でも活用可能性確認 →各エリアに対応できるパターン等必要	—
6年生	—	【社会科】地域の公共交通（新規） ・データ等を活かし、事業者をメインとする学習を実施 →（データ+）事業者の素材パターン構築	【総合】地域探検（新規） ・体験の支援に人手が必要だが、歴史・地域、交通双方で、記憶・意識が深まる学習を実現 →6年生での活動事例として蓄積

●導入、拡大の観点でのプログラム・素材、発展的な事例等を構築・整理
●引き続き調整等が必要なものもあるが、一定これらの素材・事例等での展開が可能と期待

図　4-14　資料２－今年度の取組状況（8/18）

2．今年度の実施・試行内容、結果　9

②取り組みが広がっていく状況づくり

■体制の整理

＜目的＞

今後の**持続的な実施**および**発展**に向け、学校、事業者、市町の考え方を把握

＜意見聴取の主旨・方法＞

○学校

・単元の学習に**活用・アレンジしやすい素材**のあり方、学習の実施を促せる**情報発信方法**等を把握
→授業を実施した学校に対し、簡易アンケートを実施
→申込のきっかけ・わかりやすさ／実施した授業の感想／事前・事後学習の有無・内容／実施に有用な支援、必要な工夫・改善　等

○交通事業者

・実施支援に関し、今後の**現実的、持続的な体制**を検討
→車両提供等を実施した事業者と協議
→現在の協力方法・課題／今後の拡大の可能性　等

○市町

・素材提供での調整、実施支援に関し、今後の**現実的、持続的な体制**を検討
→モデル授業等を実施した市町と協議
→これまでの取組を踏まえた考え方・できる内容

図　4-15　資料２－今年度の取組状況（9/18）

2．今年度の実施・試行内容、結果　10

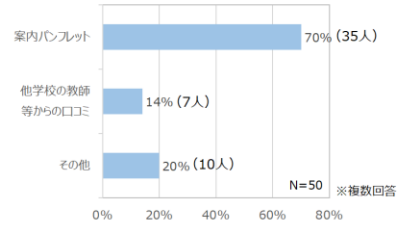
＜学校への意見聴取結果＞

申込のきっかけ、わかりやすさ

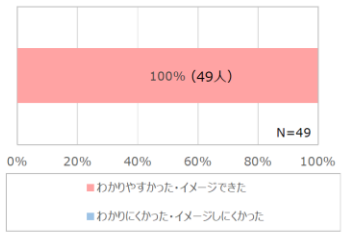
案内パンフレットは周知に効果的であり、また教師が授業をイメージ・計画しやすい内容となっていた。

・事業を知ったきっかけは、案内パンフレットが約7割と最も多くなっている。
・単元の理解を深めるために申込を行ったという回答が最も多いが、約3割はコロナの影響による校外学習の代替授業として実施している。
・回答者の全員が案内パンフレット・申込方法について、わかりやすかったと回答している。また、良かった点として、「事例や写真があり、授業をイメージしやすかった」や、「必要な時間・人数や授業展開パターンが示されており、学習の流れが組みやすかった」等の意見がみられた。

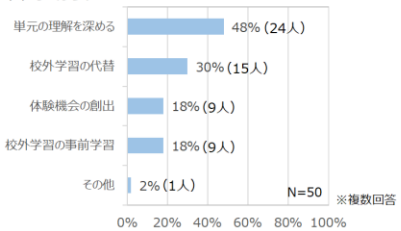
▼事業を知ったきっかけ



▼案内パンフレット・申込方法のわかりやすさ



▼申込の目的・ねらい



【良かった点】
・各項目でどれくらいの時間・人数が必要なのかがわかるので、１時間の学習の流れが組みやすかった。
・事例がたくさん紹介されていてわかりやすかった。授業時間とどのメニューを組み合わせるとよいかがすぐわかり、計画がしやすかった。
・実際に他校で行われていた内容が分かりやすく書かれており、また、授業の様子がわかる写真がたくさん掲載されていたので、授業内容をイメージしやすかった。
・事前打ち合わせも丁寧に対応して頂き、初めての申込みでも学習内容がよくわかった。
・様々な学習素材・授業展開パターンが示されており、検討しやすかった。

【工夫・改善点】
・写真の印刷の濃さがもう少し薄いと見やすい。

図　4-16　資料２－今年度の取組状況（10/18）

2．今年度の実施・試行内容、結果 11

＜学校への意見聴取結果＞

実施した授業の感想

実施した授業は概ね良い評価が得られた。また、一連の学習の理解が深まるという意見も多くみられた。

- ・「実物素材を用いた学習により子供達が実感をもって取り組め、理解が深まった」や、「クイズや写真・画像を用いた座学は子どもたちにもわかりやすい内容となっていた」等の意見がみられた。
- ・また、「実際に公共交通を利用してみたいという子どもたちがいた」というように、交通環境学習の実施により、公共交通の利用促進に寄与していると考えられる意見もみられた。

▼実施した授業の感想

教科	学年	学習内容	感想
生活科	2年	身の回りの公共交通について、電車・バスの乗り方、マナー、乗車体験	・実際のバスを観察し、設備や機械の説明を受け、乗車体験させていただいたことで、児童は興味深く学習し、理解度も相当上がっていた。
			・券売機の実物大の掲示物はインパクトがあり効果的であった。何度か体験することができ、校外学習ではスムーズに切符を買うことが出来た。
			・実物サイズの模型を使ったり、実際にバスに乗ることが出来たりと公共交通機関が少ない地域なので、子供達も意欲的に取り組み、学びも多かった。
			・実物のバスを見ながら学んだことにより、一つ一つの工夫を納得しながら学ぶことが出来て良かった。
			・実際にバスに乗ったり、周囲を見たりしながら受けた説明は印象に強く残っていた。座学では公共交通利用のマナーの大事さが強く響いたようで、まとめの学習で発言している子供が多くいた。
			・自分で券を買ったりして、今後もまた乗ってみたいという声も多くあった。沢山の方に見守っていただき、案内も丁寧で安心して体験できた。
			・実際に一人一人体験したことで、切符の買い方がよくわかり、「ぜひ本当にやってみたい」と感想に記入する児童が多かった。
			・パワーポイントを使った座学もわかりやすく、環境についての内容が印象に残った子どもが多かった。家でも話題にした子供もいたようである。
			・クイズや画像等、工夫して説明頂いたので、子どもたちの集中も続いた。
社会科	3年	地域学習	・子どもたちは楽しく学んでいた。
	4年	鉄道すごろく	・すごろくを通して、楽しく学び、もっとやってみたいという児童が多くみられた。
総合的な学習	3年	視覚障がい者のバスの乗車について	・大きなバスを目の前にして、どの児童も目を輝かせていた。実際に体験することで、目が不自由であることに寄り添えたと思う。
	4年	みんなが住みやすいまちの工夫調べ	・普段からよく目にするバスにも、たくさんの工夫や優しさがあることを実感することが出来た。またさらに、改善していくためにはどうしたらよいのか、子供たちなりに考え、まとめることができた。
		バリアフリーについて	・バスが傾いたり、実際に車いすを使用しての乗車やアイマスクをしての乗車等をさせてもらえたので、子どもたちは実感を伴って理解できてよかった。
	6年	キャリア学習	・自分たちの身近に関わる人々の働くことの考えを知り、働くことの喜びを実感しているようだった。
		交通機関を使って歴史施設を訪ねる	・事前学習から学ぶことが多く、有意義だった。

図　4-17　資料２－今年度の取組状況（11/18）

2．今年度の実施・試行内容、結果 12

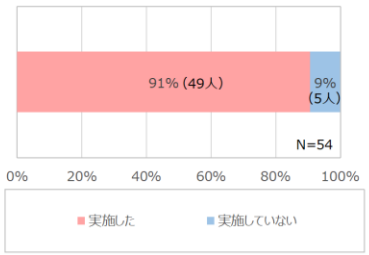
＜学校への意見聴取結果＞

実施内容にあわせた事前・事後学習の有無・内容

ほとんどの学校が授業を実施して終わりではなく、単元全体の学習として事前・事後学習を行っていた。

- ・約9割が交通環境学習にあわせ、事前・事後の学習を実施したと回答している。
- ・事前学習では、当日の学習の理解がしやすくなるよう、事前に学習の内容を説明している学校もみられた。
- ・事後学習では、提供資料・データを用いた振り返りの学習が行われている学校が多くみられた。中には、「周辺バス停や路線図等を題材にした教材」や「券売機等の模型」等を独自に作成し学習を行っている学校もみられた。

▼事前・事後学習の実施の有無



▼実施した事前・事後学習の内容

教科	学年	学習内容	感想	
生活科	2年	身の回りの公共交通について、電車・バスの乗り方、マナー、乗車体験	事前	・乗り方、券売機の使い方等について簡単な説明を行った。
				・仙台市のHPからバスの乗り方の動画を見たり、生活の教科書の「出かける時のマナー」を読んで学習した。
			事後	・提供頂いた資料や児童の記録を取ったノートをもとに、バス・電車の路線や乗り方、マナーについて振り返りの学習を実施した。
				・近くのバス停やJR駅の写真等の画像を利用し、独自のPPTを作成して学習した。
				・券売機を手作りし、お金を入れて切符を買う練習をした。
				・生活科の教科書にある「電車やバスに乗るときは」の写真資料等を使って、乗車手順や利用マナー等について考えた。
				・学校周辺地図を見せながら、線路の確認を行った。また、KJ法を用いて公共のルールを学習した。
				・交通環境学習後、校外学習に行き、公共の乗り物や施設のルールやマナーを確認した。
				・今までの生活と公共交通とのつながりを考える学習を行った。
社会科	4年	鉄道すごろく	事後	・教材をそのまま活用し、もう一度すごろくを実施した。
総合的な学習	3年	障がい者のバスの乗車について、	事後	・ステップバスとノンステップバスの違いや、学習して感じたこと、初めて知ったことをまとめた。
	4年	みんなが住みやすいまちの工夫調べ	事後	・みんなが使いやすい未来のバスを考えた。
			事後	・アイマスク、白杖を使った更なる学習を行った。また、自分の心を揺さぶったことに関して、さらに深く調べ新聞にまとめた。
	5年	昔の湖上交通	事後	・フローティングスクールに合わせて、人とわ湖のかかわりについての学習を行った。
	6年	キャリア学習	事後	・働く人の考えについて意見交換を実施した。

図　4-18　資料２－今年度の取組状況（12/18）

2．今年度の実施・試行内容、結果 13

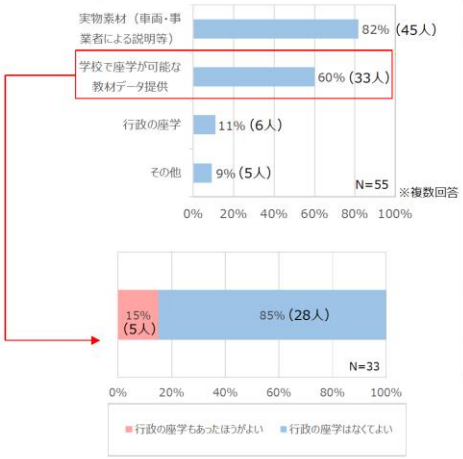
＜学校への意見聴取結果＞

実施に有用な支援、必要な工夫・改善

１度素材のイメージがつかめれば、学校でアレンジ可能な教材データの提供のみで実施することが可能と考えられる。

- ・回答者の約8割が車両等の実物素材提供が授業実施に有用と考えている。
- ・また、学校で座学が可能な教材データ提供が有用と考えている人は約6割を占め、その内、約9割が行政の座学はなくてよいと考えている。
- ・工夫・改善点として、「内容を詰め込むのではなく、子どもたちの質問に答える時間や子供たちが考え話し合う時間が必要」等、授業の時間配分やアレンジに関する意見がみられた。

▼来年も同じ学年で授業を実施する場合に有用と考える支援



▼学習内容や提供資料の工夫・改善が必要な点

教科	学年	学習内容	感想
生活科	2年	身の回りの公共交通について、電車・バスの乗り方、マナー、乗車体験	内容を詰め込みすぎていたので、もう少し削って子供たちからの疑問に答える時間があったほうが良かった。
			話を聞くだけだと集中を維持することが難しいため、クイズや子どもたちが実演する場面をつくっていただくと、学習に意欲的に取り組めるのではないかと感じた。
			時間が足りなかったので、もう少し話を聞いたり、質問する時間があれば良かった。
			一方的に説明するだけでなく、クイズ形式の話だと意欲的に子どもたちが参加できると感じた。
			券売機の体験はポスターを押すだけだったので、子どもたちが飽きてきてしまう。学校に木枠があったので、それを利用したが簡単なものでいいので、もう少しリアルに体験が出来たらよい。
社会科	4年	鉄道すごろく	今回のすごろくの発展バージョンとして、伝統工芸編や歴史建造物編などに展開することも可能だと感じた。
総合的な学習	5年	昔の湖上交通	びわ湖から遠い学校は、○○浦などの地名になじみがなく、子どもの実態に合わせ、内容を工夫する必要があると感じた。

図　4-19　資料２－今年度の取組状況（13/18）

2．今年度の実施・試行内容、結果 14

①今年度の実施・試行内容、結果のまとめ

①授業を実施できるサポート体制の確立

●周知の仕組みづくり

- ・案内パンフレットは周知に効果的、昨年度まで実施していなかった市町からの応募も多く、拡大
- ・提供資料等を使って自主的に授業を実施する学校も
- ・人材や統計データ等の素材を活用し、単元の理解を深める学習に応募する小学校も

●学習プログラム・素材の整理・高度化

- ・昨年度に引き続き土山小学校（１～６年）、亀山小学校等での試行を実施
  導入：カリキュラムにより取り込みやすい素材・学習パターンを整理
  拡大：学習の理解を深め、より幅広いカリキュラムに対応できる、教材・素材を整理
  発展：実フィールドを活かした体験等、学校ニーズに応じた学習に効果的な事例を蓄積
- ・引き続き調整等が必要なものもあるが、一定これらの素材・事例等での展開が可能と期待

②取り組みが広がっていく状況

●体制づくり・場づくり

- ・学校：プログラムの評価は良く、単元として理解を深めるため事前・事後学習も学校側で実施
  素材イメージがつかめれば、学校でアレンジ可能な教材提供のみで実施が可能
- ・交通事業者：実施回数増加による経験の蓄積、連携の向上
- ・市町：実施市町の拡大、各地域の特色に応じた内容への授業アレンジの実施、連携の向上

図　4-20　資料２－今年度の取組状況（14/18）

3．今後の進め方

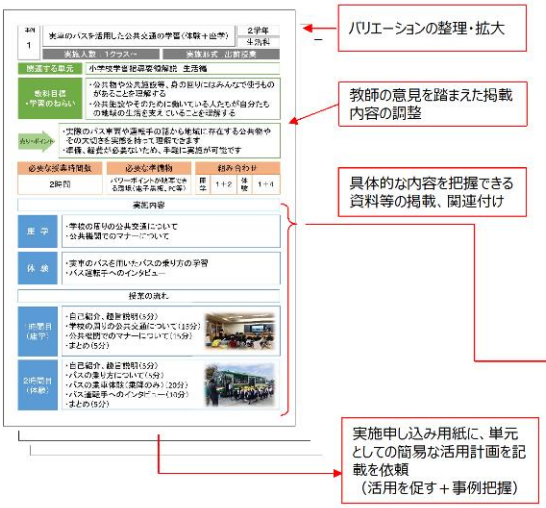
15

②結果を踏まえた今後の展開・進め方

＜周知ツールの見直し＞

・試行結果（意見等）、プログラム・素材の高度化結果を踏まえブラッシュアップ
・掲載情報の見直し、データのＷｅｂサイトでのデータ提供等を検討

▼周知パンフレットの改善イメージ



▼滋賀県HP（交通戦略課）での掲載イメージ例

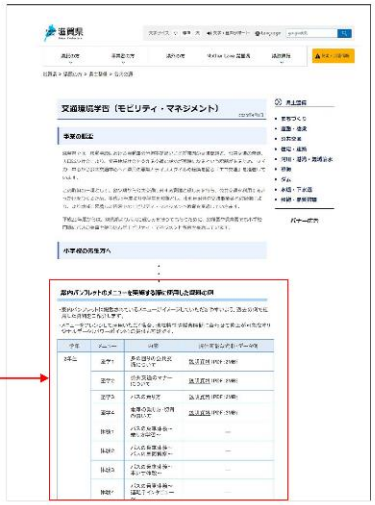


図　4-21　資料２－今年度の取組状況（15/18）

3．今後の進め方

16

②結果を踏まえた今後の展開・進め方

＜プログラム・教材の整理（周知ツールへの掲載・発信情報の整理）＞

・今年度の学習プログラム・素材の整理・高度化の結果を踏まえ、昨年度までに整理したものに加えて、素材や事例として掲載・発信すべきもの、その教材等を整理

▼プログラム・教材の修正・追加整理等のイメージ

	（導入）取り込みやすい素材準備	（拡大）交通で深める素材準備	（発展）ニーズに応じた素材準備
低学年	**【生活科】乗り方教室** ・今年度実施した授業のブラッシュアップ	―	**【生活科】乗り物探検** ・生活科での体験学習例として整理、紹介
中学年	―	**【総合】障がい者体験** ・今年度実施した授業のブラッシュアップ	―
	―	**【社会科】鉄道すごろく** ・学習の理解を深めるツールとして、整理・追加	―
高学年	―	**【総合】琵琶湖と交通** ・各地域で活用しやすい形として、また現在の交通に繋がるように、今年度の指摘を踏まえて修正し、追加	**【総合】地域探検（新規）** ・社会科の歴史や地域学習での体験活動例として整理、紹介
	―	**【社会科】政治と公共交通（新規）** ・事業者・人の活用が主体の取り組みとして、整理・追加（市町と連携し可能な範囲でデータ提供）	

図　4-22　資料２－今年度の取組状況（16/18）

3．今後の進め方

17

②結果を踏まえた今後の展開・進め方

＜展開の考え方＞

・引き続き、周知・発信を行い、申込みがあった学校で授業を実施。データ提供も活用。
・学校、行政、交通事業者それぞれに有益な授業となるよう授業素材のブラッシュアップ。
・継続的な実施に向け実施体制を強化させるため、引き続き市町・事業者と協議。
⇒毎年実施する授業として定着化。

▼次年度以降の役割・進め方イメージ

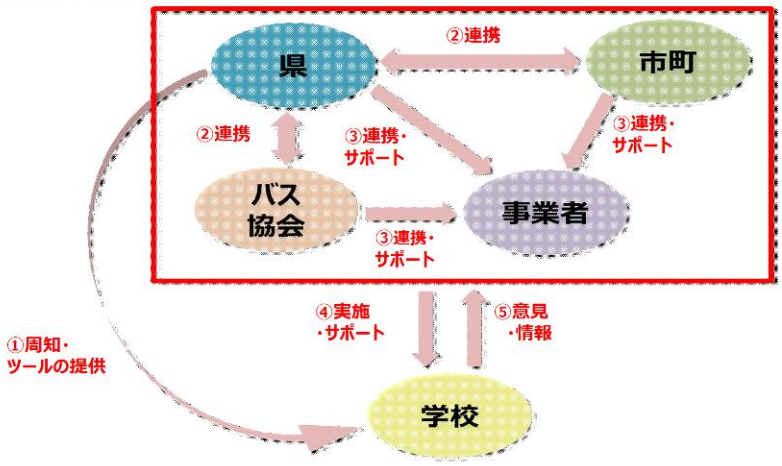


図　4-23　資料２－今年度の取組状況（17/18）

3．今後の進め方

18

②結果を踏まえた今後の展開・進め方

本事業のねらい

県単位で活用その素地を作る

導入	低学年 等	生活科等	バスの乗車体験等を軸とした出前授業　等
拡大	中～高学年 等	社会・総合等	教科・単元に絡めたツール提供　等 例） 単元：３年生社会科「市の様子の移り変わり」 ねらい：まちの広がりと公共交通の広がりが関連づいていることをとらえ、理由を理解する ツール：今昔の交通網と人口集積地域が比較できる資料の提供 効果：学習効果の向上
発展	高学年 等	社会・総合等	実フィールドを対象とした体験機会の創出 将来の街づくり・自分たちの街づくり等についての提案　等

各市町での交通まちづくりにつながる学習・活動の展開へ

アウトプット

①授業を実施できるサポート体制の確立
・乗り方教室は、昨年度まで実施していなかった市町からの**応募も多く、拡大・深化**
・昨年度に引き続き土山小学校（１～６年）、亀山小学校等での試行を実施
・引き続き調整等が必要なものもあるが、**これらの素材等での一定の展開可能**と期待

②取り組みが広がっていく状況づくり
・各市町学校への**拡大基調**を醸成、一部の学校での**定着化**
・市町、事業者との連携向上

今後の課題

●現在の取組の継続、学校への浸透
・授業素材のブラッシュアップ
・行動変容を促す授業の追加
・実施市町・学校の拡大
・実施体制の強化、連携向上

（交通を切り口に）自分たちのまちづくりのことを自発的に考えられる人材の育成

図　4-24　資料２－今年度の取組状況（18/18）

（５）参考１　学習プログラムの実施･試行結果

学習プログラムの実施･試行結果

1．実施･試行内容 P2
2．導入（取り込みやすい素材の整理）..... P4
3．拡大（交通から学習を深める素材整理）..... P19
4．発展（体験的活動等の事例づくり）..... P43
5．実施･試行結果 P56

参考1

図　4-25　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（1/57）

１．実施･試行内容

＜学習プログラム･素材の整理の考え方＞

・まずは、学習に交通素材を**取り入れてもらえる**よう、素材の有用性･魅力を高める。
その際、滋賀県のどんな地域でも実施がしやすい内容･方法となるようにする。【導入】

・そして、交通素材を活用することで単元の理解を深めることができる内容とし、
県内の**小学校へ展開･浸透**させていきやすい形とする。【拡大】

・交通の実フィールドを活かした体験活動等、**学校独自のニーズに応じた学習**に対応するための
事例を蓄積･発信していく。【発展】

上記の考え方を踏まえ、
以下の観点で学習プログラムを整理･高度化

導　入	拡　大	発　展
カリキュラムの中に取り込みやすい素材を準備し、基本的な内容の学習ができる形として整理	学習指導要領や県の特色にあわせた素材を準備し、より幅広いカリキュラムに対応できる形として整理	地域の交通の実フィールドを活かした体験等、地域独自の学習を支援する事例として整理

図　4-26　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（2/57）

1．実施･試行内容

3

	導入｜取り込みやすい素材整理	拡大｜交通から学習を深める素材整理	発展｜体験的活動等の事例づくり
考え方	昨年度までの結果をベースに、カリキュラムに取り込みやすいように整理	これまでの資料や人材･車両等を活かし、より学習内容へ寄与するように整理	交通の実フィールドを活かした体験活動を支援し、学習に効果的な事例づくりを実施

検討対象モデル
･昨年度同様、土山小をメインのモデル校とする
･併せて、応募があった亀山小の機会も活用

モデル校での試行の観点				
土山小	1年生	【生活科】交通安全学習（新規） 通学バスでの安全学習のニーズに対し、使いやすいイラスト･アニメ教材を作成	―	―
土山小	2年生	【生活科】乗り方教室 R1までに実施してきた内容のブラッシュアップ、学習の定着化	―	【生活科】乗り物探検 過年度に実施してきた乗り物体験の定着を図るための準備･実施を支援
土山小	3年生	―	【総合】障がい者体験 R1までに実施してきた内容のブラッシュアップ（体験時間の有効活用化）	―
土山小	4年生	―	【社会科】鉄道すごろく R1までに試作したすごろくを学習として実施できる内容にブラッシュアップ	―
土山小	5年生	―	【総合】琵琶湖と交通 H30に実施した学習の琵琶湖沿岸地域以外への適用性を検証、整理	―
亀山小	6年生	―	【社会科】地域の公共交通（新規） 公共交通をテーマに市民の生活を支える行政の役割･地域のあり方等を学ぶ素材の提供方法を検討、試行	【総合】地域探検（新規） 複数年にわたる交通学習の集大成的取組として、公共交通手段を自分で調べ、目的地まで自分たちで移動する学習を支援

図　4-27　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（3/57）

2．導入｜取り込みやすい素材整理

4

（１）土山小学校１年生･生活科　交通安全学習（新規）

<今年度の位置付け>

･１年生の学習で公共交通と関連づけられる箇所について意見交換し、多くの地域で実施されている交通安全学習に着目
･ 交通素材を使った学習を促すため、使いやすいイラスト･アニメ教材を作成･試行し可能性を検討

学習のねらい	･バス停周辺やバス車内に潜む危険性について理解するとともに、危険を回避する方法を学習する ･行政としての意義：安全なバス利用の意識付けを通じて、公共交通に対する認識向上を図る

場面の読み取りと危険の予測

･イラストから各場面の状況を読み取る
･各場面で起こり得る危険について考える

①バス乗車時
･バスと歩道の間を自転車が走行
⇒自転車と衝突する可能性がある
･バス待ちをしている人の周りを子どもがはしゃいでいる
⇒ぶつかると転倒してけがをさせてしまう可能性がある

②バス車内
･バスが停車のため急ブレーキ
⇒バランスをくずして転倒してしまう恐れがある

③バス降車時
･降車後、道路を横断中に車が接近
⇒車と衝突する可能性がある

危険の回避方法の考察

･危険の回避方法を考える
･回避方法の例、その他の危険について説明

①バス乗車時
･乗車時は左右を確認してから乗る
･バス停では遊ばずに一列で並んで待つ

②バス車内
･バス走行時は必ず手すりを持つ
･なるべく椅子に座るようにする

③バス降車時
･道路横断時は左右を確認してから渡る

まとめ

･まとめWSを配布
･各場面の危険性と回避方法についてまとめる

問：バスの乗降時やバス車内にはどんな危険性があったかな？

問：自分がその場面に出くわした時、どんな行動をとればよいかな？

図　4-28　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（4/57）

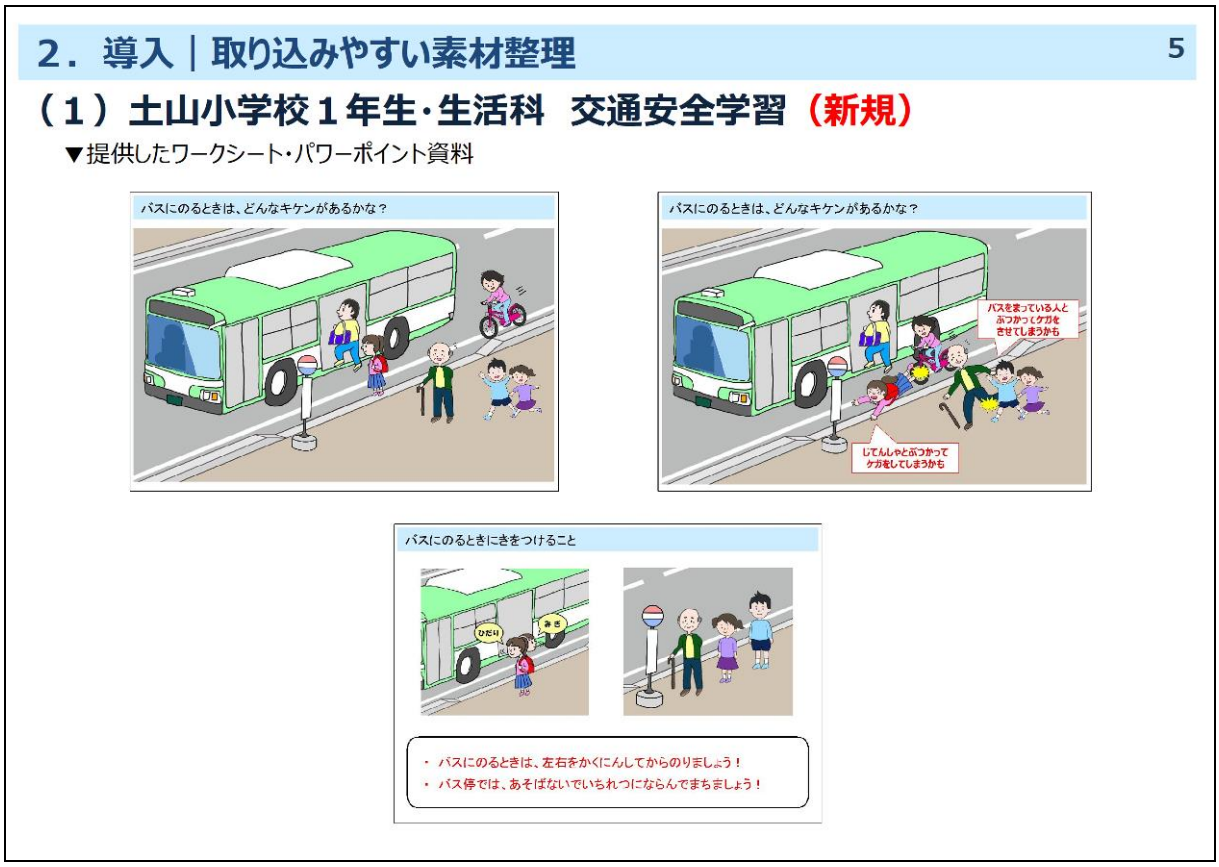


図　4-29　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（5/57）



図　4-30　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（6/57）



図　4-31　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（7/57）

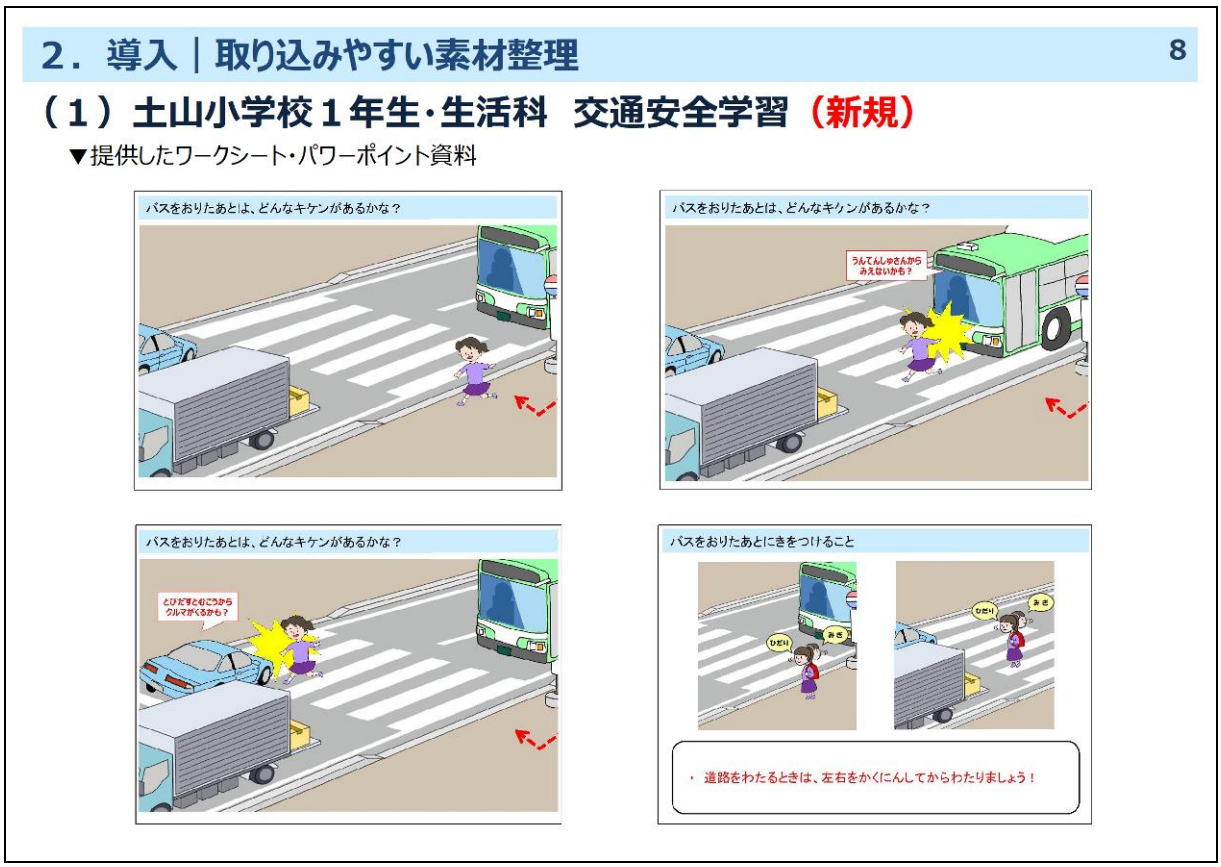


図　4-32　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（8/57）

2．導入｜取り込みやすい素材整理 9

（1）土山小学校１年生･生活科　交通安全学習（新規）

▼提供したワークシート･パワーポイント資料

バスをつかうときのキケン（おさらいシート）

ばんごう：　　なまえ：

① バスやバス停にはどんなキケンがあったかな？おもいだしてかきこんでみよう！



② バス停でまっているときやバスにのっているときはどんなことに気をつければよかったかな？

図　4-33　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（9/57）

2．導入｜取り込みやすい素材整理 10

（1）土山小学校１年生･生活科　交通安全学習（新規）

▼授業の様子







図　4-34　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（10/57）

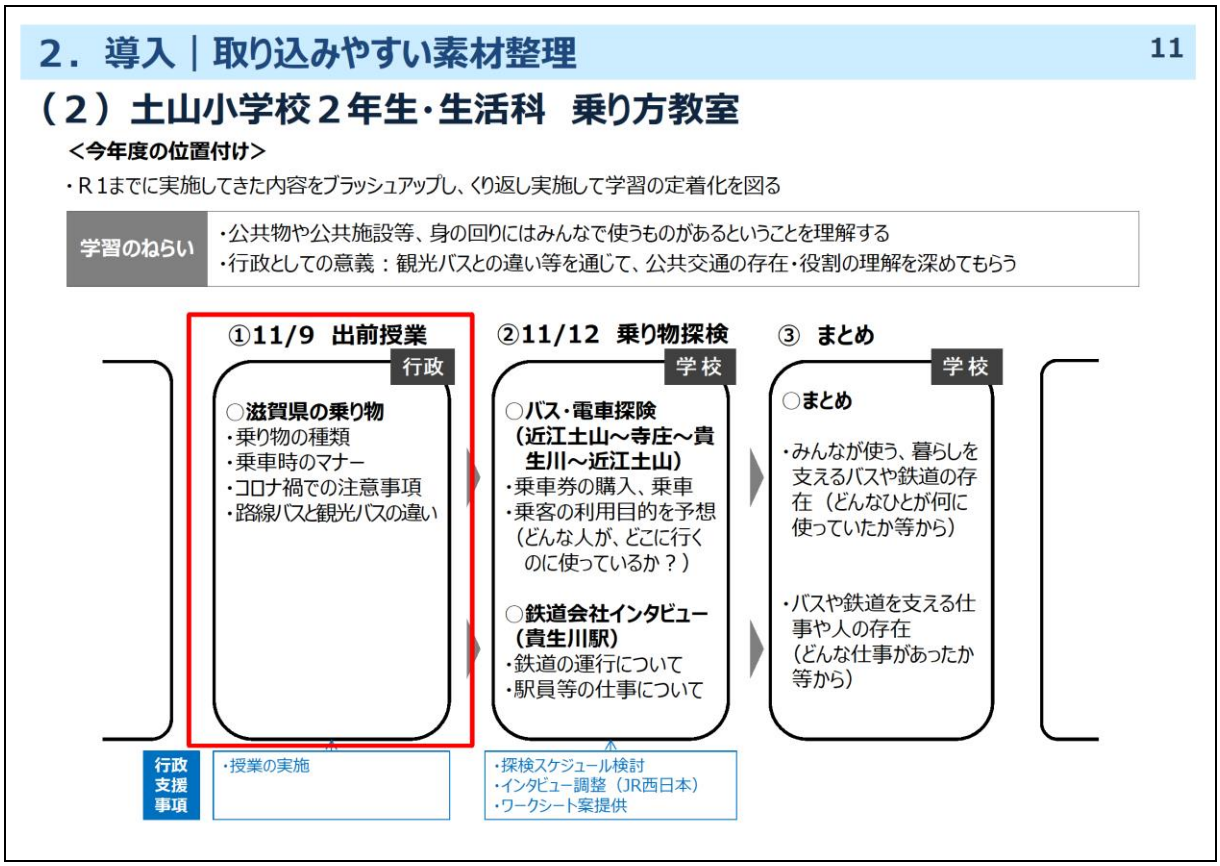


図　4-35　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（11/57）



図　4-36　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（12/57）



図　4-37　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（13/57）



図　4-38　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（14/57）



図　4-39　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（15/57）



図　4-40　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（16/57）

2．導入｜取り込みやすい素材整理　17

（2）土山小学校２年生･生活科　乗り方教室

▼提供したワークシート･パワーポイント資料



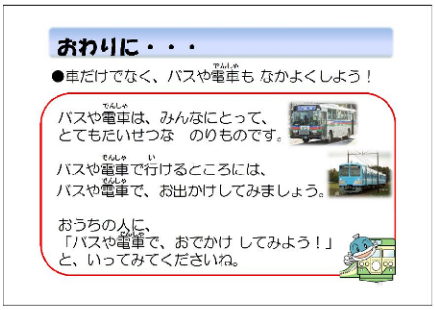


図　4-41　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（17/57）

2．導入｜取り込みやすい素材整理　18

（2）土山小学校２年生･生活科　乗り方教室

▼授業の様子





図　4-42　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（18/57）

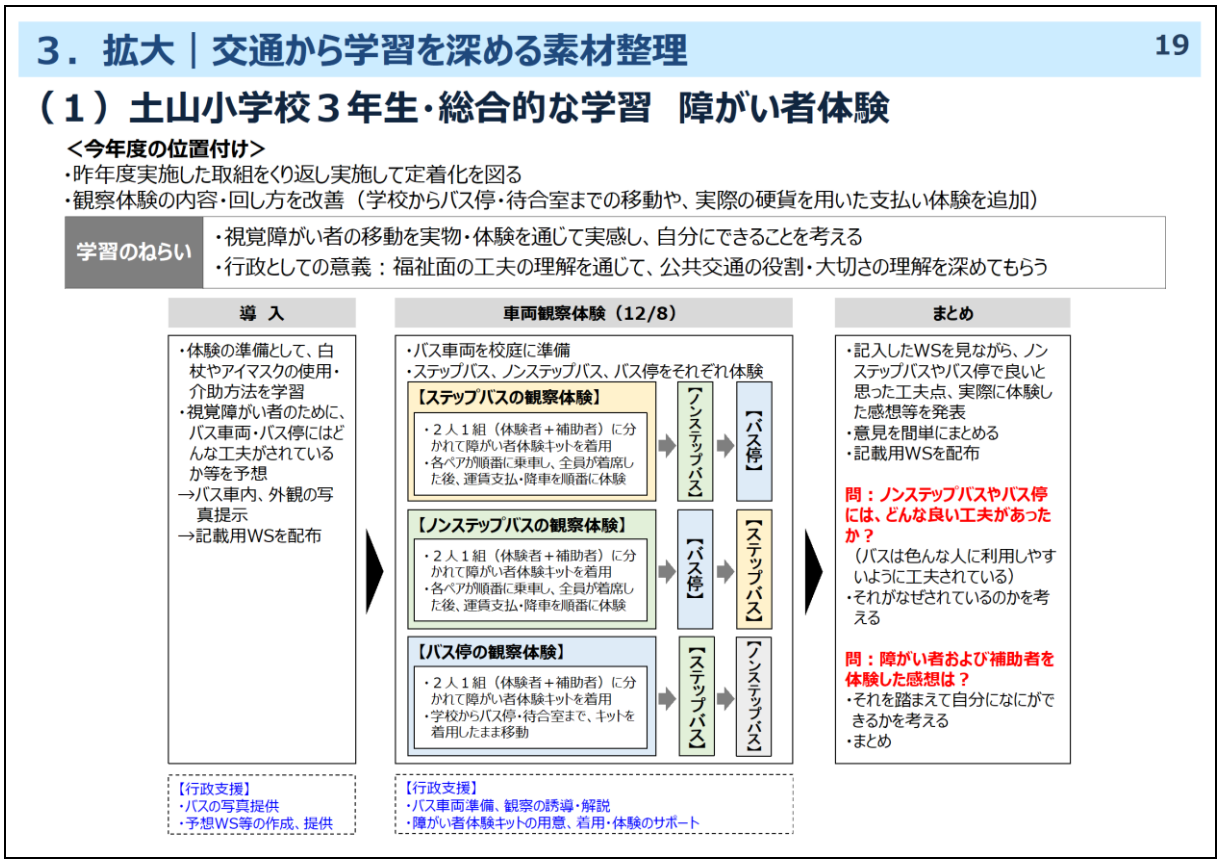


図　4-43　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（19/57）

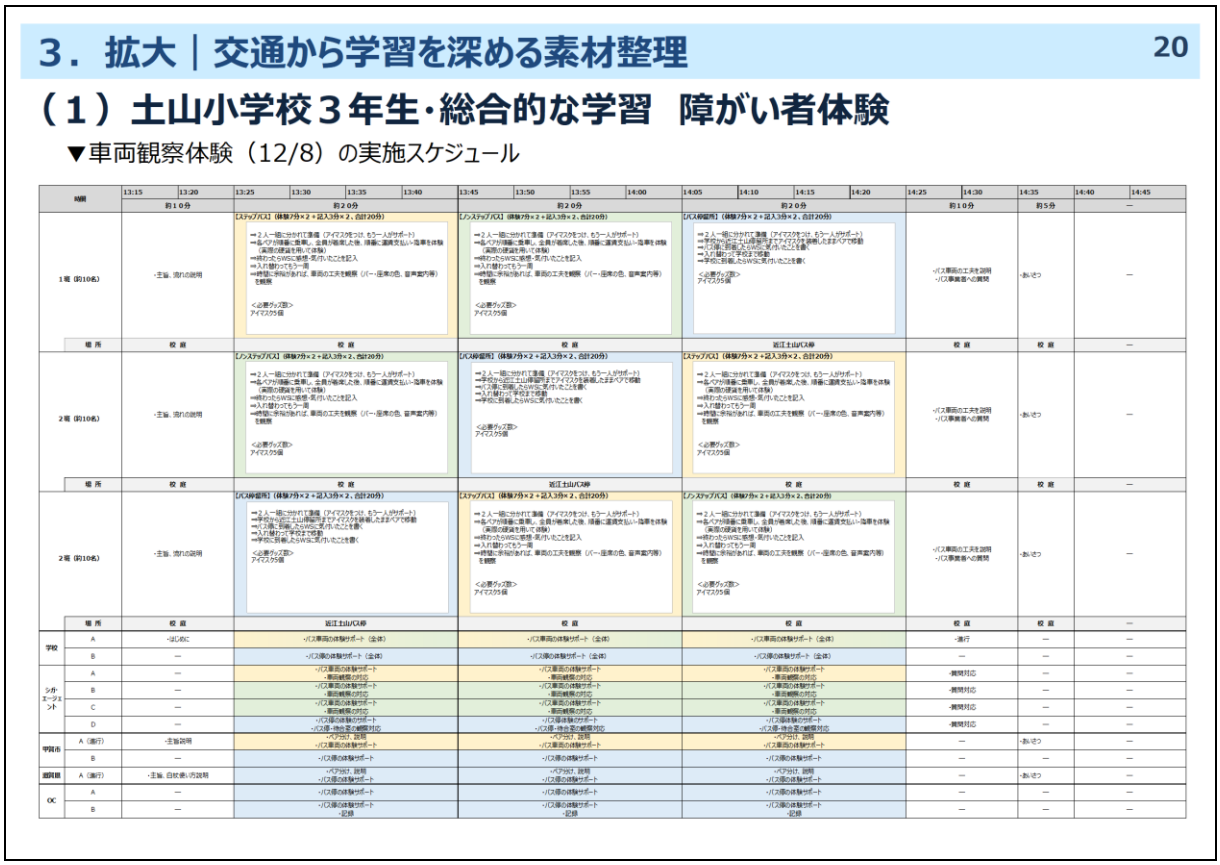
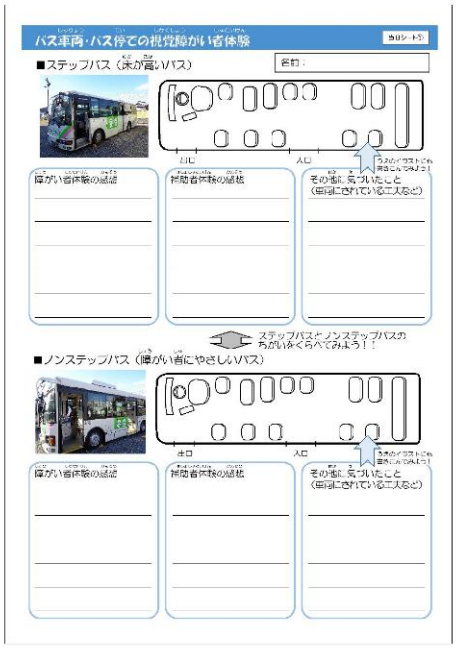


図　4-44　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（20/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理　21

（1）土山小学校３年生･総合的な学習　障がい者体験

▼提供したワークシート



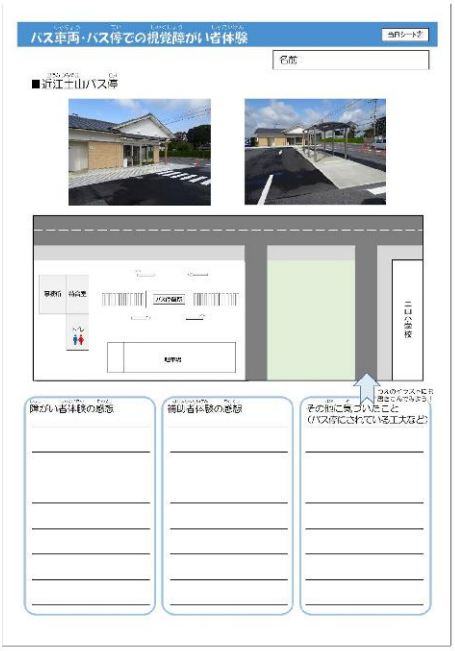


図　4-45　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（21/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理　22

（1）土山小学校３年生･総合的な学習　障がい者体験

▼授業の様子









図　4-46　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（22/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理　23

（2）土山小学校４年生・社会科　鉄道すごろく

＜今年度の位置付け＞

・Ｒ1までに試作したすごろくを学習として実施できる内容にブラッシュアップし、実際に試行

学習のねらい	・自分が住む滋賀県各地の特産品や伝統、文化について地理特性も含めて理解する ・行政としての意義：鉄道の疑似体験を通じて、交通の広がりや目的地までの行き方・利用方法を学んでもらう

【 単元の流れ】

1．県の広がり
- 自分たちが住む県の位置
- 地形や土地利用の様子
- 交通（道路・鉄道）の広がり
- 県内の主な産業とその分布

2．特色ある地域と人々の暮らし
- 伝統産業とその歴史的背景
- 自然環境（県に生息する生き物、栽培されている農産物）
- 歴史的資源（世界遺産など）
- 地域の特色を守る人々の活動やまちづくり

3．世界とつながるわたしたちの県
- 県と他の地域のつながり（交通のつながり、地域との交流活動）
- 県と世界とのつながり（物流、国際交流）

○1/14　鉄道すごろく

・鉄道を使って各地の食材を探すゲーム

・食材がどこにあるかを考えながら鉄道を使って探していく疑似体験を通じて、鉄道ネットワークの広がりや各地域の特徴を理解する

【ゲームの概要】

・地産地消カフェの店員となり、ゲーム開始時に指定された料理に用いる食材を仕入れに行く

・カードに書かれているヒントを見て、必要な食材がどこにあるかを考えながら、鉄道を使って探しに行く

・食材を集めてはやくスタート地点に戻ってきた人が勝利

図　4-47　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（23/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理　24

（2）土山小学校４年生・社会科　鉄道すごろく

▼提供したツール（すごろくボード）

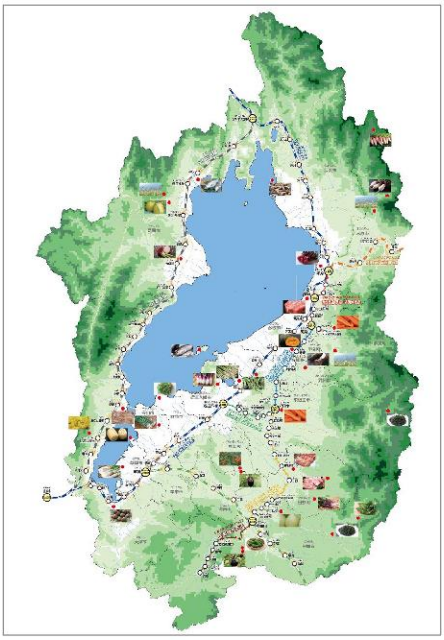


図　4-48　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（24/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理　25

（2）土山小学校４年生・社会科　鉄道すごろく

▼提供したツール（メニューカード・食材カード）



図　4-49　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（25/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理　26

（2）土山小学校４年生・社会科　鉄道すごろく

▼提供したワークシート・パワーポイント資料

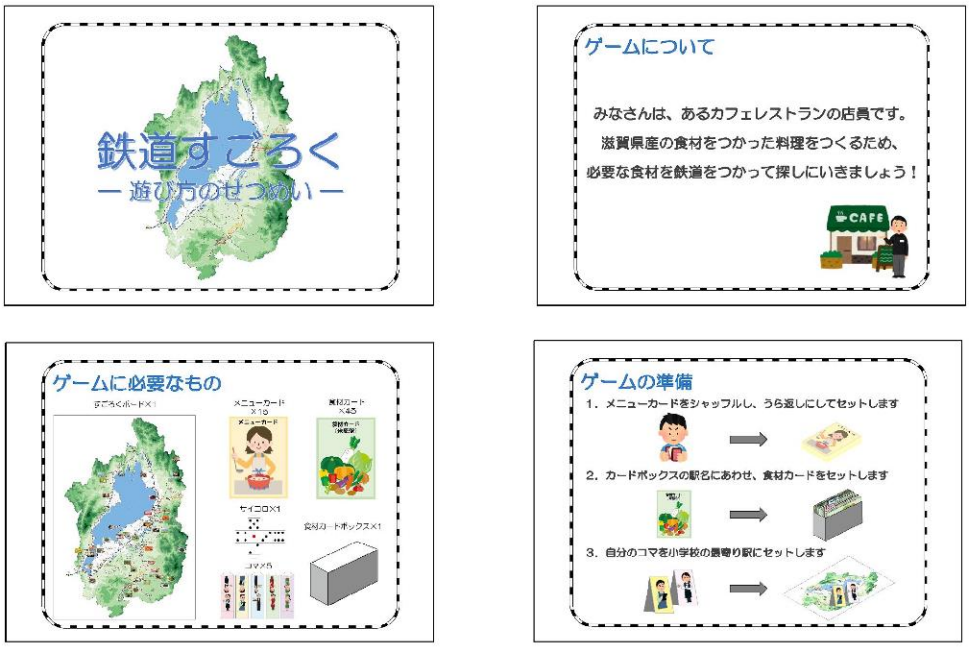


図　4-50　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（26/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理　27

（2）土山小学校４年生・社会科　鉄道すごろく

▼提供したワークシート・パワーポイント資料







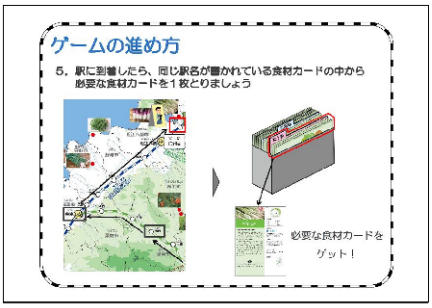


図　4-51　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（27/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理　28

（2）土山小学校４年生・社会科　鉄道すごろく

▼提供したワークシート・パワーポイント資料





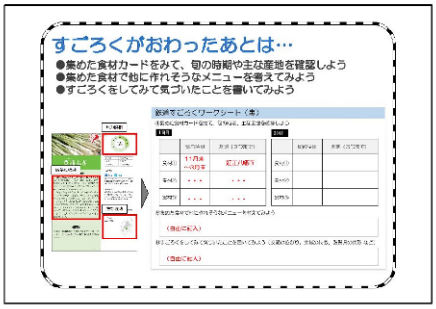


図　4-52　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（28/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理　29

（2）土山小学校４年生・社会科　鉄道すごろく

▼提供したワークシート・パワーポイント資料

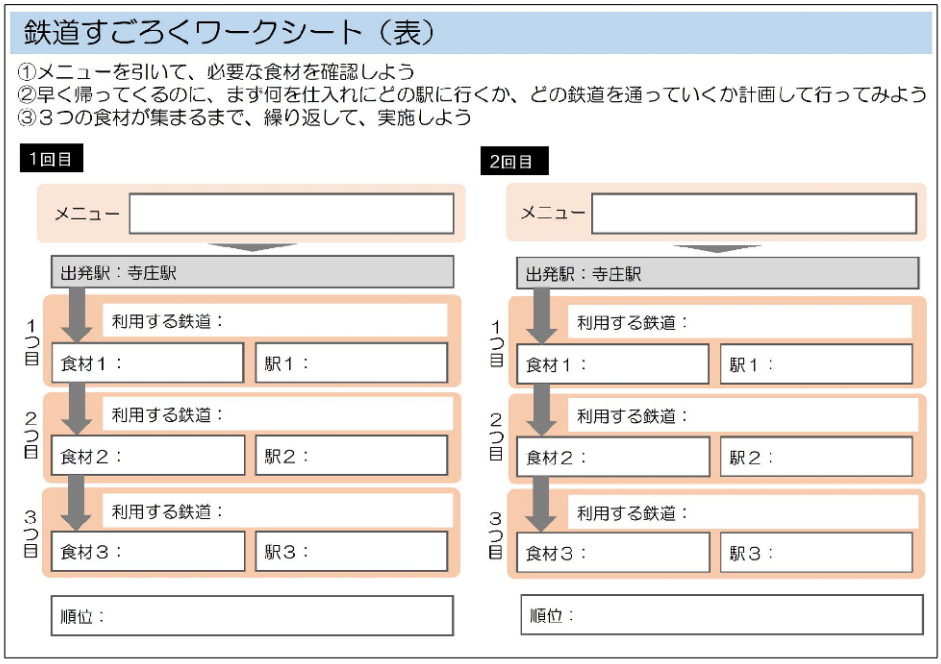


図　4-53　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（29/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理　30

（2）土山小学校４年生・社会科　鉄道すごろく

▼提供したワークシート・パワーポイント資料

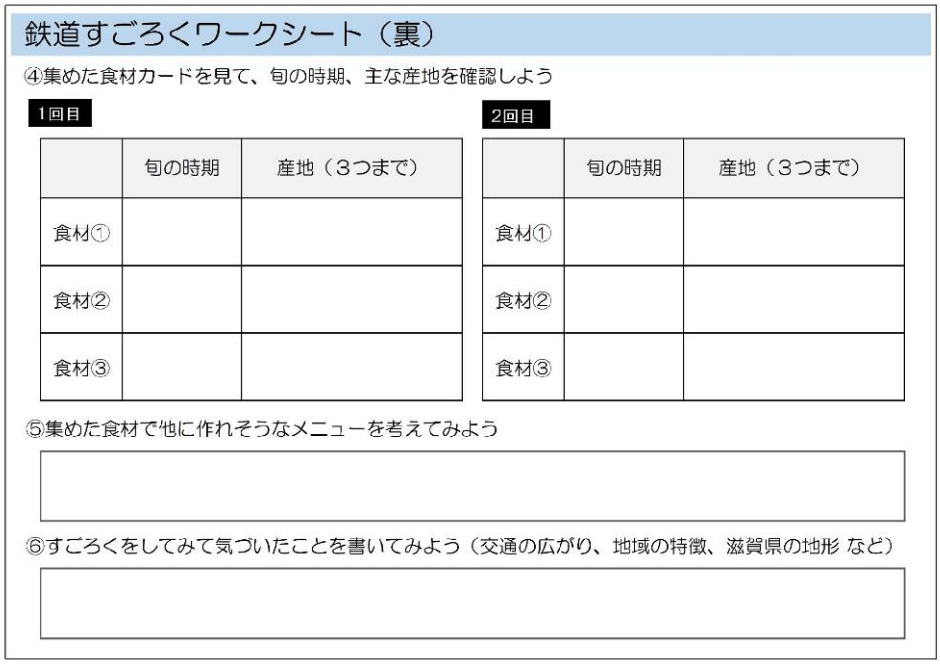


図　4-54　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（30/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理

31

（2）土山小学校４年生・社会科　鉄道すごろく

▼授業の様子







図　4-55　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（31/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理

32

（3）土山小学校５年生・総合的な学習　琵琶湖と交通

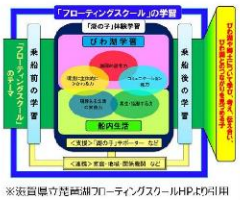
<今年度の位置付け>

・H30に実施した学習の琵琶湖沿岸地域以外への適用性を検証、整理

学習のねらい	・今も地名に残っている物流・湖上交通のなごりから、琵琶湖周辺にある港が自分たちの生活を支えていることを理解する ・行政としての意義：湖上交通の学習を通じて、現在も交通が生活・移動を支えていることを理解してもらう

【 琵琶湖学習（フローティングスクール）の流れ】

調べ学習	宿泊体験学習	まとめ
・ 琵琶湖について学びたいテーマを設定し、琵琶湖と自分たちの生活の関わりについての学習を行う	・ 学習船「うみのこ」での宿泊体験を通し、琵琶湖の現状や環境等について学ぶ	・ 宿泊体験での学びを通しし、乗船前に設定したテーマについて理解を深める



※滋賀県立琵琶湖フローティングスクールHPより引用

○7/20　琵琶湖と交通の関わり

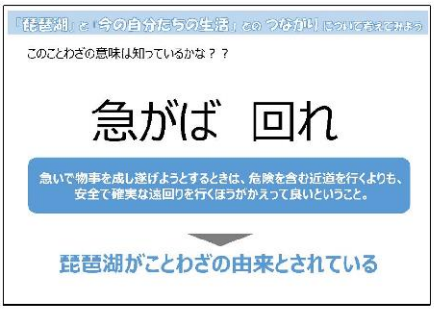
琵琶湖に**港があった**（ある）ことを知る	琵琶湖は**交通の要衝であった**ことを理解する	現在も琵琶湖に**湖上交通が残って**おり、生活を支えていることを理解する	現在の交通も琵琶湖と同じように、**生活・移動を支えている**ことを理解する
・琵琶湖周辺の地名を調べてWSに記入する ・記入した地名について共通点を考える ・地名に共通する漢字の意味について調べる	・日本海側からの荷物の輸送ルートを予想する ・港は荷物を京都や大阪、大津まで輸送するための中継点であったことを知る ・陸路を短縮するために琵琶湖に交通が集まっていたことを理解する	・今も日常的に残っている湖上交通のルートを予想する ・湖上交通が現在も運航していることを知る	・琵琶湖のように地域の生活・移動を支えているものは何があるかを考える ・バスや鉄道の公共交通等が生活・移動を支える役割果たしていることを知る

図　4-56　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（32/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理　33

（3）土山小学校５年生・総合的な学習　琵琶湖と交通

▼提供したワークシート・パワーポイント資料





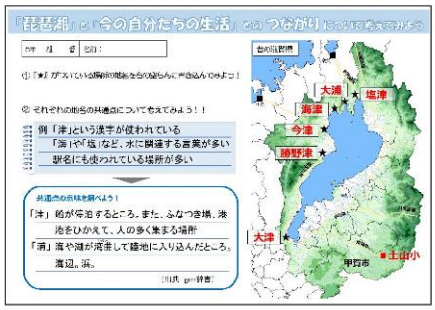




図　4-57　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（33/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理　34

（3）土山小学校５年生・総合的な学習　琵琶湖と交通

▼提供したワークシート・パワーポイント資料

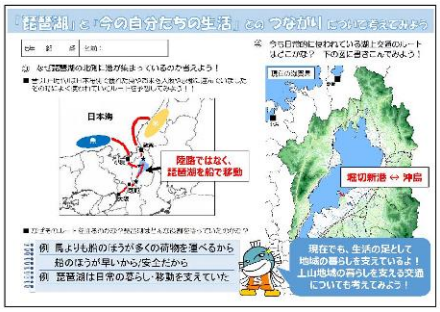








図　4-58　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（34/57）

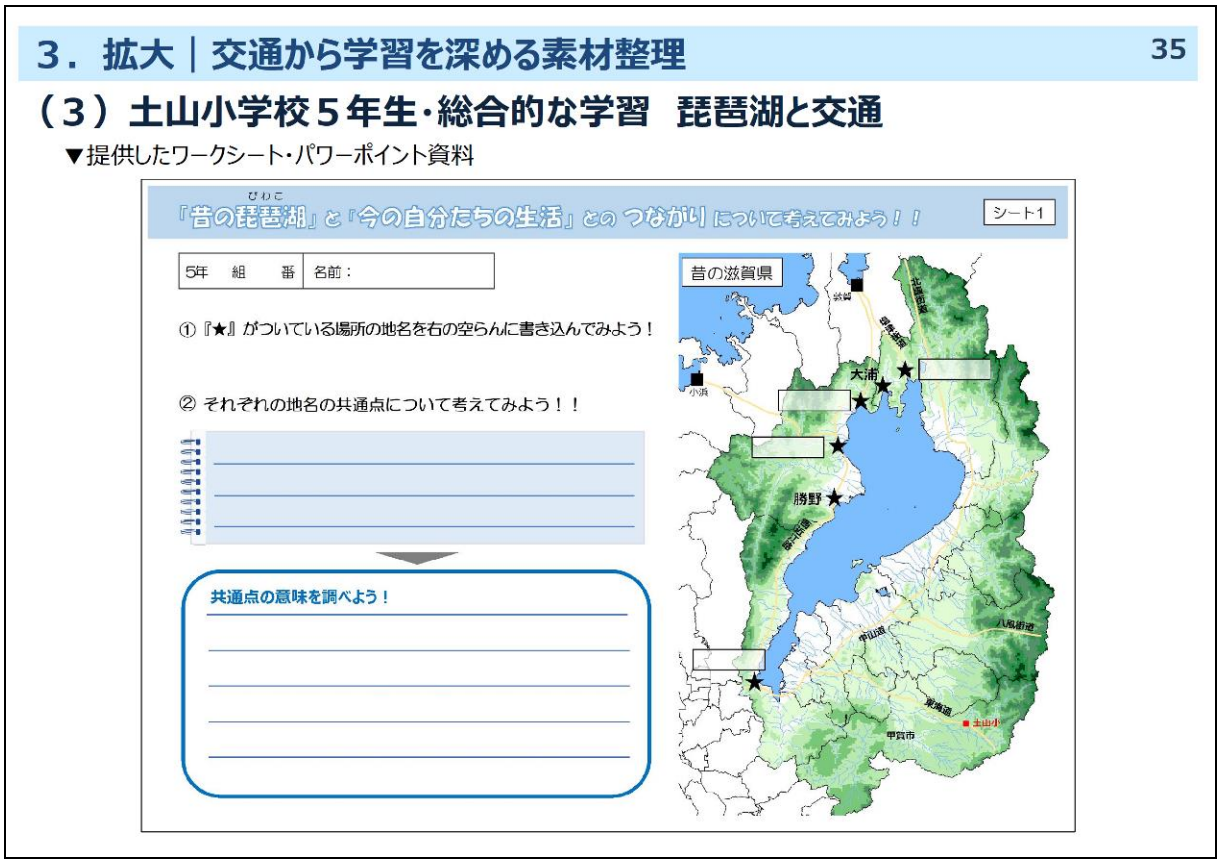


図　4-59　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（35/57）

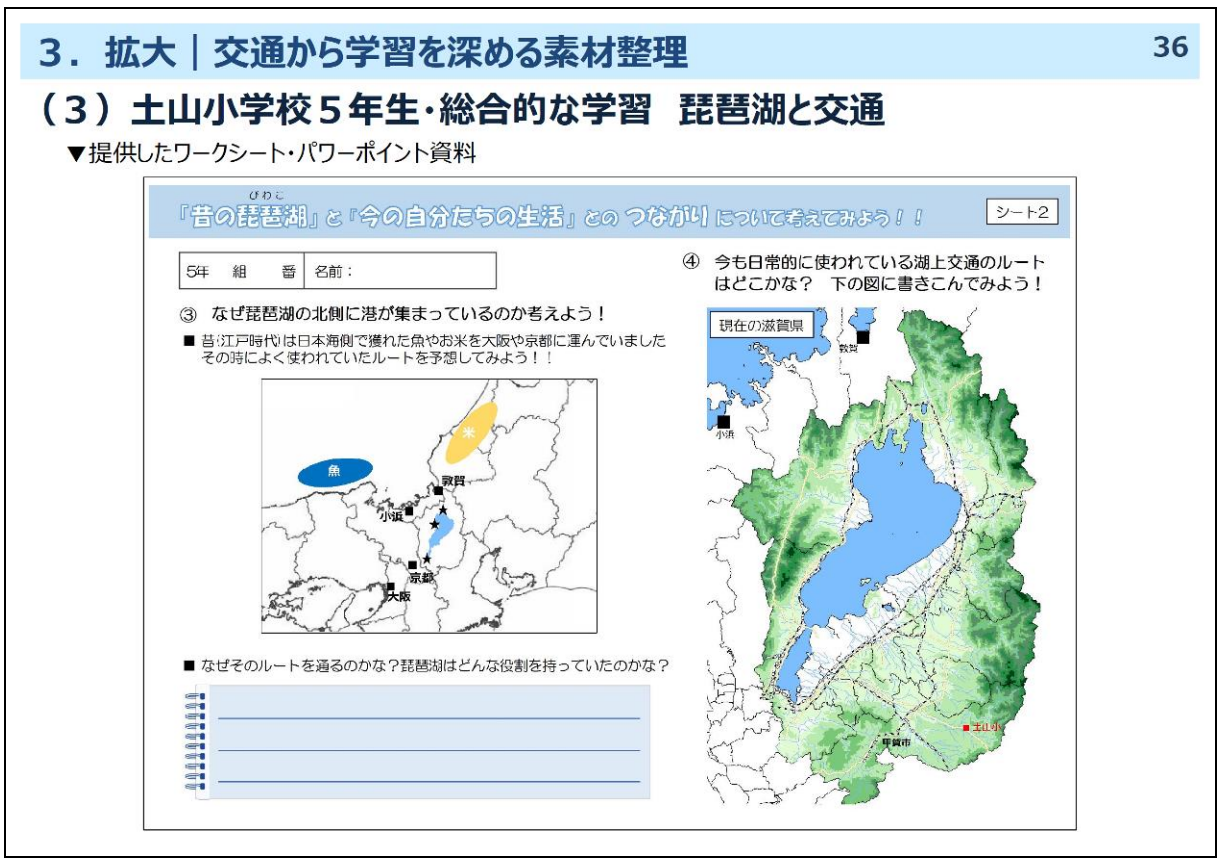


図　4-60　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（36/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理 37

（3）土山小学校５年生・総合的な学習　琵琶湖と交通

▼授業の様子







図　4-61　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（37/57）

3．拡大｜交通から学習を深める素材整理 38

（4）亀山小学校６年生・社会科　地域の公共交通（新規）

＜今年度の位置付け＞

・６年生の学習で交通と関連づけられる箇所について意見交換し、地域の公共交通の学習に着目
・これらのニーズに対応し、データや人の素材を活用した学習を促すため、素材の提供方法を検討、試行

学習のねらい	・公共交通の学習を通して、市民の生活を支える行政の役割・地域のあり方等を考える ・行政としての意義：地域で運行する公共交通の現状・問題、公共交通の役割・意義を理解する

地域の公共交通の現状・対応	地域の交通に関わる人の考え・想い
○地域の公共交通の現状 問：彦根市の公共交通にはどんなものがあるのか、誰が運行しているのか？ →鉄道、路線バス、愛のりタクシー →JR・近江鉄道、湖国バス、彦根市 問：彦根市の公共交通の問題点は？ →多くが自家用車を利用、地域の人口が減少 →利用減少により、住民が少ない地域から撤退 →移動手段がなくなり日常生活に支障をきたす 問：彦根市の公共交通の役割は？ →高齢者の外出支援、渋滞解消、CO2削減等 ○行政が実施している利用促進 →小学校授業、チラシ作成、利用方法の説明会	問：どういう考え、想いで公共交通を運行しているのか？ →湖国バス、近江鉄道、近江タクシーから説明 →どのような人が利用しているか、公共交通がなくなるとどうなるか、利用促進の取組　等

図　4-62　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（38/57）



図　4-63　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（39/57）

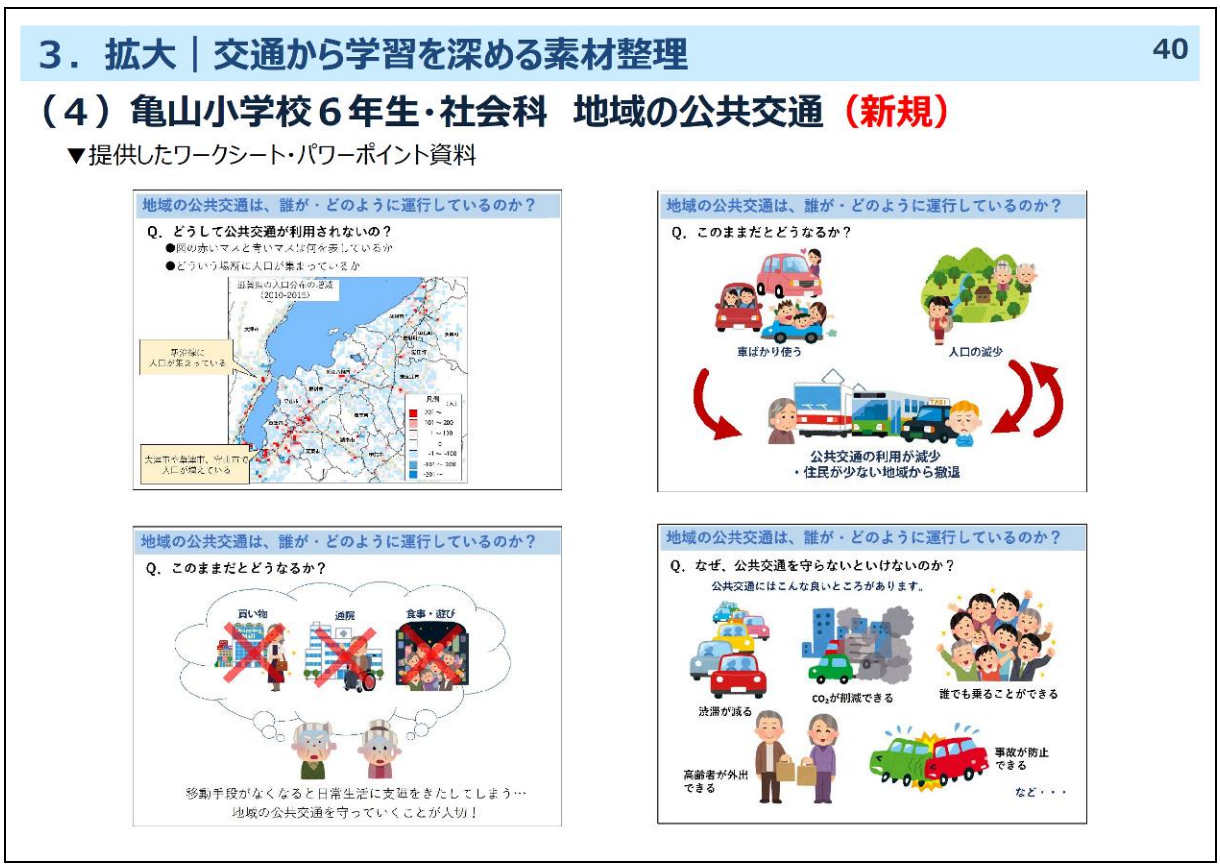


図　4-64　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（40/57）

３．拡大｜交通から学習を深める素材整理　41

（４）亀山小学校６年生・社会科　地域の公共交通（新規）

▼提供したワークシート・パワーポイント資料







図　4-65　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（41/57）

３．拡大｜交通から学習を深める素材整理　42

（４）亀山小学校６年生・社会科　地域の公共交通（新規）

▼授業の様子







図　4-66　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（42/57）

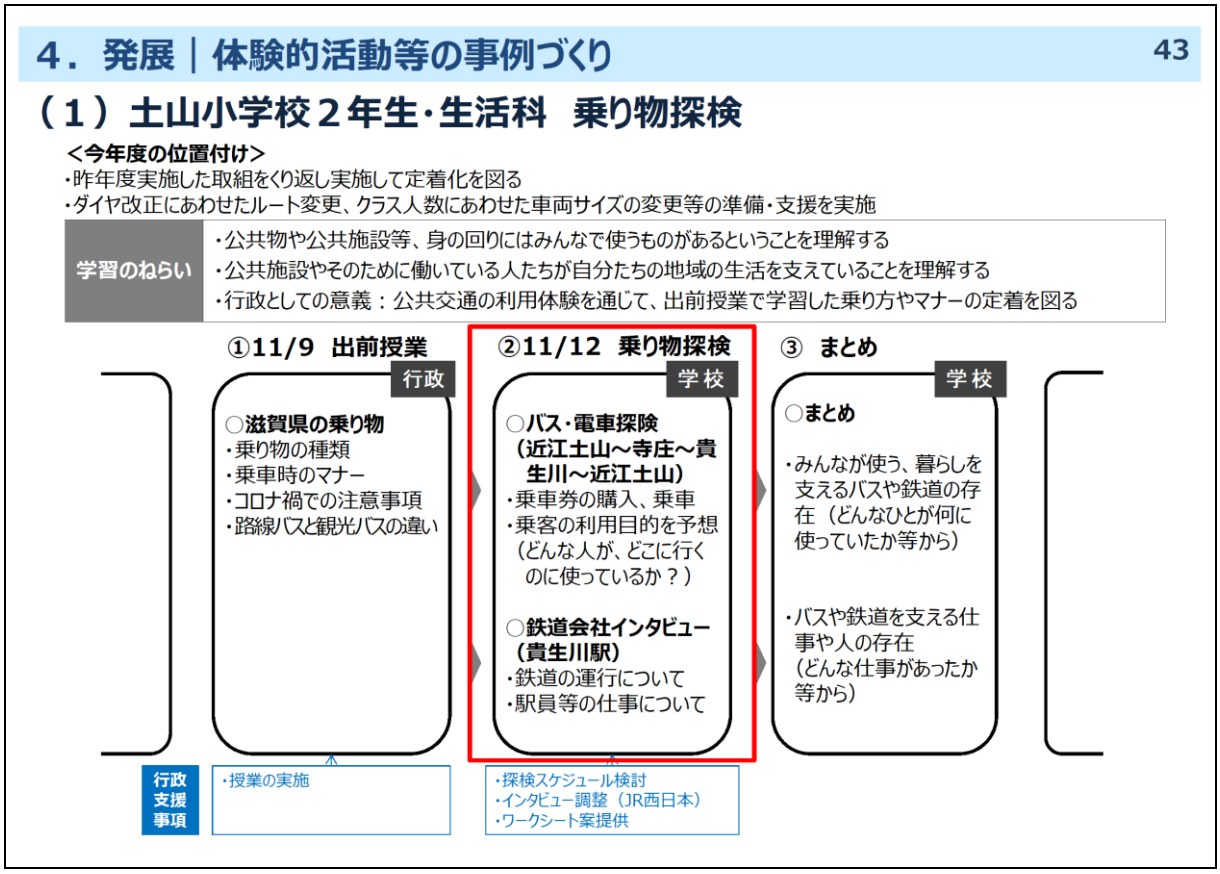


図　4-67　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（43/57）



図　4-68　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（44/57）

（1）土山小学校２年生・生活科　乗り物探検

▼提供したワークシート

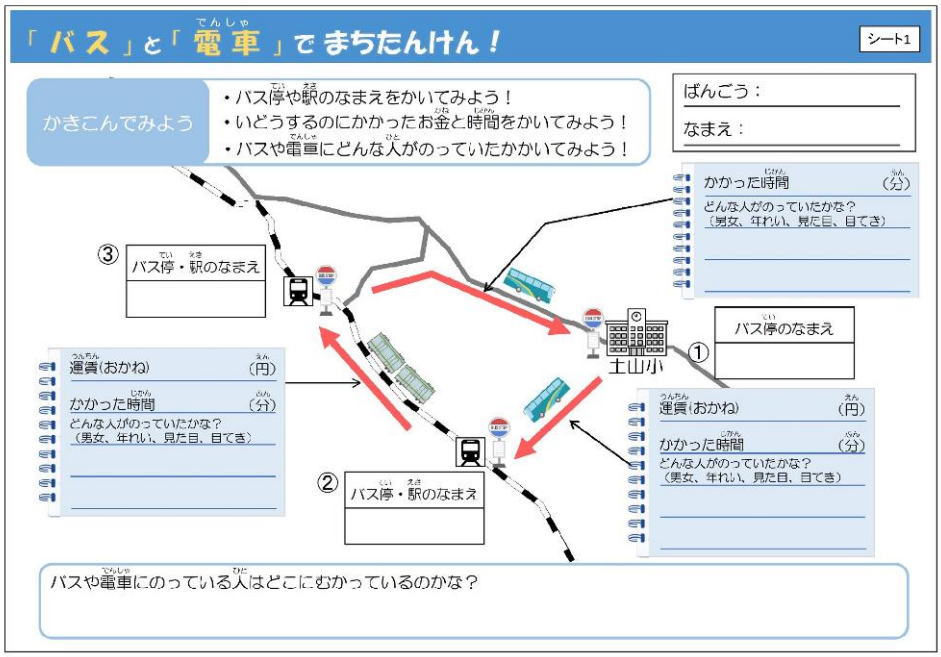


図　4-69　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（45/57）

（1）土山小学校２年生・生活科　乗り物探検

▼提供したワークシート

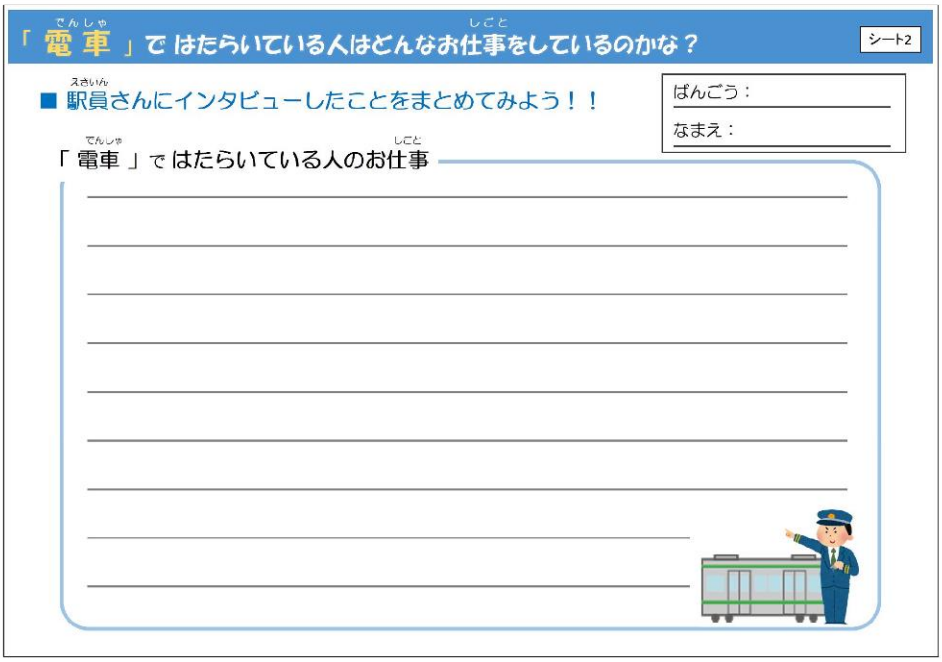


図　4-70　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（46/57）

4．発展｜体験的活動等の事例づくり　47

（1）土山小学校２年生・生活科　乗り物探検

▼授業の様子







図　4-71　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（47/57）

4．発展｜体験的活動等の事例づくり　48

（2）土山小学校６年生・総合的な学習　地域探検（新規）

＜今年度の位置付け＞

・６年生の学習で公共交通と関連づけられる箇所について意見交換し、地域の文化財の学習に着目
・複数年にわたる交通学習の集大成的取組として、公共交通手段を自分で調べ、目的地まで自分たちで移動する学習を支援

学習のねらい	・公共交通を使って文化財へ行く方法を調べ、実際にそこへ行く体験を通して、地域文化財に対する理解を深める。 ・行政としての意義：公共交通の利用方法を学んでもらうとともに、公共交通の便利さや意義を実感してもらう。

①11/25　事前計画	②12/1　文化財巡り体験	③まとめ・共有
○**公共交通の使い方** ・時刻表の読み方を説明 ・コミタクの予約方法を説明 ○**文化財までの行き方** ・利用する公共交通機関及び路線をマップで確認 ・公共交通の出発・到着時刻、必要な運賃を時刻表で確認 ○**文化財の事前学習** ・いつ頃建てられたか、何のために建てられたか等を調べる	○**公共交通の乗車体験** ・乗車券の購入、乗車 ○**駅・バス停周辺の観察** ・まちの様子、まわりにある歴史資源を観察 ○**文化財の学習** ・施設見学・体験 ・住職・宮司へのインタビュー等	○**まとめ・共有** ・各班の学習・体験内容を共有 →いつ頃・何のために建てられたか、今はどういう風に使われているか等 →良かった所・好きになった所、新たな発見等 ・文化財巡り体験の感想 →目的まで行く方法を調べ、実際に移動してみてどうだったか　等 （例　時刻表があれば自分だけでも行けそう、公共交通だけでも目的地に行ける　等）
行政支援事項 ・利用する公共交通及びその時刻、運賃を整理 ・時刻表の読み方、コミタクの予約方法を説明	・体験のサポート	

図　4-72　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（48/57）

4．発展｜体験的活動等の事例づくり

49

（2）土山小学校６年生・総合的な学習　地域探検（新規）

▼文化財巡り体験（12/1）の実施スケジュール

NO	寺社名		移動時間																備考
1	水口神社・水口城跡	行き	近江土山バス停		コミバス（土山本線）	中央公民館バス停		徒歩（200m）	水口城跡		徒歩（700m）	水口神社						昼食・学習時間1h20min
			－	着 10:13 発		10:34	着 10:34 発		10:40	着 11:10 発		11:20	着 － 発					
		帰り	水口神社		徒歩（700m）	あいこうか市民ホールバス停		コミバス（土山本線）	近江土山バス停									
			－	着 12:40 発		12:50	着 12:59 発		13:22	着 － 発								
2	大池寺	行き	近江土山バス停		コミバス（土山本線）	新町バス停		コミバス（広野台線）	大池寺バス停		徒歩（400m）	大池寺						昼食・学習時間1h20min
			－	着 10:13 発		10:31	着 10:46 発		10:55	着 10:55 発		11:10	着 － 発					
		帰り	大池寺		徒歩（400m）	大池寺バス停		コミバス（広野台線）	新町バス停		コミバス（土山本線）	近江土山バス停						
			－	着 12:30 発		12:40	着 12:50 発		12:58	着 13:04 発		13:22	着 発					
3	矢川神社	行き	近江土山バス停		コミバス（土山本線）	貴生川駅		JR草津線	甲南駅		徒歩（700m）	矢川神社						昼食・学習時間1h5min
			－	着 10:13 発		10:42	着 11:21 発		11:25	着 11:25 発		11:40	着 － 発					
		帰り	矢川神社		徒歩（700m）	甲南駅		JR草津線	貴生川駅		コミバス（土山本線）	近江土山バス停						
			－	着 12:45 発		13:00	着 13:15 発		13:19	着 14:05 発		14:34	着 発					
4	甲賀流忍術屋敷	行き	近江土山バス停		コミバス（土山本線）	貴生川駅		JR草津線	甲南駅		コミタク	忍びの里プラ（昼食）		徒歩（200m）	甲賀流忍術屋敷			昼食・学習時間1h00min
			－	着 10:13 発		10:42	着 11:21 発		11:25	着 11:25 発		11:35	着 11:55 発		12:05	着 － 発		
		帰り	甲賀流忍術屋敷		徒歩（200m）	忍びの里プラ		コミタク	甲南駅		JR草津線	貴生川駅		コミバス（土山本線）	近江土山バス停			
			－	着 12:45 発		12:55	着 12:55 発		13:05	着 13:15 発		13:19	着 14:05 発		14:34	着 － 発		
5	櫟野寺	行き	近江土山バス停		コミバス（佐山線）	甲賀駅北口バス停		コミバス（大原線）	櫟野観音寺前バス停		徒歩（100m）	櫟野寺						昼食・学習時間2h45min
			－	着 8:45 発		9:18	着 9:46 発		9:59	着 9:59 発		10:05	着 － 発					
		帰り	櫟野寺		徒歩（100m）	櫟野観音寺前バス停		コミバス（大原線）	甲賀駅北口バス停		コミバス（広域水口線）	貴生川駅		コミバス（土山本線）	近江土山バス停			
			－	着 12:45 発		12:50	着 12:59 発		13:12	着 13:15 発		13:41	着 14:05 発		14:34	着 － 発		
6	玉桂寺	行き	近江土山バス停		コミバス（土山本線）	貴生川駅		信楽高原鉄道	玉桂寺前駅		徒歩（200m）	玉桂寺						昼食・学習時間1h50min
			－	着 9:43 発		10:16	着 10:24 発		10:46	着 10:46 発		10:50	着 － 発					
		帰り	玉桂寺		徒歩（200m）	玉桂寺前駅		信楽高原鉄道	貴生川駅		コミバス（土山本線）	近江土山バス停						
			－	着 12:40 発		12:46	着 12:56 発		13:17	着 14:05 発		14:34	着 発					

図　4-73　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（49/57）

4．発展｜体験的活動等の事例づくり

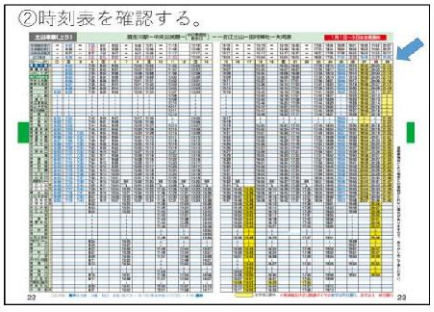
50

（2）土山小学校６年生・総合的な学習　地域探検（新規）

▼提供したワークシート・パワーポイント資料







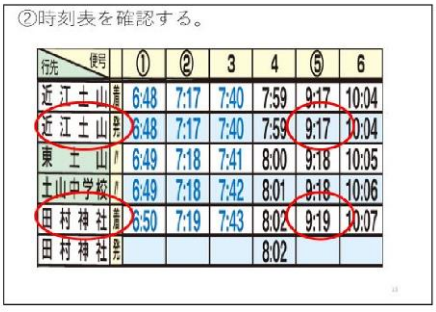


図　4-74　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（50/57）

4．発展｜体験的活動等の事例づくり　51

（2）土山小学校６年生･総合的な学習　地域探検（新規）

▼提供したワークシート･パワーポイント資料

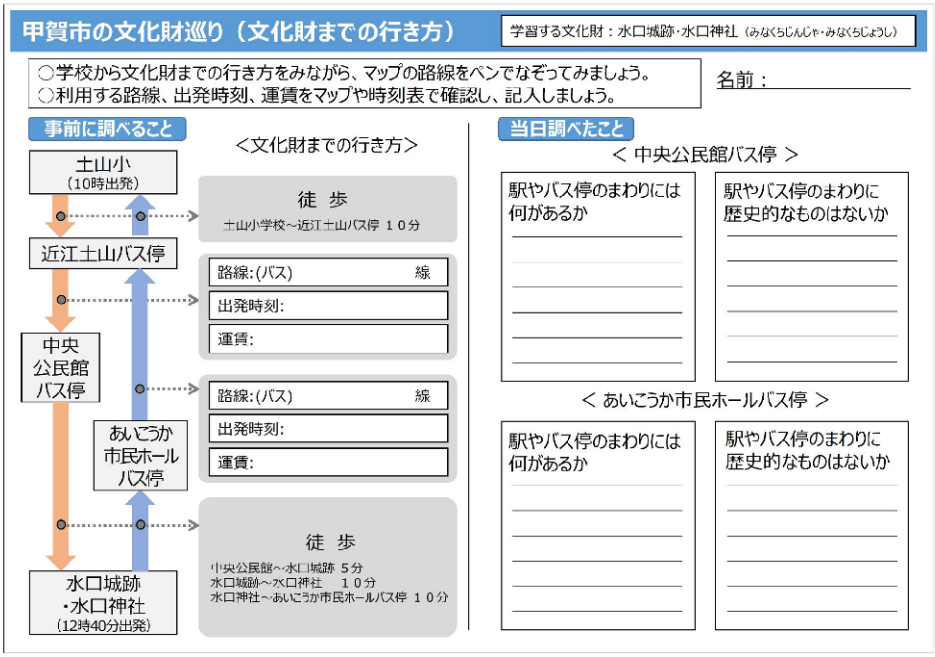


図　4-75　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（51/57）

4．発展｜体験的活動等の事例づくり　52

（2）土山小学校６年生･総合的な学習　地域探検（新規）

▼提供したワークシート･パワーポイント資料

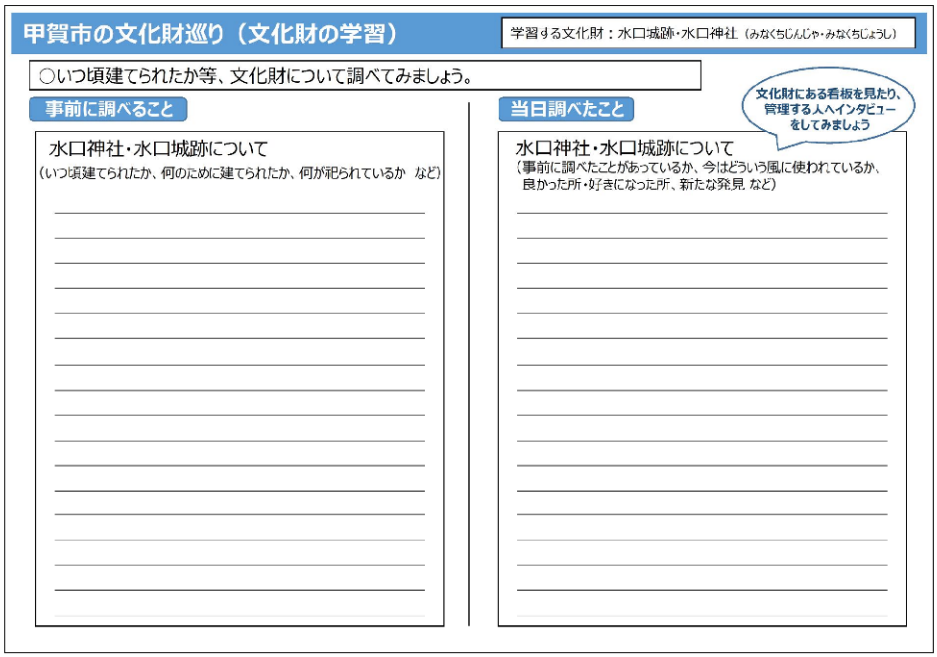


図　4-76　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（52/57）

4．発展｜体験的活動等の事例づくり　53

（2）土山小学校６年生・総合的な学習　地域探検（新規）

▼提供したワークシート・パワーポイント資料

甲賀市の文化財巡り（小学校から目的地までのマップ）

名前：



図　4-77　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（53/57）

4．発展｜体験的活動等の事例づくり　54

（2）土山小学校６年生・総合的な学習　地域探検（新規）

▼提供したワークシート・パワーポイント資料

甲賀市の文化財巡り（バス・鉄道・コミタクの運賃）

■甲賀市コミュニティバス

路線	大人	子ども
土山本線	２５０円	１３０円
広野台線		
広域水口線		
佐山線		
大原線		

■甲賀市コミタク

路線	大人	子ども
全エリア共通	２５０円	１３０円

■フリー乗車券（１日のりほうだい券）

路線	大人	子ども
コミュニティバス＋コミタク	５００円	２５０円
コミュニティバス＋コミタク＋信楽高原鉄道	１２００円	６００円

■JR草津線

貴生川					
１５０円 ７０円	甲南				
１９０円 ９０円	１５０円 ７０円	寺庄			
２００円 １００円	１９０円 ９０円	１５０円 ７０円	甲賀		
２００円 １００円	２００円 １００円	１９０円 ９０円	１５０円 ７０円	油日	
３３０円 １６０円	２４０円 １２０円	２４０円 １２０円	２００円 １００円	１９０円 ９０円	柘植

黒字：大人運賃
赤字：子ども運賃

■信楽高原鉄道

貴生川					
４１０円 ２１０円	紫香楽宮跡				
４１０円 ２１０円	２１０円 １１０円	雲井			
４７０円 ２４０円	２１０円 １１０円	２１０円 １１０円	勅旨		
４７０円 ２４０円	２９０円 １５０円	２９０円 １５０円	２１０円 １１０円	玉桂寺前	
４７０円 ２４０円	２９０円 １５０円	２９０円 １５０円	２００円 １００円	２１０円 １１０円	信楽

黒字：大人運賃
赤字：子ども運賃

図　4-78　参考１－学習プログラムの実施・試行結果（54/57）

4．発展｜体験的活動等の事例づくり　55

（2）土山小学校６年生･総合的な学習　地域探検（新規）

▼授業の様子






図　4-79　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（55/57）

5．実施･試行結果　56

（1）感想･評価

観点	学年	科目	内容	感想･評価
導入	土山1年生	生活科	交通安全学習	･絵でアニメーションを用いて説明することで、1年生でもバスの待機時、乗車時の危険性について理解することができたと思う。 ･MMで交通安全学習を本格的に実施するにあたっては、主で実施されている**県警等との調整が必要**。
	土山2年生	生活科	乗り方教室	･通学時のバスの利用マナーが生徒指導上の課題となっていたが、乗り方教室での学習を通して子どもたちの**マナーの改善が図れた**。校外学習前に**公共交通の役割を確認できた**。
拡大	土山3年生	総合的な学習	障がい者体験	･昨年度の課題であった体験間の**待ち時間は回し方の改善で有効活用できた**と思う。しかし、授業時間を短くしたため、**車両等の工夫を観察する時間を十分に確保できなかった**。体験の時間配分の調整は今後の課題である。 ･アイマスクを着けたまま公道を歩くのは初めての試みであったが、**実際の視覚障がい者の様子を理解するのに貴重な体験**であったと思う。また、ワークシートを作成頂いたので、体験の中でのたくさんの気づきをそのままにするのではなく、**自分の言葉としてしっかり表現することができた**と思う。
	土山4年生	社会科	鉄道すごろく	･今年度が初めての試みであったが、ゲームであることから**子どもたちも意欲的に取り組み、楽しみながら**地域の特産物や交通の繋がりを勉強することができ、十分な教材となることが分かった。 ･各教材の内容ついては、**もう少し情報量を少なくし、簡単にする必要**がある。
	土山5年生	総合的な学習	琵琶湖と交通	･琵琶湖にふれあう機会が少ない子どもたちにとって、今回の学習は新鮮であったと思う。単に琵琶湖に行って体験すると事前に学習してから体験するのとでは、**学習の理解の深まり方が違う。**実際に琵琶湖に行く時は、**今回の学習が活きてくる**と思う。 ･地形図に標高を入れる、地形図のワークシートを大きくしたものを用意する等、**教材や進め方については改善が必要**。
	亀山6年生	社会科	地域の公共交通	･自分の住んでいる**地域の状況から公共交通を見ることで**、地域が抱えている問題が理解でき、**公共交通を利用していこうとの考えを持つことが出来た**と思う。 ･また事業者からの話もあり、**キャリア学習にもつながった**。
発展	土山2年生	生活科	乗り物探検	･通学でバスを利用する子どもは一定いるが、電車を利用する子どもはほとんどいない。**普段利用することのない電車について学習する良い機会**になったと思う。 ･授業を行うのは今年で３年目であり、**体験のやり方が定着してきた**と思う。今年度はダイヤ改正に伴う体験ルートの変更があったが、スムーズに実施ができた。
	土山6年生	総合的な学習	地域探検	･文化財巡りで体験した内容は、社会科の学習内容とつながる部分が多く、**学習の理解が深めることができた**と思う。教科書だけで学習するのと直接見聞きするのでは、理解の深まり方が違う。 ･子どもたちから、「甲賀市に住んでいるのにこんな場所があるのを知らなかった」、「こんな機会がなければ行くことがない」といった意見もあり、**自分たちが住む地域のことを学習する貴重な機会**であったと思う。 ･いろんな公共交通機関や路線を利用し、**交通の広がりを学ぶ良い機会**にもなったと思う。乗車時のマナーや他の乗客への配慮、公共交通が運行している意味等、**今まで交通環境学習で学んできたことの集大成**としてもよかった。

図　4-80　参考１－学習プログラムの実施･試行結果（56/57）

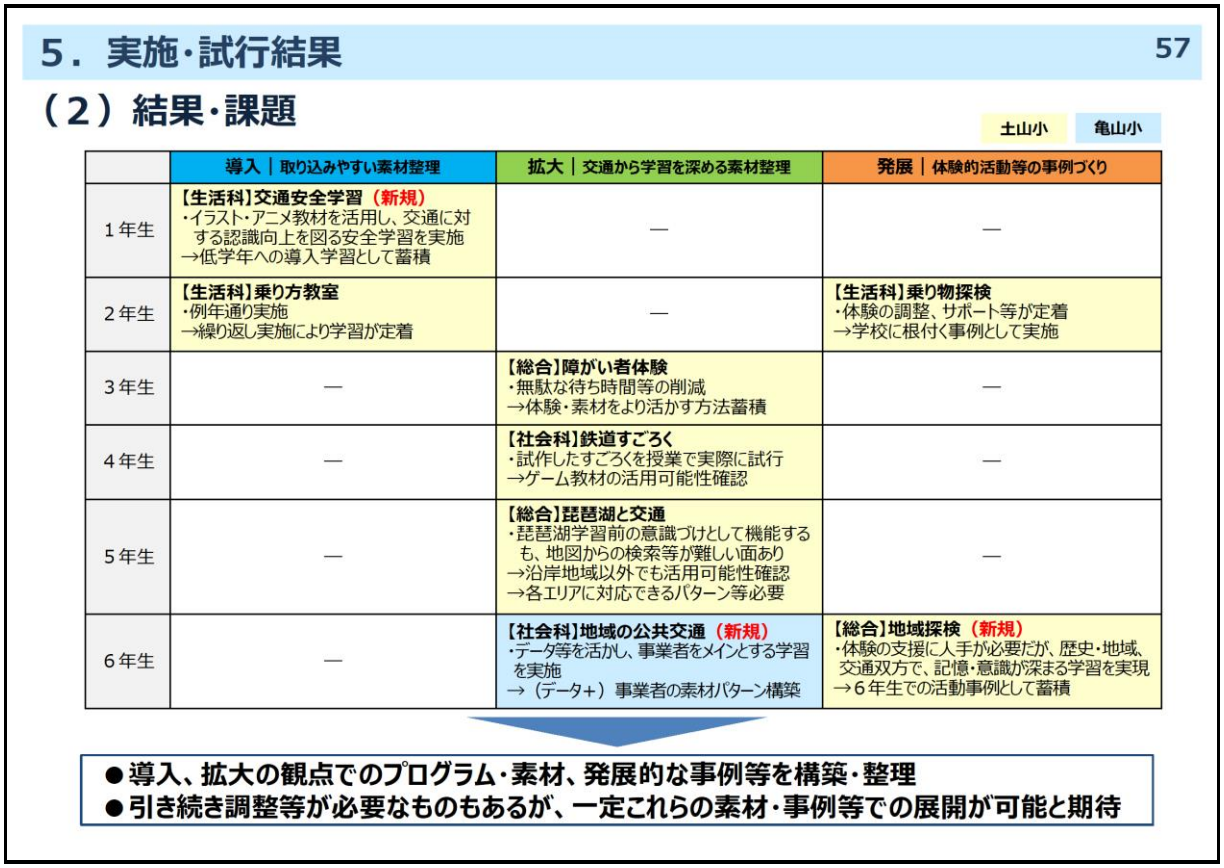


図 4-81 参考１－学習プログラムの実施･試行結果（57/57）

（６）参考２　教師宛アンケート

参考２

滋賀県交通環境学習に関するアンケート

Q. 今年度実施した交通環境学習について伺います。

（１）実施した交通環境学習について教えてください。

学校・学年	小学校　　年	氏 名	
実施した学習内容			
位置付けた教科・単元	（教科）　　（単元）		
この事業を知ったきっかけ	□案内パンフレット　□他学校の教師等からの口コミ　□その他（　　）		
申込みの目的・ねらい			
実施された感想	子どもたちの学習の理解度等、授業全体の感想をご記入ください。		

（２）交通環境学習の内容や提供資料・教材の工夫・改善点等があればご記入ください。

（３）実施した交通環境学習にあわせ、事前学習または事後学習等を実施しましたか。

□はい →
- どのような授業を行いましたか。また、提供した資料・教材等を活用しましたか。
- 交通環境学習を取り入れることで単元全体として、どのようなメリットがありましたか。

□いいえ

（４）もし、あなたが来年同じ学年でこの授業を実施するとしたら、どのような支援が有用と思いますか。（複数回答可）

□実物素材（車両・事業者による説明等）　□学校で座学が可能な教材データの提供　□行政の座学
□その他（　　）

Q. 交通環境学習の案内パンフレットや申込方法等について伺います。

（５）案内パンフレット冊子や申込方法はわかりやすかったですか。また、実施内容をイメージできましたか。

□わかりやすかった・イメージできた　□わかりにくかった・イメージがしにくかった

良かった点や工夫・改善点等をご記入ください



Q. その他、ご意見等について伺います。

（６）交通の素材（バス車両等）を用いることで、他に理解が深まりそうな単元があればご記入ください。

（７）その他に交通環境学習に対する要望やご意見等があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました　　【返信先】滋賀県交通戦略課　森口・角・小林あて（FAX：077-528-4837）

図　4-82　教師充てアンケート

（７）参考３　令和３年度案内冊子（案）

参考３

滋賀県 交通環境学習 のご紹介

子どもたちに身近な“交通”の素材を授業に活用してみませんか？



行政やバス会社が、バス車両や教材、出前授業等の素材をご提供します！







生活科や社会科、総合的な学習の時間等の授業を深められます！





滋賀県土木交通部交通戦略課

図　4-83　参考３－令和３年度案内冊子（案）（1/36）

目　次

1. 交通環境学習について		P3
2. 交通環境学習の実施までの流れと留意事項		P4
3. 学習プログラムのメニュー・提供素材		P5
低学年向け		P8
座学1	身の回りの公共交通	P9
座学2	公共交通のマナー	P10
座学3	バスの乗り方	P11
座学4	電車の乗り方	P12
体験1	バスの乗降体験	P13
体験2	バスの車両観察	P14
体験3	運転手へのインタビュー	P15
体験4	バスの走行体験	P16
体験5	電車の切符購入体験	P17
学習の事例（組み合わせ活用例）		P18

図　4-84　参考 3－令和３年度案内冊子（案）（2/36）

目　次

中学年向け			P22
	座学5	鉄道すごろくゲーム	P23
	体験6	バスを活用した障がい者体験	P25
高学年向け			P28
	座学6	琵琶湖と交通の関わり	P29
	座学7	地域公共交通の現状と問題	P31
	座学8	地域の交通の紹介、時刻表・路線図の読み方	P33
4．過去の実績			P36

※中・高学年での体験1「バスの乗降体験」の実施等、他学年向けの授業であっても内容次第では実施することが可能ですので、ご相談ください。

図　4-85　参考３－令和３年度案内冊子（案）（3/36）

交通環境学習について

【交通をとりまく現状・問題】

自動車依存の高い滋賀県では、様々な場面で良くない影響が出てきています。

・道路の渋滞
・交通事故の増加
・環境汚染
・公共交通サービスの低下
・運動不足、肥満、脚力低下　等





産経新聞（H30.12.1）

しかし、滋賀県で自動車は必要不可欠な移動手段とされています。そこで滋賀県では、県民の意識とライフスタイルをマイカー中心から公共交通を中心とした「エコ交通」への転換を図る取組を積極的に実施しています。

ところが、子どもから高齢者を含む大人まで、バスに乗ったことがない・・・乗り方がわからない・・・などといった声をよく聞きます。
また、人口減少の進展と共に「移動＝自動車」と考える人が多いため、公共交通の利用は年々低迷し、ついには、バスや電車の路線維持・確保が難しく、ダイヤが悪くなり、最悪の場合は路線の廃止に至る可能性が非常に高くなってきています。

【交通環境学習の目的】

滋賀県では、これらの問題を解決するため、「幼少期から地域の公共交通に親しみを持ち、自発的な行動をとれる人間を育てる」ことを目的とした、交通環境学習の実践と普及活動に取り組んでいます。
次世代を担う子どもたちに、公共交通に親しみを持ってもらうことを通して、地域問題や環境問題に関心を持ってもらうことは、自発的に環境にやさしい交通行動を選択するきっかけになると考えています。
また、今後中学生、高校生と成長していく中で、バスや電車を活用する機会が多くなることを踏まえ、その使い方を勉強してもらい、役立ててもらいたいと考えています。
学校教育においては、地域社会の仕組みを学ぶための、身近で親しみやすい実物教材になると考えています。

【交通環境学習の活用方法】

各学年の生活科や社会科、総合的な学習の時間の単元に合わせた活用が可能です。

・公共施設の工夫やマナーの学習（バスの仕組みや工夫、乗車マナー等）
・福祉の学習（バスでの障害者疑似体験、バリアフリーの仕組みや工夫の発見等）

※他にも・・・環境問題、まちの広がりや歴史など、人々の生活に不可欠な「交通」を通して様々な学習展開が可能です。本物や実体験を通して学習することで、より深い学びにも繋がると、先生方からもご好評を頂いています。

【問い合わせ先】

滋賀県土木交通部交通戦略課　（交通環境学習担当とお伝えください）
（TEL:077-528-3680　FAX:077-528-4837　　MAIL:hc00@pref.shiga.lg.jp）

3

図　4-86　参考３－令和３年度案内冊子（案）（4/36）

交通環境学習の実施までの流れと留意事項

実施までの流れ

本パンフレットで実施したい「学習プログラムのメニュー・提供素材」を選択

↓

「申し込みシート」に必要事項を記入し、FAX等で送信

↓

授業内容・進め方等の打ち合わせ（電話もしくは現地にて）

↓

授業の実施

↓

実施後、送付されるアンケートを記入し、FAX等で送信

留意事項

【交通環境学習全般について】

●各小学校によって、授業の進め方や事前・事後学習の内容、交通環境学習のめあて等は異なるため、当日の授業の進行は基本的に先生で進めてくださいますようお願いいたします。

※行政および交通事業者は必要なサポート、説明をさせていただきます。

●授業当日までに、各小学校から市町教育委員会へ交通環境学習の実施の連絡をお願いいたします。

●より良い交通素材の提供方法を検討していくとともに、活用事例の収集を行うため、教科・単元における学習の流れや内容の位置付け方、ご感想・ご要望等について、実施後にアンケートのご協力をお願いいたします。

【バスを用いる体験学習について】

バスの手配のため、1か月半前にはお申込み下さい。

※例年、秋シーズン（9月・10月・11月）に交通環境学習の申込みが多くあります。秋シーズンはバス事業者の繁忙期でもあるため、バスの乗車体験については実施が出来ない、もしくは実施日の変更をお願いする場合があります。早めのお申込みをお願いしますとともに、秋シーズン前の授業のご検討もお願いいたします。

【準備物について】

座学に必要な電子黒板（orプロジェクター）や、体験学習に必要なコーン、アイマスク等は小学校にてご準備お願いいたします。

※データの提供（説明資料・ワークシート・お金券等）、バスの手配はさせていただきます。

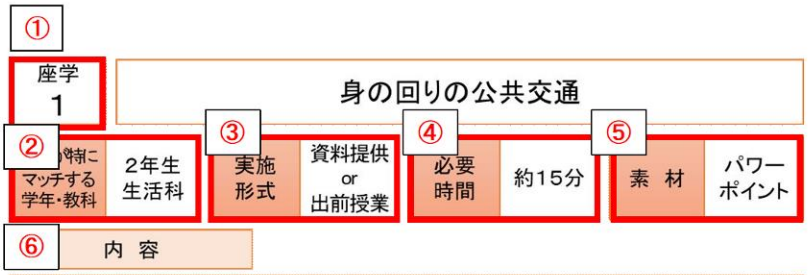
4

図　4-87　参考３－令和３年度案内冊子（案）（5/36）

学習プログラムのメニュー・提供素材

●学習プログラムのメニュー・提供素材をお選び頂き、申込シートにご記入ください。
・対象学年・学校側の要望により、授業内容は柔軟に変更できます（要相談）。
・1時間だけではなく、連続した時間での授業を行うことも可能です。
・授業実施だけでなく、素材の提供のみも可能ですので、実施形態をご確認ください。

『学習プログラムのメニュー・提供素材』の見方



⑥ 内 容

・普段乗っている「のりもの」から、滋賀県内の公共交通を写真や絵で紹介します。
・どのような方が利用されているかを学び、「誰でも使える大切な乗り物」として公共交通を学びます。
・小学校の周りの公共交通について、地図で紹介しながら学びます。

提供素材例

・身の回りの公共交通に関する資料



5

①メニュー番号
・各メニューの番号で、座学と体験があります。
・申込シートにはこの番号を記入ください。

②マッチする学年・教科
・対象学年の中でも、内容が特にマッチする学年・教科です。
・その他の学年・教科での活用も可能です。

③メニューの実施形式
・実施が可能な形式です。
・出前授業・体験サポート・資料提供があります。

④学習の必要時間
・実施に要するおおよその時間です。（1クラス）

⑤提供素材の形式
・提供する素材の形式（実車バス、パワーポイント等）です。

⑥メニュー・提供素材内容
・メニュー・提供素材の特徴・内容です。

図 4-88 参考３－令和３年度案内冊子（案）（6/36）

提供素材を活用した学習の事例

・実際に提供素材を活用して授業を実施した小学校の学習事例をご紹介します。
・ご紹介している事例のほか、メニュー・提供素材を活用・組み合わせることにより、様々な学年・単元での学習が可能です。（内容については要相談）

『提供素材を活用した学習の事例』の見方

事例	実車のバスを活用した公共交通の学習 ～身の回りの公共交通、マナー＋バスの乗り方 ver. ～	① 2年生 生活科

② 必要な授業時間数	③ 必要な準備物	④ 必要な費用
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

⑤ 関連する単元	小学校学習指導要領解説　生活編
教科目標 ・学習のねらい	・身近な地域にどのような乗り物があるかを知り、公共物や公共施設等はみんなで使うものと理解する。 ・バスの乗り方を学び、愛着を持つ。

⑥ ポイント	
	・実際のバス車両や運転手の話から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます。 ・準備、経費が必要ないため、手軽に実施が可能です。

⑦ 実施内容

座　学	・（座学1）身の回りの公共交通 ・（座学2）公共交通のマナー
体　験	・（体験1）バスの乗降体験 ・（体験3）運転手へのインタビュー

⑧ 授業の流れ

1時間目（座学）	・学校の周りの公共交通について（20分） ・公共交通のマナーについて（20分） ・まとめ（5分）	
2時間目（体験）	・バスの乗り方について（10分） ・バスの乗降体験（20分） ・運転手へのインタビュー（10分） ・まとめ（5分）	

⑨ した学校の先生の感想

・自分の住んでいる地域には、何の公共交通があるのかを知り、次おでかけするときはバスに乗りたいと話していた子もいた。校外学習の前にマナーについて学べたことが良かった。
・バスの乗車体験やバス運転手へのインタビューなど実際に自分の目で見て直接話を聞く体験は、座学で教えるよりも子どもたちの印象に残りやすく、授業にも積極的に取組んでもらえた。

①実施した学年・教科
・実際に提供素材を活用し学習を行った学年・教科が記載されています。

②必要な授業時間数
・1クラスあたりの事例と同じ内容の学習をする場合に必要となる時間数です。

③必要な準備物
・事例と同じ内容の学習をする場合に必要となる準備物です。

④必要な費用
・事例と同じ内容の学習をする場合に必要となる費用です。

⑤学習の位置付け
・実施した学習の単元の位置付け・ねらい等が記載されています。

⑥活用のポイント
・提供素材を活用する際の効果・ポイントが記載されています。

⑦実施内容
・学習に組み込んでいるメニュー・提供素材の組み合わせが記載されています。

⑧授業の流れ
・実際に行われた授業の流れが記載されています。

⑨実施した先生の感想
・実際に授業を行った学校の先生の感想が記載されています。

6

図　4-89　参考３－令和３年度案内冊子（案）（7/36）

低学年向けの
メニュー・提供素材



※座学と体験を組み合わせるとより効果的な学習ができます

8

図　4-90　参考３－令和３年度案内冊子（案）（8/36）

座学 1	身の回りの公共交通

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約15分	素　材	パワーポイント

内　容

・普段乗っている「のりもの」から、滋賀県内の公共交通を写真や絵で紹介します。
・どのような方が利用されているかを学び、「誰でも使える大切な乗り物」として公共交通を学びます。
・小学校の周りの公共交通について、地図で紹介しながら学びます。

提供素材例

・身の回りの公共交通に関する資料



9

図 4-91 令和３年度案内冊子（案）（9/36）

座学 2	公共交通のマナー

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約15分	素　材	パワーポイント

内　容

・公共交通を利用時のマナーについて、クイズをしながら学びます。
・説明するだけではなく、子どもたちに考えてもらいながら学習を進めます。
・問題数によって、必要時間の調整が可能です。

提供素材例

・公共交通のマナーに関する資料



10

図　4-92　参考 3－令和 3 年度案内冊子（案）（10/36）

座学 3	バスの乗り方						
内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約15分	素　材	パワーポイント

内　容

・バスの乗り方について、パワーポイントを活用して学びます
・乗合バスと観光バスの違い等を写真で確認しながら学びます。
・安全な乗車方法についても、写真を見ながら学べます。

提供素材例

・バスの乗り方に関する資料



図　4-93　参考 3－令和３年度案内冊子（案）（11/36）

座学 4	電車の乗り方

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約15分	素　材	パワーポイント

内　容

・電車の乗り方について、パワーポイントを活用して学びます。
・安全な乗車方法についても、写真を見ながら学べます。
・学校の最寄り駅での乗り方を学習できます。
・切符の購入体験（体験5）と組み合わせて学習すると効果的です。

提供素材例（例：JR）

・切符の買い方、電車の乗り方に関する資料



12

図　4-94　参考３－令和３年度案内冊子（案）（12/36）

体験 1	バスの乗降体験

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	体験サポート	必要時間 ※20人程度を想定	約20分	素　材	実車 バス

実施内容

・バスを小学校へお持ちし、乗降体験を行います。
・バス事業者よりバスの乗り方について説明します。
・実際のバスを活用した学習であり、実践的な内容です。
※道路、校庭の状況等により、バスの持ち込みが出来ない場合があります。
（他の場所を借りていただいて実施することも可能です。）

実施例

・バス事業者によるバスの乗り方の説明
・バスの乗車体験
乗車→ 整理券を取る→座席に座る→料金表の見方や車内マナーの説明
→ 降車ボタンを押す→運賃を払う（お金券）→降車








13

図　4-95　参考３－令和３年度案内冊子（案）（13/36）

体験 2	バスの車両観察

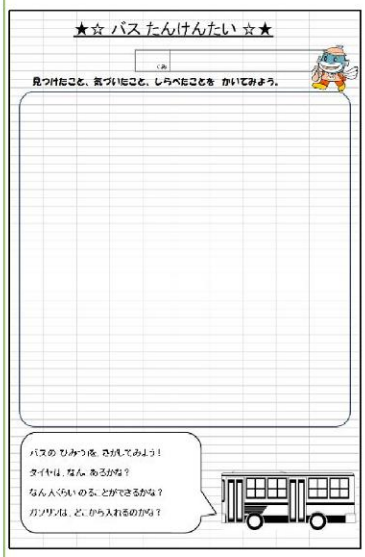
内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	体験サポート	必要時間 ※20人程度を想定	約15分	素　材	実車バス

実施内容

・バスを小学校へお持ちし、バス車両の観察を行います。
・バス事業者よりバスのしくみについて説明します。
・普段は見られないところも見学できます。
・子どもたちからの質問については、運転手やバス事業者が対応します。
・観察するためのワークシートの提供も行います。
※道路、校庭の状況等により、バスの持ち込みが出来ない場合があります。
（他の場所を借りていただいて実施することも可能です。）

実施例

・バスのしくみ説明
・バスの観察（車内外）











14

図　4-96　参考 3－令和 3 年度案内冊子（案）（14/36）

体験 3	運転手へのインタビュー

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	体験サポート	必要時間	適宜	素　材	実車 バス

実施内容

・バスの運転手さんたちが直接子どもたちの疑問に答えます。
・「働くひとたち」の学習もできます。
・事前に質問票をいただければ、細かい質問にも対応可能です。

実施例

・運転手さんたちへのインタビュー
・職業に対するおはなし







15

図　4-97　参考 3－令和 3 年度案内冊子（案）（15/36）

体験 4	バスの走行体験

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	体験サポート	必要時間 ※20人程度を想定	約20分	素　材	実車バス

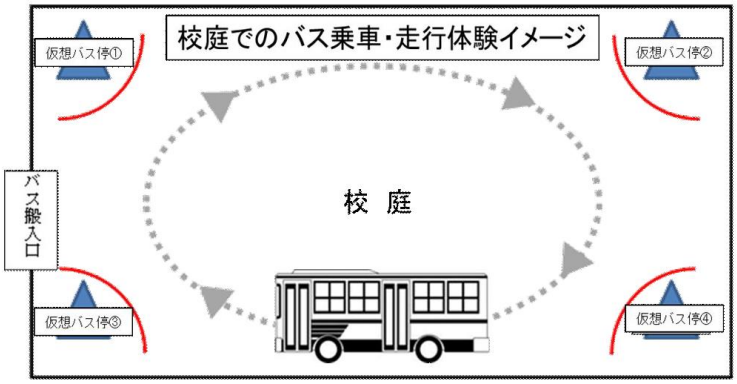
実施内容

・バスの乗降体験（体験1）の実践編として、校庭内にバス停を数個つくり、模擬のお金券を渡し、バスを走らせ乗降してもらいます。

※道路、校庭の状況等により、バスの持ち込みや走らせることが出来ない可能性があります。
※バスの乗降体験（体験1）とセットでの授業となります。

実施例

路線バスが校庭内を周回
・3つの班に分かれる
・模擬のお金券を児童に配布
・3班それぞれ別のバス停から乗車し、目的地のバス停で正しい運賃を払って降車







16

図　4-98　参考 3－令和 3 年度案内冊子（案）（16/36）

体験 5	電車の切符購入体験

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 体験サポート	必要時間 ※20人程度を想定	約20分（約1分/人）	素　材	模擬券売機（ポスター）

実施内容

・模擬の券売機（ポスター）を作成し、学校へ提供します。
・１人１人切符の買い方を練習します。
・練習時には、職員等がポスターの横で買い方の説明・支援を行います。
・電車の乗り方（座学4）と組み合わせて学習すると効果的です。

実施例

・模擬券売機の使い方説明
・切符の買い方体験







17

図　4-99　参考３－令和３年度案内冊子（案）（17/36）

事例	実車のバスを活用した公共交通の学習 ～身の回りの公共交通、マナー＋バスの乗り方 ver. ～	2年生 生活科

必要な授業時間数	必要な準備物	必要な費用
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

関連する単元	生活科「公共物や公共施設の利用」
教科目標 ・学習のねらい	・身近な地域にどのような乗り物があるかを知り、公共物や公共施設等はみんなで使うものと理解する。 ・バスの乗り方を学び、愛着を持つ。

ポイント

・実際のバス車両や運転手の話から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます。
・準備、経費が必要ないため、手軽に実施が可能です。

実施内容

座　学	・（座学1）身の回りの公共交通 ・（座学2）公共交通のマナー
体　験	・（体験1）バスの乗降体験 ・（体験3）運転手へのインタビュー

授業の流れ

1時間目 （座学）	・学校の周りの公共交通について（20分） ・公共交通のマナーについて（20分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （体験）	・バスの乗り方について（10分） ・バスの乗降体験（20分） ・運転手へのインタビュー（10分） ・まとめ（5分）	

実施した学校の先生の感想

・自分の住んでいる地域には、何の公共交通があるのかを知り、次おでかけするときはバスに乗りたいと話していた子もいた。校外学習の前にマナーについて学べたことが良かった。
・バスの乗車体験やバス運転手へのインタビューなど実際に自分の目で見て直接話を聞く体験は、座学で教えるよりも子どもたちの印象に残りやすく、授業にも積極的に取組んでもらえた。

18

図　4-100　参考３－令和３年度案内冊子（案）（18/36）

事例	実車のバスを活用した公共交通の学習 ～バス乗車・走行体験 ver. ～	2年生 生活科

必要な授業時間数	必要な準備物	必要な費用
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

関連する単元	生活科「公共物や公共施設の利用」
教科目標 ・学習のねらい	・身近な地域にどのような乗り物があるかを知り、公共物や公共施設等はみんなで使うものと理解する。 ・バスの乗り方を学び、実際に走行するバスが危険であることを知る。

ポイント

・実際のバス車両や運転手の話から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます。
・準備、経費が必要ないため、手軽に実施が可能です。

実施内容

座　学	・（座学1）身の回りの公共交通 ・（座学2）公共交通のマナー
体　験	・（体験1）バスの乗降体験 ・（体験4）バスの走行体験

授業の流れ

1時間目 （座学）	・学校の周りの公共交通について（20分） ・公共交通のマナーについて（20分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （体験）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・バスの乗り方について（10分） ・校庭でのバス乗車・走行体験（25分） ・まとめ（5分）	

実施した学校の先生の感想

・バス停での待ち方から降車の仕方まで実際に走行するバスを用いて乗車体験ができたことで、校外学習に向けてより実践的な学習ができた。

19

図　4-101　参考 3－令和３年度案内冊子（案）（19/36）

事例	座学のみの公共交通の学習 ～バスの乗り方、電車の乗り方 ver. ～	2年生 生活科

必要な授業時間数	必要な準備物	必要な費用
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

関連する単元	生活科「公共物や公共施設の利用」
教科目標 ・学習のねらい	・身近な地域にどのような乗り物があるかを知り、公共物や公共施設等はみんなで使うものと理解する。 ・身近な公共交通の乗り方を学ぶ。

ポイント

・校外学習の事前学習として効果的です。
・準備、経費が必要ないため、手軽に実施が可能です。

実施内容

座　学	・（座学1）身の回りの公共交通 ・（座学3）バスの乗り方 ・（座学4）電車の乗り方
体　験	・（体験5）電車の切符購入体験

授業の流れ

1時間目 （座学）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（20分） ・バスの乗り方について（15分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （座学 ＋ 体験）	・電車の乗り方について（25分） ・電車の切符購入体験（15分） ・まとめ（5分）	

実施した学校の先生の感想

・電車の乗り方を事前に学習したことで校外学習当日にスムーズに電車に乗ることができた。
・模擬の券売機を用いた体験により、子どもたちが積極的に取り組んでくれた。

20

図　4-102　参考 3－令和３年度案内冊子（案）（20/36）



図　4-103　参考３－令和３年度案内冊子（案）（21/36）

座学 5	鉄道すごろくゲーム

内容が特にマッチする学年・教科	4年生 社会科	実施形式	資料提供	必要時間	約45分	素　材	ゲームツールのデータ

内　容

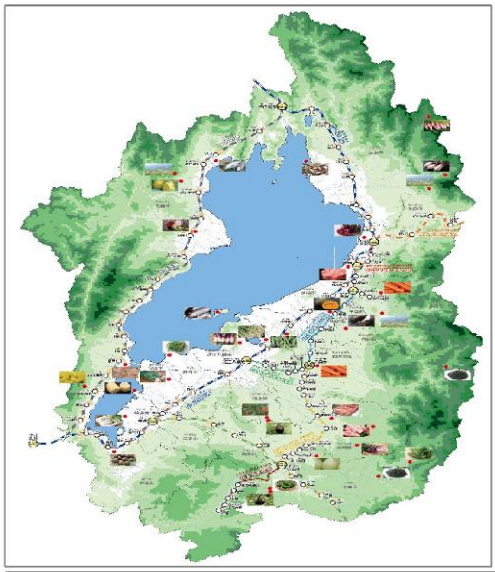
滋賀県内の鉄道路線図をすごろくとし、県内で実際につくられている食材を集めに鉄道駅を進んでいく、ゲーム型の素材です。

ポイント

・体験を通じて交通の広がり（路線名や乗換駅等）や地域の特徴・特産品を学びます。
・鉄道すごろくゲームで遊びながら、単元の理解を深めることができます。

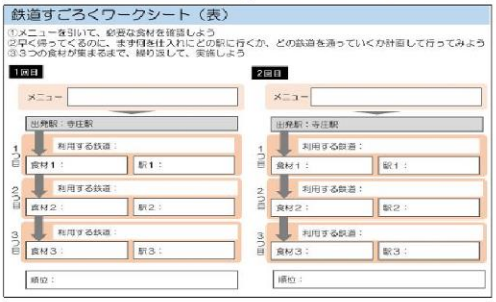
提供素材例

・鉄道すごろくの遊び方に関する資料
・ワークシート









【ゲームの内容】
・地産地消カフェの店員となり、ゲーム開始時に指定された料理に用いる食材を鉄道をつかって仕入れに行くゲームです。
・カードに書かれているヒントを見て、必要な食材が　どこにあるかを考えながら、鉄道を使って探しに行きます。
・食材を集めてはやくスタート地点に戻ってきた人が勝利です。

23

図　4-104　参考 3－令和３年度案内冊子（案）（22/36）

授業の実施イメージ

【鉄道すごろくゲームの説明】 …5分

・鉄道すごろくの内容
・鉄道すごろくの準備、遊び方　等

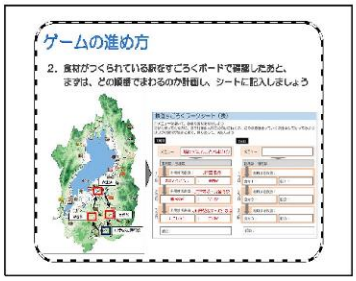
【鉄道すごろくの実施　…40分（20分×2回）

・１班５人に分かれて、鉄道すごろくを実施
・利用した駅や、食材の特徴（時期や主な産地等）をワークシートに記入

【まとめ】 …5分

・すごろくをして気づいたことを発表
（交通の広がり、地域の特徴、滋賀県の地形　など）

















実施した学校の先生の感想

・すごろくを通して、楽しみながら滋賀県の鉄道や特産物について学ぶことができ、もっとやりたいという児童が多くみられた。教科書だけでは分からない滋賀の魅力に気付くことができた。

24

図　4-105　参考３－令和３年度案内冊子（案）（23/36）

体験 6	バスを活用した障がい者体験

内容が特にマッチする学年・教科	4年生 総合的な学習	実施形式	体験サポート	必要時間	約45分	素　材	実車バス

実施内容

・バスを小学校へお持ちし、障がい者の乗降体験を行います。
【身体障がい者体験例】 車いすを利用しての乗降体験
【視覚障がい者体験例】 アイマスク・白杖を装着しての乗降体験
・バス事業者より、車いすや白杖使用者の乗車時の対応や、バスの工夫等について説明します。
・バス車両の工夫点を観察することが出来ます。
・体験を行う時は安全確保のため、バス事業者等が乗車支援・サポートをします。
・体験するためのワークシートの提供も行います。

※留意事項（P.4）の確認をお願いします。
※時間配分の関係上全員が体験できない場合があります。

ポイント

・実際のバス車両での体験から、普段の生活や移動で自分にできることを実感を持って理解できます
・すでに取り組まれているバリアフリーの配慮・工夫等から、社会の仕組みを実感することができます

授業の流れ（例）

※導入、まとめは小学校にて実施願います。

導　入

<u>障がい者とともに生きることを考える</u>
・（例）白杖、ｱｲﾏｽｸ等の使用、介助方法を学習する
・（例）バス車両の仕組みを予想する



体験学習（1時間）

<u>導入授業を踏まえ、障がい者の移動を実感する</u>



まとめ

<u>体験学習を通じて、自分にできることを考える</u>
・（例）体験、観察を通して気付いたことを発表　（バスの工夫等）
・（例）公共交通はみんなにとって大切な移動手段であることに気付く

25

図　4-106　参考３－令和３年度案内冊子（案）（24/36）

授業の実施イメージ

【事業者からの話】 …5分

・バス車両の工夫ついて
・利用者からの声
・障がいがあるお客様への対応、気を付けてほしいこと　　等

【バス車両でのアイマスク体験】 （全員） …20分

・２人１組（体験者＋介助者）に分かれてアイマスクを着用
・各ペアが順番に乗車し、運賃支払・降車を順番に体験
・ワークシートに体験の感想・気づいたこと等を記入

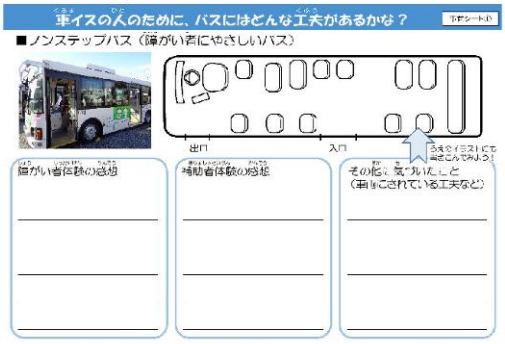
【バス車両での車イス体験】 （代表児童） …5分

・代表児童（体験者1人、介助２人）による車いす体験
・感想を発表
・ワークシートに体験の感想・気づいたこと等を記入

【車両観察、質問コーナー】 …15分

・バス車両のバリアフリーの工夫や仕組みを観察
・観察時の疑問や全体を通した事業者への質問









実施した学校の先生の感想

・アイマスクをしながら車両の狭い空間を行き来する体験は、介助の大切さを知る貴重な機会。
・大人も初めて知るような工夫が車両にはたくさんあり、子どもたちの発見につながる良い経験になった。

26

図　4-107　参考３－令和３年度案内冊子（案）（25/36）



図　4-108　参考３－令和３年度案内冊子（案）（26/36）

座学 6	琵琶湖と交通の関わり

内容が特にマッチする学年・教科	5年生 フローティングスクール	実施形式	資料提供	必要時間	約45分	素　材	パワーポイント

内　容

・琵琶湖周辺の暮らし・交通の変化から琵琶湖は昔、交通の要衝で人々の暮らしを支えていたことを知り、現在の交通も生活・移動を支えていることを学びます。

ポイント

・昔の琵琶湖は湖上交通が発達しており、それに伴って周りのまちが発展してきた経緯があります。交通を視点とした琵琶湖学習を行うことにより、琵琶湖とまちの関わりをより幅広く学ぶことができます。

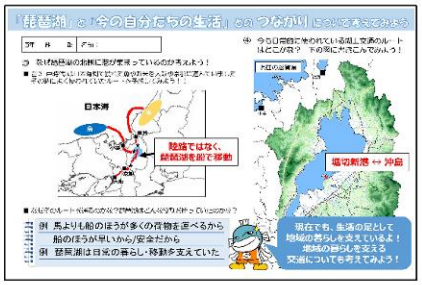
提供素材例

・琵琶湖周辺の暮らし・交通の変化に関する資料（奈良時代～昭和）
・湖上交通の役割について考えるワークシート

琵琶湖と交通の関係性に関する資料









琵琶湖周辺の暮らし・交通の変化に関する資料





29

図　4-109　参考 3－令和３年度案内冊子（案）（27/36）

授業の実施イメージ

琵琶湖に**港があった**（ある）ことを知る

・琵琶湖周辺の地名を調べてWSに記入する

・記入した地名について共通点を考える

・地名に共通する漢字の意味について調べる

琵琶湖は**交通の要衝であった**ことを理解する

・日本海側からの荷物の輸送ルートを予想する

・港は荷物を京都や大阪、大津まで輸送するための中継点であったことを知る

・陸路を短縮するために琵琶湖に交通が集まっていたことを理解する

現在も琵琶湖に**湖上交通が残っており、生活を支えている**ことを理解する

・今も日常的に残っている湖上交通のルートを予想する

・湖上交通が現在も運航していることを知る（沖島）

陸上においても、**現在の交通も生活・移動を支えている**ことを理解する

・琵琶湖のように地域の生活・移動を支えているものは何があるかを考える

・バスや鉄道等の交通が生活・移動を支える役割を果たしていることを知る







実施した学校の先生の感想

・琵琶湖にふれあう機会が少ない地域の子どもたちにとっても有効な学習であったと思う。単に琵琶湖に行って体験するのと事前に学習してから体験するのとでは、学習の理解の深まり方が違う。

・宿泊体験時に湖上交通に関する話があり、子どもたちは学習内容を思い出しながら興味を持って話を聞けていた。

30

図 4-110 参考３－令和３年度案内冊子（案）（28/36）

座学 7	地域の公共交通の現状と問題

内容が特にマッチする学年・教科	6年生 総合的な学習	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約45分	素　材	パワーポイント

内　容

・地域の公共交通の現状・問題と、それに対する行政の支援等（コミュニティバス・乗合タクシーの運行、利用促進の取組等）を紹介します。

ポイント

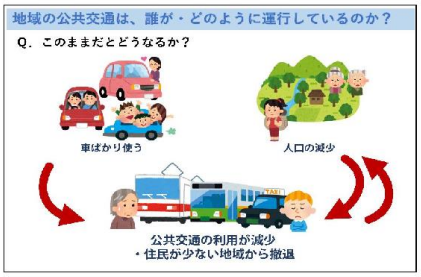
・暮らしに密接した公共交通の視点から考えることにより、地域の現状と将来のあり方を考えるとともに、政治の役割・働きについてイメージがしやすくなります。

・行政担当者等から話を聞くことで地域で働く人の想い・考えを学ぶ、キャリア学習としても効果的です。

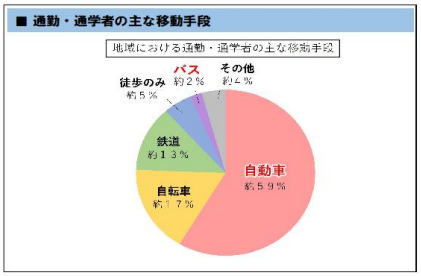
提供素材例

・地域の公共交通の現状と行政支援に関する資料
・地域の公共交通に関するデータ（路線図、利用者推移等）

地域の公共交通の現状・問題に関する資料

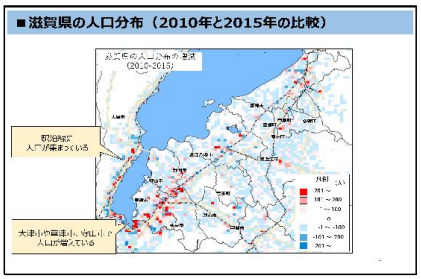


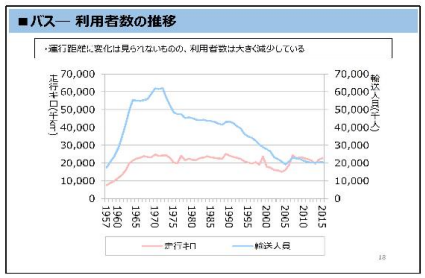






地域の公共交通に関するデータ





31

図　4-111　参考３－令和３年度案内冊子（案）（29/36）

授業の実施イメージ

〇地域の公共交通の現状

問：地域の公共交通にはどんなものがあるのか、誰が運行しているのか？
→（公共交通の種類）鉄道、路線バス、乗合タクシー等
→（運行主体）●●鉄道、●●バス、●●市

問：地域の公共交通の問題点は？
→自家用車の利用増加、地域の人口が減少
→利用減少により、住民が少ない地域から撤退
→移動手段がなくなり日常生活に支障をきたす

問：地域の公共交通の役割は？なぜ守る必要があるのか？
→高齢者の外出支援、渋滞解消、交通事故抑制、CO2削減等

〇行政や事業者が実施している利用促進等
→小学校への授業、チラシ作成・配布、利用方法の説明会等

〇まとめ
地域の交通に関わる人の話を踏まえ、自分たちにもできることは何かあるか






実施した学校の先生の感想

・滋賀県の交通環境について知り、地域の人々にとっても、観光等で滋賀県を訪れる人にとっても公共交通は大切であり、守っていかないといけないと学んでいた。
・働く人々の考えを知ることで自己の成長に生かせた。

32

図 4-112 参考３－令和３年度案内冊子（案）（30/36）

座学 8	地域の交通の紹介、時刻表・路線図の読み方						
内容が特にマッチする学年・教科	―	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約45分	素　材	パワーポイント

内　容

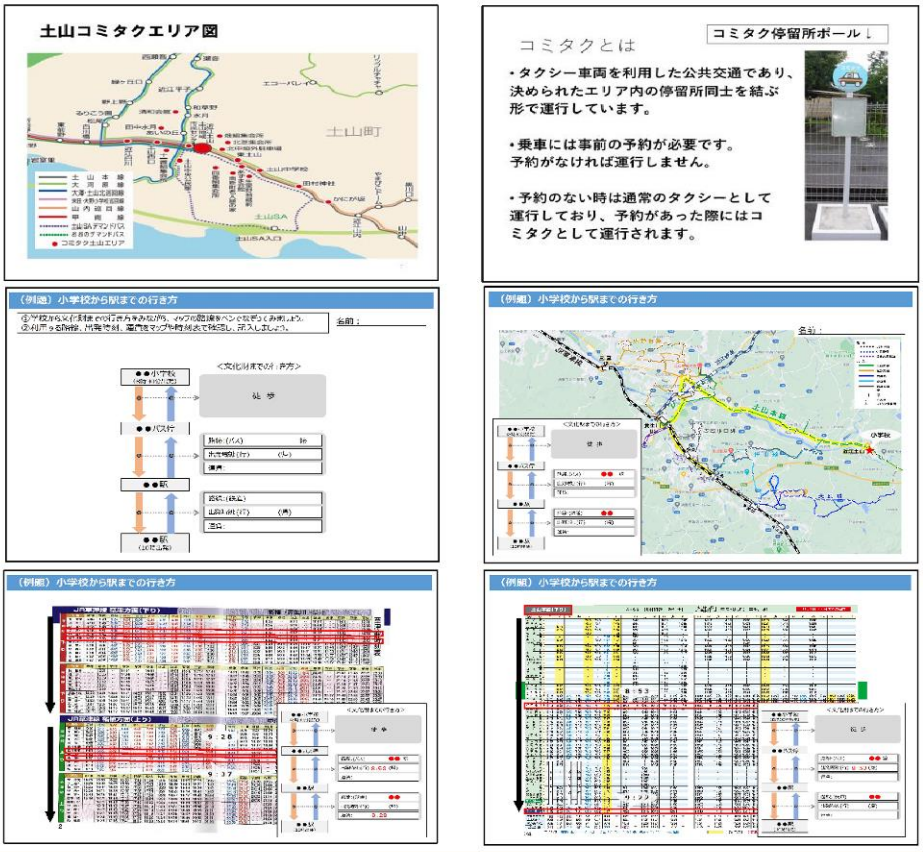
・自分の住んでいる地域を支えている交通について紹介し、時刻表・路線図の読み方等について学習します。

ポイント

・地域を支えている公共交通の運行形態や利用方法等を学べます。
・公共交通を使って一人でも目的地にたどり着けるように、実際の時刻表等の読み方について学ぶため、校外学習で公共交通を利用する際の事前学習としても効果的です。

提供素材例

・地域の交通についての資料
・時刻表・路線図の読み方に関する資料



33

図　4-113　参考３－令和３年度案内冊子（案）（31/36）

授業の実施イメージ

【事前学習】
〇公共交通の使い方（講座）
・小学校の地域を運行する公共交通の紹介
・時刻表の読み方を説明
・利用方法を説明

〇目的地（例：文化財）までの行き方（計画をたてる）
・利用する公共交通機関及び路線をマップで確認
・公共交通の出発・到着時刻、必要な運賃を時刻表で確認

【校外学習】
調べたルート・時間のとおり公共交通を利用し、目的地まで行く。

※この授業では事前学習について、お手伝いします。







実施した学校の先生の感想
・地域の交通が何があるかを知り、利用方法もわかったことで利用していこうとする意識が出ていた。
・時刻表の見方やプランの計画をわかりやすく教えていただき、有意義だった。自分の住む地域のことを学習する貴重な機会であり、実物素材を活用することで理解が深まった。

34

図 4-114 参考３－令和３年度案内冊子（案）（32/36）

過去の実績



36

図 4-115 参考３－令和３年度案内冊子（案）（33/36）

過去の実績

～ 過去の実績一覧 ～

年度	件数
H28年度	2市町 3校
H29年度	6市町 14校
H30年度	9市町 20校
R1年度	9市町 26校
R2年度	15市町 55校

～ 年度別の実施小学校・学年～

【H28年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
草津市	1校	志津南小学校（2年生）
東近江市	3校	市原小学校（3・6年生）、湖東第三小学校（2年生）、能登川北小学校（2年生）
合計	2市町 4校	

【H29年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	1校	瀬田北小学校（2年生）
彦根市	1校	城東小学校（2年生）
草津市	2校	草津小学校（2年生）、志津南小学校（2年生）
甲賀市	2校	大野小学校（2年生）、土山小学校（2年生）
湖南市	1校	しおん園（3～5歳児）
東近江市	7校	愛東あいあい幼稚園（3～5歳児）、玉緒幼稚園（3～5歳児）、もみじ幼稚園（4・5歳児）、市原小学校（6年生）、布引小学校（2年生）、御園小学校（2年生）、八日市養護学校（高等部）
合計	6市町 14校	

37

図 4-116 参考３－令和３年度案内冊子（案）（34/36）

過去の実績

【H30年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	3校	上田上小校（2年生）、瀬田北小学校（2年生）、仰木の里東小学校（2年生）
彦根市	2校	城東小学校（2年生）、旭森小学校（2年生）
草津市	2校	老上西小学校（2年生）、志津南小学校（2・5年生）
守山市	1校	守山小学校（2年生）
甲賀市	2校	土山小学校（2・3・4年生）、大野小学校（2・6年生）
湖南市	2校	菩提寺小学校、三雲小学校
東近江市	6校	御園小学校（2年生）、八日市西小学校（2年生）、布引小学校（2年生）、市原小学校（2年生）、五箇荘小学校（2年生）、能登川小学校（2年生）
竜王町	1校	竜王西小学校（2年生）
甲良町	1校	甲良東小学校（2年生）
合計	9市町　20校	

【R1年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	3校	上田上小校（1・2・5年生）、瀬田南小学校（2年生）、瀬田北小学校（2年生）
彦根市	4校	城東小学校（2年生）、佐和山小学校（2年生）、旭森小学校（2年生）、高宮小学校（2年生）
近江八幡市	1校	岡山小学校（2年生）
草津市	3校	老上西小学校（2年生）、笠縫小学校（2年生）、志津南小学校（2年生）
甲賀市	3校	土山小学校（2・3・4・5・6年生）、綾野小学校（2年生）、大野小学校（2年生）
湖南市	2校	菩提寺小学校（3年生）、三雲小学校（2年生）
東近江市	7校	箕作小学校（2年生）、八日市西小学校（2年生）、布引小学校（2年生）、市原小学校（2年生）、五個荘小学校（2年生）、愛東南小学校（2年生）、能登川北小学校（2年生）
竜王町	2校	竜王小学校（2年生）、竜王西小学校（2年生）
甲良町	1校	甲良東小学校（2年生）
合計	9市町　26校	

38

図　4-117　参考３－令和３年度案内冊子（案）（35/36）

過去の実績

【R2年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	7校	富士見小学校（2・4年生）、下坂本小学校（2年生）、小野小学校（1・2年生）、膳所小学校（2年生）、仰木の里東小学校（2年生）、唐崎小学校（2年生）、長等小学校（2年生）
彦根市	8校	亀山小学校（2・4・6年生）、城西小学校（2年生）、金城小学校（2年生）、佐和山小学校（2年生）、旭森小学校（2年生）、城南小学校（2年生）、稲枝北小学校（2年生）、若葉小学校（2年生）
近江八幡市	3校	桐原東小学校（2年生）、武佐小学校（2年生）、沖島小学校（1・2年生）
草津市	8校	老上西小学校（2年生）、山田小学校（2年生）、草津小学校（2年生）、草津第二小学校（2年生）、南笠東小学校（2年生）、笠縫東小学校（2年生）、笠縫小学校（2年生）、老上小学校（2年生、特別支援学級）
甲賀市	3校	土山小学校（1・2・3・4・5・6年生）、綾野小学校（2年生）、伴谷小学校（4年生）
湖南市	1校	石部南小学校（2年生）
東近江市	10校	湖東第一小学校（2年生）、五個荘小学校（2年生）、愛東南小学校（2年生）、湖東第二小学校（2年生）、布引小学校（2年生）、市原小学校（2年生）、箕作小学校（2年生）、湖東第三小学校（2年生）、蒲生北小学校（2年生）、能登川東小学校（2年生）
竜王町	1校	竜王西小学校（2年生）
長浜市	4校	神照小学校（2年生）、長浜小学校（2年生）、浅井小学校（2年生）、長浜南小学校（2年生）
守山市	2校	守山小学校（2年生）、速野小学校（2年生）
米原市	1校	柏原小学校（2年生）
栗東市	3校	治田小学校（2年生）、治田東小学校（2年生）、大宝西小学校（2年生）
日野町	2校	西大路小学校（1・2年生）、桜谷小学校（1・2・3・4・5・6年生）
豊郷町	1校	日栄小学校（2年生）
野洲市	1校	北野小学校（2年生）
合計	15市町　55校	

39

図　4-118　参考３－令和３年度案内冊子（案）（36/36）

（８）参考４　学習プログラムの応募、実施状況

参考４

学習プログラムの応募、実施状況

今年度の学習プログラムの応募、実施状況について、令和３年度周知パンフレットに掲載しているメニュー・素材をもとに整理を行いました。

■令和３年度 周知パンフレットに掲載している学習プログラムのメニュー・素材（参考３）

低学年向けのメニュー・提供素材		
	座学1	身の回りの公共交通
	座学2	公共交通のマナー
	座学3	バスの乗り方
	座学4	電車の乗り方
	体験1	バスの乗降体験
	体験2	バスの車両観察
	体験3	運転手へのインタビュー
	体験4	バスの走行体験
	体験5	電車の切符購入体験
中学年向けのメニュー・提供素材		
	座学5	鉄道すごろくゲーム
	体験6	バスを活用した障がい者体験
高学年向けのメニュー・提供素材		
	座学6	琵琶湖と交通の関わり
	座学7	地域公共交通の現状と問題
	座学8	地域の交通の紹介、時刻表・路線図の読み方

1

図　4-119　参考４－学習プログラムの応募、実施状況（1/5）

■応募があった学習プログラムの一覧

市町	学校	学年	応募があった学習プログラム	
			座学	体験
大津市	富士見小学校	2年	1＋2＋3	1＋4
		4年	—	6
	下阪本小学校	2年	1＋2＋4	1＋2＋6
	小野小学校	1・2年	1＋2＋4	5
	膳所小学校	2年	1＋2＋3	1＋2
	仰木の里東小学校	2年	1＋2＋4	1＋2＋3＋6
	唐崎小学校	2年	1＋2＋3＋4	1＋2
	長等小学校	2年	1＋2＋4	5
彦根市	亀山小学校	2年	1＋2＋3＋独自	1＋2＋3
		4年	—	6
		6年	7	—
	城西小学校	2年	2＋3＋4＋独自	1＋2＋近江鉄道（鉄道）
	金城小学校	2年	2＋4＋独自	1＋2＋近江鉄道（鉄道）
	佐和山小学校	2年	2＋4＋独自	1＋2＋近江鉄道（鉄道）
	旭森小学校	2年	2＋4＋独自	1＋2＋近江鉄道（鉄道）
	城南小学校	2年	2＋4＋独自	1＋3＋近江鉄道（鉄道）
	稲枝北小学校	2年	2＋4＋独自	5
	若葉小学校	2年	2＋3＋4＋独自	5
近江八幡市	桐原東小学校	2年	1＋2＋3	1＋2＋3
	武佐小学校	2年	1＋2＋3	1＋2＋6
	沖島小学校	1・2年	1＋2＋4	5
草津市	老上西小学校	2年	1＋2＋3＋独自	1＋2＋3
	山田小学校	2年	1＋2＋3＋独自	1＋2＋3
	草津小学校	2年	1＋2＋4	1＋2＋6
	草津第二小学校	2年	1＋2＋3＋独自	1＋2＋3
	南笠東小学校	2年	1＋2＋3＋4＋独自	1＋2＋4
	笠縫東小学校	2年	1＋2＋3＋独自	1＋2
	笠縫小学校	2年	1＋3	JR 鉄道教室（ZOOM）
	老上小学校	2年・特別支援学級	1＋2＋3	1＋2＋3
甲賀市	土山小学校	1年	3	—
		2年	1＋2＋3	—
		3年	—	6
		4年	5	—
		5年	6	—
		6年	8	—
	綾野小学校	2年	1＋2＋4	1＋2＋3
	伴谷小学校	4年	—	6

2

図 4-120 参考４－学習プログラムの応募、実施状況（2/5）

市町	学校	学年	応募があった学習プログラム	
			座学	体験
湖南市	石部南小学校	３年	—	６校
東近江市	湖東第一小学校	２年	２＋４	—
	湖東第二小学校	２年	１＋２＋３	１＋２＋６
	湖東第三小学校	１・２年（合同）	１＋２＋３＋独自	１＋２＋６
	五個荘小学校	２年	１＋２＋３＋４	１＋２＋６
	愛東南小学校	２年	１＋２＋３＋４	１＋２＋６
	布引小学校	２年	１＋２＋３＋４	１＋２＋６
	市原小学校	２年	１＋２＋３＋独自	１＋２＋６
	箕作小学校	２年	１＋２＋３	１＋２＋６
	蒲生北小学校	２年	１＋２＋４	１＋２＋５
	能登川東小学校	２年	１＋２＋３	１＋２＋６
竜王町	竜王西小学校	２年	１＋２＋３＋４	１＋２＋３
長浜市	神照小学校	２年	１＋２＋３＋４	１＋２
	長浜小学校	２年	１＋２＋３＋４	１＋２
	浅井小学校	２年	１＋２＋４＋独自	—
	長浜南小学校	２年	１＋２＋独自	１＋２
守山市	守山小学校	２年	１＋２＋４	—
	速野小学校	２年	１＋２＋３	１＋２
米原市	柏原小学校	２年	１＋２＋４	５
栗東市	治田小学校	２年	１＋２＋３	１＋２＋３＋６
	治田東小学校	２年	１＋２＋４	—
	大宝西小学校	２年	１＋２＋４	—
日野町	西大路小学校	１・２年（合同）	１＋２＋３＋４	１＋２＋４＋６
	桜谷小学校	１・２・３年（合同）	１＋２＋３	１＋２＋３
		４・５・６年（合同）	２＋３＋７	１＋２＋３
豊郷町	日栄小学校	２年	４	５
野洲市	北野小学校	２年	１＋２＋４	５

（参考）市町で独自に行った学習の内容

彦根市、草津市 東近江市、長浜市	・各市町を運行しているコミュニティバス、デマンドタクシー、地域鉄道の紹介 ・各小学校の地域に応じた公共交通の使用例の説明

3

図 4-121 参考４－学習プログラムの応募、実施状況（3/5）

メニュー・提供素材がどのような組み合わせで実施されているのが多いかを把握するため、集計・整理を行いました。

■座学のメニュー・提供素材の組み合わせ

メニュー・提供素材の組み合わせ		学年	実施校数
組み合わせ数	内容		
１種類	（座学３）バスの乗り方	１年	１校
	（座学４）電車の乗り方	２年	１校
	（座学５）鉄道すごろくゲーム	４年	１校
	（座学６）琵琶湖と交通の関わり	５年	１校
	（座学７）地域公共交通の現状と問題	６年	１校
	（座学８）地域の交通の紹介、時刻表・路線図の読み方	６年	１校
２種類	（座学１）身の回りの公共交通　（座学３）バスの乗り方	２年	１校
	（座学２）公共交通のマナー　（座学４）電車の乗り方	２年	１校
３種類	（座学１）身の回りの公共交通　（座学２）公共交通のマナー （座学３）バスの乗り方	２年	１０校
		１・２・３年	１校
		２年 ・特別支援学級	１校
	（座学１）身の回りの公共交通　（座学２）公共交通のマナー （座学４）電車の乗り方	２年	１１校
		１・２年	２校
	（座学２）公共交通のマナー　（座学３）バスの乗り方 （座学７）地域の公共交通の現状と問題	４・５・６年	１校
	（座学１）身の回りの公共交通　（座学２）公共交通のマナー （独自）地域の交通に関する学習	２年	１校
	（座学２）公共交通のマナー　（座学４）電車の乗り方 （独自）地域の交通に関する学習	２年	５校
４種類	（座学１）身の回りの公共交通　（座学２）公共交通のマナー （座学３）バスの乗り方　（座学４）電車の乗り方	２年	７校
		１・２年	１校
	（座学１）身の回りの公共交通　（座学２）公共交通のマナー （座学３）バスの乗り方　（独自）地域の交通に関する学習	２年	６校
		１・２年	１校
	（座学１）身の回りの公共交通　（座学２）公共交通のマナー （座学４）電車の乗り方　（独自）地域の交通に関する学習	２年	１校
	（座学２）公共交通のマナー　（座学３）バスの乗り方、 （座学４）電車の乗り方　（独自）地域の交通に関する学習	２年	２校
５種類	（座学１）身の回りの公共交通　（座学２）公共交通のマナー （座学３）バスの乗り方　（座学４）電車の乗り方 （独自）地域の交通に関する学習	２年	１校

図　4-122　参考４－学習プログラムの応募、実施状況（4/5）

■体験のメニュー・提供素材の組み合わせ

メニュー・提供素材の組み合わせ		学年	実施校数
組み合わせ数	内容		
１種類	（体験５）電車の切符購入体験	２年	６校
		１・２年	２校
	（体験６）バスを活用した障がい者学習	３年	２校
		４年	３校
	（独自）JR 鉄道教室	２年	１校
２種類	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験	２年	７校
	（体験１）バスの乗降体験、（体験４）バスの走行体験	２年	１校
３種類	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験、 （体験３）運転手へのインタビュー	２年	７校
		１・２・３年	１校
		２年 ・特別支援学級	１校
		４・５・６年	１校
	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験、 （体験４）バスの走行体験	２年	１校
	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験、 （体験５）電車の切符購入体験	２年	１校
	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験、 （体験６）バスを活用した障がい者体験	２年	１０校
		１・２年	１校
	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験、 （独自）近江鉄道の乗車体験	２年	４校
	（体験１）バスの乗降体験、（体験３）運転手へのインタビュー （独自）近江鉄道の乗車体験	２年	１校
４種類	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験、 （体験４）バスの走行体験、（体験６）バスを活用した障がい者体験	１・２年	１校
	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験、 （体験３）運転手へのインタビュー、（体験６）バスを活用した障がい者体験	２年	２校

5

図 4-123 参考４－学習プログラムの応募、実施状況（5/5）

4-2-3 議事録

研究会の議事録を以下に示す。

1．開会	
事　務　局　：	定刻となったので、ただいまから令和２年度近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会を開催させて頂く。本日はお忙しい中、本研究会に出席を賜り、厚くお礼申し上げる。 それでは、開会にあたり、本研究会会長の滋賀大学市川教授よりご挨拶をお願い申し上げる。
市　川　会　長　：	本日は年度末でご多忙の中ご参加いただき感謝申し上げる。本研究会では平成 29 年度より４年計画で、交通環境学習の普及に向けて取り組んできた。計画の最終年度である今年度は、これまでの議論を活かし、モデル校での試行を経て１～６年生での縦断的な授業プログラムが完成するとともに、出前講座の実施校数も、26 校から 55 校へと大幅に広げることができた。 本日は昨年度までの研究会での取組の振り返りを行うとともに、今年度の交通環境学習の取組についての実績報告および研究会の成果報告を実施させて頂きたいと思う。本日はどうぞよろしくお願い申し上げる。
2．議題１　昨年度までの取組状況	
市　川　会　長　：	それでは、これより議題に移らせて頂く。議題１の昨年度までの取組状況について事務局より説明をお願い申し上げる。
事　務　局　：	【資料１　昨年度までの取組状況】の説明
市　川　会　長　：	資料１の説明に関し、何かご質問やご意見はあるか。 ご意見がないとのことなので、次の議題に進みたい。議題２の今年度の取組状況について事務局より説明をお願い申し上げる。
3．議題２　今年度の取組状況	
事　務　局　：	【資料２　今年度の取組状況（今年度の実施内容）】の説明
市　川　会　長　：	資料２に関して、何かご質問やご意見はあるか。 では私から質問させていただく。学校へのアンケート調査を行っているが、回答数は学校数ということで認識してよいのか。
事　務　局　：	交通環境学習を実施して頂いた学年の先生に配布・回答をお願いしており、複数の学年で実施した学校からは複数の回答が得られている。そのため、必ずしも学校数とは一致していない。
市　川　会　長　：	それを踏まえると、複数学年で実施している土山小学校からの回答が多くなっているのか。
事　務　局　：	土山小学校からは４名から回答が得られており、他の小学校に比べて回答数が多くなってはいるが、残り 51 名は他の小学校から回答が得られているので、結果が土山小学校の意見に大きく偏っているということはない。
市　川　会　長　：	昨年度までは小学校２年生の校外学習の事前学習として取り組む学校が多かったが、昨年度の９市町から今年度は 15 市町と、これまで取り組んでいなかった小学校からも応募があり、周知パンフレットの配布

	が効果的であったと思われる。 しかし、環境学習都市宣言を行っている守山市からの応募が少ないのが気になるところである。まだ学校へは取組が浸透していないの可能性がある。
野村副会長：	今年度は応募があった 55 校のうち、半分程度の学校の授業に参加させて頂いた。今年度の取組状況を踏まえると、当初研究会の目標にしていた導入の素地づくりということに関しては、２年生の乗り方教室で、ある程度達成できたのではないかと思う。また、バス車両を活用した障がい者体験を実施した学校もあったが、今は共生社会・ユニバーサル社会が求められており、ますますそのような学習が重要になってくると思うので、この学習についてももっと広く展開できたらよいと考える。 しかし、地域の公共交通のあり方を考える学習は、やはり低中学年では難しいので、高学年でも取組を展開していき、地域のまちづくりを考える人材の育成につなげていく必要がある。
市川会長：	高学年に学習を展開していくには、学校の立地の問題も大きいと思う。土山小学校は近くにバス停・JR があり、また亀山小学校も周辺に色々な公共交通があるため、公共交通についてイメージがしやすい。一方で、まわりに公共交通が全くないような小学校については、イメージしづらく、学習が難しい面もある。比較的、公共交通について考えやすい学校にアプローチしていければ、地域のまちづくりを絡めた学習へ展開していくことも可能であると思う。
森井委員：	２年生の生活科では、既に多くの学校で取り組まれているように、単元にもマッチしており、先生の学習イメージがしやすい内容であることから今後も展開していけると思う。また、３・４年生の社会科も交通の観点から理解を深めることができ、活用がしやすいため、今後もっと広がっていくと思う。 しかし、先ほどお話にあったように、５・６年は各学校で学習内容がすでに固定されてしまっている部分が大きく、新しい学習を行ってもらうのは難しい。土山小学校６年生の地域探検のように、今あるものの中に公共交通を取り入れていくということであれば、活用できるかもしれないので、その観点から周知パンフレット見てもらえるようにすれば、もっと広がっていくと思う。 今回は、コロナの影響もあり、校外学習の代替として実施された学校が多かったということであるが、一度実施すると先生同士のつながりで、取組が波及していくと思うので、引き続き取組を続けて頂ければと思う。
遠藤委員：	電車の乗り方や切符の買い方についての授業で支援・サポートをさせて頂いた。近江鉄道が所有するワンマン電車の乗り方について説明させて頂き、普段乗車する機会が少ない電車の乗り方もしっかり学んでもらえたと思う。
中森代理委員：	貴生川駅でのインタビューをはじめ、草津駅でも車いすを体験する学習の支援・サポートを実施させて頂いている。今後、少子高齢化社会が進展していく中で、小さい頃からバリアフリーについて学ぶのは良いと思うので、取組をもっと普及していければよいと思う。

酒井委員：	今年度の応募状況をみると、昨年度から継続的に実施している学校もあるが、中には、昨年度実施したものの、今年度は応募されていない学校もみられる。なぜ今年度は応募されなかったのか、その理由等は把握されているのか。
事務局：	昨年度応募いただいた学校にも、案内をさせて頂いたが、コロナの影響で、休校があったことにより授業時間を作れない、また外部による授業を控えているため、今年度は見送らせて頂きたいということで、実施には至らなかった。今年度はこのコロナ状況下で、県から積極的に案内することもできなかった。今年度多くの小学校で実施が出来たので、その学校については、来年度再度案内を行いたいと考えている。
事務局（岡本委員）：	学習プログラムの実施状況として、各学年の学習内容を説明頂いたが、各プログラムはだいたいどれくらいの時間数で実施しているのか。 エコモでは、自治体向けの支援のほか、学校支援も行っているが、今年度はコロナの影響で中止となった学校も多い。滋賀県では、比較的多くの学校に取り組んでもらえているが、なぜコロナ状況下においても取組が実施できたのか、そのあたりを教えて頂きたい。
事務局：	乗り方教室と乗車体験を行っている場合は２コマにわたっていることもあるが、基本的には１コマで授業を構成している。コロナの影響で校外学習に行けなかった代替授業として申し込んでいただいた小学校も多い。
市川会長：	滋賀県の京阪神に近い地域では意識も高く、対策も綿密に行われているが、北部の方の地域はコロナの影響も少なく、京阪神に近い地域ほど対策をしていない等、地域によっても対応が様々である。そのような状況もあり、比較的影響の少ない学校で応募が多かったのではないか。
水山副会長：	コロナの状況もあり、授業を実施できるか不安な部分もあったが、無事に実施できて良かった。学習プログラムも、低学年では乗り方教室、中学年では福祉学習や地域づくり学習と、ある程度形ができてきたと思う。また、今回は鉄道すごろくというゲーム的な要素も盛り込んでおり、授業のバリエーションとして変化ができたのは良かった。 しかし、先ほどからお話に出ている通り、高学年への展開という部分はまだまだ課題があると思う。公共交通のあり方について考えてもらうには、ただ公共交通に乗ってもらうというだけでは難しい。また、中学校や高校へと学習を展開していかないと、まちづくりを考える人材育成にまでつなげることは難しいと思うが、全国的にもそのあたりの取組は不十分である。 中学校１年生の地理では地域づくりを学ぶことになっている。現在は防災の観点から学習することが多くなっているが、交通の観点から深めていくことは可能であると思うので、交通の観点から地域づくりを学ぶ学習プログラムの提案ができればよいと思う。 高校でも探求型学習が重点的に進められており、その学習においても交通というのは非常によいテーマであると思う。また、探求学習としては、比較ということがキーワードになってくるが、外国や日本で公共交通等のマナーを観点に比較するのも面白いと思う。歴史の観点でも、公共交通がなくなると地域がどうなるかということを考えるのもよいと思う。しかし、こういうことをやろうと思った時に、働き方改革というのがネックになってきている。教師の働き方を見直していくとなれば、授業の工夫を考える時間がとれないため、それを踏まえると、工夫を考えなくても深い学習ができるよう

	な親切な教材が求められつつある。そこも踏まえながら、今後は取組を発展させていければよいと思う。 　また、授業を繰り返しやっていくのもよいが、教育委員会等と連携し、県全体の研修会を行っていくのも一気に周知ができてよいと思う。
事　　務　　局　　：	防災については、公共交通に関する学習の中で防災に関する内容もふれて頂きたいという学校もあった。来年度はそういった内容と交通を絡めた授業を新しく展開できたらよいと思う。 　また、中学校や高校への展開については、県では、まず小学校から普及していくということで事業を行っているが、市町によっては、高校・大学で実施しているところもある。今後は市町と連携していきながら、一緒に検討してまいりたい。

３．今後の進め方、閉会

事　　務　　局　　：	【資料２　今年度の取組状況（今後の進め方）】の説明
市　　川　　会　　長　　：	その他、今後の進め方について何かご意見・ご質問はないか。 　市町・事業者とは今後も連携して取組を行っていくと思うが、直接授業に関わらない委員の皆様にもアイディアやご意見をもらう機会は設けていければよいと思う。今後の展開については、中学校では教育委員会の管轄ということで連携できる部分があると思うが、高校へ展開していくのは少しハードルが高いと思われる。 　今後、交通エコロジー・モビリティ財団としては、滋賀県とどのような形で関わっていくのか。
事務局（岡本委員）：	今後も定期的に情報交換を行い、普及状況等を確認させていただければと思っている。 　小学校や中学校は義務教育ということで問題はないが、高校になると地域からでて通学しないといけないという子どもたちもいる状況である。その時に困らないように小学校の頃から乗り方について学ばせるという話も聞いている。そのような内容の話は家庭であったりするのか、把握されていたら教えて頂きたい。 　また、市町村の教育会議では市長にも参加してもらい、学習の方向性について議論しているところもある。このように首長等を巻き込みながら、市町のまちづくりの方向性も含めて話していければ、まちづくりと一体的に取り組んでいけるのではないか。
事　　務　　局　　：	学校へのアンケートでは家庭での波及に関して聞けてはいないが、学校から頂いた手紙の中には、家庭で授業の内容等について共有している子供たちもいるということであった。 　また、会議での情報共有については、来週市町の担当者会議を行う予定としている。必要に応じて今後どのように進め方が有用か協議していきたいと考えている。
水　　山　　副　　会　　長　　：	今後は市町と県、学校同士の連携を強化していくことが大事である。また、土山小学校での取組は良い事例であると思うので、県内で留めず、全国的にも発信して、広めていただけたらと思う。 　鉄道すごろくについては、体育館を埋めるような大きい地図をつくって実際に体をつかって体験してもらうのもおもしろい。取組は楽しくないと続かないので、これからも工夫を行いながら、引き続き取り組んでいって頂きたい。

野　村　副　会　長　；	バス路線廃止が進み困る人たちも増えてきている中で、地域に公共交通がなかったらどうなるか等について、将来のまちのことを考えられる人材を育成していくことは重要である。バス協会という立場で研究会に参加させていただいていたが、今後も事業者として、積極的に協力させて頂く。
会　　長　　：	３年半ほど会長として研究会に携わらせて頂いた。学習プログラムもある程度形になってきており、中学年の福祉学習は今後ももっと広がっていくと思われる。交通環境学習の総まとめとして、６年生でも公共交通を取り入れていくこともでき、立地の問題もあるかとは思うが、今後もまだまだ展開していけると思う。 先ほどもお話させて頂いたが、中学校や高校へ展開していくのは課題であると感じている。中学校の総合学習では、修学旅行や自然体験での事前事後学習、進路相談・キャリア教育くらいで、十分な内容とはなっていないが、現状としてまちづくり・地域づくりの内容を盛り込むのは難しい。 大学で、小中学校の環境学習に関する内容を思い出して書いてもらう課題を出したことがあるが、体を使ってやったことは覚えているものの、授業で聞いた内容は覚えていない人が多かった。やはり、知識として定着させていくには、自分で何か調べるというプロセスが重要である。市町で状況が異なる部分もあると思うが、土山小学校での取組をモデルとして、探求的な学習へと展開していけば、交通を切り口にまちづくりを考える人材育成へと近づいていけるのではないかと思う。 委員のみなさまから最後に何かご意見等はあるか。ご意見がないとのことなので、事務局に進行をお返ししたい。
事　　務　　局　　：	委員の皆様方には、４年間にわたり、滋賀県での交通環境学習の普及にご助力いただき誠に有難く思う。研究会は本年度で終了となるが、研究会での成果を活かし、来年度以降も事業者、市町等と連携を強化して交通環境学習の普及に取り組んでいく予定である。まずは授業体制を強化し、この交通環境学習を小学校の １ つの授業として、定着させることが必要と考えているが、定着してきた際は、地域の実情を交通を絡めて考える授業等より各市町での交通まちづくりにつながる学習・活動へと展開していくことを考えているので、その際は委員の皆様にも、お力添えのほどをよろしくお願い申し上げる。 それでは、これで令和２年度近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会を閉会させて頂く。

4-3 令和２年度交通環境学習における市町担当者会議

4-3-1 市町担当者会議概要

市町担当者会議の開催概要を以下に示す。

表 4-3 市町担当者会議の開催概要

項目	内容
開催日時	令和３年３月24日（水） 14:00～16:00
開催場所	大津合同庁舎６階6D会議室
出席者	木下 智香子（大津市 地域交通政策課） 藤居 千紗（彦根市 交通対策課） 上田 由華（長浜市 都市計画課） 毛利 隆（近江八幡市 交通政策課） 眞木 大介（草津市 交通政策課） 九野里 吉基（栗東市 交通政策課） 小野山 忠司（甲賀市 公共交通推進課） 澤本 奈見子（野洲市 協働推進課） 饗庭 優香（高島市 都市政策課） 福岡 周真（東近江市 公共交通政策課） 山田 浩揮（竜王町 未来創造課） 志村 昌俊（日野町 企画振興課） 宮嵜 理恵（甲良町 企画監理課） 北川 雄司（滋賀県 交通戦略課） 森口 紋加（滋賀県 交通戦略課） 角 謙昇（滋賀県 交通戦略課）
議事次第	１．開会 ２．議題 （１）交通環境学習について （２）今年度の授業実績および事例紹介について （３）小学校への授業実施後アンケート結果について （４）来年度の交通環境学習について
資料	・議事次第 ・出席者名簿 ・資料１　交通環境学習について ・資料２　交通環境学習の授業実績 ・資料３　事例紹介 ・資料４　小学校教師を対象としたアンケート結果について ・資料５　令和３年度案内冊子（案） ・資料６　交通環境学習に対するご意見

4-3-2 会議資料

今年度の検討・実施の結果を踏まえて、市町担当者会議で使用する資料を以下の通り作成した。

（1）議事次第

令和２年度交通環境学習における市町担当者会議　次第

日　時：令和３年３月 24 日（水）14：00～16：00
場　所：大津合同庁舎６階６Ｄ会議室

１．開会

２．議題

（１）交通環境学習について

（２）今年度の授業実績および事例紹介について

（３）小学校への授業実施後アンケート結果について

（４）来年度の交通環境学習について

【配布資料】
議事次第
出席者名簿
資料１　交通環境学習について
資料２　交通環境学習の授業実績
資料３　事例紹介
資料４　小学校教師を対象としたアンケート結果について
資料５　令和 3 年度案内冊子（案）
資料６　交通環境学習に対するご意見

図 4-124 議事次第

（２）出席者名簿

出席者名簿

市町名	担当課	役職	氏名
大津市	地域交通政策課	主査	木下　智香子
彦根市	交通対策課	主任	藤居　千紗
長浜市	都市計画課	主事	上田　由華
近江八幡市	交通政策課	課長補佐	毛利　隆
草津市	交通政策課	主事	眞木　大介
守山市	都市計画・交通政策課	欠席	
栗東市	交通政策課	主事	九野里　吉基
甲賀市	公共交通推進課	主事	小野山　忠司
野洲市	協働推進課	課長補佐	澤本　奈見子
湖南市	生活環境課	欠席	
高島市	都市政策課	主事	饗庭　優香
東近江市	公共交通政策課	主事	福岡　周真
米原市	米原近江地域協働課	欠席	
日野町	企画振興課	主事	志村　昌俊
竜王町	未来創造課	主事	山田　浩揮
愛荘町	みらい創生課	欠席	
豊郷町	企画振興課	欠席	
甲良町	企画監理課	主任	宮嵜　理恵
多賀町	企画課	欠席	
滋賀県	交通戦略課	参事	北川　雄司
滋賀県	交通戦略課	主事	森口　紋加
滋賀県	交通戦略課	主事	角　謙昇

図　4-125　出席者名簿

（３）資料１　交通環境学習について

資料１

交通環境学習について

≪内容≫

県内小学校（１～６年生）を対象に、バスの実車等を用いた出前講座、交通を素材とした教育素材の提供を行う。

≪目的≫

次世代を担う子どもたちがバス・電車の乗り方や公共交通の大切さについての授業を通して公共交通に慣れ親しみ、その役割を理解することで、将来にわたって公共交通を利用するきっかけをつくる。

≪必要性≫

人口減少社会を見据えた本県における持続可能な公共交通の確保・維持、活性化を図っていくためには、積極的な利用促進の取組が必須。
利用促進の手法についてはそれぞれの世代・属性に応じた働きかけを行う必要があるが、特にまだ移動手段が習慣化していない幼少期の世代に対して、公共交通について触れる・考える機会を提供することは将来の利用者の確保のための１つの手段。

≪これまでの取組の経緯≫

・県としては平成 28 年度から取組を開始。
・平成 29 年度に「近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会」を立ち上げ、４年計画で本事業を普及するための検討を実施。（今年度で終了）
・市町、事業者等と連携しながら、今年度は 15 市町 55 校で出前講座を実施。

≪今後の方向性≫

・小学校における交通環境学習の定着化
・これまでに実施できていない地域への展開
・各地域の特性に応じた授業の実施

図　4-126　資料１－交通環境学習について（1/4）

≪近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会について≫

交通環境学習の取組を県内に浸透させることを目的とし、平成 29 年度に当該研究会を立ち上げ。（設置期間は令和２年度までの４年間）

事業をより効果的なものにするため、交通を素材とした学校のカリキュラムにあった授業の試行、教材の作成、効果的な周知方法の作成に向けた検討を実施。

〇主な成果

・1～６年までの縦断的・体系的に実施するためのプログラムの確立。
・学校で活用できる交通をテーマにした教材の完成。
・周知ツールの完成。

〇研究会委員

教育系学識者、交通系学識者、県教育委員会、４市町
（一社）バス協会、滋賀運輸支局、交通事業者（車、鉄道）

〇事務局

（公財）交通エコロジー・モビリティ財団
（株）オリエンタルコンサルタンツ、滋賀県交通戦略課

図 4-127 資料１－交通環境学習について（2/4）

≪実施までの流れ≫

①案内パンフレット配布　（県教委　⇒　市町教委　⇒　各市町小学校）

４月上旬に県教委から、県教委にて開催される滋賀県小学校長会で各小学校へ配布。
併せて、各市町教委からも各小学校へ配布。（連絡便）
※配布の際は県交通戦略課より各市町教育委員会、各市町地域公共交通担当課へ通知。
※県教委から市町教委へは、市町教育委員会担当者会議でも周知いただいている。

②申し込み　（小学校　⇒　県）

授業実施日までに小学校から各市町教委へ、授業を実施する旨連絡いただいている。

③実施決定

申込時の状況や内容等から判断し、実施決定。
乗車体験については、手配するバスを路線バスかｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽか決め、路線バスならバス協会より、ｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽなら市町よりバスを手配いただく。

③日程調整　（小学校、県、市町、バス事業者（バス協会））

④打ち合わせ、現地確認

座学のみの学校や過去実施がある学校については、電話で打ち合わせ。
今年度新しく授業を実施する学校や、バス乗車体験で校庭等の確認が必要な場合は現地で打ち合わせ。

⑤授業資料作成（地域の内容であれば市町へ依頼）

授業資料作成後、小学校へ FAX 等で内容確認いただく。
確認後、市町経由等で小学校へデータ送付。

⑥授業実施

⑦事後アンケート

図　4-128　資料１－交通環境学習について（3/4）

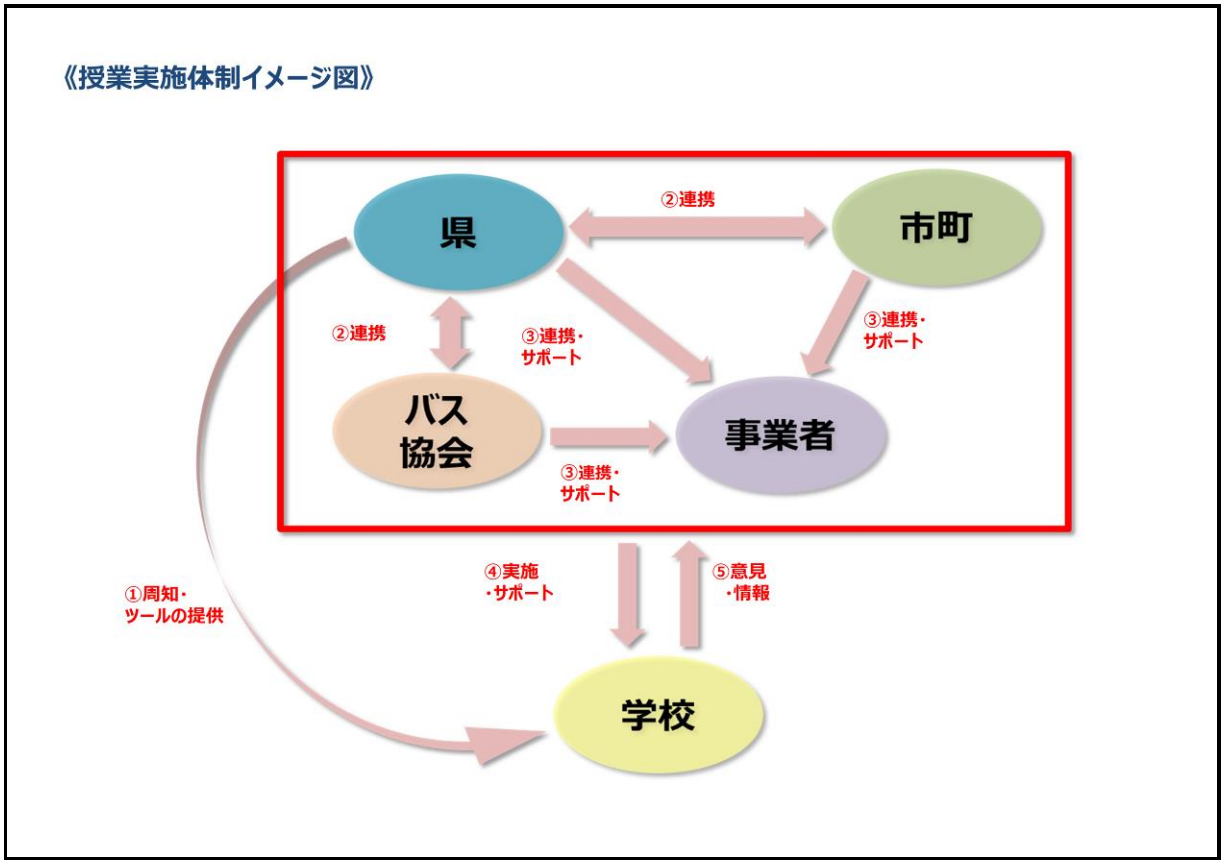


図　4-129　資料１－交通環境学習について（4/4）

（4）資料２　交通環境学習の授業実績

資料2

交通環境学習の授業実績

年度	件数
H28年度	2市町　3校
H29年度	6市町　14校
H30年度	9市町　18校
R1年度	9市町　26校
R2年度	15市町　55校

≪年度別の実施小学校・学年≫

【H28年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
草津市	1校	志津南小学校（2年生）
東近江市	3校	市原小学校（3・6年生）、湖東第三小学校（2年生）、能登川北小学校（2年生）
合計	2市町　4校	

【H29年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	1校	瀬田北小学校（2年生）
彦根市	1校	城東小学校（2年生）
草津市	2校	草津小学校（2年生）、志津南小学校（2年生）
甲賀市	2校	大野小学校（2年生）、土山小学校（2年生）
湖南市	1校	しおん園（3～5歳児）
東近江市	7校	愛東あいあい幼稚園（3～5歳児）、玉緒幼稚園（3～5歳児）、もみじ幼稚園（4・5歳児）、市原小学校（6年生）、布引小学校（2年生）、御園小学校（2年生）、八日市養護学校（高等部）
合計	6市町　14校	

図　4-130　資料２－交通環境学習の授業実績（1/8）

【H30年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	3校	上田上小校（2年生）、瀬田北小学校（2年生）、仰木の里東小学校（2年生）
彦根市	2校	城東小学校（2年生）、旭森小学校（2年生）
草津市	2校	老上西小学校（2年生）、志津南小学校（2・5年生）
守山市	1校	守山小学校（2年生）
甲賀市	2校	土山小学校（2・3・4年生）、大野小学校（2・6年生）
東近江市	6校	御園小学校（2年生）、八日市西小学校（2年生）、布引小学校（2年生）、市原小学校（2年生）、五箇荘小学校（2年生）、能登川小学校（2年生）
竜王町	1校	竜王西小学校（2年生）
甲良町	1校	甲良東小学校（2年生）
合計	8市町　18校	

【R1年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	3校	上田上小校（1・2・5年生）、瀬田南小学校（2年生）、瀬田北小学校（2年生）
彦根市	4校	城東小学校（2年生）、佐和山小学校（2年生）、旭森小学校（2年生）、高宮小学校（2年生）
近江八幡市	1校	岡山小学校（2年生）
草津市	3校	老上西小学校（2年生）、笠縫小学校（2年生）、志津南小学校（2年生）
甲賀市	3校	土山小学校（2・3・4・5・6年生）、綾野小学校（2年生）、大野小学校（2年生）
湖南市	2校	菩提寺小学校（3年生）、三雲小学校（2年生）
東近江市	7校	箕作小学校（2年生）、八日市西小学校（2年生）、布引小学校（2年生）、市原小学校（2年生）、五個荘小学校（2年生）、愛東南小学校（2年生）、能登川北小学校（2年生）
竜王町	2校	竜王小学校（2年生）、竜王西小学校（2年生）
甲良町	1校	甲良東小学校（2年生）
合計	9市町　26校	

図　4-131　資料２－交通環境学習の授業実績（2/8）

【R2年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	7校	富士見小学校（2・4年生）、下坂本小学校（2年生）、小野小学校（1・2年生）、膳所小学校（2年生）、仰木の里東小学校（2年生）、唐崎小学校（2年生）、長等小学校（2年生）
彦根市	8校	亀山小学校（2・4・6年生）、城西小学校（2年生）、金城小学校（2年生）、佐和山小学校（2年生）、旭森小学校（2年生）、城南小学校（2年生）、稲枝北小学校（2年生）、若葉小学校（2年生）
近江八幡市	3校	桐原東小学校（2年生）、武佐小学校（2年生）、沖島小学校（1・2年生）
草津市	8校	老上西小学校（2年生）、山田小学校（2年生）、草津小学校（2年生）、草津第二小学校（2年生）、南笠東小学校（2年生）、笠縫東小学校（2年生）、笠縫小学校（2年生）、老上小学校（2年生、特別支援学級）
甲賀市	3校	土山小学校（1・2・3・4・5・6年生）、綾野小学校（2年生）、伴谷小学校（4年生）
湖南市	1校	石部南小学校（3年生）
東近江市	10校	湖東第一小学校（2年生）、五個荘小学校（2年生）、愛東南小学校（2年生）、湖東第二小学校（2年生）、布引小学校（2年生）、市原小学校（2年生）、箕作小学校（2年生）、湖東第三小学校（2年生）、蒲生北小学校（2年生）、能登川東小学校（2年生）
竜王町	1校	竜王西小学校（2年生）
長浜市	4校	神照小学校（2年生）、長浜小学校（2年生）、浅井小学校（2年生）、長浜南小学校（2年生）
守山市	2校	守山小学校（2年生）、速野小学校（2年生）
米原市	1校	柏原小学校（2年生）
栗東市	3校	治田小学校（2年生）、治田東小学校（2年生）、大宝西小学校（2年生）
日野町	2校	西大路小学校（1・2年生）、桜谷小学校（1・2・3・4・5・6年生）
豊郷町	1校	日栄小学校（2年生）
野洲市	1校	北野小学校（2年生）
合計	15市町　55校	

図　4-132　資料２－交通環境学習の授業実績（3/8）

学習プログラムの応募、実施内容

■令和３年度 周知パンフレットに掲載している学習プログラムのメニュー・素材

低学年向けのメニュー・提供素材	
座学1	身の回りの公共交通
座学2	公共交通のマナー
座学3	バスの乗り方
座学4	電車の乗り方
体験1	バスの乗降体験
体験2	バスの車両観察
体験3	運転手へのインタビュー
体験4	バスの走行体験
体験5	電車の切符購入体験
中学年向けのメニュー・提供素材	
座学5	鉄道すごろくゲーム
体験6	バスを活用した障がい者体験
高学年向けのメニュー・提供素材	
座学6	琵琶湖と交通の関わり
座学7	地域公共交通の現状と問題
座学8	地域の交通の紹介、時刻表・路線図の読み方

図 4-133 資料２－交通環境学習の授業実績（4/8）

■応募があった学習プログラムの一覧

市町	学校	学年	応募があった学習プログラム	
			座学	体験
大津市	富士見小学校	2年	1＋2＋3＋4	1＋4
		4年	—	6
	下阪本小学校	2年	1＋2＋3＋4	1＋2＋3＋6
	小野小学校	1・2年（合同）	1＋2＋4	5
	膳所小学校	2年	1＋2＋3	1＋2＋3
	仰木の里東小学校	2年	1＋2＋3＋4	1＋2＋3＋4＋6
	唐崎小学校	2年	1＋2＋3＋4	1＋2＋3
	長等小学校	2年	1＋2＋4	5
彦根市	亀山小学校	2年	1＋2＋3＋4＋7＋8	1＋2＋3＋5
		4年	—	6
		6年	7	—
	城西小学校	2年	1＋2＋3＋4＋7＋8	1＋2＋3＋5＋近江鉄道
	金城小学校	2年	1＋2＋3＋4＋7＋8	1＋2＋5＋近江鉄道
	佐和山小学校	2年	1＋2＋3＋4＋7＋8	1＋3＋5＋近江鉄道
	旭森小学校	2年	1＋2＋3＋4＋7＋8	1＋3＋5＋近江鉄道
	城南小学校	2年	1＋2＋3＋4＋7＋8	1＋3＋5＋近江鉄道
	稲枝北小学校	2年	1＋2＋3＋4＋7＋8	5
	若葉小学校	2年	1＋2＋3＋4＋7＋8	5
近江八幡市	桐原東小学校	2年	1＋2＋3	1＋2＋3
	武佐小学校	2年	1＋2＋3	1＋2＋6
	沖島小学校	1・2年（合同）	1＋2＋4	5
草津市	老上西小学校	2年	1＋2＋3＋4	1＋2＋3
	山田小学校	2年	1＋2＋3	1＋2＋3
	草津小学校	2年	1＋2＋4	1＋2＋6
	草津第二小学校	2年	1＋2＋3	1＋2＋3
	南笠東小学校	2年	1＋2＋3＋4	1＋2＋4
	笠縫東小学校	2年	1＋2＋3	1＋2
	笠縫小学校	2年	1＋3＋4	JR 鉄道教室（ZOOM）
	老上小学校	2年・特別支援学級	1＋2＋3	1＋2＋3
甲賀市	土山小学校	1年	3	—
		2年	1＋2＋3	—
		3年	—	6
		4年	5	—
		5年	6	—
		6年	8	—
	綾野小学校	2年	1＋2＋4	1＋2＋3＋5
	伴谷小学校	4年	—	6

図 4-134 資料２－交通環境学習の授業実績（5/8）

市町	学校	学年	応募があった学習プログラム	
			座学	体験
湖南市	石部南小学校	3年	—	6
東近江市	湖東第一小学校	2年	2＋4	—
	湖東第二小学校	2年	1＋2＋4	1＋2＋6
	湖東第三小学校	1・2年（合同）	1＋2＋3	1＋2＋6
	五個荘小学校	2年	1＋2＋3＋4	1＋2＋6
	愛東南小学校	2年	1＋2＋3＋4	1＋2＋6
	布引小学校	2年	1＋2＋3＋4	1＋2＋6
	市原小学校	2年	1＋2＋3	1＋2＋6
	箕作小学校	2年	1＋2＋3	1＋2＋6
	蒲生北小学校	2年	2＋4	1＋2＋4＋6
	能登川東小学校	2年	1＋2＋3	1＋2＋6
竜王町	竜王西小学校	2年	1＋2＋3＋4	1＋2＋3
長浜市	神照小学校	2年	1＋2＋3＋4	1＋2＋3
	長浜小学校	2年	1＋2＋3＋4	1＋2＋3
	浅井小学校	2年	1＋2＋4	—
	長浜南小学校	2年	1＋2＋3	1＋2＋3
守山市	守山小学校	2年	1＋2＋4	—
	速野小学校	2年	1＋2＋3	1＋2
米原市	柏原小学校	2年	1＋2＋4	5
栗東市	治田小学校	2年	1＋2＋4	1＋2＋3＋6
	治田東小学校	2年	1＋2＋3＋4	—
	大宝西小学校	2年	1＋2＋4	—
日野町	西大路小学校	1・2年（合同）	1＋2＋3＋4	1＋2＋4＋6
	桜谷小学校	1・2・3年（合同）	1＋2＋3	1＋2＋3
		4・5・6年（合同）	2＋3＋7	1＋2＋3
豊郷町	日栄小学校	2年	4	5
野洲市	北野小学校	2年	1＋2＋4	5

（参考）

座学、体験	数字	・特に地域の内容にアレンジした授業
体験	近江鉄道	・教室を近江鉄道の車両に見立てた乗車体験
体験	JR 鉄道教室	・JR 職員による ZOOM でのビデオで草津列車区の紹介、仕事紹介、切符の買い方授業

図 4-135 資料２－交通環境学習の授業実績（6/8）

■座学のメニュー・提供素材の組み合わせ

メニュー・提供素材の組み合わせ		学年	実施校数
組み合わせ数	内容		
１種類	（座学３）バスの乗り方	１年	１校
	（座学４）電車の乗り方	２年	１校
	（座学５）鉄道すごろくゲーム	４年	１校
	（座学６）琵琶湖と交通の関わり	５年	１校
	（座学７）地域公共交通の現状と問題	６年	１校
	（座学８）地域の交通の紹介、時刻表・路線図の読み方	６年	１校
２種類	（座学１）身の回りの公共交通　（座学３）バスの乗り方	２年	１校
	（座学２）公共交通のマナー　（座学４）電車の乗り方	２年	１校
３種類	（座学１）身の回りの公共交通　（座学２）公共交通のマナー （座学３）バスの乗り方	２年	１０校
		１・２・３年	１校
		２年 ・特別支援学級	１校
	（座学１）身の回りの公共交通　（座学２）公共交通のマナー （座学４）電車の乗り方	２年	１１校
		１・２年	２校
	（座学２）公共交通のマナー　（座学３）バスの乗り方 （座学７）地域の公共交通の現状と問題	４・５・６年	１校
	（座学１）身の回りの公共交通　（座学２）公共交通のマナー （独自）地域の交通に関する学習	２年	１校
	（座学２）公共交通のマナー　（座学４）電車の乗り方 （独自）地域の交通に関する学習	２年	５校
４種類	（座学１）身の回りの公共交通　（座学２）公共交通のマナー	２年	７校
	（座学３）バスの乗り方　（座学４）電車の乗り方	１・２年	１校
	（座学１）身の回りの公共交通　（座学２）公共交通のマナー	２年	６校
	（座学３）バスの乗り方　（独自）地域の交通に関する学習	１・２年	１校
	（座学１）身の回りの公共交通　（座学２）公共交通のマナー （座学４）電車の乗り方　（独自）地域の交通に関する学習	２年	１校
	（座学２）公共交通のマナー　（座学３）バスの乗り方、 （座学４）電車の乗り方　（独自）地域の交通に関する学習	２年	２校
５種類	（座学１）身の回りの公共交通　（座学２）公共交通のマナー （座学３）バスの乗り方　（座学４）電車の乗り方 （独自）地域の交通に関する学習	２年	１校

図　4-136　資料２－交通環境学習の授業実績（7/8）

■体験のメニュー・提供素材の組み合わせ

メニュー・提供素材の組み合わせ		学年	実施校数
組み合わせ数	内容		
１種類	（体験５）電車の切符購入体験	２年	６校
		１・２年	２校
	（体験６）バスを活用した障がい者学習	３年	２校
		４年	３校
	（独自）JR 鉄道教室	２年	１校
２種類	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験	２年	７校
	（体験１）バスの乗降体験、（体験４）バスの走行体験	２年	１校
３種類	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験、 （体験３）運転手へのインタビュー	２年	７校
		１・２・３年	１校
		２年 ・特別支援学級	１校
		４・５・６年	１校
	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験、 （体験４）バスの走行体験	２年	１校
	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験、 （体験５）電車の切符購入体験	２年	１校
	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験、	２年	１０校
	（体験６）バスを活用した障がい者体験	１・２年	１校
	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験、 （独自）近江鉄道の乗車体験	２年	４校
	（体験１）バスの乗降体験、（体験３）運転手へのインタビュー （独自）近江鉄道の乗車体験	２年	１校
４種類	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験、 （体験４）バスの走行体験、（体験６）バスを活用した障がい者体験	１・２年	１校
	（体験１）バスの乗降体験、（体験２）バスの車両体験、 （体験３）運転手へのインタビュー、（体験６）バスを活用した障がい者体験	２年	２校

図 4-137 資料２－交通環境学習の授業実績（8/8）

（５）資料３　事例紹介

資料３

《令和２年度交通環境学習　事例紹介》

○一般的な授業

１、栗東市立治田東小学校２年　・・・P. 1
２、大津市立富士見小学校２年　・・・P. 11
３、大津市立富士見小学校４年　・・・P. 23

○特に地域の内容にアレンジした授業

４、彦根市立城南小学校２年　・・・P. 29
５、長浜市立長浜南小学校２年　・・・P. 49
６、草津市立南笠東小学校２年　・・・P. 63
７、日野町立桜谷小学校１・２・３年　・・・P. 75
８、日野町立桜谷小学校４・５・６年　・・・P. 89
９、彦根市立亀山小学校６年　・・・P. 99
10、甲賀市立土山小学校６年　・・・P. 105

各小学校の授業スケジュール、資料を紹介

図　4-138　資料３－事例紹介

（６）資料４　小学校教師を対象としたアンケート結果について

資料4

滋賀県交通環境学習に関するアンケート

Q. 今年度実施した交通環境学習について伺います。

（１）実施した交通環境学習について教えてください。

学校・学年	小学校　　年	氏 名	
実施した学習内容			
位置付けた教科・単元	（教科）　　（単元）		
この事業を知ったきっかけ	□案内パンフレット　□他学校の教師等からの口コミ　□その他（　　）		
申込みの目的・ねらい			
実施された感想	子どもたちの学習の理解度等、授業全体の感想をご記入ください。		

（２）交通環境学習の内容や提供資料・教材の工夫・改善点等があればご記入ください。

（３）実施した交通環境学習にあわせ、事前学習または事後学習等を実施しましたか。

□はい →
- どのような授業を行いましたか。また、提供した資料・教材等を活用しましたか。
- 交通環境学習を取り入れることで単元全体として、どのようなメリットがありましたか。

□いいえ

（４）もし、あなたが来年同じ学年でこの授業を実施するとしたら、どのような支援が有用と思いますか。（複数回答可）

□実物素材（車両・事業者による説明等）　□学校で座学が可能な教材データの提供　□行政の座学
□その他（　　）

Q. 交通環境学習の案内パンフレットや申込方法等について伺います。

（５）案内パンフレット冊子や申込方法はわかりやすかったですか。また、実施内容をイメージできましたか。

□わかりやすかった・イメージできた　□わかりにくかった・イメージがしにくかった

良かった点や工夫・改善点等をご記入ください



Q. その他、ご意見等について伺います。

（６）交通の素材（バス車両等）を用いることで、他に理解が深まりそうな単元があればご記入ください。

（７）その他に交通環境学習に対する要望やご意見等があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました　　【返信先】滋賀県交通戦略課　森口・角・小林あて（FAX：077-528-4837）

図　4-139　資料４－小学校教師を対象としたアンケート結果について（1/5）

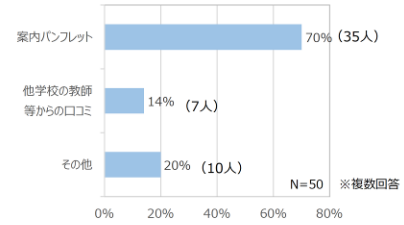
《小学校教師を対象としたアンケート結果》

申込のきっかけ、わかりやすさ

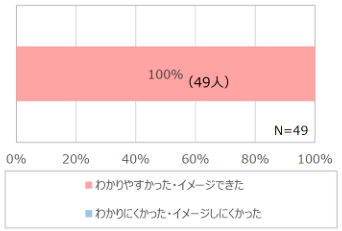
案内パンフレットは周知に効果的であり、また教師が授業をイメージ・計画しやすい内容となっていた。

- ・事業を知ったきっかけは、案内パンフレットが約7割と最も多くなっている。
- ・単元の理解を深めるために申込を行ったという回答が最も多いが、約3割はコロナの影響による校外学習の代替授業として実施している。
- ・回答者の全員が案内パンフレット・申込方法について、わかりやすかったと回答している。また、良かった点として、「事例や写真があり、授業をイメージしやすかった」や、「必要な時間・人数や授業展開パターンが示されており、学習の流れが組みやすかった」等の意見がみられた。

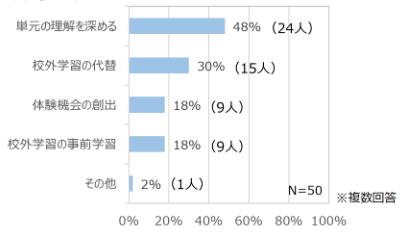
▼事業を知ったきっかけ



▼案内パンフレット・申込方法のわかりやすさ



▼申込の目的・ねらい



【良かった点】
- ・各項目でどれくらいの時間・人数が必要なのかがわかるので、１時間の学習の流れが組みやすかった。
- ・事例がたくさん紹介されていてわかりやすかった。授業時間とどのメニューを組み合わせるとよいかがすぐわかり、計画がしやすかった。
- ・実際に他校で行われていた内容が分かりやすく書かれており、また、授業の様子がわかる写真がたくさん掲載されていたので、授業内容をイメージしやすかった。
- ・事前打ち合わせも丁寧に対応して頂き、初めての申込みでも学習内容がよくわかった。
- ・様々な学習素材・授業展開パターンが示されており、検討しやすかった。

【工夫・改善点】
- ・写真の印刷の濃さがもう少し薄いと見やすい。

図　4-140　資料４－小学校教師を対象としたアンケート結果について（2/5）

実施した授業の感想

実施した授業は概ね良い評価が得られた。また、一連の学習の理解が深まるという意見も多くみられた。

- ・「実物素材を用いた学習により子供達が実感をもって取り組め、理解が深まった」や、「クイズや写真・画像を用いた座学は子どもたちにもわかりやすい内容となっていた」等の意見がみられた。
- ・また、「実際に公共交通を利用してみたいという子どもたちがいた」というように、交通環境学習の実施により、公共交通の利用促進に寄与していると考えられる意見もみられた。

▼実施した授業の感想

教科	学年	学習内容	感想
生活科	2年	身の回りの公共交通について、電車・バスの乗り方、マナー、乗車体験	・実際のバスを観察し、設備や機械の説明を受け、乗車体験させていただいたことで、児童は興味深く学習し、理解度も相当上がっていた。
			・券売機の実物大の掲示物はインパクトがあり効果的であった。何度か体験することができ、校外学習ではスムーズに切符を買うことが出来た。
			・実物サイズの模型を使ったり、実際にバスに乗ることが出来たりと公共交通機関が少ない地域なので、子供達も意欲的に取り組み、学びも多かった。
			・実物のバスを見ながら学んだことにより、一つ一つの工夫を納得しながら学ぶことが出来て良かった。
			・実際にバスに乗ったり、周囲を見たりしながら受けた説明は印象に強く残っていた。座学では公共交通利用のマナーの大事さが強く響いたようで、まとめの学習で発言している子供が多くいた。
			・自分で券を買ったり乗ったりして、今後もまた乗ってみたいという声も多くあった。沢山の方に見守っていただき、案内も丁寧で安心して体験できた。
			・実際に一人一人体験したことで、切符の買い方がよくわかり、「ぜひ本当にやってみたい」と感想に記入する児童が多かった。
			・パワーポイントを使った座学もわかりやすく、環境についての内容が印象に残った子どもが多かった。家でも話題にした子供もいたようである。
			・クイズや画像等、工夫して説明頂いたので、子どもたちの集中も続いた。
社会科	3年	地域学習	・子どもたちは楽しく学んでいた。
	4年	鉄道すごろく	・すごろくを通して、楽しく学び、もっとやってみたいという児童が多くみられた。
総合的な学習	3年	視覚障がい者のバスの乗車について	・大きなバスを目の前にして、どの児童も目を輝かせていた。実際に体験することで、目が不自由であることに寄り添えたと思う。
	4年	みんなが住みやすいまちの工夫調べ	・普段からよく目にするバスにも、たくさんの工夫や優しさがあることを実感することが出来た。またさらに、改善していくためにはどうしたらよいのか、子供たちなりに考え、まとめることができた。
		バリアフリーについて	・バスが傾いたり、実際に車いすを使用しての乗車やアイマスクをしての乗車等をさせてもらえたので、子どもたちは実感を伴って理解できてよかった。
	6年	キャリア学習	・自分たちの身近に関わる人々の働くことの考えを知り、働くことの喜びを実感しているようだった。
		交通機関を使って歴史施設を訪ねる	・事前学習から学ぶことが多く、有意義だった。

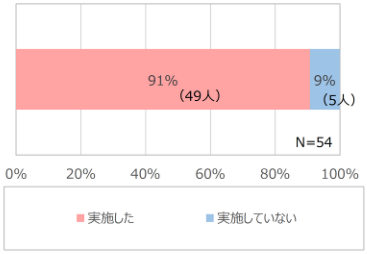
図　4-141　資料４－小学校教師を対象としたアンケート結果について（3/5）

実施内容にあわせた事前・事後学習の有無・内容

ほとんどの学校が授業を実施して終わりではなく、単元全体の学習として事前・事後学習を行っていた。

- ・約9割が交通環境学習にあわせ、事前・事後の学習を実施したと回答している。
- ・事前学習では、当日の学習の理解がしやすくなるよう、事前に学習の内容を説明している学校もみられた。
- ・事後学習では、提供資料・データを用いた振り返りの学習が行われている学校が多くみられた。中には、「周辺バス停や路線図等を題材にした教材」や「券売機等の模型」等を独自に作成し学習を行っている学校もみられた。

▼事前・事後学習の実施の有無



▼実施した事前・事後学習の内容

教科	学年	学習内容	感想	
生活科	2年	身の回りの公共交通について、電車・バスの乗り方、マナー、乗車体験	事前	・乗り方、券売機の使い方等について簡単な説明を行った。
				・仙台市のHPからバスの乗り方の動画を見たり、生活の教科書の「出かける時のマナー」を読んで学習した。
			事後	・提供頂いた資料や児童の記録を取ったノートをもとに、バス・電車の路線や乗り方、マナーについて振り返りの学習を実施した。
				・近くのバス停やJR駅の写真等の画像を利用し、独自のPPTを作成して学習した。
				・券売機を手作りし、お金を入れて切符を買う練習をした。
				・生活科の教科書にある「電車やバスに乗るときは」の写真資料等を使って、乗車手順や利用マナー等について考えた。
				・学校周辺地図を見せながら、線路の確認を行った。また、KJ法を用いて公共のルールを学習した。
				・交通環境学習後、校外学習に行き、公共の乗り物や施設のルールやマナーを確認した。
				・今までの生活と公共交通とのつながりを考える学習を行った。
社会科	4年	鉄道すごろく	事後	・教材をそのまま活用し、もう一度すごろくを実施した。
総合的な学習	3年	障がい者のバスの乗車について、	事後	・ステップバスとノンステップバスの違いや、学習して感じたこと、初めて知ったことをまとめた。
	4年	みんなが住みやすいまちの工夫調べ	事後	・みんなが使いやすい未来のバスを考えた。
			事後	・アイマスク、白杖を使った更なる学習を行った。また、自分の心を揺さぶったことに関して、さらに深く調べ新聞にまとめた。
	5年	昔の湖上交通	事後	・フローティングスクールに合わせて、人とびわ湖のかかわりについての学習を行った。
	6年	キャリア学習	事後	・働く人の考えについて意見交換を実施した。

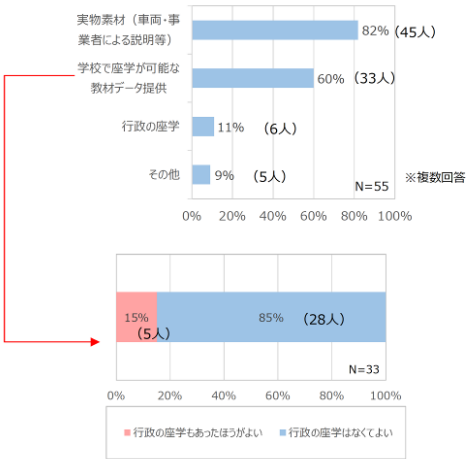
図　4-142　資料４－小学校教師を対象としたアンケート結果について（4/5）

実施に有用な支援、必要な工夫・改善

１度素材のイメージがつかめれば、学校でアレンジ可能な教材データの提供のみで実施することが可能と考えられる。

- ・回答者の約8割が車両等の実物素材提供が授業実施に有用と考えている。
- ・また、学校で座学が可能な教材データ提供が有用と考えている人は約6割を占め、その内、約9割が行政の座学はなくてよいと考えている。
- ・工夫・改善点として、「内容を詰め込むのではなく、子どもたちの質問に答える時間や子供たちが考え話し合う時間が必要」等、授業の時間配分やアレンジに関する意見がみられた。

▼来年も同じ学年で授業を実施する場合に有用と考える支援



▼学習内容や提供資料の工夫・改善が必要な点

教科	学年	学習内容	感想
生活科	2年	身の回りの公共交通について、電車・バスの乗り方、マナー、乗車体験	内容を詰め込みすぎていたので、もう少し削って子供たちからの疑問に答える時間があったほうが良かった。
			話を聞くだけだと集中を維持することが難しいため、クイズや子どもたちが実演する場面をつくっていただくと、学習に意欲的に取り組めるのではないかと感じた。
			時間が足りなかったので、もう少し話を聞いたり、質問する時間があれば良かった。
			一方的に説明するだけでなく、クイズ形式の話だと意欲的に子どもたちが参加できると感じた。
			券売機の体験はポスターを押すだけだったので、子どもたちが飽きてきてしまう。学校に木枠があったので、それを利用したが簡単なものでいいので、もう少しリアルに体験が出来たらよい。
社会科	4年	鉄道すごろく	今回のすごろくの発展バージョンとして、伝統工芸編や歴史建造物編などに展開することも可能だと感じた。
総合的な学習	5年	昔の湖上交通	びわ湖から遠い学校は、○○浦などの地名になじみがなく、子どもの実態に合わせ、内容を工夫する必要があると感じた。

図　4-143　資料４－小学校教師を対象としたアンケート結果について（5/5）

（７）資料５　令和３年度案内冊子（案）

資料5

滋賀県 交通環境学習 のご紹介

子どもたちに身近な“交通”の素材を授業に活用してみませんか？



行政やバス会社が、バス車両や教材、出前授業等の素材をご提供します！







生活科や社会科、総合的な学習の時間等の授業を深められます！





滋賀県土木交通部交通戦略課

図　4-144　資料５－令和３年度案内冊子（案）（1/36）

目　次

1. 交通環境学習について		P3
2. 交通環境学習の実施までの流れと留意事項		P4
3. 学習プログラムのメニュー・提供素材		P5
低学年向け		P8
座学1	身の回りの公共交通	P9
座学2	公共交通のマナー	P10
座学3	バスの乗り方	P11
座学4	電車の乗り方	P12
体験1	バスの乗降体験	P13
体験2	バスの車両観察	P14
体験3	運転手へのインタビュー	P15
体験4	バスの走行体験	P16
体験5	電車の切符購入体験	P17
学習の事例（組み合わせ活用例）		P18

図　4-145　資料５－令和３年度案内冊子（案）（2/36）

目　次

中学年向け			P22
	座学5	鉄道すごろくゲーム	P23
	体験6	バスを活用した障がい者体験	P25
高学年向け			P28
	座学6	琵琶湖と交通の関わり	P29
	座学7	地域公共交通の現状と問題	P31
	座学8	地域の交通の紹介、時刻表・路線図の読み方	P33
4．過去の実績			P36

※中・高学年での体験1「バスの乗降体験」の実施等、他学年向けの授業であっても内容次第では実施することが可能ですので、ご相談ください。

図　4-146　資料５－令和３年度案内冊子（案）（3/36）

交通環境学習について

【交通をとりまく現状・問題】

自動車依存の高い滋賀県では、様々な場面で良くない影響が出てきています。

・道路の渋滞
・交通事故の増加
・環境汚染
・公共交通サービスの低下
・運動不足、肥満、脚力低下　等





産経新聞（H30.12.1）

しかし、滋賀県で自動車は必要不可欠な移動手段とされています。そこで滋賀県では、県民の意識とライフスタイルをマイカー中心から公共交通を中心とした「エコ交通」への転換を図る取組を積極的に実施しています。

ところが、子どもから高齢者を含む大人まで、バスに乗ったことがない・・・乗り方がわからない・・・などといった声をよく聞きます。
また、人口減少の進展と共に「移動＝自動車」と考える人が多いため、公共交通の利用は年々低迷し、ついには、バスや電車の路線維持・確保が難しく、ダイヤが悪くなり、最悪の場合は路線の廃止に至る可能性が非常に高くなってきています。

【交通環境学習の目的】

滋賀県では、これらの問題を解決するため、「幼少期から地域の公共交通に親しみを持ち、自発的な行動をとれる人間を育てる」ことを目的とした、交通環境学習の実践と普及活動に取り組んでいます。
次世代を担う子どもたちに、公共交通に親しみを持ってもらうことを通して、地域問題や環境問題に関心を持ってもらうことは、自発的に環境にやさしい交通行動を選択するきっかけになると考えています。
また、今後中学生、高校生と成長していく中で、バスや電車を活用する機会が多くなることを踏まえ、その使い方を勉強してもらい、役立ててもらいたいと考えています。
学校教育においては、地域社会の仕組みを学ぶための、身近で親しみやすい実物教材になると考えています。

【交通環境学習の活用方法】

各学年の生活科や社会科、総合的な学習の時間の単元に合わせた活用が可能です。

・公共施設の工夫やマナーの学習（バスの仕組みや工夫、乗車マナー等）
・福祉の学習（バスでの障害者疑似体験、バリアフリーの仕組みや工夫の発見等）

※他にも・・・環境問題、まちの広がりや歴史など、人々の生活に不可欠な「交通」を通して様々な学習展開が可能です。本物や実体験を通して学習することで、より深い学びにも繋がると、先生方からもご好評を頂いています。

【問い合わせ先】

滋賀県土木交通部交通戦略課　（交通環境学習担当とお伝えください）
（TEL:077-528-3680　FAX:077-528-4837　　MAIL:hc00@pref.shiga.lg.jp）

3

図　4-147　資料５－令和３年度案内冊子（案）　(4/36)

交通環境学習の実施までの流れと留意事項

実施までの流れ

本パンフレットで実施したい「学習プログラムのメニュー・提供素材」を選択

↓

「申し込みシート」に必要事項を記入し、FAX等で送信

↓

授業内容・進め方等の打ち合わせ（電話もしくは現地にて）

↓

授業の実施

↓

実施後、送付されるアンケートを記入し、FAX等で送信

留意事項

【交通環境学習全般について】

●各小学校によって、授業の進め方や事前・事後学習の内容、交通環境学習のめあて等は異なるため、当日の授業の進行は基本的に先生で進めてくださいますようお願いいたします。

※行政および交通事業者は必要なサポート、説明をさせていただきます。

●授業当日までに、各小学校から市町教育委員会へ交通環境学習の実施の連絡をお願いいたします。

●より良い交通素材の提供方法を検討していくとともに、活用事例の収集を行うため、教科・単元における学習の流れや内容の位置付け方、ご感想・ご要望等について、実施後にアンケートのご協力をお願いいたします。

【バスを用いる体験学習について】

バスの手配のため、1か月半前にはお申込み下さい。

※例年、秋シーズン（9月・10月・11月）に交通環境学習の申込みが多くあります。秋シーズンはバス事業者の繁忙期でもあるため、バスの乗車体験については実施が出来ない、もしくは実施日の変更をお願いする場合があります。早めのお申込みをお願いしますとともに、秋シーズン前の授業のご検討もお願いいたします。

【準備物について】

座学に必要な電子黒板（orプロジェクター）や、体験学習に必要なコーン、アイマスク等は小学校にてご準備お願いいたします。

※データの提供（説明資料・ワークシート・お金券等）、バスの手配はさせていただきます。

4

図　4-148　資料５－令和３年度案内冊子（案）（5/36）

学習プログラムのメニュー・提供素材

●学習プログラムのメニュー・提供素材をお選び頂き、申込シートにご記入ください。
・対象学年・学校側の要望により、授業内容は柔軟に変更できます（要相談）。
・1時間だけではなく、連続した時間での授業を行うことも可能です。
・授業実施だけでなく、素材の提供のみも可能ですので、実施形態をご確認ください。

『学習プログラムのメニュー・提供素材』の見方



①メニュー番号
・各メニューの番号で、座学と体験があります。
・申込シートにはこの番号を記入ください。

②マッチする学年・教科
・対象学年の中でも、内容が特にマッチする学年・教科です。
・その他の学年・教科での活用も可能です。

③メニューの実施形式
・実施が可能な形式です。
・出前授業・体験サポート・資料提供があります。

④学習の必要時間
・実施に要するおおよその時間です。（1クラス）

⑤提供素材の形式
・提供する素材の形式（実車バス、パワーポイント等）です。

⑥メニュー・提供素材内容
・メニュー・提供素材の特徴・内容です。

図 4-149 資料５－令和３年度案内冊子（案）（6/36）

提供素材を活用した学習の事例

・実際に提供素材を活用して授業を実施した小学校の学習事例をご紹介します。
・ご紹介している事例のほか、メニュー・提供素材を活用・組み合わせることにより、様々な学年・単元での学習が可能です。（内容については要相談）

『提供素材を活用した学習の事例』の見方

事例　実車のバスを活用した公共交通の学習
～身の回りの公共交通、マナー＋バスの乗り方 ver. ～　①2年生 生活科

②要な授業時間数	③必要な準備物	④必要な費用
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

⑤連する単元　小学校学習指導要領解説　生活編

教科目標・学習のねらい	・身近な地域にどのような乗り物があるかを知り、公共物や公共施設等はみんなで使うものと理解する。 ・バスの乗り方を学び、愛着を持つ。

⑥ポイント
・実際のバス車両や運転手の話から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます。
・準備、経費が必要ないため、手軽に実施が可能です。

⑦実施内容

座　学	・（座学1）身の回りの公共交通 ・（座学2）公共交通のマナー
体　験	・（体験1）バスの乗降体験 ・（体験3）運転手へのインタビュー

⑧授業の流れ

1時間目（座学）	・学校の周りの公共交通について（20分） ・公共交通のマナーについて（20分） ・まとめ（5分）	
2時間目（体験）	・バスの乗り方について（10分） ・バスの乗降体験（20分） ・運転手へのインタビュー（10分） ・まとめ（5分）	

⑨した学校の先生の感想
・自分の住んでいる地域には、何の公共交通があるのかを知り、次おでかけするときはバスに乗りたいと話していた子もいた。校外学習の前にマナーについて学べたことが良かった。
・バスの乗車体験やバス運転手へのインタビューなど実際に自分の目で見て直接話を聞く体験は、座学で教えるよりも子どもたちの印象に残りやすく、授業にも積極的に取組んでもらえた。

①実施した学年・教科
・実際に提供素材を活用し学習を行った学年・教科が記載されています。

②必要な授業時間数
・1クラスあたりの事例と同じ内容の学習をする場合に必要となる時間数です。

③必要な準備物
・事例と同じ内容の学習をする場合に必要となる準備物です。

④必要な費用
・事例と同じ内容の学習をする場合に必要となる費用です。

⑤学習の位置付け
・実施した学習の単元の位置付け・ねらい等が記載されています。

⑥活用のポイント
・提供素材を活用する際の効果・ポイントが記載されています。

⑦実施内容
・学習に組み込んでいるメニュー・提供素材の組み合わせが記載されています。

⑧授業の流れ
・実際に行われた授業の流れが記載されています。

⑨実施した先生の感想
・実際に授業を行った学校の先生の感想が記載されています。

6

図　4-150　資料５－令和３年度案内冊子（案）　(7/36)

低学年向けの
メニュー・提供素材



※座学と体験を組み合わせるとより効果的な学習ができます

8

図　4-151　資料５－令和３年度案内冊子（案）（8/36）

座学 1	身の回りの公共交通

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約15分	素　材	パワーポイント

内　容

・普段乗っている「のりもの」から、滋賀県内の公共交通を写真や絵で紹介します。
・どのような方が利用されているかを学び、「誰でも使える大切な乗り物」として公共交通を学びます。
・小学校の周りの公共交通について、地図で紹介しながら学びます。

提供素材例

・身の回りの公共交通に関する資料



9

図　4-152　資料５－令和３年度案内冊子（案）（9/36）

座学 2	公共交通のマナー

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約15分	素　材	パワーポイント

内　容

・公共交通を利用時のマナーについて、クイズをしながら学びます。
・説明するだけではなく、子どもたちに考えてもらいながら学習を進めます。
・問題数によって、必要時間の調整が可能です。

提供素材例

・公共交通のマナーに関する資料



10

図 4-153 資料５－令和３年度案内冊子（案）（10/36）

座学 3	バスの乗り方

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約15分	素　材	パワーポイント

内　容

・バスの乗り方について、パワーポイントを活用して学びます
・乗合バスと観光バスの違い等を写真で確認しながら学びます。
・安全な乗車方法についても、写真を見ながら学べます。

提供素材例

・バスの乗り方に関する資料



11

図 4-154 資料５－令和３年度案内冊子（案）（11/36）

座学 4	電車の乗り方

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約15分	素　材	パワーポイント

内　容

・電車の乗り方について、パワーポイントを活用して学びます。
・安全な乗車方法についても、写真を見ながら学べます。
・学校の最寄り駅での乗り方を学習できます。
・切符の購入体験（体験5）と組み合わせて学習すると効果的です。

提供素材例（例：JR）

・切符の買い方、電車の乗り方に関する資料



12

図　4-155　資料５－令和３年度案内冊子（案）（12/36）

体験 1	バスの乗降体験

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	体験サポート	必要時間 ※20人程度を想定	約20分	素　材	実車 バス

実施内容

・バスを小学校へお持ちし、乗降体験を行います。
・バス事業者よりバスの乗り方について説明します。
・実際のバスを活用した学習であり、実践的な内容です。
※道路、校庭の状況等により、バスの持ち込みが出来ない場合があります。
（他の場所を借りていただいて実施することも可能です。）

実施例

・バス事業者によるバスの乗り方の説明
・バスの乗車体験
乗車→ 整理券を取る→座席に座る→料金表の見方や車内マナーの説明
→ 降車ボタンを押す→運賃を払う（お金券）→降車








13

図　4-156　資料５－令和３年度案内冊子（案）（13/36）

体験 2	バスの車両観察

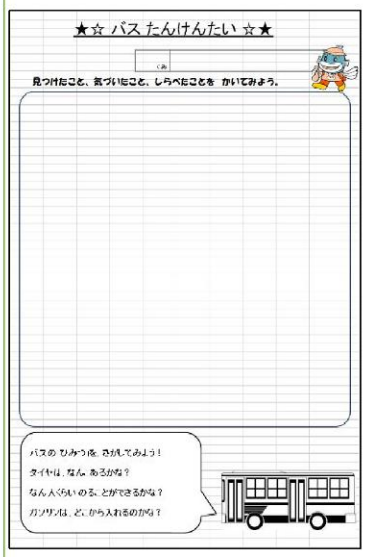
内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	体験サポート	必要時間 ※20人程度を想定	約15分	素　材	実車バス

実施内容

・バスを小学校へお持ちし、バス車両の観察を行います。
・バス事業者よりバスのしくみについて説明します。
・普段は見られないところも見学できます。
・子どもたちからの質問については、運転手やバス事業者が対応します。
・観察するためのワークシートの提供も行います。
※道路、校庭の状況等により、バスの持ち込みが出来ない場合があります。
（他の場所を借りていただいて実施することも可能です。）

実施例

・バスのしくみ説明
・バスの観察（車内外）











14

図　4-157　資料５－令和３年度案内冊子（案）（14/36）

体験 3	運転手へのインタビュー

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	体験サポート	必要時間	適宜	素　材	実車 バス

実施内容

・バスの運転手さんたちが直接子どもたちの疑問に答えます。
・「働くひとたち」の学習もできます。
・事前に質問票をいただければ、細かい質問にも対応可能です。

実施例

・運転手さんたちへのインタビュー
・職業に対するおはなし







15

図　4-158　資料５－令和３年度案内冊子（案）（15/36）

体験 4	バスの走行体験

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	体験サポート	必要時間 ※20人程度を想定	約20分	素　材	実車バス

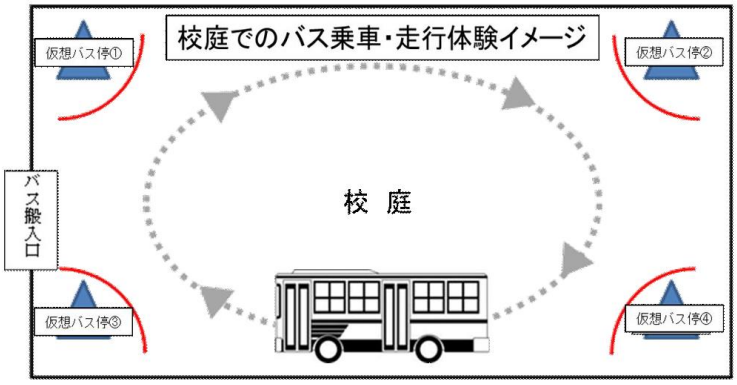
実施内容

・バスの乗降体験（体験1）の実践編として、校庭内にバス停を数個つくり、模擬のお金券を渡し、バスを走らせ乗降してもらいます。

※道路、校庭の状況等により、バスの持ち込みや走らせることが出来ない可能性があります。
※バスの乗降体験（体験1）とセットでの授業となります。

実施例

路線バスが校庭内を周回
・3つの班に分かれる
・模擬のお金券を児童に配布
・3班それぞれ別のバス停から乗車し、目的地のバス停で正しい運賃を払って降車







16

図　4-159　資料５－令和３年度案内冊子（案）（16/36）

体験 5	電車の切符購入体験

内容が特にマッチする学年・教科	2年生 生活科	実施形式	資料提供 or 体験サポート	必要時間 ※20人程度を想定	約20分（約1分/人）	素　材	模擬券売機（ポスター）

実施内容

・模擬の券売機（ポスター）を作成し、学校へ提供します。
・１人１人切符の買い方を練習します。
・練習時には、職員等がポスターの横で買い方の説明・支援を行います。
・電車の乗り方（座学４）と組み合わせて学習すると効果的です。

実施例

・模擬券売機の使い方説明
・切符の買い方体験







17

図　4-160　資料５－令和３年度案内冊子（案）（17/36）

事例	実車のバスを活用した公共交通の学習 ～身の回りの公共交通、マナー＋バスの乗り方 ver. ～	2年生 生活科

必要な授業時間数	必要な準備物	必要な費用
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

関連する単元	生活科「公共物や公共施設の利用」
教科目標 ・学習のねらい	・身近な地域にどのような乗り物があるかを知り、公共物や公共施設等はみんなで使うものと理解する。 ・バスの乗り方を学び、愛着を持つ。
ポイント	・実際のバス車両や運転手の話から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます。 ・準備、経費が必要ないため、手軽に実施が可能です。

実施内容

座　学	・（座学1）身の回りの公共交通 ・（座学2）公共交通のマナー
体　験	・（体験1）バスの乗降体験 ・（体験3）運転手へのインタビュー

授業の流れ

1時間目 （座学）	・学校の周りの公共交通について（20分） ・公共交通のマナーについて（20分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （体験）	・バスの乗り方について（10分） ・バスの乗降体験（20分） ・運転手へのインタビュー（10分） ・まとめ（5分）	

実施した学校の先生の感想

・自分の住んでいる地域には、何の公共交通があるのかを知り、次おでかけするときはバスに乗りたいと話していた子もいた。校外学習の前にマナーについて学べたことが良かった。

・バスの乗車体験やバス運転手へのインタビューなど実際に自分の目で見て直接話を聞く体験は、座学で教えるよりも子どもたちの印象に残りやすく、授業にも積極的に取組んでもらえた。

18

図　4-161　資料５－令和３年度案内冊子（案）（17/36）

事例	実車のバスを活用した公共交通の学習 ～バス乗車・走行体験 ver. ～	2年生 生活科

必要な授業時間数	必要な準備物	必要な費用
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

関連する単元	生活科「公共物や公共施設の利用」
教科目標 ・学習のねらい	・身近な地域にどのような乗り物があるかを知り、公共物や公共施設等はみんなで使うものと理解する。 ・バスの乗り方を学び、実際に走行するバスが危険であることを知る。

ポイント

・実際のバス車両や運転手の話から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます。
・準備、経費が必要ないため、手軽に実施が可能です。

実施内容

座　学	・（座学1）身の回りの公共交通 ・（座学2）公共交通のマナー
体　験	・（体験1）バスの乗降体験 ・（体験4）バスの走行体験

授業の流れ

1時間目 （座学）	・学校の周りの公共交通について（20分） ・公共交通のマナーについて（20分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （体験）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・バスの乗り方について（10分） ・校庭でのバス乗車・走行体験（25分） ・まとめ（5分）	

実施した学校の先生の感想

・バス停での待ち方から降車の仕方まで実際に走行するバスを用いて乗車体験ができたことで、校外学習に向けてより実践的な学習ができた。

19

図　4-162　資料５－令和３年度案内冊子（案）（18/36）

事例	座学のみの公共交通の学習 ～バスの乗り方、電車の乗り方 ver. ～	2年生 生活科

必要な授業時間数	必要な準備物	必要な費用
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

関連する単元	生活科「公共物や公共施設の利用」
教科目標 ・学習のねらい	・身近な地域にどのような乗り物があるかを知り、公共物や公共施設等はみんなで使うものと理解する。 ・身近な公共交通の乗り方を学ぶ。

ポイント

・校外学習の事前学習として効果的です。
・準備、経費が必要ないため、手軽に実施が可能です。

実施内容

座　学	・（座学1）身の回りの公共交通 ・（座学3）バスの乗り方 ・（座学4）電車の乗り方
体　験	・（体験5）電車の切符購入体験

授業の流れ

1時間目 （座学）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（20分） ・バスの乗り方について（15分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （座学 ＋ 体験）	・電車の乗り方について（25分） ・電車の切符購入体験（15分） ・まとめ（5分）	

実施した学校の先生の感想

・電車の乗り方を事前に学習したことで校外学習当日にスムーズに電車に乗ることができた。
・模擬の券売機を用いた体験により、子どもたちが積極的に取り組んでくれた。

20

図　4-163　資料５－令和３年度案内冊子（案）（19/36）

中学年向けの
メニュー・提供素材



22

図　4-164　資料５－令和３年度案内冊子（案）（20/36）

座学 5	鉄道すごろくゲーム

内容が特にマッチする学年・教科	4年生 社会科	実施形式	資料提供	必要時間	約45分	素　材	ゲームツールのデータ

内　容

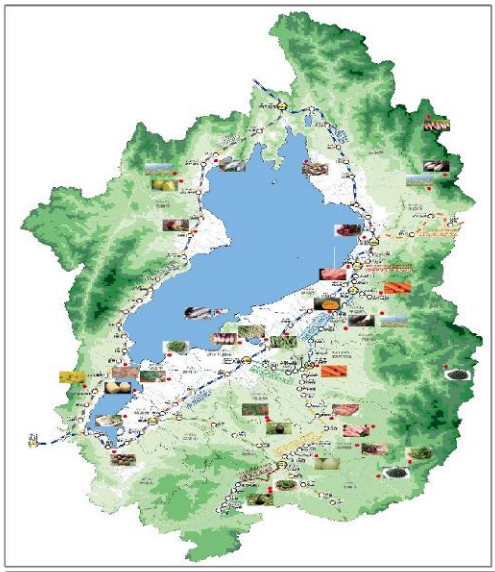
滋賀県内の鉄道路線図をすごろくとし、県内で実際につくられている食材を集めに鉄道駅を進んでいく、ゲーム型の素材です。

ポイント

・体験を通じて交通の広がり（路線名や乗換駅等）や地域の特徴・特産品を学びます。
・鉄道すごろくゲームで遊びながら、単元の理解を深めることができます。

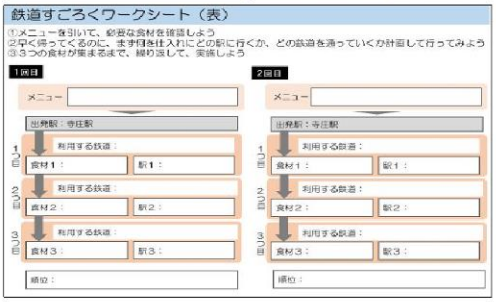
提供素材例

・鉄道すごろくの遊び方に関する資料
・ワークシート









【ゲームの内容】
・地産地消カフェの店員となり、ゲーム開始時に指定された料理に用いる食材を鉄道をつかって仕入れに行くゲームです。
・カードに書かれているヒントを見て、必要な食材が　どこにあるかを考えながら、鉄道を使って探しに行きます。
・食材を集めてはやくスタート地点に戻ってきた人が勝利です。

23

図　4-165　資料５－令和３年度案内冊子（案）（21/36）

授業の実施イメージ

【鉄道すごろくゲームの説明】 …5分

・鉄道すごろくの内容
・鉄道すごろくの準備、遊び方　等

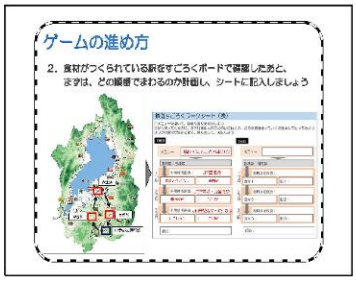
【鉄道すごろくの実施 …40分（20分×2回）

・１班５人に分かれて、鉄道すごろくを実施
・利用した駅や、食材の特徴（時期や主な産地等）をワークシートに記入

【まとめ】 …5分

・すごろくをして気づいたことを発表
（交通の広がり、地域の特徴、滋賀県の地形　など）

















実施した学校の先生の感想

・すごろくを通して、楽しみながら滋賀県の鉄道や特産物について学ぶことができ、もっとやりたいという児童が多くみられた。教科書だけでは分からない滋賀の魅力に気付くことができた。

24

図　4-166　資料５－令和３年度案内冊子（案）（22/36）

体験 6	バスを活用した障がい者体験

内容が特にマッチする学年・教科	4年生 総合的な学習	実施形式	体験サポート	必要時間	約45分	素　材	実車バス

実施内容

・バスを小学校へお持ちし、障がい者の乗降体験を行います。
【身体障がい者体験例】 車いすを利用しての乗降体験
【視覚障がい者体験例】 アイマスク・白杖を装着しての乗降体験
・バス事業者より、車いすや白杖使用者の乗車時の対応や、バスの工夫等について説明します。
・バス車両の工夫点を観察することが出来ます。
・体験を行う時は安全確保のため、バス事業者等が乗車支援・サポートをします。
・体験するためのワークシートの提供も行います。

※留意事項（P.4）の確認をお願いします。
※時間配分の関係上全員が体験できない場合があります。

ポイント

・実際のバス車両での体験から、普段の生活や移動で自分にできることを実感を持って理解できます
・すでに取り組まれているバリアフリーの配慮・工夫等から、社会の仕組みを実感することができます

授業の流れ（例）

※導入、まとめは小学校にて実施願います。

導　入

<u>障がい者とともに生きることを考える</u>
・（例）白杖、ｱｲﾏｽｸ等の使用、介助方法を学習する
・（例）バス車両の仕組みを予想する



体験学習（1時間）

<u>導入授業を踏まえ、障がい者の移動を実感する</u>



まとめ

<u>体験学習を通じて、自分にできることを考える</u>
・（例）体験、観察を通して気付いたことを発表　（バスの工夫等）
・（例）公共交通はみんなにとって大切な移動手段であることに気付く

25

図　4-167　資料５－令和３年度案内冊子（案）（23/36）

授業の実施イメージ

【事業者からの話】 …5分

・バス車両の工夫ついて
・利用者からの声
・障がいがあるお客様への対応、気を付けてほしいこと　　等

【バス車両でのアイマスク体験】 （全員） …20分

・２人１組（体験者＋介助者）に分かれてアイマスクを着用
・各ペアが順番に乗車し、運賃支払・降車を順番に体験
・ワークシートに体験の感想・気づいたこと等を記入

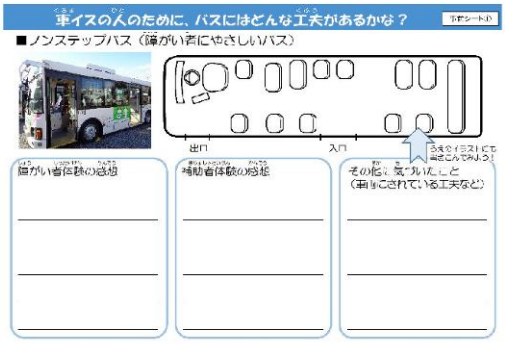
【バス車両での車イス体験】 （代表児童） …5分

・代表児童（体験者1人、介助２人）による車いす体験
・感想を発表
・ワークシートに体験の感想・気づいたこと等を記入

【車両観察、質問コーナー】 …15分

・バス車両のバリアフリーの工夫や仕組みを観察
・観察時の疑問や全体を通した事業者への質問









実施した学校の先生の感想

・アイマスクをしながら車両の狭い空間を行き来する体験は、介助の大切さを知る貴重な機会。
・大人も初めて知るような工夫が車両にはたくさんあり、子どもたちの発見につながる良い経験になった。

26

図　4-168　資料５－令和３年度案内冊子（案）（24/36）



図　4-169　資料５－令和３年度案内冊子（案）（25/36）

座学 6	琵琶湖と交通の関わり

内容が特にマッチする学年・教科	5年生 フローティングスクール	実施形式	資料提供	必要時間	約45分	素　材	パワーポイント

内　容

・琵琶湖周辺の暮らし・交通の変化から琵琶湖は昔、交通の要衝で人々の暮らしを支えていたことを知り、現在の交通も生活・移動を支えていることを学びます。

ポイント

・昔の琵琶湖は湖上交通が発達しており、それに伴って周りのまちが発展してきた経緯があります。交通を視点とした琵琶湖学習を行うことにより、琵琶湖とまちの関わりをより幅広く学ぶことができます。

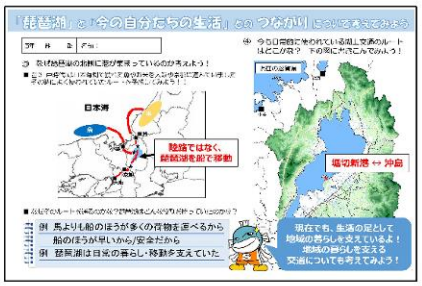
提供素材例

・琵琶湖周辺の暮らし・交通の変化に関する資料（奈良時代～昭和）
・湖上交通の役割について考えるワークシート

琵琶湖と交通の関係性に関する資料









琵琶湖周辺の暮らし・交通の変化に関する資料





29

図　4-170　資料５－令和３年度案内冊子（案）（26/36）

授業の実施イメージ

琵琶湖に**港があった**（ある）ことを知る

・琵琶湖周辺の地名を調べてWSに記入する

・記入した地名について共通点を考える

・地名に共通する漢字の意味について調べる

琵琶湖は**交通の要衝であった**ことを理解する

・日本海側からの荷物の輸送ルートを予想する

・港は荷物を京都や大阪、大津まで輸送するための中継点であったことを知る

・陸路を短縮するために琵琶湖に交通が集まっていたことを理解する

現在も琵琶湖に**湖上交通が残っており、生活を支えている**ことを理解する

・今も日常的に残っている湖上交通のルートを予想する

・湖上交通が現在も運航していることを知る（沖島）

陸上においても、**現在の交通も生活・移動を支えている**ことを理解する

・琵琶湖のように地域の生活・移動を支えているものは何があるかを考える

・バスや鉄道等の交通が生活・移動を支える役割を果たしていることを知る







実施した学校の先生の感想

・琵琶湖にふれあう機会が少ない地域の子どもたちにとっても有効な学習であったと思う。単に琵琶湖に行って体験するのと事前に学習してから体験するのとでは、学習の理解の深まり方が違う。

・宿泊体験時に湖上交通に関する話があり、子どもたちは学習内容を思い出しながら興味を持って話を聞けていた。

30

図　4-171　資料５－令和３年度案内冊子（案）（27/36）

座学 7	地域の公共交通の現状と問題						
内容が特にマッチする学年・教科	6年生 総合的な学習	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約45分	素　材	パワーポイント

内　容

・地域の公共交通の現状・問題と、それに対する行政の支援等（コミュニティバス・乗合タクシーの運行、利用促進の取組等）を紹介します。

ポイント

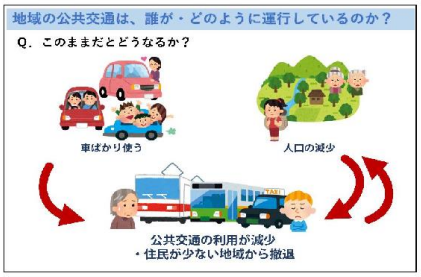
・暮らしに密接した公共交通の視点から考えることにより、地域の現状と将来のあり方を考えるとともに、政治の役割・働きについてイメージがしやすくなります。

・行政担当者等から話を聞くことで地域で働く人の想い・考えを学ぶ、キャリア学習としても効果的です。

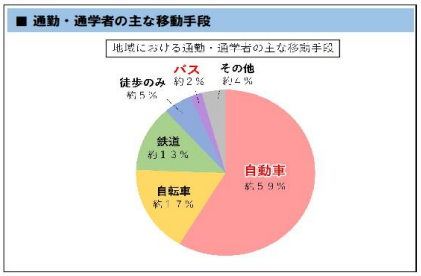
提供素材例

・地域の公共交通の現状と行政支援に関する資料
・地域の公共交通に関するデータ（路線図、利用者推移等）

地域の公共交通の現状・問題に関する資料

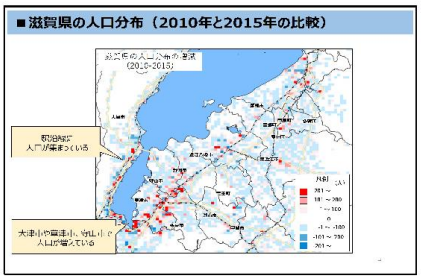


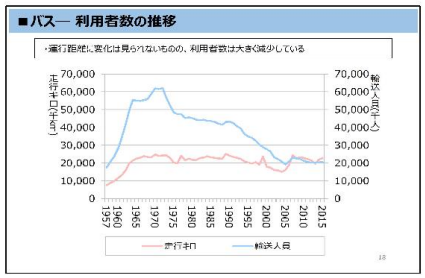






地域の公共交通に関するデータ





31

図　4-172　資料５－令和３年度案内冊子（案）（28/36）

授業の実施イメージ

〇地域の公共交通の現状

問：地域の公共交通にはどんなものがあるのか、誰が運行しているのか？
→（公共交通の種類）鉄道、路線バス、乗合タクシー等
→（運行主体）●●鉄道、●●バス、●●市

問：地域の公共交通の問題点は？
→自家用車の利用増加、地域の人口が減少
→利用減少により、住民が少ない地域から撤退
→移動手段がなくなり日常生活に支障をきたす

問：地域の公共交通の役割は？なぜ守る必要があるのか？
→高齢者の外出支援、渋滞解消、交通事故抑制、CO2削減等

〇行政や事業者が実施している利用促進等
→小学校への授業、チラシ作成・配布、利用方法の説明会等

〇まとめ
地域の交通に関わる人の話を踏まえ、自分たちにもできることは何かあるか






実施した学校の先生の感想

・滋賀県の交通環境について知り、地域の人々にとっても、観光等で滋賀県を訪れる人にとっても公共交通は大切であり、守っていかないといけないと学んでいた。
・働く人々の考えを知ることで自己の成長に生かせた。

32

図 4-173 資料５－令和３年度案内冊子（案）（29/36）

座学 8	地域の交通の紹介、時刻表・路線図の読み方						
内容が特にマッチする学年・教科	―	実施形式	資料提供 or 出前授業	必要時間	約45分	素　材	パワーポイント

内　容

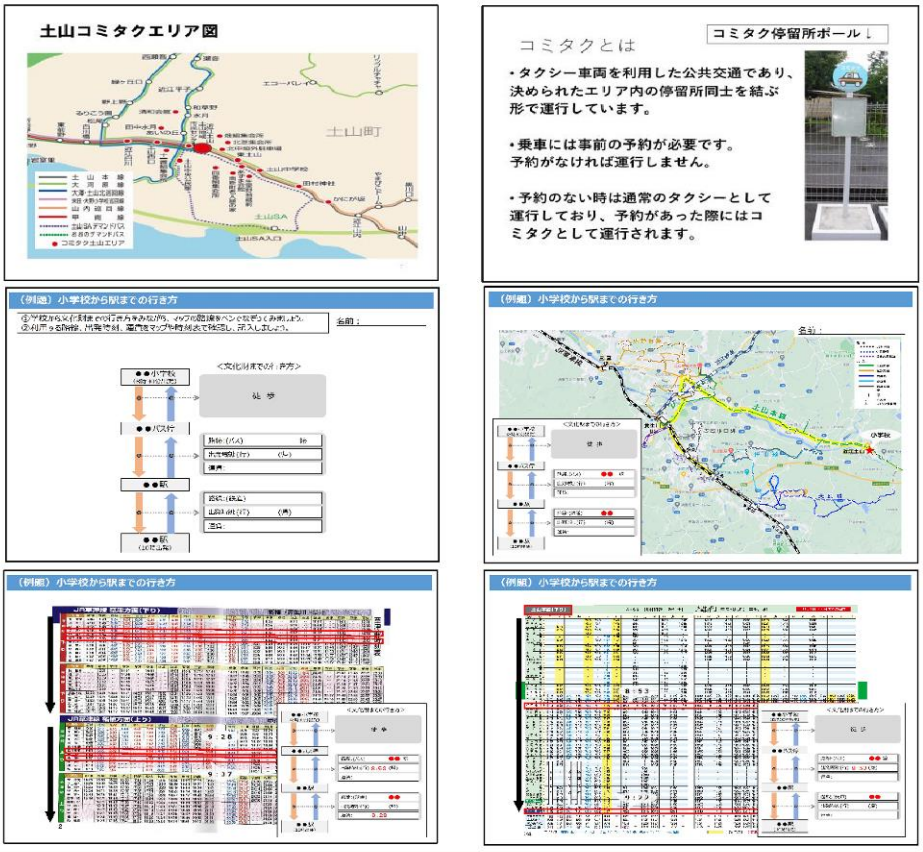
・自分の住んでいる地域を支えている交通について紹介し、時刻表・路線図の読み方等について学習します。

ポイント

・地域を支えている公共交通の運行形態や利用方法等を学べます。
・公共交通を使って一人でも目的地にたどり着けるように、実際の時刻表等の読み方について学ぶため、校外学習で公共交通を利用する際の事前学習としても効果的です。

提供素材例

・地域の交通についての資料
・時刻表・路線図の読み方に関する資料



33

図　4-174　資料５－令和３年度案内冊子（案）（30/36）

授業の実施イメージ

【事前学習】
〇公共交通の使い方（講座）
・小学校の地域を運行する公共交通の紹介
・時刻表の読み方を説明
・利用方法を説明

〇目的地（例：文化財）までの行き方（計画をたてる）
・利用する公共交通機関及び路線をマップで確認
・公共交通の出発・到着時刻、必要な運賃を時刻表で確認

【校外学習】
調べたルート・時間のとおり公共交通を利用し、目的地まで行く。

※この授業では事前学習について、お手伝いします。







実施した学校の先生の感想
・地域の交通が何があるかを知り、利用方法もわかったことで利用していこうとする意識が出ていた。
・時刻表の見方やプランの計画をわかりやすく教えていただき、有意義だった。自分の住む地域のことを学習する貴重な機会であり、実物素材を活用することで理解が深まった。

34

図 4-175 資料５－令和３年度案内冊子（案）（31/36）

過去の実績



36

図　4-176　資料５－令和３年度案内冊子（案）（32/36）

過去の実績

～ 過去の実績一覧 ～

年度	件数
H28年度	2市町 3校
H29年度	6市町 14校
H30年度	9市町 20校
R1年度	9市町 26校
R2年度	15市町 55校

～ 年度別の実施小学校・学年～

【H28年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
草津市	1校	志津南小学校（2年生）
東近江市	3校	市原小学校（3・6年生）、湖東第三小学校（2年生）、能登川北小学校（2年生）
合計	2市町 4校	

【H29年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	1校	瀬田北小学校（2年生）
彦根市	1校	城東小学校（2年生）
草津市	2校	草津小学校（2年生）、志津南小学校（2年生）
甲賀市	2校	大野小学校（2年生）、土山小学校（2年生）
湖南市	1校	しおん園（3～5歳児）
東近江市	7校	愛東あいあい幼稚園（3～5歳児）、玉緒幼稚園（3～5歳児）、もみじ幼稚園（4・5歳児）、市原小学校（6年生）、布引小学校（2年生）、御園小学校（2年生）、八日市養護学校（高等部）
合計	6市町 14校	

37

図 4-177 資料５－令和３年度案内冊子（案）（33/36）

過去の実績

【H30年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	3校	上田上小校（2年生）、瀬田北小学校（2年生）、仰木の里東小学校（2年生）
彦根市	2校	城東小学校（2年生）、旭森小学校（2年生）
草津市	2校	老上西小学校（2年生）、志津南小学校（2・5年生）
守山市	1校	守山小学校（2年生）
甲賀市	2校	土山小学校（2・3・4年生）、大野小学校（2・6年生）
湖南市	2校	菩提寺小学校、三雲小学校
東近江市	6校	御園小学校（2年生）、八日市西小学校（2年生）、布引小学校（2年生）、市原小学校（2年生）、五箇荘小学校（2年生）、能登川小学校（2年生）
竜王町	1校	竜王西小学校（2年生）
甲良町	1校	甲良東小学校（2年生）
合計	9市町　20校	

【R1年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	3校	上田上小校（1・2・5年生）、瀬田南小学校（2年生）、瀬田北小学校（2年生）
彦根市	4校	城東小学校（2年生）、佐和山小学校（2年生）、旭森小学校（2年生）、高宮小学校（2年生）
近江八幡市	1校	岡山小学校（2年生）
草津市	3校	老上西小学校（2年生）、笠縫小学校（2年生）、志津南小学校（2年生）
甲賀市	3校	土山小学校（2・3・4・5・6年生）、綾野小学校（2年生）、大野小学校（2年生）
湖南市	2校	菩提寺小学校（3年生）、三雲小学校（2年生）
東近江市	7校	箕作小学校（2年生）、八日市西小学校（2年生）、布引小学校（2年生）、市原小学校（2年生）、五個荘小学校（2年生）、愛東南小学校（2年生）、能登川北小学校（2年生）
竜王町	2校	竜王小学校（2年生）、竜王西小学校（2年生）
甲良町	1校	甲良東小学校（2年生）
合計	9市町　26校	

38

図　4-178　資料５－令和３年度案内冊子（案）（34/36）

過去の実績

【R2年度】

市町	小学校／幼稚園・保育園、学年	
大津市	7校	富士見小学校（2・4年生）、下坂本小学校（2年生）、小野小学校（1・2年生）、膳所小学校（2年生）、仰木の里東小学校（2年生）、唐崎小学校（2年生）、長等小学校（2年生）
彦根市	8校	亀山小学校（2・4・6年生）、城西小学校（2年生）、金城小学校（2年生）、佐和山小学校（2年生）、旭森小学校（2年生）、城南小学校（2年生）、稲枝北小学校（2年生）、若葉小学校（2年生）
近江八幡市	3校	桐原東小学校（2年生）、武佐小学校（2年生）、沖島小学校（1・2年生）
草津市	8校	老上西小学校（2年生）、山田小学校（2年生）、草津小学校（2年生）、草津第二小学校（2年生）、南笠東小学校（2年生）、笠縫東小学校（2年生）、笠縫小学校（2年生）、老上小学校（2年生、特別支援学級）
甲賀市	3校	土山小学校（1・2・3・4・5・6年生）、綾野小学校（2年生）、伴谷小学校（4年生）
湖南市	1校	石部南小学校（2年生）
東近江市	10校	湖東第一小学校（2年生）、五個荘小学校（2年生）、愛東南小学校（2年生）、湖東第二小学校（2年生）、布引小学校（2年生）、市原小学校（2年生）、箕作小学校（2年生）、湖東第三小学校（2年生）、蒲生北小学校（2年生）、能登川東小学校（2年生）
竜王町	1校	竜王西小学校（2年生）
長浜市	4校	神照小学校（2年生）、長浜小学校（2年生）、浅井小学校（2年生）、長浜南小学校（2年生）
守山市	2校	守山小学校（2年生）、速野小学校（2年生）
米原市	1校	柏原小学校（2年生）
栗東市	3校	治田小学校（2年生）、治田東小学校（2年生）、大宝西小学校（2年生）
日野町	2校	西大路小学校（1・2年生）、桜谷小学校（1・2・3・4・5・6年生）
豊郷町	1校	日栄小学校（2年生）
野洲市	1校	北野小学校（2年生）
合計	15市町　55校	

39

図　4-179　資料５－令和３年度案内冊子（案）（35/36）

交通環境学習　申し込みシート

学校名				
ご担当者名	役職 （担当学年）		お名前	
ご連絡先	TEL：		FAX：	
	E-MAIL：			

実施希望内容 （パンフレットに記載の授業番号を記載ください）	（　　）年生 （　　）名	座学					
		体験					
座学 （どちらかに〇して下さい）	授業データの提供　or　出前講座						

※各申込学年ごとにお申込みください。複数学年を同時に授業することも可能です。

実施希望期間（日）	第一希望	月　～　　月	または	曜日
	希 望 日			
	第二希望	月　～　　月	または	曜日
	希 望 日			
	第三希望	月　～　　月	または	曜日
	希 望 日			

※バスの手配のため、バスを用いるの授業については希望実施期間（日）の1か月半前にはお申込み下さい。
※例年、秋シーズン（9、10、11月）に交通環境学習の申込みが多くありますが、秋シーズンはバス事業者の繁忙期であるため、 バスの乗車体験については実施が出来ない場合があります。早めのお申込みをお願いしますとともに、秋シーズン前のご検討をお願いいたします。

打ち合わせ方法	電話　or　現地（小学校）
本学習のめあて	
その他 ご要望・ご不明点	

図 4-180 資料５－令和３年度案内冊子（案）（36/36）

（８）資料６　交通環境学習に対するご意見

《交通環境学習に対するご意見》

資料6

○実施校数や頻度について

ご意見	回答
例年、学校からの要望ではあるが、交通環境学習の実施が秋中心である。秋はバス事業者の繁忙期であり、日程調整に苦慮する。１学期での実施を促すことはできないか。	R3年度は、案内パンフレットや申込用紙に、1学期での実施を促す一文を記載。また、申込用紙に授業の目的を記載する欄を設け、校外学習の事前学習の申込みでなければ、９月～１１月以外の実施を促す予定。
バス乗車体験の需要が高く、交通事業者に協力を要請する形となるが、秋の繁忙期である事やバス車両の確保が難しい等、日程調整や準備の負担が大きく感じた。 今後も交通環境学習実施していく為には、県内交通事業者に対し、交通環境学習の実施について今一度ご理解いただくために県から促していただきたい。また、年間を通して実施数に上限を定めるか、実施時期に偏りがでないようにするなどの対策を考えていただきたい。	バス事業者には、授業にご協力いただけるよう今年度の9月に説明会を実施しており、来年度も年度始めに説明会を実施する方向でバス協会とは調整している。 また来年度は実施時期に隔たりが出ないよう、パンフレット等において1学期での実施を促すとともに繁忙期である９～１１月については一定の上限を設ける予定。
今年度はＭＭの参加校が多く、打ち合わせや授業のスケジュールが過密でありましたが、他の業務が繁忙期だと日程調整が難しいと思いましたので、例えば、打ち合わせだけでも何校かでまとめて行うなど、効率化を図ることも大事なのではないかと感じました。	今年度においても可能な限り、同日に複数校の授業や電話での打ち合わせは実施したが、現場での打ち合わせについては小学校の授業が終了した15時以降となる場合が多いことや、各小学校の校庭の状況等を確認する必要があることから、まとめて行うのは厳しいところ。 来年度についても、電話での打ち合わせ等を進め、少しでもそれぞれの負担を少なくしてまいりたい。

○教育委員会の関わりについて

ご意見	回答
県教委、各市町の教委との連携、協力が不可欠。総合学習担当教諭等、機会を捉え学校教育担当職員にも会合への同席をお願いしてはどうか。	県教委には研究会の委員となっていただき、授業や実施体制についてご意見をいただいているところ。市町ごとに市町教委との関わり方や対応の仕方も異なると考えるため、市町教委を交えた会議の実施は、現時点では考えていない。
この事業について、県教委、各市町教委との連携や小学校等とのかかわり方をどの様に考え、事業を進めていこうとされているのか伺います。市内の小学校で交通環境学習が行われているにも関わらず、市教委の担当者が知らないのではどうかと思います。このようなことになる原因？として考えられるのが、事業参加申込を各市町教委からの申込ではなく各小学校から交通戦略課に直接事業申込となっていることではないかと考えます。だから、各市町教委は知らないのです。知っていても関係ないと思っているのではないでしょうか。この事業が現在の状態にあるのは対象小学校、交通戦略課、県教委、各市町教委、各市町交通担当者との関係性の問題ではないかと思います。未来ある子供たちのために県主体の交通環境学習という素晴らしい事業をされているのですから、未来ある子供たちのためにも、この事業が行われている小学校の担当部局である教育委員会と事業主催者との関係をどのようにお考えなのか、また今後どのように進めていこうとされているのかお伺いします。	小学校で授業をするうえで、教育委員会との関わりは必要不可欠であると考えている。 県教委との関わりについては、研究会のほかにも授業資料作成時等随時ご意見をいただき、連携を図っている。 市町教委との関わりについては、年度始めに市町教委経由での各小学校への案内パンフレットの配布、市町教育委員会担当者会議でも県教委からの当事業の説明、併せて授業を実施する際にも、小学校から市町教委に連絡をいれていただいているなど、周知はしているところ。市町ごとに市町教委との関わり方や対応の仕方も異なると考えるため、市町地域公共交通担当課と連携しながら、市町ごとに応じた市町教委との連携を行ってまいりたい。 授業の申込方法については、小学校の負担を少なくするため、今後も直接当課への申込みとする予定。（県教委と協議済。市町教委を経由した申込みの出前講座は少ないとのこと。） また今年度においては、研究会のほかに市町担当者会議、事業者への説明会、小学校教師あてアンケートを実施し、それぞれのご意見を伺ってきたところ。今後も市町、事業者等と連携し、それぞれにとって有用となる授業を実施してまいりたい。

図　4-181　資料６－交通環境学習に対するご意見（1/2）

○その他要望、意見

ご意見	回答
小学生には体験学習が一番よいと思うので、立地場所により大型バスが入れなくても小型が入れるようなら、できる限り体験学習を取り入れるように進めていただきたい。	今年度においても、校庭等の状況によりバスが持ち込めなかった小学校には別の場所を借りていただき、乗車体験を実施しているところ。乗車体験は子供たちも意欲的に学んでいただいており効果的と考えるため、引き続き乗車体験を授業に取り組むよう進めてまいりたい。
内容が充実していて、特に実車体験は意義があるのではないかと思います。	
公共交通を盛り上げること、環境への配慮ということで、エコ（排ガス抑制）のため一人一人が自家用車を使わず、公共交通を活用し、地域交通の活性化を図ることができることをもっとアピールする。	「バスに乗って楽しかった」だけで終わらないよう、座学の授業では、低学年にはバスのよいところ、高学年には公共交通がなくなったらどうなるかを説明している。また体験授業等においても、事業者よりバスの役割について説明いただいている。引き続き、公共交通の役割を少しでも学び、行動変容を促す授業となるよう改善してまいりたい。
効果は数年後にしかでないが、すばらしい事業であるので地道に続けていきたいし、本市としても積極的に取り組みたい。しかし、その一方事故等は許されないので今後はより一層の安全面に対しての考慮も必要となると感じている。	今後も引き続き、体験授業では特に事業者、小学校と連携し、安全に配慮しながら授業を進めてまいる。
令和2年度においては、これまで実施のなかった小学校や学年からの申し込みもあり、新たな取組が実施できた。新規申し込み校の要望に応じてカリキュラムを検討したことで、小学校区の公共交通環境（路線バスの有無等）に関わらず、交通環境学習を実施できる仕組み作りができたと感じている。	今年度は、今まで協力いただいていなかった事業者にもご協力いただきながら、新たな地域の小学校への授業の実施、新しい授業内容の実施を行ったところ。 小学校が位置する地域によってニーズも異なるため、引き続きそれぞれの地域の特性に応じた授業を行ってまいりたい。
昨年度までは協力依頼を行ってこなかった公共事業者にも参加を要請し、実際に協同して授業を実施することができ、市として提供できる授業内容の幅を広げることができた。	

図 4-182 資料６－交通環境学習に対するご意見（2/2）

4-3-3 議事録

市町担当者会議の議事録を以下に示す。

1．開会

滋賀県	滋賀県では交通環境学習を平成 28 年度から実施している。平成 28 年度以降、市町担当課長会議では交通環境学習の説明をしていたが、今まで実際の担当者に向けた説明は出来ていなかった。今回は交通環境学習とは何をしているのかの説明をし、1 年間携わっていただいた皆様からご意見いただきたいとともに、今年度多くの小学校で実施し、市町の皆様にもご協力いただいたので今年度の結果報告をさせていただく。

2．（1）交通環境学習について

滋賀県	【資料１】の説明

3．（2）今年度の授業実績および事例紹介について

滋賀県	【資料２、資料３】の説明

4．（3）小学校への授業実施後アンケート結果について

滋賀県	【資料４】の説明

5．（4）来年度の交通環境学習について

滋賀県	【資料５.６】の説明
長浜市	【資料５】について、座学７.８は新しく追加されたとのことだが、需要を見込まれて追加されたのか。
滋賀県	今年度、座学７.８の授業を３校で実施したが、小学校からの要望でこの授業を実施したので、需要はあると考える。低学年では、バスの乗り方等だけで授業が終わってしまうことが多いので、県としては、地域の交通の現状を知り考えてもらうこの授業は、交通環境学習の目的からも実施していきたい。
長浜市	長浜市では交通環境学習の担当は 1 人であり、仮に市内 26 校からこの授業の依頼があると、業務量的に厳しい。協力してもらえるか。
滋賀県	座学７について、滋賀県内の公共交通の現状、課題は共通していると考えるため、今年度実施した他市町での授業資料を活用できる。各市に応じた内容にするために新たに作成する資料は「市町の公共交通の利用状況」であり、既にあるデータを用い作成する。また、１校作成すると同じ授業資料を他校で活用いただける。 座学８については、今年度は PPT を作成したが、実際の授業では市町で作成されている時刻表の冊子を活用して授業を実施するため、授業内容によっては新たに資料を作成する必要はない。 この座学７.８については各地域の内容になり市町にご負担いただくことが多いと思うので、県も協力させていただき、一緒に作っていきたい。
近江八幡市	座学７について、近江八幡市のバスは白ナンバーの運行であり観光利用ができない。また竜王町等と同路線で運行しているため一括りに資料を作成することはできない。小学校の要望ではあるが、県として市町の交通状況を勉強してから授業を考えていただきたい。

滋賀県	座学７については、主に公共交通の役割、公共交通がなくなったらどうなるのかを学ぶ授業であり、市町の公共交通の利用状況を事前に話したのは、より深い学習にしていただくため。他の内容で公共交通の現状を学んでいただくことも可能であり、また公共交通の利用状況については滋賀県としてのデータを使用することも可能である。 「地域の公共交通」について学んでもらうのがこの授業の趣旨なので、それぞれの地域に応じた内容にする必要がある。教材の作成に当たっては市町の担当者と相談しながら進めていきたい。

６．（５）その他

大津市	大津市は地域公共交通計画の中で、利用促進の取組として交通環境学習を挙げており、地域公共交通活性化協議会で交通環境学習について報告をする必要がある。交通環境学習が利用促進や運転手の担い手につながる取組みとして効果があるのかを委員が気にされている。 小学校の意見、事業者からの意見は先程お伝えいただいたが、この交通環境学習の効果として、幼少期であるため直接的な効果としては表れにくいだろうが、小学生の保護者にまで効果があるのか、また事業者のモチベーションに繋がっているのか、成果を何かわかるものがあればご提出いただきたい。
滋賀県	生徒と事業者への成果として何かわかるような資料は現時点ではない。 説明はできていなかったが、授業を実施した後に生徒宛のアンケートも実施している。生徒のアンケートの回答がどこまで効果として表されるかは難しいが、アンケートのなかで、「授業後に親と一緒にバスに乗った」等の回答をいただくこともある。小学生までのアプローチは交通環境学習の中で実施できるが、保護者の意見となると宿題等小学校で実施いただく内容になるため、簡単ではないが、今後協力いただける小学校では保護者の意見を聞けるような取組みを実施していきたい。 事業者については、授業に御協力いただいている方からは「バスに乗って喜んでいる様子を見る機会が少ないため関われて嬉しい」等のご意見をいただいている。授業の中では、運転手へのインタビューをすることも多く、仕事内容についてもご説明いただいており、生徒から「運転手の仕事はかっこいいと思った」等の感想を聞くことも多い。
大津市	事業者内で交通環境学習の取組みを周知されているかについて何か聞いておられるか。
滋賀県	近江鉄道（株）の鉄道、バスでは社内の毎月の広報誌で、交通環境学習の取組みを挙げていただいている話は伺ったことがある。
近江八幡市	授業の申込みは、各学年の担任の先生からされることが多いと思うが、校長先生や教頭先生はどのくらい参加されているのか。
滋賀県	申込みは担任の先生からが多いが、打ち合わせに校長先生等が参加される小学校もある。授業では、特に乗車体験の授業ではほとんどの小学校で校長先生は授業を見学される。また座学でもグループワークに入っていただく小学校もあり、校長先生、教頭先生にも積極的に交通環境学習に関わっていただいている。

以上